# 病 院 年 報

## 第 7 巻

（令和４年度）

独立行政法人 地域医療機能推進機構

## 大 阪 病 院

# 独立行政法人　地域医療機能推進機構　大阪病院年報第７巻

# 巻　頭　言

令和四年度は、二年度から引き続くコロナパンデミックの中で始まりました。令和四年一月からオミクロン株による第六波の中、新年度を迎えました。幸いワクチン接種が行き渡ったことと、オミクロン株は感染力が高いものの重症化は比較的低く、六波から八波では重症者や死亡者は少なくなりました。ただ、感染者数と入院患者数は多く、中等症・重症患者を受け入れる公的機関である大阪病院では多くのコロナ患者さんを受け入れることになりました。同時に虚血性心疾患や脳卒中、骨折や急性腹症など一般救急の患者さんも、地域を越え多く受け入れました。そうした令和四年度の当院の活動状況を、JCHO大阪病院年報第七巻にて報告させて頂けることを大変うれしく思います。

まずご報告申しあげたいのは、令和四年度一年を掛け大阪病院の理念を見直し、新しい魅力ある大阪病院を創ろうとビジョンの策定を行いました。令和四年度末には本年報の最初に掲げております新しい大阪病院のPURPOSE、MISSION、VISION、そしてour CREDOを共創しました。自分たちの存在意義や社会への約束であるPURPOSEを一番上に置き、「より最適な医療と温かいこころで“あなた”と“地域”を支えます」としました。その上でPURPOSEを実現するために私達が目指すMISSION～私達の使命や目的を明らかにし、2030年にどういう病院になるか、目指すかといったVISIONを創り、現在それに向けて職員一同鋭意、楽しく努力しています。

タスクフォースが中心となり本ビジョンプロジェクトを動かしましたが、大阪病院の全職員が関与し、関係各位の協力を仰ぐことで完遂しました。本院を受診される患者さんやご家族のご意見を伺い、連携する多くの医療機関の皆様方や一般の住民の皆様方からも貴重なご意見を伺うことができ、素晴らしい大阪病院のPURPOSE、MISSION、そしてVISIONを創ることができました。これにより明確になった病院の目的や社会・地域への約束を遂行する組織になりたいと思います。この場をかりて皆様方に心よりお礼申し上げます。

現在、大阪病院職員と関係者一同、新しい大阪病院のPURPOSE、MISSION、VISION for 2030を目指し、患者さんご家族、地域から選ばれる病院になり、若手の医師・看護師、その他の医療者からも、是非働きたい病院になることを目指し活動しています。この地域の医療需要や今後の医療制度変革を考慮し、地域の急性期総合病院としての三つの機能強化を図っています。

- 一つ目には急性期医療の充実です。専門医を配置してICUを10床稼働とし、心臓と脳のホットラインの充実を図っています。地域の救急に迅速に応え、断らない医療の実践を図るとともに、病を持つ患者さんのいのちと暮らしを支え、病を克服或いはコントロールして日常生活に戻って貰えるように病院全体をあげ努力しています。患者安全と医療の質の向上を目指し人員も含め体制強化し、多職種

でPFM（Patient Flow Management）やRapid Response Teamを運用し、早期からの365日リハビリテーション等も提供しています。同時により長い加療を必要とする患者さんご家族が安心して医療を受けられるよう地域連携にも力を入れています。

- 二つ目には地域や患者・家族に開かれた病院を目指しています。地域と共働する病院を目指し、連携に力を入れるだけでなく、情報提供のWEB勉強会（医師会の生涯教育の単位）や地域保健福祉活動のマタニティクラスや糖尿病勉強会等に加え多職種のオープンキャンパスを開催しています。がん診療では国立がん研究センターとも共同して講演会を開催しています。更に企業の協力を得てArt-in-Hospitalと言うプロジェクトを共催し、病院に若手芸術家の絵を飾るとともに、気に入った絵があれば患者さんご家族に無料でプレゼントしています。これらの情報は大阪病院のSNS（Facebook、LINE、Instagram）で発信しております。是非ご利用ください。

- 三つ目には医療DXに向けてIT化を進めています。コロナの流行で家族と面会できない患者さんにはオンラインで家族との面会や面談の機会を提供しました。また、オンライン予約やオンライン・セカンドオピニオンも実施しています。更に、次期令和五年度の最後の四半期に大阪病院の電子カルテを含め病院情報システムを更新する予定です。情報セキュリティを高め、同時に受診される患者さんの利便性を高めるため大きな変更を伴いますので、JCHO近畿四国地区事務所に新設された情報システム管理課や本部の情報システム統括部とも共同してより良いシステム造りをしたいと思います。同時にITベンチャーとの協働で少しでも人に優しい医療提供システムを構築したいと思います。

こうした運営改善と共に働き方改革やワークライフバランスの推進にも積極的に取り組んでおり、超過勤務時間の削減や無駄の廃止、年休の適正な利用も勧めております。

本年報を通し皆様方に当院の現況を知って頂き、地域に役立つ、より良い医療を提供できる病院になりたいと思っております。当院の診療活動に対する皆様方のご理解と忌憚の無いご意見をよろしくお願い申し上げます。

今後とも皆様方のあたたかいご支援とご助言を賜りますよう心よりお願い申しあげます。

地域医療機能推進機構　大阪病院　病院長　西 田 俊 朗

## INDEX


■理　　念 …… 1

■病院概要 …… 4

■施設基準 …… 4

■学会認定 …… 9

■沿　　革 …… 10

■職員数 …… 11

■附属施設 …… 11

■組織図 …… 12

■医事統計 …… 13

■病歴統計 …… 27

■部門概要 …… 57

■各種委員会 …… 136

■業　　績 …… 137

# JCHOの理念

## 我ら全国ネットのJCHOは
## 地域の住民、行政、関係機関と連携し
## 地域医療の改革を進め
## 安心して暮らせる地域づくりに貢献します

## 地域医療支援病院としての基本方針

1．小児救急を含む24時間救急医療をおこなっています。
2．母子医療センターとして妊娠・分娩と新生児・未熟児の医療に24時間体制で迅速かつ確実に対応します。
3．各部位の癌に対して、内科的・外科的に積極的な集学的治療をおこなっています。
4．内視鏡、内視鏡下手術などを用いた低侵襲かつ高度な治療とともに外来化学療法や緩和医療チームにも力を入れています。
5．慢性疾患に対してもリハビリを含む集学的な治療体制を整え、患者教育にも熱心です。
6．脊椎・四肢・視覚・皮膚などの疾患に対して、専門性の高い手術的治療を麻酔科、ICU、放射線科等とチームを組んでおこなっています。
7．心筋梗塞・脳卒中などに対して、各診療科が協力して治療にあたります。
8．生活習慣病の予防や癌の早期発見についても各診療科が協力して診療にあたります。
9．各診療科での診療は地域や関連する診療所や病院との連携を大切におこなっています。
10．地域の医療従事者と合同で医療の質の向上を目的とした研修会等をおこなっています。
11．職員の子育て支援にも積極的に取り組んでいます。

社会環境・構造が複雑化かつ急激に変化する時代において、当院が置かれている状況を様々な観点から再確認し、「私たちはどこに向かうのか」「私たちはなにを大切にしていくのか」…、今後の方針となるour PURPOSEを策定しました。

また、わたしたちは、何をやるかではなく、なぜやるのかを問いながら、当院が存在する意義として【our PURPOSE】を表現するため、【our MISSION】【our VISION】の実現に向けて、【our CREDO】「あしたのしせい＋」を示しました。これは、あらゆる日常の臨床場面において、私たちが大切にする価値観や行動規範です。いつも５つの信条を念頭に置いて、わたしの小さな一歩を職員皆で培い、より最適と最善を目指していきながら、JCHO大阪病院は成長して参ります。

JCHO OSAKA our

# PURPOSE

わたしたちが存在する理由・社会への約束

**より最適な医療と**
**温(あたた)かいこころで、**
**「あなた」と「地域」を**
**支えます**

大切な命が生まれるとき
自分や大切な人が病に苦しむとき
ただただ回復を願うとき
命の終わりが近づきつつあるとき

そして、
世の中が危機に瀕したとき

なにかあったときに
頼れる存在がある

ここ大阪の地で
暮らしと健康を支える

その存在であるために
わたしたちだからできることを探り、
磨きつづけていく

その人らしさを大切にする心
多様なニーズに
対応できる医療技術
困ったときに助け合える関係
未来に向けて育つ環境

わたしたちは、
より最適な医療と
温かいこころで、
「あなた」と「地域」を
支えます

JCHO OSAKA our

# MISSION

パーパスを実現するために
目指し続けるもの

「あなた」と「地域」を
支えるために…

- 一人ひとりに寄り添って、より最適な医療を目指します
- 専門的かつ高度な医療技術を提供できる体制を確保し続けます
- 未来の医療を支えるプロフェッショナルを育成し続けます
- 社会の要請・医療ニーズの変化に、真摯にかつ迅速に応えます
- わたしたち職員は互いを支え、高め合い、そして大阪病院は職員を大切にします

JCHO OSAKA our

# VISION FOR 2030

わたしたちが2030年までに
創り出したい状態

1. わたしたちは、「ありがとう」「選んでよかった」と思える病院をめざします
2. わたしたちは、当院の「公的役割」をふまえ、社会の要請・医療ニーズの変化に真摯かつ迅速に応えます
3. わたしたちは、健やかな地域づくりのために、個人も病院も共に健やかであるよう努めます
4. わたしたちは、「成長実感」と「誇り」を持てる病院を創ります

JCHO OSAKA our

# CREDO

わたしたちが大切にする価値観・行動基準

あしたのしせい＋

## あ 温かさ

- 患者さんや地域に「温もり」や「その人らしさ」を感じながら寄り添えているか？
- 忙しい時こそ、自分自身や目の前のひとを大切にできているか？

## し 真摯

- 目の前の一人ひとりから「信頼」を得られるように、誠実に接しているか？
- ニーズを理解し、「迅速・丁寧・公正」に応えることができているか？

## た 対話

- 互いに対話しやすいよう相手を尊重し、「心理的安全性」が高い関わりや環境づくりができているか？
- 対話を重ね、「より最適」なことが何かを探り、進化し続けているか？

## し 支える

- 困難なときでも、働く仲間と支え合い、互いを高め合えているか？
- 地域になくてはならない存在の一員として「公的役割」も自覚できているか？

## せい 成長

- プロフェッショナルとして「心・技・体」を磨き続けているか？
- 自らの成長とともに後進の成長に喜びを持つことができているか？

## ＋ 小さな一歩

- より良い明日に向けて、わたし（たち）ができる「小さな一歩」を創り出せているか？
- わたしの一歩

## 【病院概要】

開　設　者：　独立行政法人　地域医療機能推進機構（JCHO）

病　院　名：　独立行政法人　地域医療機能推進機構　大阪病院

病　院　長：　西田 俊朗

所　在　地：　大阪府大阪市福島区福島４丁目２番78号

開設年月日：　平成26年４月１日

許可病床数：　565床（一般病床）

特殊病床：　特定集中治療室（ICU）　12床

脳卒中ケアユニット（SCU）　９床

新生児特定集中治療室（NICU）11床

開放型病床15床を含む

標　榜　科：　整形外科、リウマチ科、形成外科、リハビリテーション科、外科、消化器外科（内視鏡）、呼吸器外科（内視鏡）、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・内分泌外科、脳神経外科、内科、消化器内科（内視鏡）、呼吸器内科（内視鏡）、腎臓内科（人工透析）、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、小児科、新生児内科、神経精神科、脳神経内科、放射線診断科・IVR科、放射線治療科、歯科・歯科口腔外科、臨床検査科、病理診断科、麻酔科、救急科

## 【施設基準】

令和５年３月31日現在

| | |
|---|---|
| 入院基本料 | 一般病棟入院基本料（急性期一般入院料１） |
| 入院基本料等加算 | 急性期充実体制加算１ |
| | 超急性期脳卒中加算 |
| | 救急医療管理加算 |
| | 診療録管理体制加算１ |
| | 医師事務作業補助体制加算１（20対１） |
| | 急性期看護補助体制加算（25対１） |
| | 看護職員夜間配置加算（12対１配置加算１） |
| | 療養環境加算 |
| | 重症者等療養環境特別加算 |
| | 緩和ケア診療加算 |
| | 栄養サポートチーム加算 |

| | |
|---|---|
| 入院基本料等加算 | 医療安全対策加算１ |
| | 感染対策向上加算１ |
| | 患者サポート体制充実加算 |
| | 重症患者初期支援充実加算 |
| | 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 |
| | ハイリスク妊娠管理加算 |
| | ハイリスク分娩管理加算 |
| | 呼吸ケアチーム加算 |
| | 後発医薬品使用体制加算１ |
| | 病棟薬剤業務実施加算１ |
| | 病棟薬剤業務実施加算２ |
| | データ提出加算２ |
| | 入退院支援加算１（地域連携診療計画加算） |
| | 認知症ケア加算１ |
| | せん妄ハイリスク患者ケア加算 |
| | 精神疾患診療体制加算 |
| | 地域医療体制確保加算 |
| | 看護職員処遇改善評価料60 |
| 特定入院料 | 特定集中治療室管理料１ |
| | 脳卒中ケアユニット入院医療管理料 |
| | 新生児特定集中治療室管理料２ |
| | 小児入院医療管理料２ |
| 指導管理 | 外来栄養食事指導料の注２に規定する基準 |
| | 外来栄養食事指導料の注３に規定する基準 |
| | 心臓ペースメーカー指導管理料の注５に規定する遠隔モニタリング加算 |
| | 糖尿病合併症管理料 |
| | がん性疼痛緩和指導管理料 |
| | がん患者指導管理料イ |
| | がん患者指導管理料ロ |
| | がん患者指導管理料ハ |
| | がん患者指導管理料ニ |
| | 外来緩和ケア管理料 |
| | 糖尿病透析予防指導管理料 |
| | 小児運動器疾患指導管理料 |
| | 乳腺炎重症化予防ケア・指導料 |
| | 婦人科特定疾患治療管理料 |
| | 腎代替療法指導管理料 |
| | 一般不妊治療管理料 |
| | 二次性骨折予防継続管理料１ |
| | 二次性骨折予防継続管理料３ |
| | 下肢創傷処置管理料 |
| | 地域連携小児夜間・休日診療料１ |
| | 地域連携夜間・休日診療料 |

| | |
|---|---|
| 指導管理 | 院内トリアージ実施料 |
| | 夜間休日救急搬送医学管理料の注３に掲げる救急搬送看護体制加算 |
| | 外来放射線照射診療料 |
| | 外来腫瘍化学療法診療料１ |
| | 連携充実加算 |
| | ニコチン依存症管理料 |
| | 療養・就労両立支援指導料の注３に掲げる相談支援加算 |
| | 開放型病院共同指導料 |
| | がん治療連携計画策定料 |
| | 肝炎インターフェロン治療計画料 |
| | ハイリスク妊産婦連携指導料１ |
| | こころの連携指導料２ |
| | 薬剤管理指導料 |
| | 医療機器安全管理料１ |
| | 医療機器安全管理料２ |
| 在宅医療 | 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料 |
| | 在宅療養後方支援病院 |
| | 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注２に掲げる遠隔モニタリング加算 |
| | 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 |
| 検　　査 | 持続血糖測定器加算１ |
| | 持続血糖測定器加算２ |
| | 遺伝学的検査 |
| | BRCA１／２遺伝子検査 |
| | ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出（簡易ジェノタイプ判定） |
| | 検体検査管理加算（Ⅰ） |
| | 検体検査管理加算（Ⅳ） |
| | 遺伝カウンセリング加算 |
| | 胎児心エコー法 |
| | 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト |
| | ヘッドアップティルト試験 |
| | 神経学的検査 |
| | 小児食物アレルギー負荷検査 |
| | 内服・点滴誘発試験 |
| 画像診断 | 画像診断管理加算２ |
| | ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影 |
| | 冠動脈ＣＴ撮影加算 |
| | 心臓ＭＲＩ撮影加算 |
| | 乳房ＭＲＩ撮影加算 |
| | 小児鎮静下ＭＲＩ撮影加算 |
| | 頭部ＭＲＩ撮影加算 |
| | 全身ＭＲＩ撮影加算 |
| 投　　薬 | 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 |
| 注　　射 | 外来化学療法加算１ |

| | |
|---|---|
| 注　　射 | 無菌製剤処理料 |
| リハビリ | 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ） |
| | 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） |
| | 運動器リハビリテーション料（Ⅰ） |
| | 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） |
| | がん患者リハビリテーション料 |
| | リンパ浮腫複合的治療料 |
| | 摂食嚥下機能回復体制加算２ |
| 精神科専門療法 | 療養生活継続支援加算 |
| 処　　置 | 静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの） |
| | 人工腎臓 |
| | 導入期加算２及び腎代替療法実績加算 |
| | 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 |
| | 下肢末梢動脈疾患指導管理加算 |
| | 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対する<br>ＬＤＬアフェレシス療法 |
| | 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法 |
| 手 術 他 | 周術期栄養管理実施加算 |
| | 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 |
| | 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。） |
| | 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。） |
| | 椎間板内酵素注入療法 |
| | 緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術） |
| | 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）） |
| | 緑内障手術（濾過胞再建術（needle法）） |
| | 角結膜悪性腫瘍切除手術 |
| | 網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いる） |
| | 乳がんセンチネルリンパ節加算１及びセンチネルリンパ節生検（併用） |
| | 乳がんセンチネルリンパ節加算２及びセンチネルリンパ節生検（単独） |
| | ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後） |
| | 胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの） |
| | 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） |
| | 経カテーテル大動脈弁置換術 |
| | 胸腔鏡下弁形成術 |
| | 胸腔鏡下弁置換術 |
| | 経皮的中隔心筋焼灼術 |
| | ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 |
| | ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー） |
| | 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 |
| | 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術 |
| | 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び<br>両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 |
| | 大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法） |

| | |
|---|---|
| 手 術 他 | 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈） |
| | 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方） |
| | バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 |
| | 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。） |
| | 腹腔鏡下肝切除術 |
| | 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術 |
| | 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 |
| | 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 |
| | 内視鏡的小腸ポリープ切除術 |
| | 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術 |
| | 生体腎移植術 |
| | 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 |
| | 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。） |
| | 腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術 |
| | 遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術 |
| | 遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術 |
| | 医科点数表第２章第10部手術の通則の16に掲げる手術 |
| | 輸血管理料Ｉ |
| | 胃瘻造設時嚥下機能評価加算 |
| | 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 |
| | 麻酔管理料（Ｉ） |
| | 麻酔管理料（Ⅱ） |
| | 放射線治療専任加算 |
| | 外来放射線治療加算 |
| | 高エネルギー放射線治療 |
| | １回線量増加加算 |
| | 強度変調放射線治療（ＩＭＲＴ） |
| | 画像誘導放射線治療加算（ＩＧＲＴ） |
| | 体外照射呼吸性移動対策加算 |
| | 定位放射線治療 |
| | 定位放射線治療呼吸性移動対策加算 |
| | 保険医療機関間の連携による病理診断 |
| | 病理診断管理加算２ |
| | 悪性腫瘍病理組織標本加算 |
| 食事療養 | 入院時食事療養（Ｉ） |
| 歯　　科 | 地域歯科診療支援病院歯科初診料 |
| | 歯科外来診療環境体制加算２ |
| | クラウン・ブリッジ維持管理料 |
| | 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料 |
| | 歯科口腔リハビリテーション料２ |
| | ＣＡＤ／ＣＡＭ冠 |

## 【医学会認定研修等施設一覧】

厚生労働省臨床研修指定病院
日本内科学会認定医教育病院
日本リハビリテーション医学会研修施設
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本整形外科学会専門医研修施設
日本形成外科学会認定医研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本医学放射線学会専門医修練機関
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本病理学会病理専門医研修認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器病学会専門医認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設（小児科）
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設（内科・小児科）
日本神経学会専門医教育施設
日本リウマチ学会教育施設
日本呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本周産期・新生児医学会周産期(母体・胎児)専門医暫定認定施設
日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医暫定認定施設
日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設
日本放射線腫瘍学会認定施設
日本手外科学会認定基幹研修施設
脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
日本大腸肛門病学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本透析医学会専門医認定施設
日本超音波医学会超音波専門医研修基幹施設
日本核医学会専門医教育病院
日本臨床細胞学会認定施設
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本脳神経外科学会専門医連携研修施設
日本脳卒中学会専門医研修教育病院
日本脳卒中学会一次脳卒中センターPSCコア施設
日本IVR学会専門医修練施設認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼動施設
日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼動施設
日本食道学会全国登録認定施設
食道外科専門医準認定施設
日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本総合病院精神医学会一般病院連携研修施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本膵臓学会認定指導施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設
肺がんＣＴ検診認定施設
日本胃癌学会認定研修施設（Ａ）
日本ステントグラフト実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

## 【沿　革】

| | |
|---|---|
| 昭和27年 10月 | 大阪厚生年金病院 開設（整形外科・内科54床） |
| 29年　3月 | 外科・皮膚泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・小児科・歯科<br>新設334床 |
| 30年　4月 | 改築増床 計375床に |
| 32年　7月 | 総合病院名称使用の承認 |
| 33年　4月 | 増改築増床 計560床に<br>福島小学校分校 併設（H22.12まで）<br>厚生年金病院大阪高等看護学院 開院 |
| 34年　4月<br>10月 | 下福島中学校分校 併設（H22.12まで）<br>神経精神科・放射線科 新設 |
| 36年　4月 | 麻酔科 新設 |
| 38年　4月 | リウマチ科・災害外科 新設 |
| 43年　7月 | 臨床研修指定機関となる |
| 45年　9月 | 脳神経外科・リハビリテーション科・病理検査科 新設 |
| 48年 12月 | 病院新築工事着工（旧病院） |
| 56年　3月 | すべての新改築工事完了（旧病院） |
| 57年　3月 | 10床増床 計570床に |
| 平成 7年　2月 | 阪神・淡路大震災 医療支援活動 |
| 8年　2月 | 救急告示病院として認定 |
| 9年　3月 | ICU・救急処置室 開設 |
| 12年　4月<br>10月 | 開放型病床の承認（15床）<br>院外処方全面発行開始 |
| 13年　7月 | 地域医療連絡室設置 |
| 16年　3月<br>4月 | オーダーリングシステム導入<br>産科オープンシステム開始 |
| 18年　4月<br>10月 | DPC対象病院に指定<br>SCU（脳卒中ケアユニット）新設<br>許可病床数変更570床→565床 |
| 19年　4月<br>12月 | 院内保育園設置<br>地域医療支援病院の承認 |
| 20年　5月 | 電子カルテシステム導入 |
| 22年　4月 | 大阪府がん診療拠点病院の指定 |
| 23年　4月 | 東日本大震災 医療支援活動 |
| 25年　2月 | 耐震建替工事着工 |
| 26年　4月 | 独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院　改組 |
| 27年　4月<br>5月 | 新病院竣工式<br>新病院診療開始 |
| 28年　4月 | 新病院グランドオープン |
| 令和 1年　9月 | 一次脳卒中センター認定 |
| 2年　4月 | 40床休床<br>NICU９床→６床<br>13階東45床／西45床→13階東60床<br>９階西46床→45床<br>COVID-19　受入病床15床（13東）<br>COVID-19　救急外来　発熱外来用コンテナ設置<br>COVID-19　３階図書コーナー閉鎖 |

## 【職 員 数】

令和５年３月１日現在

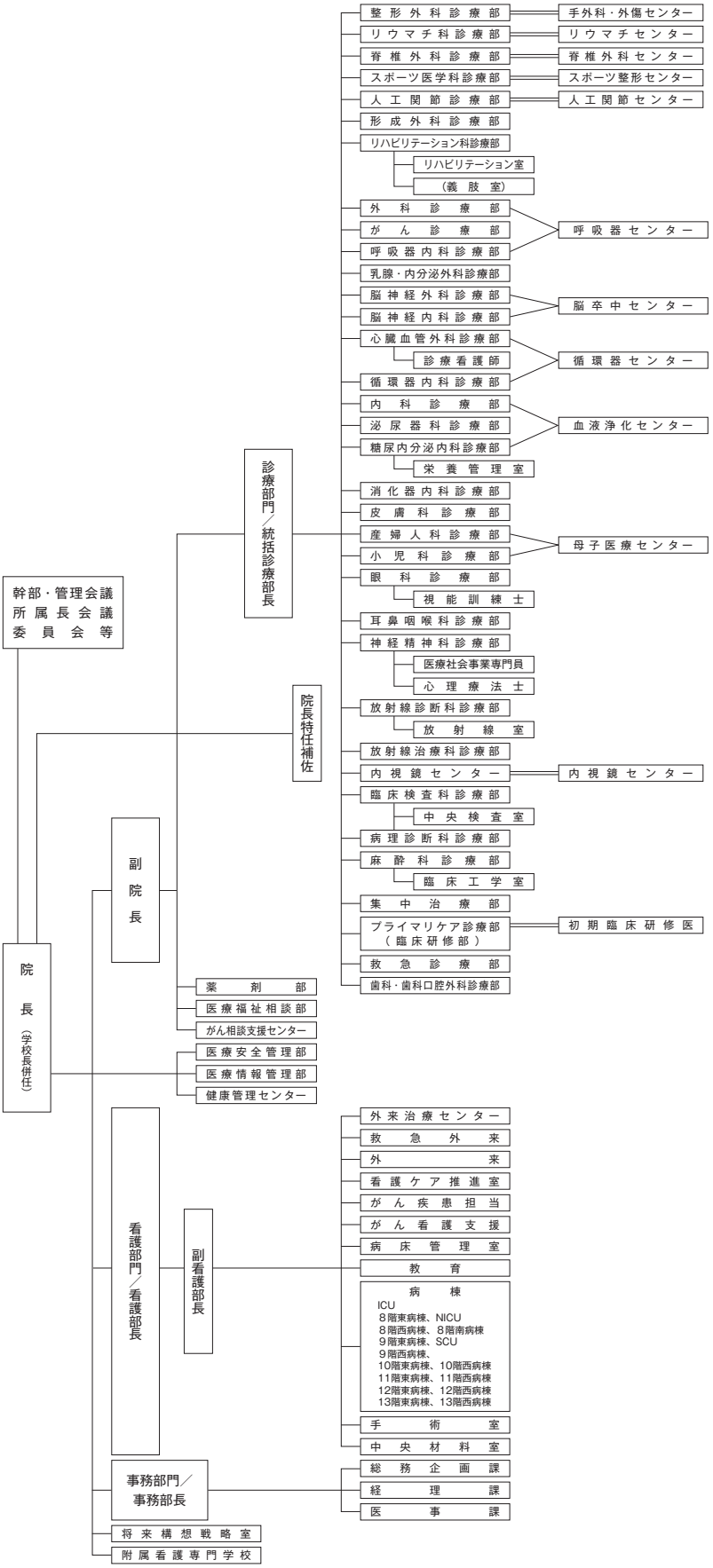
| | 区　分 | 医療職 | 医技職 | 看護職 | 事務職 | 診療情報管理職 | 技能職 | 福祉職 | 療　養介助職 | 医師事務作業補助職 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病院 | 常　勤 | 190.0 | 164.0 | 512.0 | 32.0 | 5.0 | 3.0 | 7.0 | 31.0 | 4.0 | 948.0 |
| | 非常勤 | 2.8 | 4.7 | 8.6 | 19.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 7.2 | 10.1 | 53.0 |
| | 小　計 | 192.8 | 168.7 | 520.6 | 51.0 | 5.0 | 3.0 | 7.6 | 38.2 | 14.1 | 1001.0 |
| | 区　分 | 教育職 | 事務職 | | | | | | | | 合　計 |
| 学校 | 常　勤 | 8.0 | 2.0 | | | | | | | | 10.0 |
| | 非常勤 | 0.0 | 0.0 | | | | | | | | 0.0 |
| | 小　計 | 8.0 | 2.0 | | | | | | | | 10.0 |
| 合　計（人） | | 200.8 | 170.7 | 520.6 | 51.0 | 5.0 | 3.0 | 7.6 | 38.2 | 14.1 | 1011.0 |

## 【附属施設】

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院附属看護専門学校

## 【組 織 図】

令和５年３月１日現在



# 医事統計

## ■科別外来患者数　【2022年度】

外来診療日：243日

| 診療科 | 新　患 | 再　来 | 合　計 | 1日平均患者数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 新　患 | 再　来 | 合　計 |
| 整形外科 | 3,383 | 31,644 | 35,027 | 13.9 | 130.2 | 144.1 |
| 形成外科 | 560 | 2,847 | 3,407 | 2.3 | 11.7 | 14.0 |
| リハビリテーション科 | 0 | 7,096 | 7,096 | 0.0 | 29.2 | 29.2 |
| 外　科 | 437 | 10,465 | 10,902 | 1.8 | 43.1 | 44.9 |
| 乳腺内分泌外科 | 396 | 9,731 | 10,127 | 1.6 | 40.0 | 41.7 |
| 心臓血管外科 | 56 | 1,792 | 1,848 | 0.2 | 7.4 | 7.6 |
| 脳神経外科 | 803 | 3,884 | 4,687 | 3.3 | 16.0 | 19.3 |
| 内　科 | 2,847 | 34,972 | 37,819 | 11.7 | 143.9 | 155.6 |
| 消化器内科 | 1,746 | 29,406 | 31,152 | 7.2 | 121.0 | 128.2 |
| 循環器科 | 958 | 19,345 | 20,303 | 3.9 | 79.6 | 83.6 |
| 皮膚科 | 763 | 9,836 | 10,599 | 3.1 | 40.5 | 43.6 |
| 泌尿器科 | 304 | 9,502 | 9,806 | 1.3 | 39.1 | 40.4 |
| 産婦人科 | 922 | 18,698 | 19,620 | 3.8 | 76.9 | 80.7 |
| 眼　科 | 933 | 18,791 | 19,724 | 3.8 | 77.3 | 81.2 |
| 耳鼻いんこう科 | 691 | 4,939 | 5,630 | 2.8 | 20.3 | 23.2 |
| 小児科 | 1,815 | 6,189 | 8,004 | 7.5 | 25.5 | 32.9 |
| 神経精神科 | 105 | 7,406 | 7,511 | 0.4 | 30.5 | 30.9 |
| 脳神経内科 | 518 | 4,097 | 4,615 | 2.1 | 16.9 | 19.0 |
| 放射線診断科 | 863 | 409 | 1,272 | 3.6 | 1.7 | 5.2 |
| 放射線治療科 | 2 | 2,547 | 2,549 | 0.0 | 10.5 | 10.5 |
| 歯科・歯科口腔外科 | 1,908 | 4,482 | 6,390 | 7.9 | 18.4 | 26.3 |
| 合　計 | 20,010 | 237,718 | 258,088 | 82.3 | 978.3 | 1,062.1 |

## ■病棟別患者数

365日

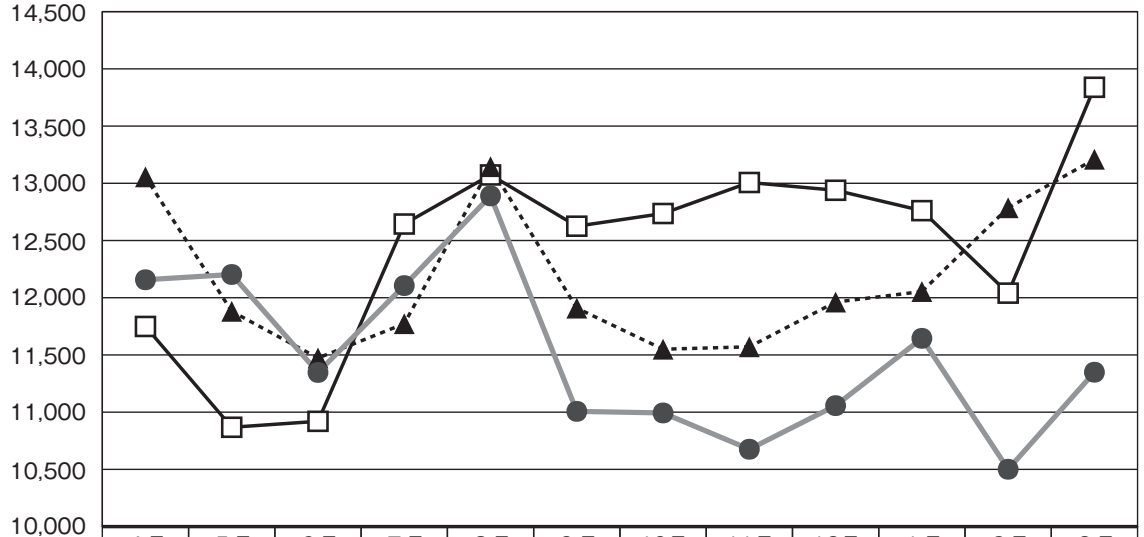
| 病棟名 | 取扱患者数 | 1日平均患者数 |
|---|---|---|
| 8階東 | 5,153 | 14.1 |
| 8階西 | 3,605 | 9.9 |
| 8階南 | 9,220 | 25.3 |
| 9階東 | 10,699 | 29.3 |
| 9階西 | 12,716 | 34.8 |
| 10階東 | 13,685 | 37.5 |
| 10階西 | 12,845 | 35.2 |
| 11階東 | 13,144 | 36.0 |
| 11階西 | 12,761 | 35.0 |
| 12階東 | 13,251 | 36.3 |
| 12階西 | 13,238 | 36.3 |
| 13階東 | 3,869 | 10.6 |
| 13階西 | 7,520 | 20.6 |
| ICU | 2,589 | 7.1 |
| SCU | 2,959 | 8.1 |
| NICU | 677 | 1.9 |
| 合 計 | 137,931 | 377.9 |

## ■診療科別入院患者数　【2022年度】

入院日数：365日

| 診療科 | 繰越延患者数 | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 在院延患者数 | 取扱患者数 | 1日平均患者数 | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 死　亡 | 退　院 | | | | |
| 整　形 | 85 | 2,029 | 1 | 2,047 | 28,773 | 30,821 | 84.4 | 14.2 |
| 形　成 | 7 | 148 | 1 | 159 | 1,604 | 1,764 | 4.8 | 11.0 |
| 外　科 | 26 | 1,054 | 22 | 1,044 | 11,457 | 12,523 | 34.3 | 10.9 |
| 乳　腺 | 7 | 249 | 6 | 247 | 1,749 | 2,002 | 5.5 | 7.2 |
| 心　臓 | 10 | 119 | 7 | 129 | 2,208 | 2,344 | 6.4 | 17.6 |
| 脳　外 | 33 | 370 | 26 | 354 | 7,330 | 7,710 | 21.1 | 19.7 |
| 内　科 | 59 | 1,565 | 59 | 1,495 | 21,071 | 22,625 | 62.0 | 13.5 |
| 消　内 | 25 | 2,369 | 46 | 2,296 | 14,550 | 16,892 | 46.3 | 6.2 |
| 循　環 | 34 | 1,114 | 37 | 1,054 | 10,577 | 11,668 | 32.0 | 9.7 |
| 皮　膚 | 6 | 202 | 4 | 193 | 2,149 | 2,346 | 6.4 | 10.9 |
| 泌　尿 | 9 | 404 | 8 | 406 | 3,026 | 3,440 | 9.4 | 7.4 |
| 産　婦 | 10 | 1,122 | 6 | 1,111 | 6,599 | 7,716 | 21.1 | 5.9 |
| 眼　科 | 9 | 957 | 0 | 961 | 2,894 | 3,855 | 10.6 | 3.2 |
| 耳　鼻 | 4 | 284 | 0 | 284 | 1,341 | 1,625 | 4.5 | 4.8 |
| 小　児 | 10 | 802 | 0 | 802 | 4,134 | 4,936 | 13.5 | 5.2 |
| 神　内 | 19 | 326 | 13 | 309 | 5,147 | 5,469 | 15.0 | 15.6 |
| 歯　科 | 1 | 45 | 0 | 46 | 149 | 195 | 0.5 | 3.4 |
| 合　計 | 354 | 13,159 | 236 | 12,937 | 124,758 | 137,931 | 377.9 | 9.5 |

## ■入院延患者数の推移

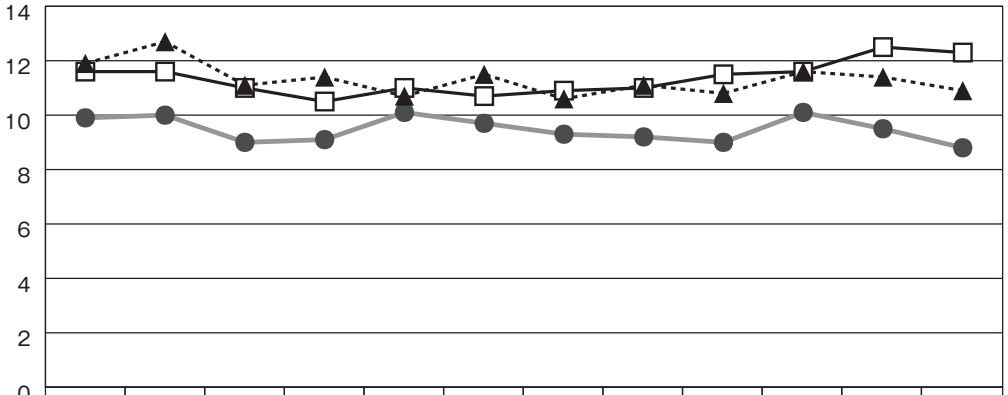



| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2020年度 | 11,749 | 10,868 | 10,920 | 12,644 | 13,073 | 12,625 | 12,736 | 13,007 | 12,939 | 12,761 | 12,040 | 13,839 |
| 2021年度 | 13,056 | 11,881 | 11,473 | 11,773 | 13,145 | 11,909 | 11,550 | 11,571 | 11,962 | 12,054 | 12,786 | 13,210 |
| 2022年度 | 12,157 | 12,203 | 11,347 | 12,106 | 12,890 | 11,007 | 10,993 | 10,676 | 11,057 | 11,645 | 10,501 | 11,349 |

【2022年度】

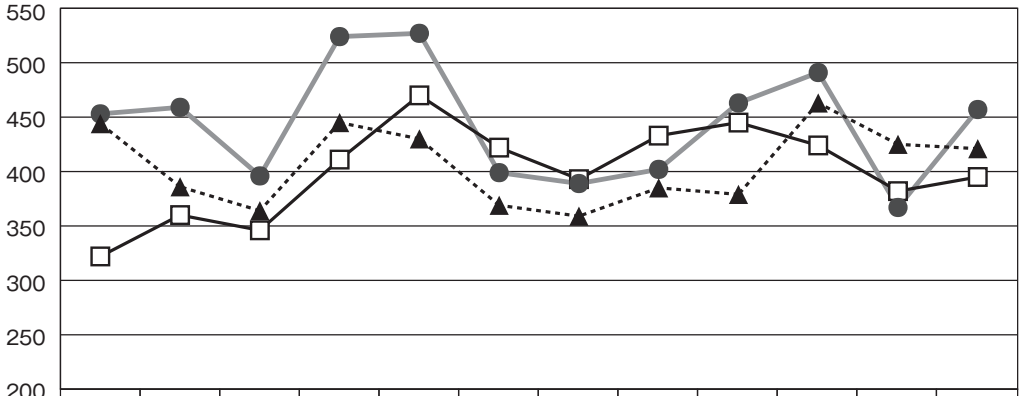
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 整　形 | 2,613 | 2,477 | 2,735 | 2,813 | 2,982 | 2,252 | 2,419 | 2,601 | 2,353 | 2,334 | 2,465 | 2,777 | 30,821 |
| 形　成 | 270 | 265 | 167 | 139 | 128 | 154 | 129 | 124 | 78 | 128 | 103 | 79 | 1,764 |
| 外　科 | 1,035 | 967 | 1,044 | 1,204 | 1,231 | 1,132 | 1,082 | 880 | 1,053 | 928 | 850 | 1,117 | 12,523 |
| 乳　腺 | 130 | 182 | 144 | 177 | 166 | 142 | 189 | 135 | 166 | 177 | 174 | 220 | 2,002 |
| 心　臓 | 309 | 254 | 217 | 201 | 128 | 178 | 153 | 165 | 211 | 230 | 151 | 147 | 2,344 |
| 脳　外 | 866 | 828 | 568 | 487 | 736 | 721 | 595 | 603 | 544 | 667 | 481 | 614 | 7,710 |
| 内　科 | 2,112 | 2,071 | 1,795 | 1,958 | 2,364 | 1,746 | 1,562 | 1,481 | 1,872 | 2,285 | 1,797 | 1,582 | 22,625 |
| 消　内 | 1,301 | 1,470 | 1,375 | 1,350 | 1,343 | 1,267 | 1,535 | 1,414 | 1,462 | 1,467 | 1,377 | 1,531 | 16,892 |
| 循　環 | 1,157 | 1,137 | 937 | 1,005 | 911 | 823 | 931 | 888 | 984 | 1,029 | 942 | 924 | 11,668 |
| 皮　膚 | 232 | 259 | 186 | 155 | 307 | 155 | 88 | 179 | 229 | 266 | 132 | 158 | 2,346 |
| 泌　尿 | 243 | 259 | 303 | 288 | 297 | 352 | 304 | 282 | 244 | 274 | 281 | 313 | 3,440 |
| 産　婦 | 566 | 686 | 488 | 577 | 770 | 837 | 733 | 709 | 689 | 538 | 526 | 597 | 7,716 |
| 眼　科 | 309 | 317 | 347 | 338 | 369 | 263 | 292 | 345 | 338 | 268 | 360 | 309 | 3,855 |
| 耳　鼻 | 97 | 89 | 120 | 138 | 133 | 119 | 118 | 128 | 153 | 159 | 205 | 166 | 1,625 |
| 小　児 | 439 | 402 | 359 | 702 | 536 | 383 | 374 | 374 | 342 | 375 | 252 | 398 | 4,936 |
| 神　内 | 464 | 514 | 536 | 554 | 475 | 460 | 459 | 363 | 336 | 514 | 397 | 397 | 5,469 |
| 歯　科 | 14 | 26 | 26 | 20 | 14 | 23 | 30 | 5 | 3 | 6 | 8 | 20 | 195 |
| 合　計 | 12,157 | 12,203 | 11,347 | 12,106 | 12,890 | 11,007 | 10,993 | 10,676 | 11,057 | 11,645 | 10,501 | 11,349 | 137,931 |

## 1．平均在院日数



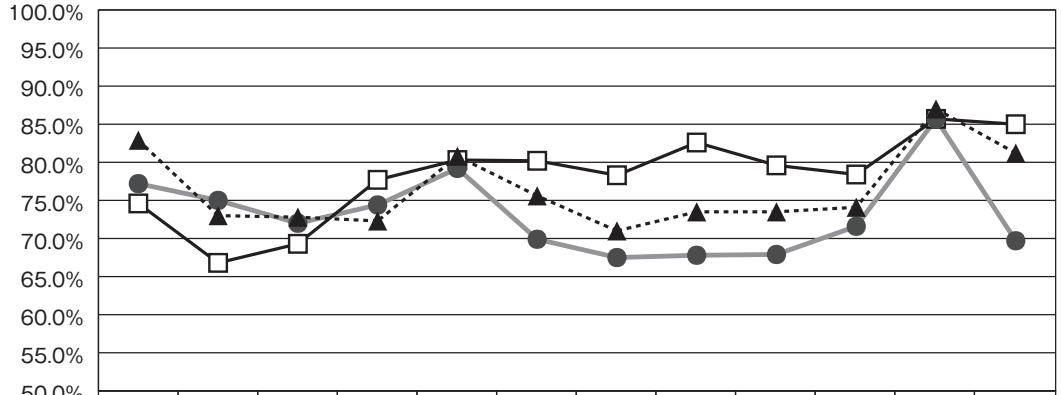

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2020年度 | 11.6 | 11.6 | 11.0 | 10.5 | 11.0 | 10.7 | 10.9 | 11.0 | 11.5 | 11.6 | 12.5 | 12.3 |
| 2021年度 | 11.9 | 12.7 | 11.1 | 11.4 | 10.7 | 11.5 | 10.6 | 11.1 | 10.8 | 11.6 | 11.4 | 10.9 |
| 2022年度 | 9.9 | 10.0 | 9.0 | 9.1 | 10.1 | 9.7 | 9.3 | 9.2 | 9.0 | 10.1 | 9.5 | 8.8 |

## 2．直入患者数の推移



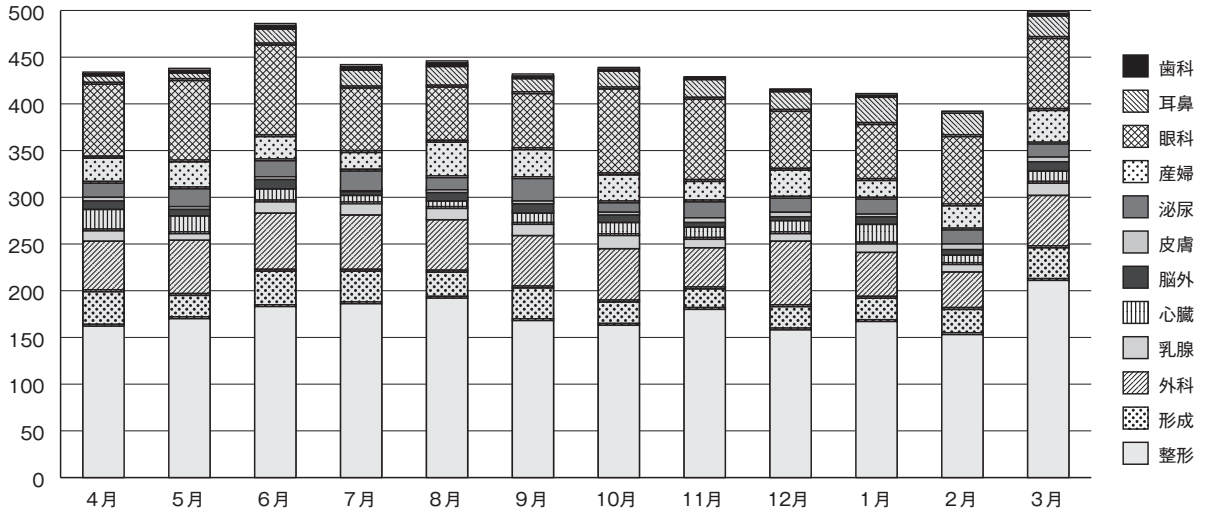

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2020年度 | 322 | 360 | 346 | 411 | 470 | 422 | 393 | 433 | 445 | 424 | 382 | 395 |
| 2021年度 | 444 | 386 | 364 | 445 | 430 | 369 | 359 | 385 | 379 | 463 | 425 | 421 |
| 2022年度 | 453 | 459 | 396 | 524 | 527 | 399 | 389 | 402 | 463 | 491 | 367 | 457 |

## 3．病床稼働率




| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2020年度 | 74.6% | 66.8% | 69.3% | 77.7% | 80.3% | 80.2% | 78.3% | 82.6% | 79.6% | 78.4% | 85.7% | 85.0% |
| 2021年度 | 82.9% | 73.0% | 72.8% | 72.3% | 80.8% | 75.6% | 71.0% | 73.5% | 73.5% | 74.1% | 87.0% | 81.2% |
| 2022年度 | 77.2% | 75.0% | 72.0% | 74.4% | 79.2% | 69.9% | 67.5% | 67.8% | 67.9% | 71.6% | 85.7% | 69.7% |

## ■診療科別手術件数（手術室実施分）【2022年度】




【2022年度】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 整　形 | 162 | 170 | 183 | 186 | 192 | 168 | 163 | 180 | 158 | 167 | 153 | 211 | 2,093 |
| 形　成 | 37 | 25 | 38 | 35 | 28 | 35 | 25 | 22 | 25 | 25 | 27 | 35 | 357 |
| 外　科 | 54 | 59 | 62 | 60 | 56 | 56 | 57 | 44 | 70 | 49 | 40 | 56 | 663 |
| 乳　腺 | 11 | 7 | 12 | 12 | 12 | 12 | 14 | 9 | 8 | 9 | 8 | 13 | 127 |
| 心　臓 | 23 | 19 | 14 | 9 | 8 | 12 | 14 | 13 | 14 | 21 | 10 | 13 | 170 |
| 脳　外 | 9 | 7 | 10 | 4 | 9 | 10 | 8 | 5 | 4 | 8 | 6 | 10 | 90 |
| 皮　膚 | 4 | 3 | 3 | 1 | 3 | 3 | 3 | 5 | 5 | 3 | 6 | 5 | 44 |
| 泌　尿 | 15 | 19 | 17 | 21 | 13 | 24 | 10 | 17 | 15 | 16 | 15 | 14 | 196 |
| 産　婦 | 27 | 29 | 26 | 20 | 38 | 31 | 30 | 22 | 30 | 20 | 26 | 36 | 335 |
| 眼　科 | 79 | 87 | 98 | 69 | 59 | 60 | 92 | 88 | 63 | 60 | 74 | 77 | 906 |
| 耳　鼻 | 9 | 8 | 17 | 19 | 22 | 16 | 19 | 21 | 21 | 29 | 25 | 24 | 230 |
| 歯　科 | 2 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 | 3 | 29 |
| 合　計 | 432 | 436 | 484 | 440 | 444 | 430 | 437 | 427 | 414 | 409 | 390 | 497 | 5,240 |

【2021年度】

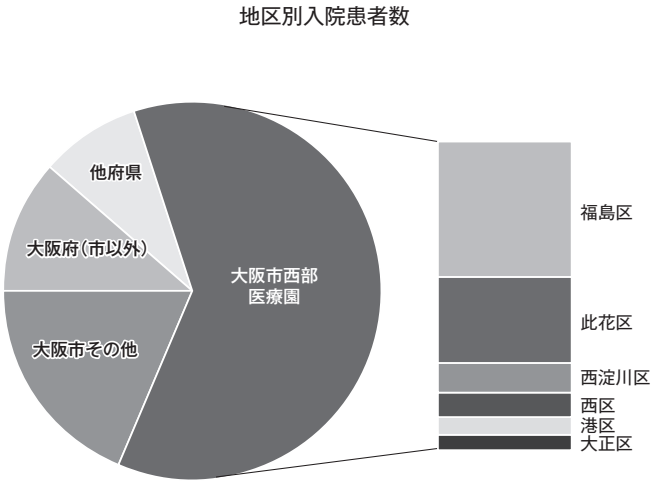
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 整　形 | 160 | 137 | 141 | 165 | 185 | 144 | 150 | 151 | 162 | 155 | 166 | 193 | 1,909 |
| 形　成 | 32 | 22 | 19 | 23 | 33 | 29 | 39 | 37 | 37 | 30 | 28 | 34 | 363 |
| 外　科 | 59 | 49 | 61 | 61 | 52 | 60 | 64 | 50 | 50 | 73 | 53 | 49 | 681 |
| 乳　腺 | 15 | 8 | 16 | 6 | 9 | 8 | 12 | 12 | 8 | 13 | 7 | 6 | 120 |
| 心　臓 | 15 | 14 | 14 | 14 | 23 | 17 | 14 | 22 | 14 | 20 | 13 | 15 | 195 |
| 脳　外 | 11 | 3 | 8 | 7 | 7 | 6 | 3 | 9 | 13 | 5 | 8 | 8 | 88 |
| 皮　膚 | 5 | 4 | 4 | 2 | 2 | 2 | 5 | 5 | 5 | 3 | 6 | 2 | 45 |
| 泌　尿 | 20 | 13 | 15 | 20 | 18 | 16 | 22 | 18 | 23 | 17 | 11 | 17 | 210 |
| 産　婦 | 31 | 31 | 27 | 29 | 35 | 20 | 24 | 30 | 26 | 25 | 21 | 24 | 323 |
| 眼　科 | 67 | 61 | 59 | 64 | 94 | 77 | 80 | 94 | 63 | 92 | 64 | 83 | 898 |
| 耳　鼻 | 11 | 9 | 12 | 12 | 14 | 12 | 12 | 10 | 15 | 11 | 8 | 20 | 146 |
| 歯　科 | 3 | 2 | 2 | 3 | 3 | 1 | 3 | 1 | 1 | 2 | 1 | 3 | 25 |
| 合　計 | 429 | 353 | 378 | 406 | 475 | 392 | 428 | 439 | 417 | 446 | 386 | 454 | 5,003 |

【2020年度】

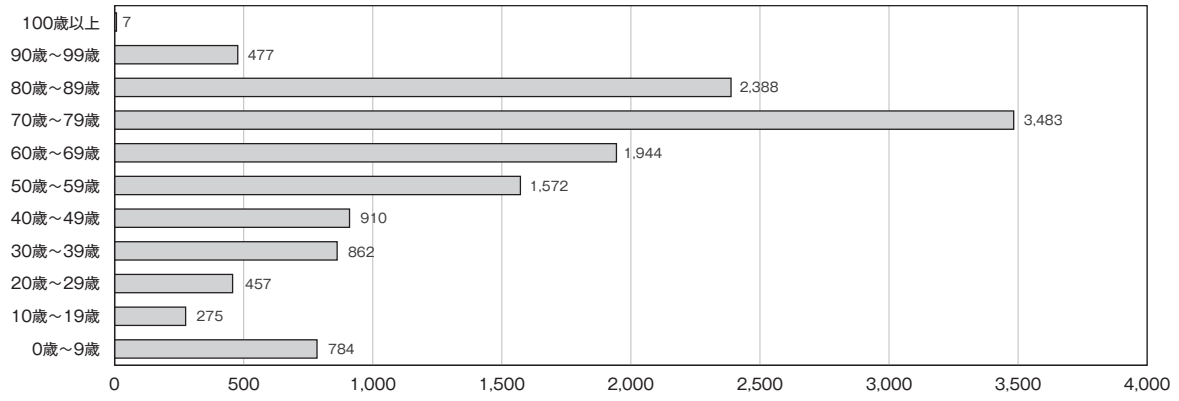
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 整　形 | 159 | 117 | 148 | 153 | 155 | 155 | 169 | 164 | 144 | 160 | 152 | 204 | 1,880 |
| 形　成 | 23 | 14 | 25 | 32 | 35 | 38 | 35 | 29 | 30 | 28 | 25 | 39 | 353 |
| 外　科 | 53 | 46 | 56 | 56 | 49 | 50 | 61 | 58 | 56 | 56 | 44 | 81 | 666 |
| 乳　腺 | 12 | 17 | 7 | 11 | 12 | 8 | 8 | 10 | 9 | 7 | 11 | 11 | 123 |
| 心　臓 | 9 | 9 | 12 | 14 | 8 | 18 | 13 | 7 | 12 | 14 | 10 | 13 | 139 |
| 脳　外 | 10 | 12 | 11 | 9 | 4 | 11 | 8 | 10 | 9 | 14 | 5 | 9 | 112 |
| 皮　膚 | 0 | 0 | 3 | 5 | 4 | 3 | 3 | 3 | 1 | 3 | 4 | 4 | 33 |
| 泌　尿 | 23 | 15 | 16 | 27 | 15 | 15 | 13 | 14 | 16 | 13 | 15 | 17 | 199 |
| 産　婦 | 37 | 23 | 25 | 26 | 32 | 30 | 31 | 38 | 37 | 28 | 29 | 40 | 376 |
| 眼　科 | 43 | 40 | 56 | 61 | 75 | 57 | 91 | 98 | 79 | 74 | 66 | 85 | 825 |
| 耳　鼻 | 5 | 2 | 13 | 15 | 14 | 14 | 17 | 11 | 17 | 14 | 11 | 16 | 149 |
| 歯　科 | 0 | 0 | 0 | 4 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 11 |
| 合　計 | 374 | 295 | 372 | 413 | 405 | 399 | 450 | 442 | 411 | 413 | 373 | 519 | 4,866 |

## ■診療科別住所地別入院患者数　【2022年度】

| 診　療　科 | 大阪市 | | | | | | | その他大阪府 | 他府県 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 福島区 | 此花区 | 西淀川区 | 西　区 | 港　区 | 大正区 | その他 | | | |
| 整形外科 | 233 | 133 | 101 | 95 | 58 | 76 | 533 | 502 | 297 | 2,028 |
| 形成外科 | 42 | 34 | 10 | 5 | 0 | 1 | 23 | 16 | 17 | 148 |
| 外　科 | 309 | 237 | 82 | 36 | 30 | 21 | 150 | 105 | 85 | 1,055 |
| 乳腺内分泌外科 | 37 | 31 | 18 | 12 | 5 | 19 | 66 | 40 | 19 | 247 |
| 心臓血管外科 | 20 | 22 | 11 | 3 | 17 | 8 | 28 | 12 | 2 | 123 |
| 脳神経外科 | 83 | 87 | 28 | 16 | 18 | 9 | 75 | 27 | 27 | 370 |
| 内　科 | 413 | 315 | 92 | 50 | 66 | 65 | 343 | 125 | 108 | 1,577 |
| 消化器内科 | 649 | 520 | 132 | 75 | 44 | 72 | 401 | 227 | 242 | 2,362 |
| 循環器内科 | 306 | 207 | 81 | 66 | 68 | 33 | 218 | 75 | 56 | 1,110 |
| 皮膚科 | 68 | 31 | 14 | 3 | 7 | 2 | 52 | 16 | 9 | 202 |
| 泌尿器科 | 107 | 74 | 26 | 15 | 10 | 21 | 61 | 35 | 55 | 404 |
| 産婦人科 | 434 | 79 | 21 | 76 | 51 | 14 | 290 | 80 | 75 | 1,120 |
| 眼　科 | 180 | 208 | 39 | 13 | 7 | 11 | 160 | 167 | 171 | 956 |
| 耳鼻いんこう科 | 79 | 29 | 16 | 15 | 7 | 4 | 65 | 33 | 36 | 284 |
| 小児科 | 298 | 55 | 30 | 112 | 39 | 18 | 190 | 28 | 34 | 804 |
| 脳神経内科 | 94 | 68 | 36 | 13 | 13 | 8 | 55 | 22 | 15 | 324 |
| 歯科・歯科口腔外科 | 16 | 11 | 1 | 4 | 1 | 1 | 5 | 3 | 3 | 45 |
| 合　計 | 3,368 | 2,141 | 738 | 609 | 441 | 383 | 2,715 | 1,513 | 1,251 | 13,159 |



## ■年齢階層別新入院患者数　【2022年度】




【2022年度】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0歳～9歳 | 58 | 56 | 66 | 125 | 95 | 61 | 45 | 57 | 52 | 57 | 47 | 65 | 784 |
| 10歳～19歳 | 19 | 19 | 19 | 26 | 34 | 21 | 15 | 16 | 29 | 20 | 24 | 33 | 275 |
| 20歳～29歳 | 32 | 51 | 33 | 39 | 43 | 40 | 34 | 34 | 37 | 34 | 36 | 44 | 457 |
| 30歳～39歳 | 71 | 64 | 51 | 82 | 78 | 77 | 73 | 90 | 74 | 69 | 58 | 75 | 862 |
| 40歳～49歳 | 78 | 87 | 76 | 94 | 75 | 63 | 79 | 57 | 67 | 62 | 80 | 92 | 910 |
| 50歳～59歳 | 143 | 132 | 145 | 120 | 126 | 114 | 129 | 119 | 133 | 142 | 139 | 130 | 1,572 |
| 60歳～69歳 | 173 | 173 | 173 | 156 | 188 | 137 | 172 | 158 | 157 | 168 | 143 | 146 | 1,944 |
| 70歳～79歳 | 277 | 274 | 324 | 302 | 290 | 264 | 311 | 279 | 256 | 305 | 264 | 337 | 3,483 |
| 80歳～89歳 | 197 | 221 | 214 | 195 | 201 | 191 | 171 | 226 | 209 | 191 | 175 | 197 | 2,388 |
| 90歳～99歳 | 42 | 56 | 35 | 47 | 48 | 30 | 32 | 27 | 44 | 61 | 24 | 31 | 477 |
| 100歳以上 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 | 7 |
| 合　計 | 1,090 | 1,134 | 1,136 | 1,186 | 1,179 | 998 | 1,061 | 1,063 | 1,059 | 1,112 | 990 | 1,151 | 13,159 |

【2021年度】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0歳～9歳 | 80 | 79 | 81 | 85 | 59 | 38 | 66 | 57 | 58 | 54 | 42 | 37 | 736 |
| 10歳～19歳 | 14 | 10 | 17 | 34 | 23 | 17 | 24 | 19 | 28 | 30 | 17 | 32 | 265 |
| 20歳～29歳 | 42 | 32 | 32 | 35 | 57 | 26 | 36 | 37 | 35 | 36 | 39 | 40 | 447 |
| 30歳～39歳 | 78 | 66 | 68 | 73 | 86 | 68 | 75 | 69 | 61 | 77 | 67 | 68 | 856 |
| 40歳～49歳 | 87 | 78 | 68 | 93 | 97 | 87 | 63 | 64 | 65 | 79 | 70 | 75 | 926 |
| 50歳～59歳 | 121 | 112 | 119 | 131 | 134 | 105 | 120 | 115 | 103 | 122 | 109 | 137 | 1,428 |
| 60歳～69歳 | 170 | 149 | 162 | 143 | 174 | 169 | 166 | 182 | 152 | 187 | 165 | 172 | 1,991 |
| 70歳～79歳 | 304 | 260 | 254 | 263 | 317 | 255 | 251 | 294 | 223 | 306 | 262 | 294 | 3,283 |
| 80歳～89歳 | 178 | 157 | 163 | 179 | 160 | 152 | 185 | 182 | 183 | 200 | 184 | 190 | 2,113 |
| 90歳～99歳 | 27 | 29 | 23 | 21 | 30 | 30 | 24 | 30 | 39 | 51 | 41 | 41 | 386 |
| 100歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 合　計 | 1,101 | 972 | 987 | 1,057 | 1,137 | 947 | 1,010 | 1,049 | 947 | 1,142 | 996 | 1,087 | 12,432 |

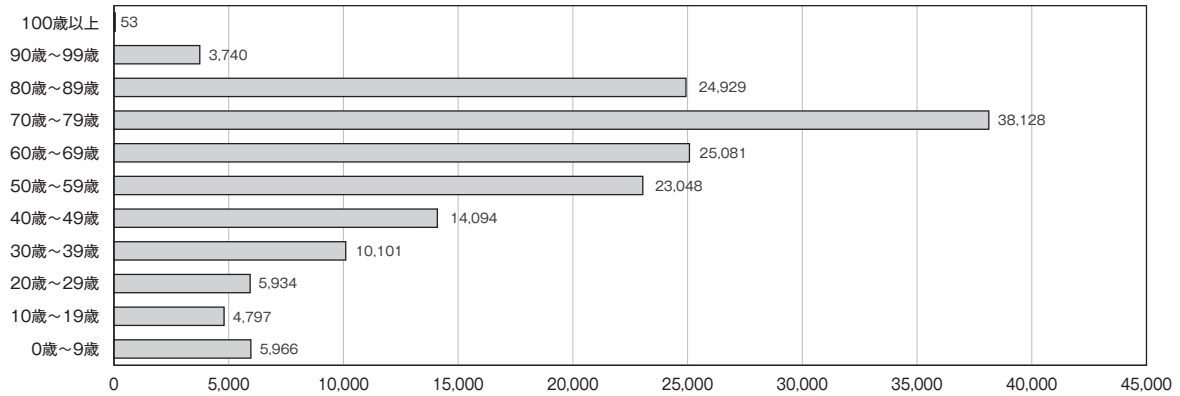
【2020年度】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0歳～9歳 | 45 | 38 | 40 | 38 | 52 | 53 | 49 | 46 | 34 | 34 | 41 | 69 | 539 |
| 10歳～19歳 | 18 | 9 | 14 | 16 | 27 | 13 | 20 | 22 | 21 | 19 | 16 | 35 | 230 |
| 20歳～29歳 | 28 | 31 | 34 | 31 | 40 | 49 | 48 | 37 | 41 | 37 | 49 | 38 | 463 |
| 30歳～39歳 | 77 | 81 | 61 | 79 | 82 | 71 | 63 | 57 | 45 | 57 | 72 | 81 | 826 |
| 40歳～49歳 | 71 | 69 | 67 | 71 | 83 | 62 | 67 | 54 | 56 | 55 | 59 | 63 | 777 |
| 50歳～59歳 | 111 | 105 | 96 | 91 | 100 | 96 | 111 | 107 | 95 | 114 | 110 | 125 | 1,261 |
| 60歳～69歳 | 177 | 173 | 184 | 179 | 162 | 157 | 177 | 191 | 160 | 178 | 177 | 161 | 2,076 |
| 70歳～79歳 | 179 | 122 | 235 | 321 | 338 | 296 | 341 | 360 | 366 | 338 | 239 | 365 | 3,500 |
| 80歳～89歳 | 143 | 136 | 173 | 175 | 186 | 174 | 185 | 187 | 174 | 200 | 174 | 206 | 2,113 |
| 90歳～99歳 | 23 | 21 | 27 | 33 | 38 | 37 | 29 | 36 | 36 | 36 | 34 | 26 | 376 |
| 100歳以上 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 4 |
| 合　計 | 872 | 785 | 932 | 1,034 | 1,108 | 1,008 | 1,090 | 1,097 | 1,029 | 1,069 | 971 | 1,170 | 12,165 |

【2019年度】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0歳～9歳 | 89 | 71 | 92 | 96 | 83 | 101 | 81 | 77 | 59 | 72 | 64 | 69 | 954 |
| 10歳～19歳 | 19 | 21 | 18 | 43 | 30 | 26 | 34 | 22 | 41 | 23 | 16 | 24 | 317 |
| 20歳～29歳 | 39 | 41 | 40 | 43 | 45 | 42 | 56 | 41 | 35 | 37 | 33 | 46 | 498 |
| 30歳～39歳 | 82 | 86 | 66 | 84 | 87 | 76 | 68 | 62 | 50 | 62 | 77 | 86 | 886 |
| 40歳～49歳 | 76 | 74 | 72 | 76 | 88 | 67 | 72 | 59 | 61 | 60 | 64 | 68 | 837 |
| 50歳～59歳 | 116 | 110 | 101 | 96 | 105 | 101 | 116 | 112 | 100 | 119 | 115 | 130 | 1,321 |
| 60歳～69歳 | 182 | 178 | 189 | 184 | 167 | 162 | 182 | 196 | 165 | 183 | 182 | 166 | 2,136 |
| 70歳～79歳 | 298 | 294 | 317 | 341 | 292 | 280 | 302 | 306 | 302 | 328 | 263 | 296 | 3,619 |
| 80歳～89歳 | 179 | 172 | 185 | 202 | 152 | 167 | 179 | 184 | 176 | 200 | 187 | 172 | 2,155 |
| 90歳～99歳 | 21 | 25 | 26 | 22 | 28 | 22 | 28 | 21 | 35 | 36 | 28 | 22 | 314 |
| 100歳以上 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 2 | 8 |
| 合　計 | 1,102 | 1,073 | 1,106 | 1,187 | 1,078 | 1,044 | 1,118 | 1,082 | 1,024 | 1,121 | 1,029 | 1,081 | 13,045 |

## ■年齢階層別外来実患者数　【2022年度】




【2022年度】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 歳 ～ 9 歳 | 432 | 483 | 469 | 613 | 552 | 538 | 488 | 478 | 487 | 434 | 437 | 555 | 5,966 |
| 10歳 ～ 19歳 | 380 | 360 | 380 | 445 | 542 | 370 | 343 | 339 | 427 | 378 | 319 | 514 | 4,797 |
| 20歳 ～ 29歳 | 499 | 482 | 458 | 629 | 596 | 461 | 423 | 417 | 442 | 461 | 497 | 569 | 5,934 |
| 30歳 ～ 39歳 | 826 | 858 | 830 | 929 | 884 | 856 | 769 | 836 | 833 | 823 | 781 | 876 | 10,101 |
| 40歳 ～ 49歳 | 1,126 | 1,105 | 1,243 | 1,225 | 1,196 | 1,157 | 1,124 | 1,195 | 1,147 | 1,105 | 1,149 | 1,322 | 14,094 |
| 50歳 ～ 59歳 | 1,870 | 1,860 | 2,088 | 1,950 | 1,882 | 1,917 | 1,933 | 1,838 | 1,951 | 1,862 | 1,842 | 2,055 | 23,048 |
| 60歳 ～ 69歳 | 2,046 | 2,024 | 2,219 | 2,050 | 2,096 | 2,148 | 2,149 | 2,036 | 2,096 | 2,017 | 1,986 | 2,214 | 25,081 |
| 70歳 ～ 79歳 | 3,248 | 3,123 | 3,296 | 3,163 | 3,162 | 3,316 | 3,225 | 3,162 | 3,128 | 3,057 | 2,975 | 3,273 | 38,128 |
| 80歳 ～ 89歳 | 2,164 | 2,150 | 2,256 | 2,098 | 2,054 | 2,196 | 2,192 | 2,142 | 2,169 | 1,767 | 1,731 | 2,010 | 24,929 |
| 90歳 ～ 99歳 | 334 | 323 | 341 | 339 | 322 | 327 | 347 | 329 | 324 | 251 | 236 | 267 | 3,740 |
| 100歳以上 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 5 | 6 | 4 | 6 | 6 | 6 | 2 | 53 |
| 合　計 | 12,929 | 12,771 | 13,584 | 13,444 | 13,290 | 13,291 | 12,999 | 12,776 | 13,010 | 12,161 | 11,959 | 13,657 | 155,871 |

【2021年度】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 歳 ～ 9 歳 | 498 | 474 | 571 | 512 | 509 | 440 | 462 | 481 | 499 | 412 | 390 | 498 | 5,746 |
| 10歳 ～ 19歳 | 413 | 262 | 318 | 403 | 555 | 341 | 359 | 352 | 434 | 376 | 309 | 525 | 4,647 |
| 20歳 ～ 29歳 | 483 | 410 | 463 | 504 | 522 | 479 | 447 | 439 | 465 | 494 | 499 | 583 | 5,788 |
| 30歳 ～ 39歳 | 821 | 777 | 859 | 824 | 849 | 888 | 859 | 821 | 838 | 850 | 799 | 885 | 10,070 |
| 40歳 ～ 49歳 | 1,307 | 1,206 | 1,323 | 1,302 | 1,254 | 1,284 | 1,284 | 1,259 | 1,248 | 1,215 | 1,178 | 1,295 | 15,155 |
| 50歳 ～ 59歳 | 1,891 | 1,742 | 1,982 | 1,876 | 1,860 | 1,955 | 1,935 | 1,887 | 1,999 | 1,896 | 1,798 | 2,031 | 22,852 |
| 60歳 ～ 69歳 | 2,174 | 2,002 | 2,218 | 2,155 | 2,094 | 2,208 | 2,236 | 2,263 | 2,184 | 2,124 | 2,028 | 2,280 | 25,966 |
| 70歳 ～ 79歳 | 3,330 | 3,141 | 3,425 | 3,337 | 3,219 | 3,332 | 3,423 | 3,400 | 3,379 | 3,153 | 3,036 | 3,481 | 39,656 |
| 80歳 ～ 89歳 | 1,901 | 1,728 | 1,900 | 1,894 | 1,737 | 1,913 | 1,978 | 1,972 | 1,967 | 1,829 | 1,784 | 2,085 | 22,688 |
| 90歳 ～ 99歳 | 238 | 203 | 271 | 248 | 231 | 259 | 247 | 226 | 252 | 348 | 249 | 285 | 3,057 |
| 100歳以上 | 4 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 2 | 2 | 3 | 18 |
| 合　計 | 13,060 | 11,945 | 13,330 | 13,057 | 12,830 | 13,100 | 13,231 | 13,100 | 13,268 | 12,699 | 12,072 | 13,951 | 155,643 |

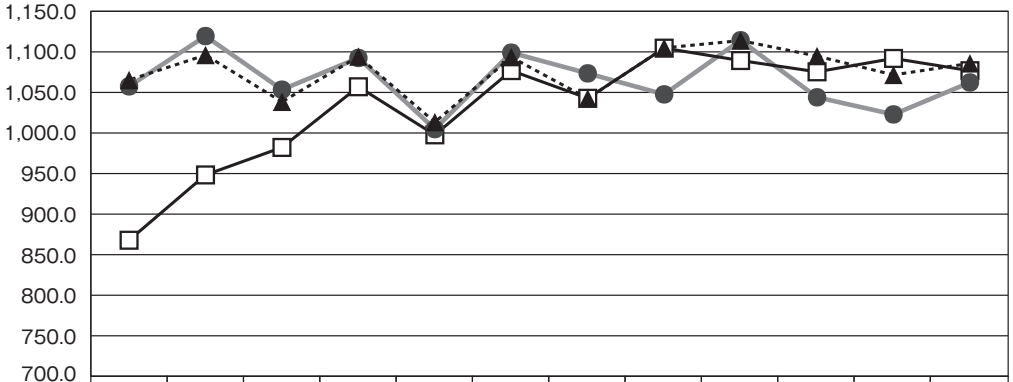
【2020年度】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 歳 ～ 9 歳 | 675 | 169 | 626 | 689 | 632 | 614 | 632 | 618 | 631 | 594 | 471 | 524 | 6,875 |
| 10歳 ～ 19歳 | 378 | 357 | 355 | 457 | 567 | 323 | 366 | 345 | 445 | 376 | 325 | 431 | 4,725 |
| 20歳 ～ 29歳 | 517 | 488 | 477 | 558 | 507 | 467 | 468 | 488 | 457 | 411 | 458 | 500 | 5,796 |
| 30歳 ～ 39歳 | 925 | 899 | 885 | 893 | 864 | 866 | 923 | 808 | 851 | 820 | 780 | 815 | 10,329 |
| 40歳 ～ 49歳 | 1,368 | 1,295 | 1,358 | 1,356 | 1,304 | 1,247 | 1,304 | 1,224 | 1,262 | 1,203 | 1,155 | 1,218 | 15,294 |
| 50歳 ～ 59歳 | 1,786 | 1,729 | 1,772 | 1,797 | 1,734 | 1,663 | 1,839 | 1,730 | 1,785 | 1,668 | 1,612 | 1,744 | 20,859 |
| 60歳 ～ 69歳 | 2,485 | 2,308 | 2,330 | 2,361 | 2,160 | 2,203 | 2,335 | 2,186 | 2,211 | 2,159 | 2,102 | 2,112 | 26,952 |
| 70歳 ～ 79歳 | 3,544 | 3,337 | 3,445 | 3,487 | 3,178 | 3,312 | 3,424 | 3,252 | 3,314 | 3,173 | 3,136 | 3,162 | 39,764 |
| 80歳 ～ 89歳 | 1,865 | 1,741 | 1,730 | 1,805 | 1,622 | 1,700 | 1,729 | 1,707 | 1,679 | 1,746 | 1,587 | 1,592 | 20,503 |
| 90歳 ～ 99歳 | 182 | 182 | 164 | 181 | 156 | 177 | 184 | 184 | 166 | 192 | 169 | 184 | 2,121 |
| 100歳以上 | 9 | 4 | 5 | 3 | 4 | 2 | 6 | 4 | 0 | 2 | 0 | 3 | 42 |
| 合　計 | 13,734 | 12,509 | 13,147 | 13,587 | 12,728 | 12,574 | 13,210 | 12,546 | 12,801 | 12,344 | 11,795 | 12,285 | 153,260 |

【2019年度】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 歳 ～ 9 歳 | 735 | 184 | 682 | 750 | 688 | 668 | 688 | 673 | 687 | 647 | 513 | 571 | 7,486 |
| 10歳 ～ 19歳 | 411 | 389 | 387 | 498 | 617 | 352 | 399 | 376 | 485 | 409 | 354 | 469 | 5,146 |
| 20歳 ～ 29歳 | 563 | 531 | 519 | 607 | 552 | 508 | 510 | 531 | 498 | 447 | 499 | 544 | 6,309 |
| 30歳 ～ 39歳 | 1,007 | 979 | 964 | 972 | 941 | 943 | 1,005 | 880 | 926 | 893 | 849 | 887 | 11,246 |
| 40歳 ～ 49歳 | 1,489 | 1,410 | 1,478 | 1,476 | 1,420 | 1,358 | 1,420 | 1,333 | 1,374 | 1,310 | 1,258 | 1,326 | 16,652 |
| 50歳 ～ 59歳 | 1,944 | 1,882 | 1,929 | 1,956 | 1,888 | 1,811 | 2,002 | 1,883 | 1,943 | 1,816 | 1,755 | 1,899 | 22,708 |
| 60歳 ～ 69歳 | 2,706 | 2,513 | 2,537 | 2,570 | 2,352 | 2,398 | 2,542 | 2,380 | 2,407 | 2,351 | 2,289 | 2,299 | 29,344 |
| 70歳 ～ 79歳 | 3,858 | 3,633 | 3,751 | 3,796 | 3,460 | 3,606 | 3,728 | 3,540 | 3,608 | 3,454 | 3,414 | 3,443 | 43,291 |
| 80歳 ～ 89歳 | 2,031 | 1,896 | 1,883 | 1,965 | 1,766 | 1,851 | 1,882 | 1,858 | 1,828 | 1,901 | 1,728 | 1,733 | 22,322 |
| 90歳 ～ 99歳 | 198 | 198 | 179 | 197 | 170 | 193 | 200 | 200 | 181 | 209 | 184 | 200 | 2,309 |
| 100歳以上 | 10 | 4 | 5 | 3 | 4 | 2 | 6 | 4 | 0 | 2 | 0 | 3 | 43 |
| 合　計 | 14,952 | 13,619 | 14,314 | 14,790 | 13,858 | 13,690 | 14,382 | 13,658 | 13,937 | 13,439 | 12,843 | 13,374 | 166,856 |

## ■１日平均外来患者数の推移

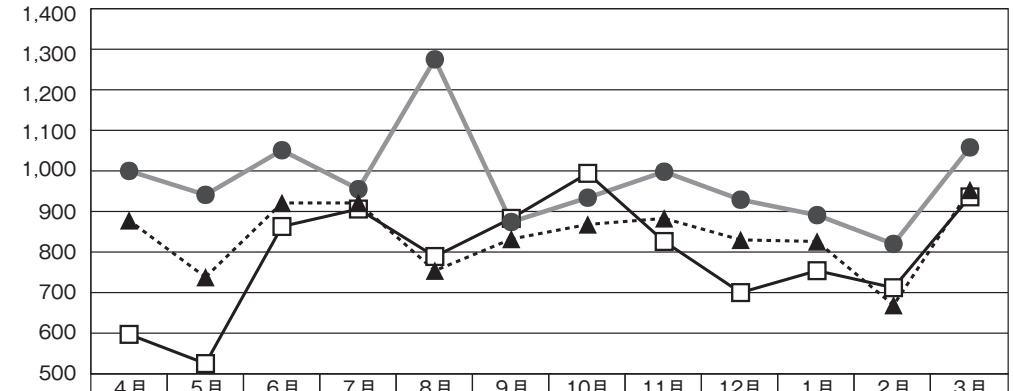



| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2020年度 | 867.8 | 948.3 | 982.2 | 1057.0 | 997.7 | 1076.9 | 1042.8 | 1104.6 | 1089.3 | 1075.4 | 1091.9 | 1076.8 |
| 2021年度 | 1065.3 | 1096.1 | 1038.4 | 1094.2 | 1013.4 | 1093.5 | 1042.5 | 1104.9 | 1113.9 | 1094.8 | 1071.6 | 1085.8 |
| 2022年度 | 1057.5 | 1119.5 | 1053.4 | 1092.5 | 1004.8 | 1099.0 | 1073.5 | 1047.6 | 1114.3 | 1044.0 | 1022.9 | 1062.3 |

【2022年度】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 外来日数 | 20 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 22 | 243 |
| 整　形 | 142.2 | 160.3 | 147.7 | 147.2 | 135.6 | 151.6 | 150.5 | 143.1 | 145.9 | 141.4 | 133.3 | 139.3 | 144.8 |
| 形　成 | 14.6 | 14.5 | 15.1 | 15.2 | 13.1 | 13.7 | 13.9 | 11.9 | 15.3 | 13.2 | 13.8 | 14.9 | 14.1 |
| リ　ハ | 25.5 | 28.8 | 29.5 | 32.2 | 29.7 | 32.6 | 30.0 | 30.0 | 23.4 | 27.7 | 26.2 | 28.2 | 28.7 |
| 外　科 | 47.3 | 50.4 | 43.5 | 43.7 | 40.5 | 44.0 | 46.4 | 42.6 | 48.2 | 46.6 | 41.0 | 46.5 | 45.1 |
| 乳　腺 | 41.7 | 41.5 | 41.6 | 41.0 | 39.6 | 42.7 | 47.4 | 41.1 | 43.8 | 38.6 | 39.7 | 43.0 | 41.8 |
| 心　臓 | 8.1 | 8.8 | 5.8 | 7.3 | 5.6 | 8.9 | 6.9 | 7.2 | 7.3 | 7.6 | 8.5 | 8.6 | 7.6 |
| 脳　外 | 20.4 | 20.4 | 18.9 | 17.2 | 18.7 | 19.4 | 17.3 | 21.4 | 23.9 | 17.4 | 18.7 | 20.0 | 19.5 |
| 内　科 | 156.5 | 161.8 | 148.6 | 185.2 | 159.6 | 157.4 | 146.8 | 145.4 | 147.4 | 155.3 | 147.0 | 148.3 | 154.9 |
| 消　内 | 124.0 | 133.2 | 133.4 | 126.4 | 113.4 | 136.0 | 133.9 | 132.2 | 136.8 | 126.2 | 124.2 | 121.9 | 128.5 |
| 循　環 | 86.3 | 87.6 | 82.1 | 79.9 | 73.0 | 83.2 | 90.3 | 82.7 | 86.7 | 84.8 | 81.8 | 86.6 | 83.8 |
| 皮　膚 | 44.9 | 46.4 | 44.6 | 43.9 | 43.6 | 47.8 | 42.4 | 42.6 | 53.3 | 39.6 | 40.1 | 46.4 | 44.6 |
| 泌　尿 | 43.2 | 45.2 | 39.5 | 38.6 | 35.3 | 39.9 | 40.0 | 40.5 | 47.9 | 41.5 | 40.1 | 38.3 | 40.8 |
| 産　婦 | 75.1 | 81.1 | 77.1 | 80.9 | 84.1 | 85.4 | 80.4 | 79.4 | 77.8 | 78.4 | 79.7 | 83.4 | 80.2 |
| 眼　科 | 83.1 | 86.5 | 82.5 | 80.3 | 70.3 | 79.6 | 79.0 | 82.0 | 87.3 | 82.1 | 80.2 | 85.5 | 81.5 |
| 耳　鼻 | 22.6 | 24.1 | 23.4 | 21.3 | 21.0 | 24.0 | 23.2 | 20.4 | 26.9 | 23.1 | 25.8 | 26.2 | 23.5 |
| 小　児 | 27.1 | 30.8 | 29.9 | 39.8 | 34.3 | 35.1 | 32.9 | 32.0 | 34.9 | 31.1 | 30.8 | 35.9 | 32.9 |
| 神　経 | 33.6 | 35.0 | 30.0 | 32.1 | 30.0 | 31.8 | 30.0 | 31.4 | 37.5 | 29.5 | 29.5 | 29.2 | 31.6 |
| 脳　内 | 19.3 | 19.9 | 18.5 | 19.2 | 18.0 | 20.0 | 19.6 | 19.9 | 20.3 | 18.9 | 19.3 | 18.0 | 19.2 |
| 放　診 | 4.5 | 4.8 | 4.0 | 3.9 | 4.1 | 5.5 | 5.3 | 6.4 | 3.6 | 5.5 | 6.2 | 7.8 | 5.1 |
| 放　治 | 11.3 | 10.3 | 8.1 | 7.0 | 9.3 | 12.9 | 10.6 | 11.0 | 16.8 | 11.9 | 11.8 | 9.2 | 10.9 |
| 歯　科 | 26.2 | 28.1 | 29.6 | 30.2 | 26.0 | 27.5 | 26.7 | 24.4 | 29.3 | 23.6 | 25.2 | 25.1 | 26.8 |
| 合　計 | 1057.5 | 1119.5 | 1053.4 | 1092.5 | 1004.8 | 1099.0 | 1073.5 | 1047.6 | 1114.3 | 1044.0 | 1022.9 | 1062.3 | 1065.9 |

## ■紹介患者数の推移

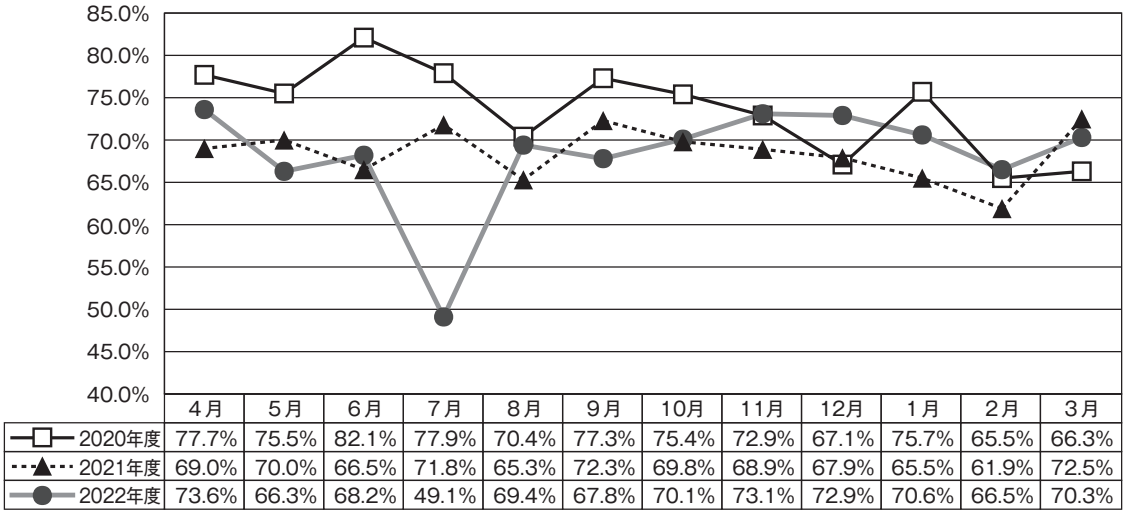



| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2020年度 | 597 | 525 | 863 | 906 | 789 | 883 | 994 | 826 | 700 | 754 | 712 | 936 |
| 2021年度 | 878 | 738 | 921 | 921 | 754 | 832 | 868 | 883 | 830 | 826 | 669 | 953 |
| 2022年度 | 1,000 | 941 | 1,051 | 955 | 1,275 | 874 | 934 | 998 | 929 | 891 | 820 | 1,058 |

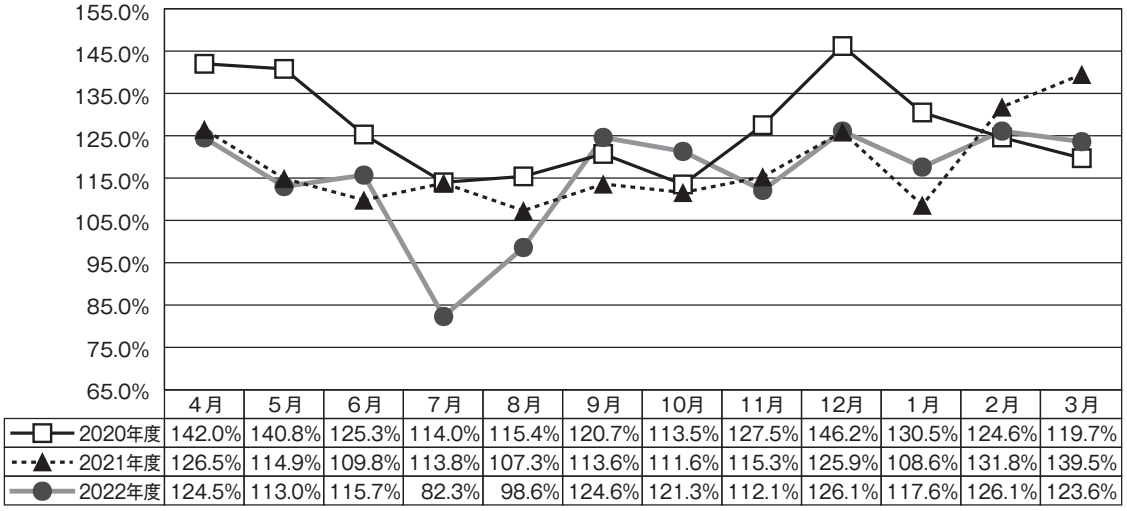
## ■地域医療支援病院　紹介率と逆紹介率の推移

| | 項 目 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2020年度 | 紹介率 | 77.7% | 75.5% | 82.1% | 77.9% | 70.4% | 77.3% | 75.4% | 72.9% | 67.1% | 75.7% | 65.5% | 66.3% | 73.3% |
| | 逆紹介率 | 142.0% | 140.8% | 125.3% | 114.0% | 115.4% | 120.7% | 113.5% | 127.5% | 146.2% | 130.5% | 124.6% | 119.7% | 125.2% |
| 2021年度 | 紹介率 | 69.0% | 70.0% | 66.5% | 71.8% | 65.3% | 72.3% | 69.8% | 68.9% | 67.9% | 65.5% | 61.9% | 72.5% | 68.5% |
| | 逆紹介率 | 126.5% | 114.9% | 109.8% | 113.8% | 107.3% | 113.6% | 111.6% | 115.3% | 125.9% | 108.6% | 131.8% | 139.5% | 118.2% |
| 2022年度 | 紹介率 | 73.6% | 66.3% | 68.2% | 49.1% | 69.4% | 67.8% | 70.1% | 73.1% | 72.9% | 70.6% | 66.5% | 70.3% | 68.2% |
| | 逆紹介率 | 124.5% | 113.0% | 115.7% | 82.3% | 98.6% | 124.6% | 121.3% | 112.1% | 126.1% | 117.6% | 126.1% | 123.6% | 115.5% |

地域医療支援病院　紹介率の推移



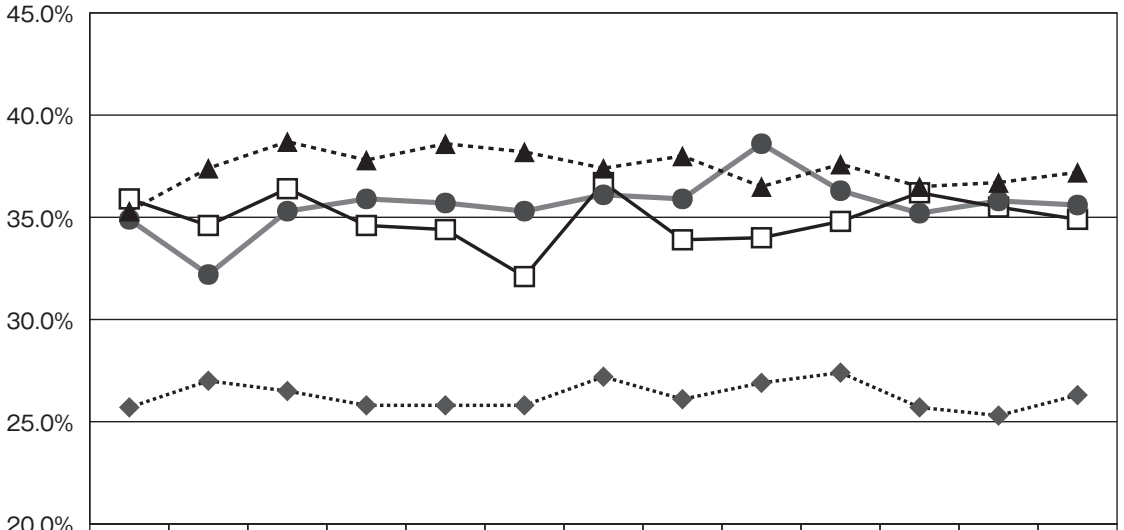

地域医療支援病院　逆紹介率の推移




紹介率（地域医療支援病院）（65%以上）＝ 紹介患者数 ／ 初診患者 －〔救急搬送患者(初診) ＋ 休日夜間救急外来患者(初診)〕

逆紹介率（40%以上）＝ 逆紹介患者数 ／ 初診患者 －〔救急搬送患者(初診) ＋ 休日夜間救急外来患者(初診)〕

## ■重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者割合の推移




| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2019年度 | 25.7% | 27.0% | 26.5% | 25.8% | 25.8% | 25.8% | 27.2% | 26.1% | 26.9% | 27.4% | 25.7% | 25.3% | 26.3% |
| 2020年度 | 35.9% | 34.6% | 36.4% | 34.6% | 34.4% | 32.1% | 36.7% | 33.9% | 34.0% | 34.8% | 36.2% | 35.5% | 34.9% |
| 2021年度 | 35.3% | 37.4% | 38.7% | 37.8% | 38.6% | 38.2% | 37.4% | 38.0% | 36.5% | 37.6% | 36.5% | 36.7% | 37.2% |
| 2022年度 | 34.9% | 32.2% | 35.3% | 35.9% | 35.7% | 35.3% | 36.1% | 35.9% | 38.6% | 36.3% | 35.2% | 35.8% | 35.6% |

2020年４月より、評価項目の変更あり、重症度、医療・看護必要度Ⅱ（29%以上必要）で表記

【2022年度】

| 月 / 病棟 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ８南 | 32.1% | 37.8% | 42.1% | 45.6% | 30.6% | 40.9% | 44.7% | 33.5% | 45.4% | 38.0% | 45.1% | 47.5% | 40.4% |
| ９東 | 17.2% | 14.5% | 16.0% | 15.4% | 18.8% | 19.2% | 15.8% | 18.9% | 30.0% | 19.8% | 20.5% | 18.0% | 18.4% |
| ９西 | 34.9% | 34.0% | 33.7% | 31.5% | 35.0% | 37.2% | 37.2% | 35.4% | 40.1% | 39.3% | 35.4% | 34.0% | 35.7% |
| 10東 | 36.4% | 29.5% | 35.8% | 39.6% | 36.8% | 36.8% | 41.6% | 37.3% | 39.4% | 37.6% | 39.0% | 32.7% | 36.9% |
| 10西 | 39.1% | 43.6% | 39.7% | 36.9% | 33.6% | 34.3% | 33.3% | 34.9% | 39.4% | 37.3% | 31.6% | 36.6% | 36.7% |
| 11東 | 17.3% | 18.6% | 15.4% | 17.6% | 19.5% | 21.0% | 17.7% | 30.3% | 22.2% | 24.8% | 21.5% | 21.4% | 20.5% |
| 11西 | 37.1% | 23.2% | 26.9% | 35.3% | 33.9% | 29.3% | 27.6% | 36.2% | 32.5% | 32.0% | 31.7% | 31.7% | 31.5% |
| 12東 | 52.8% | 52.7% | 55.4% | 50.7% | 47.6% | 54.3% | 54.1% | 48.7% | 53.2% | 48.3% | 45.0% | 50.2% | 51.0% |
| 12西 | 54.6% | 48.0% | 55.3% | 50.6% | 48.1% | 49.7% | 54.7% | 49.8% | 52.6% | 45.0% | 48.4% | 50.3% | 50.5% |
| 13東 | 48.4% | 41.0% | 36.7% | 47.4% | 53.4% | 33.0% | 63.3% | 45.5% | 38.7% | 50.7% | 61.8% | 69.6% | 47.5% |
| 13西 | 25.3% | 16.6% | 21.3% | 19.8% | 13.6% | 34.7% | 26.0% | 21.6% | 27.8% | 2.5% | 26.4% | 29.6% | 26.9% |
| 計 | 34.9% | 32.2% | 35.3% | 35.9% | 35.7% | 35.3% | 36.1% | 35.9% | 38.6% | 36.3% | 35.2% | 35.8% | 35.6% |

【2021年度】

| 月<br>病棟 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8南 | 33.0% | 39.9% | 42.9% | 38.9% | 41.4% | 44.6% | 41.0% | 44.3% | 40.4% | 41.4% | 33.8% | 31.4% | 38.3% |
| 9東 | 21.8% | 20.0% | 30.3% | 21.8% | 21.0% | 20.8% | 27.1% | 25.8% | 26.9% | 28.1% | 22.7% | 16.5% | 23.3% |
| 9西 | 46.8% | 42.8% | 41.9% | 48.0% | 43.5% | 47.4% | 40.4% | 41.9% | 42.0% | 37.4% | 39.4% | 47.2% | 44.9% |
| 10東 | 35.1% | 43.0% | 35.9% | 37.5% | 38.1% | 33.3% | 33.0% | 31.3% | 36.1% | 33.6% | 32.6% | 30.7% | 37.8% |
| 10西 | 38.8% | 34.9% | 38.0% | 37.2% | 38.6% | 37.2% | 39.9% | 34.3% | 37.4% | 35.9% | 37.1% | 38.9% | 37.2% |
| 11東 | 27.0% | 32.2% | 37.3% | 34.0% | 36.7% | 29.5% | 28.2% | 34.5% | 25.4% | 44.4% | 33.9% | 28.9% | 32.3% |
| 11西 | 41.8% | 40.8% | 38.6% | 41.7% | 42.1% | 43.4% | 39.8% | 41.9% | 45.3% | 44.2% | 37.6% | 46.4% | 40.8% |
| 12東 | 31.4% | 37.6% | 42.7% | 42.0% | 40.6% | 39.3% | 41.8% | 48.7% | 40.0% | 41.5% | 41.3% | 38.8% | 38.2% |
| 12西 | 40.7% | 35.0% | 41.1% | 40.8% | 42.0% | 44.4% | 43.0% | 43.0% | 43.4% | 37.4% | 42.2% | 46.5% | 39.5% |
| 13東 | 69.5% | 87.6% | 73.1% | 65.9% | 76.5% | 80.7% | 80.0% | 42.7% | 100.0% | 53.9% | 70.6% | 67.1% | 75.3% |
| 13西 | 25.2% | 27.7% | 31.4% | 23.6% | 26.8% | 31.8% | 36.2% | 33.5% | 27.3% | 30.2% | 23.2% | 27.9% | 26.9% |
| 計 | 35.3% | 37.4% | 38.7% | 37.8% | 38.6% | 38.2% | 37.4% | 38.0% | 36.5% | 37.6% | 36.5% | 36.7% | 37.2% |

【2020年度】

| 月<br>病棟 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8南 | 38.4% | 36.2% | 34.8% | 29.3% | 33.3% | 28.0% | 34.8% | 35.1% | 33.0% | 31.2% | 31.0% | 30.5% | 32.9% |
| 9東 | 28.4% | 25.8% | 22.4% | 19.6% | 18.8% | 24.9% | 25.2% | 25.9% | 20.7% | 21.1% | 25.0% | 18.0% | 22.8% |
| 9西 | 43.0% | 38.7% | 44.2% | 50.2% | 44.0% | 43.5% | 47.6% | 41.8% | 39.3% | 36.3% | 41.2% | 41.0% | 42.4% |
| 10東 | 28.9% | 26.0% | 37.1% | 32.7% | 32.0% | 24.1% | 35.7% | 27.3% | 33.4% | 31.7% | 35.0% | 32.4% | 31.4% |
| 10西 | 40.1% | 39.6% | 44.8% | 44.2% | 42.5% | 34.5% | 36.2% | 32.3% | 30.6% | 36.3% | 40.5% | 39.5% | 38.4% |
| 11東 | 26.5% | 28.1% | 29.0% | 23.0% | 20.9% | 23.9% | 29.6% | 20.9% | 19.9% | 21.8% | 29.4% | 29.9% | 25.3% |
| 11西 | 34.6% | 34.7% | 40.7% | 40.9% | 38.3% | 36.3% | 38.8% | 36.0% | 39.2% | 42.7% | 38.6% | 37.4% | 38.2% |
| 12東 | 46.2% | 37.2% | 37.8% | 38.4% | 39.2% | 33.8% | 47.0% | 37.2% | 39.5% | 45.2% | 42.7% | 44.8% | 40.8% |
| 12西 | 40.6% | 40.0% | 36.2% | 34.9% | 40.0% | 39.9% | 40.0% | 44.9% | 46.1% | 41.7% | 39.3% | 38.3% | 40.1% |
| 13東 | 17.7% | 29.1% | 33.6% | 32.3% | 48.2% | 50.8% | 51.0% | 59.4% | 59.9% | 65.5% | 78.6% | 68.8% | 44.6% |
| 13西 | 31.7% | 77.3% |  | 33.7% | 27.2% | 25.6% | 25.7% | 29.1% | 27.6% | 27.0% | 26.8% | 35.5% | 28.9% |
| 計 | 35.9% | 34.6% | 36.4% | 34.6% | 34.4% | 32.1% | 36.7% | 33.9% | 34.0% | 34.8% | 36.2% | 35.5% | 34.9% |

【2019年度】

| 月<br>病棟 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8南 | 24.2% | 25.3% | 28.0% | 26.6% | 27.2% | 21.9% | 28.2% | 23.3% | 20.9% | 25.9% | 22.2% | 20.9% | 24.5% |
| 9東 | 23.4% | 30.5% | 38.2% | 34.3% | 35.4% | 33.1% | 39.1% | 31.4% | 37.2% | 37.7% | 37.8% | 26.3% | 33.6% |
| 9西 | 42.7% | 43.6% | 33.4% | 38.7% | 37.0% | 39.1% | 34.7% | 37.2% | 42.1% | 36.9% | 34.4% | 40.4% | 38.3% |
| 10東 | 31.3% | 22.6% | 20.3% | 23.4% | 25.9% | 18.6% | 25.8% | 26.8% | 23.3% | 25.3% | 20.5% | 20.9% | 23.8% |
| 10西 | 33.8% | 44.1% | 32.2% | 34.1% | 38.9% | 33.4% | 33.7% | 28.9% | 34.5% | 32.4% | 28.5% | 36.6% | 34.2% |
| 11東 | 25.7% | 34.3% | 33.4% | 36.4% | 28.6% | 31.1% | 33.0% | 33.7% | 35.7% | 31.0% | 24.0% | 25.5% | 31.0% |
| 11西 | 16.5% | 19.1% | 20.6% | 16.5% | 21.0% | 18.2% | 22.8% | 20.3% | 16.2% | 16.7% | 24.9% | 19.0% | 19.3% |
| 12東 | 19.3% | 16.6% | 19.8% | 18.2% | 18.1% | 14.8% | 19.9% | 18.8% | 18.0% | 19.8% | 17.7% | 15.4% | 18.0% |
| 12西 | 13.2% | 14.7% | 17.8% | 17.6% | 16.0% | 16.1% | 15.2% | 18.5% | 15.6% | 22.1% | 15.4% | 18.4% | 16.7% |
| 13東 | 25.8% | 28.9% | 29.0% | 21.3% | 19.3% | 30.9% | 23.6% | 26.3% | 22.5% | 23.3% | 27.1% | 28.7% | 25.6% |
| 13西 | 25.1% | 17.0% | 18.1% | 20.0% | 21.6% | 28.1% | 21.6% | 20.2% | 26.4% | 27.6% | 31.3% | 23.9% | 23.0% |
| 計 | 25.7% | 27.0% | 26.5% | 25.8% | 25.8% | 25.8% | 27.2% | 26.1% | 26.9% | 27.4% | 25.7% | 25.3% | 26.3% |

# 病 歴 統 計

## ■退院患者数及び平均在院日数

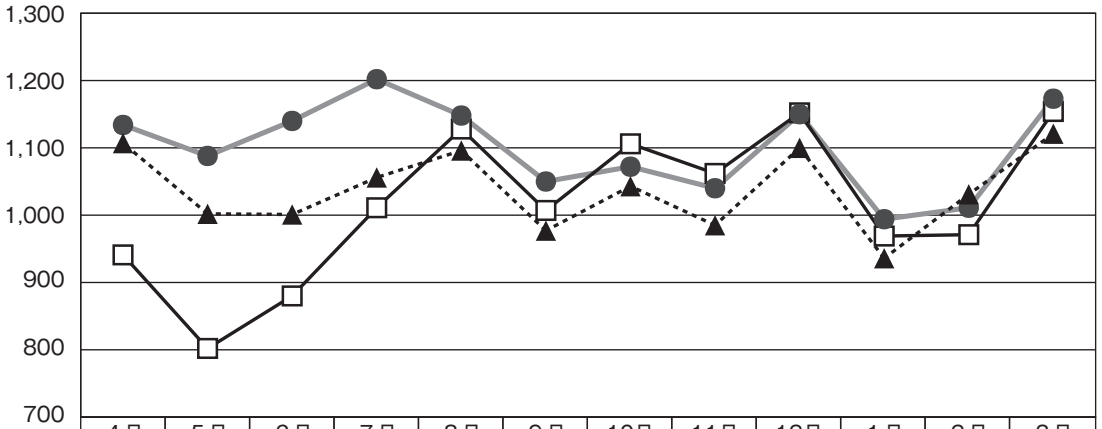
【2022年度】

| 大　分　類　表 | | 退院患者数(人) | | | 延在院日数(日) | | | 退院患者平均在院日数(日) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 1 感染症及び寄生虫症 | A00-B99 | 135 | 154 | 289 | 1,176 | 1,574 | 2,750 | 8.71 | 10.22 | 9.52 |
| 2 新生物 | C00-D48 | 1,148 | 1,280 | 2,428 | 12,009 | 11,143 | 23,152 | 10.46 | 8.71 | 9.54 |
| 3 血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 | D50-89 | 30 | 49 | 79 | 457 | 292 | 749 | 15.23 | 5.96 | 9.48 |
| 4 内分泌、栄養及び代謝疾患 | E00-90 | 226 | 173 | 399 | 2,613 | 1,712 | 4,325 | 11.56 | 9.90 | 10.84 |
| 5 精神および行動の障害 | F00-90 | 7 | 10 | 17 | 54 | 132 | 186 | 7.71 | 13.20 | 10.94 |
| 6 神経系の疾患 | G00-99 | 142 | 118 | 260 | 1,364 | 1,499 | 2,863 | 9.61 | 12.70 | 11.01 |
| 7 眼および付属器の疾患 | H00-59 | 413 | 494 | 907 | 1,676 | 1,793 | 3,469 | 4.06 | 3.63 | 3.82 |
| 8 耳および乳様突起の疾患 | H60-95 | 21 | 21 | 42 | 113 | 107 | 220 | 5.38 | 5.10 | 5.24 |
| 9 循環器系の疾患 | I00-99 | 855 | 707 | 1,562 | 12,264 | 10,084 | 22,348 | 14.34 | 14.26 | 14.31 |
| 10 呼吸器系の疾患 | J00-99 | 494 | 361 | 855 | 6,571 | 4,691 | 11,262 | 13.30 | 12.99 | 13.17 |
| 11 消化器系の疾患 | K00-93 | 1,089 | 932 | 2,021 | 6,904 | 6,426 | 13,330 | 6.34 | 6.89 | 6.60 |
| 12 皮膚および皮下組織の疾患 | L00-99 | 74 | 77 | 151 | 1,190 | 1,149 | 2,339 | 16.08 | 14.92 | 15.49 |
| 13 筋骨格系および結合組織の疾患 | M00-99 | 622 | 785 | 1,407 | 8,943 | 13,422 | 22,365 | 14.38 | 17.10 | 15.90 |
| 14 尿路性器系の疾患 | N00-99 | 276 | 319 | 595 | 3,568 | 3,134 | 6,702 | 12.93 | 9.82 | 11.26 |
| 15 妊娠、分娩および産じょく〈褥〉 | O00-99 | | 571 | 571 | | 4,430 | 4,430 | 0 | 7.76 | 7.76 |
| 16 周産期に発生した病態 | P00-96 | 107 | 105 | 212 | 868 | 844 | 1,712 | 8.11 | 8.04 | 8.08 |
| 17 先天奇形、変形および染色体異常 | Q00-99 | 23 | 16 | 39 | 118 | 178 | 296 | 5.13 | 11.13 | 7.59 |
| 18 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの | R00-99 | 48 | 50 | 98 | 400 | 502 | 902 | 8.33 | 10.04 | 9.20 |
| 19 損傷、中毒およびその他の外因の影響 | S00-T98 | 458 | 412 | 870 | 6,623 | 5,716 | 12,339 | 14.46 | 13.87 | 14.18 |
| 20 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用 | Z00-99 | 1 | 2 | 3 | 4 | 18 | 22 | 4.00 | 9.00 | 7.33 |
| 21 特殊目的コード | U00-U89 | 184 | 213 | 397 | 2,337 | 2,238 | 4,575 | 12.70 | 10.51 | 11.52 |
| 合　　計 | | 6,353 | 6,849 | 13,202 | 69,252 | 71,084 | 140,336 | 10.90 | 10.38 | 10.63 |

【2022年度】

| 診　療　科 | 退院患者数(人) | | | 延在院日数(日) | | | 退院患者平均在院日数(日) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 整形外科 | 938 | 1,110 | 2,048 | 12,920 | 18,172 | 31,092 | 13.77 | 16.37 | 15.18 |
| 形成外科 | 89 | 71 | 160 | 1,401 | 537 | 1,938 | 15.74 | 7.56 | 12.11 |
| 外　科 | 640 | 426 | 1,066 | 7,876 | 4,786 | 12,662 | 12.31 | 11.23 | 11.88 |
| 乳腺内分泌外科 | 6 | 247 | 253 | 45 | 2,149 | 2,194 | 7.50 | 8.70 | 8.67 |
| 心臓血管外科 | 95 | 42 | 137 | 1,937 | 805 | 2,742 | 20.39 | 19.17 | 20.01 |
| 脳神経外科 | 212 | 168 | 380 | 5,108 | 3,432 | 8,540 | 24.09 | 20.43 | 22.47 |
| 内　科 | 875 | 679 | 1,554 | 13,112 | 9,353 | 22,465 | 14.99 | 13.77 | 14.46 |
| 消化器内科 | 1,281 | 1,061 | 2,342 | 9,004 | 8,009 | 17,013 | 7.03 | 7.55 | 7.26 |
| 循環器内科 | 570 | 521 | 1,091 | 5,824 | 5,972 | 11,796 | 10.22 | 11.46 | 10.81 |
| 皮膚科 | 93 | 104 | 197 | 1,186 | 1,222 | 2,408 | 12.75 | 11.75 | 12.22 |
| 泌尿器科 | 317 | 97 | 414 | 2,506 | 949 | 3,455 | 7.91 | 9.78 | 8.35 |
| 産婦人科 | | 1,117 | 1,117 | | 7,687 | 7,687 | | 6.88 | 6.88 |
| 眼　科 | 435 | 526 | 961 | 1,778 | 2,113 | 3,891 | 4.09 | 4.02 | 4.05 |
| 耳鼻いんこう科 | 168 | 116 | 284 | 978 | 657 | 1,635 | 5.82 | 5.66 | 5.76 |
| 小児科 | 424 | 378 | 802 | 2,601 | 2,315 | 4,916 | 6.13 | 6.12 | 6.13 |
| 脳神経内科 | 186 | 164 | 350 | 2,891 | 2,815 | 5,706 | 15.54 | 17.16 | 16.30 |
| 歯科・歯科口腔外科 | 24 | 22 | 46 | 85 | 111 | 196 | 3.54 | 5.05 | 4.26 |
| 合　　計 | 6,353 | 6,849 | 13,202 | 69,252 | 71,084 | 140,336 | 10.90 | 10.38 | 10.63 |

## ■退院患者数の推移




| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2020年度 | 941 | 802 | 880 | 1,011 | 1,128 | 1,007 | 1,106 | 1,062 | 1,152 | 969 | 971 | 1,154 |
| 2021年度 | 1,107 | 1,002 | 1,001 | 1,056 | 1,096 | 977 | 1,043 | 985 | 1,100 | 936 | 1,031 | 1,121 |
| 2022年度 | 1,134 | 1,088 | 1,140 | 1,202 | 1,148 | 1,050 | 1,072 | 1,040 | 1,150 | 994 | 1,011 | 1,173 |

## ■診療科別　退院患者数・手術件数・合併症数　【2022年度】

| 診療科 | 退院患者数 | 手術件数（＊） | ESD件数 | カテ治療件数 | 合併症 | | 合併症内訳 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 合併症総数 | 発生率 | 感染 | 出血 | 縫合不全 | 穿刺・裂傷 | 機械的合併症 | その他 |
| 整形外科 | 2,048 | 2,014 | | | 38 | 1.9% | 12 | 3 | 17 | 2 | 1 | 3 |
| 形成外科 | 160 | 176 | | | 2 | 1.1% | | | 2 | | | |
| 外　科 | 1,066 | 655 | | 3 | 11 | 1.7% | 6 | | 1 | 2 | | 2 |
| 乳腺内分泌外科 | 253 | 123 | | | 3 | 2.4% | 1 | 1 | | 1 | | |
| 心臓血管外科 | 137 | 174 | | 4 | 5 | 2.8% | 3 | | 1 | | | 1 |
| 脳神経外科 | 380 | 99 | | 31 | 1 | 0.8% | 1 | | | | | |
| 内　科 | 1,554 | | | 25 | | 0.0% | | | | | | |
| 消化器内科 | 2,342 | 5 | 225 | 2 | 7 | 3.0% | | 5 | | 1 | | 1 |
| 循環器内科 | 1,091 | 19 | | 392 | 4 | 1.0% | | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 皮膚科 | 197 | 12 | | | | 0.0% | | | | | | |
| 泌尿器科 | 414 | 202 | | | 4 | 2.0% | 2 | 1 | | 1 | | |
| 産婦人科 | 1,117 | 340 | | 1 | 3 | 0.9% | 2 | | | 1 | | |
| 眼　科 | 961 | 886 | | | 2 | 0.2% | | 1 | | 1 | | |
| 耳鼻いんこう科 | 284 | 232 | | | 2 | 0.9% | | 2 | | | | |
| 小児科 | 802 | | | | | | | | | | | |
| 脳神経内科 | 350 | | | 12 | | 0.0% | | | | | | |
| 歯科・歯科口腔外科 | 46 | 29 | | | | 0.0% | | | | | | |
| 合　計 | 13,202 | 4,966 | 225 | 470 | 82 | 1.4% | 27 | 14 | 22 | 10 | 2 | 7 |

＊手術件数は手術室で行った手術の件数

## ■悪性新生物部位別　術後合併症件数　【2022年度】

| | 感　染 | 出　血 | 縫合不全 | 穿刺・裂傷 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 胃 | | | | | 1 | 1 |
| 十二指腸 | 1 | | | | | 1 |
| 小腸 | | | | | 1 | 1 |
| 膵 | 1 | | | 1 | | 2 |
| 大腸（含直腸） | | | 1 | 2 | | 3 |
| 腎・膀胱 | 1 | 1 | | 2 | | 4 |
| 乳房 | 1 | | | | | 1 |

※ESDは含まない

## ■死亡原因別死亡数　【2022年度】

| | 整形外科 | 形成外科 | 外科 | 乳腺内分泌外科 | 心臓血管外科 | 脳神経外科 | 内科 | 消化器内科 | 循環器内科 | 皮膚科 | 泌尿器科 | 産婦人科 | 眼科 | 耳鼻いんこう科 | 小児科 | 脳神経内科 | 歯科・歯科口腔外科 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 診療科別死亡数 | 1 | 1 | 22 | 6 | 7 | 26 | 59 | 46 | 37 | 4 | 8 | 6 | | | | 13 | | 236 |
| 麻酔による死亡数（再掲） | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 術後１ヶ月以内の死亡数（再掲） | | | 1 | | 5 | 4 | 1 | | 2 | | 1 | 1 | | | | 3 | | 18 |
| 産婦出生による死亡数（再掲） | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 生後28日以内の新生児死亡数（再掲） | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 入院48時間以内死亡数（再掲） | | | 3 | 1 | | 5 | 14 | 7 | 11 | 1 | | 1 | | | | 4 | | 47 |

## ■手術件数・麻酔件数　【2022年度】

| | 整形外科 | 形成外科 | 外科 | 乳腺内分泌外科 | 心臓血管外科 | 脳神経外科 | 内科 | 消化器内科 | 循環器内科 | 皮膚科 | 泌尿器科 | 産婦人科 | 眼科 | 耳鼻いんこう科 | 小児科 | 脳神経内科 | 歯科・歯科口腔外科 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 手術件数 | 2,014 | 176 | 656 | 123 | 174 | 99 | | 4 | 19 | 12 | 203 | 339 | 886 | 232 | | | 29 | 4,966 |
| 麻酔件数 | 2,014 | 168 | 652 | 123 | 173 | 99 | | 1 | 18 | 12 | 193 | 334 | 886 | 232 | | | 29 | 4,934 |
| 全身麻酔件数（再掲） | 1,891 | 69 | 605 | 121 | 114 | 62 | | 1 | 17 | 0 | 178 | 152 | 8 | 221 | | | 28 | 3,467 |

## ■分娩件数・新生児数　【2022年度】

| | | |
|---|---|---|
| 分娩件数 | 412 | （86） |
| 新生児数 | 408 | （4） |

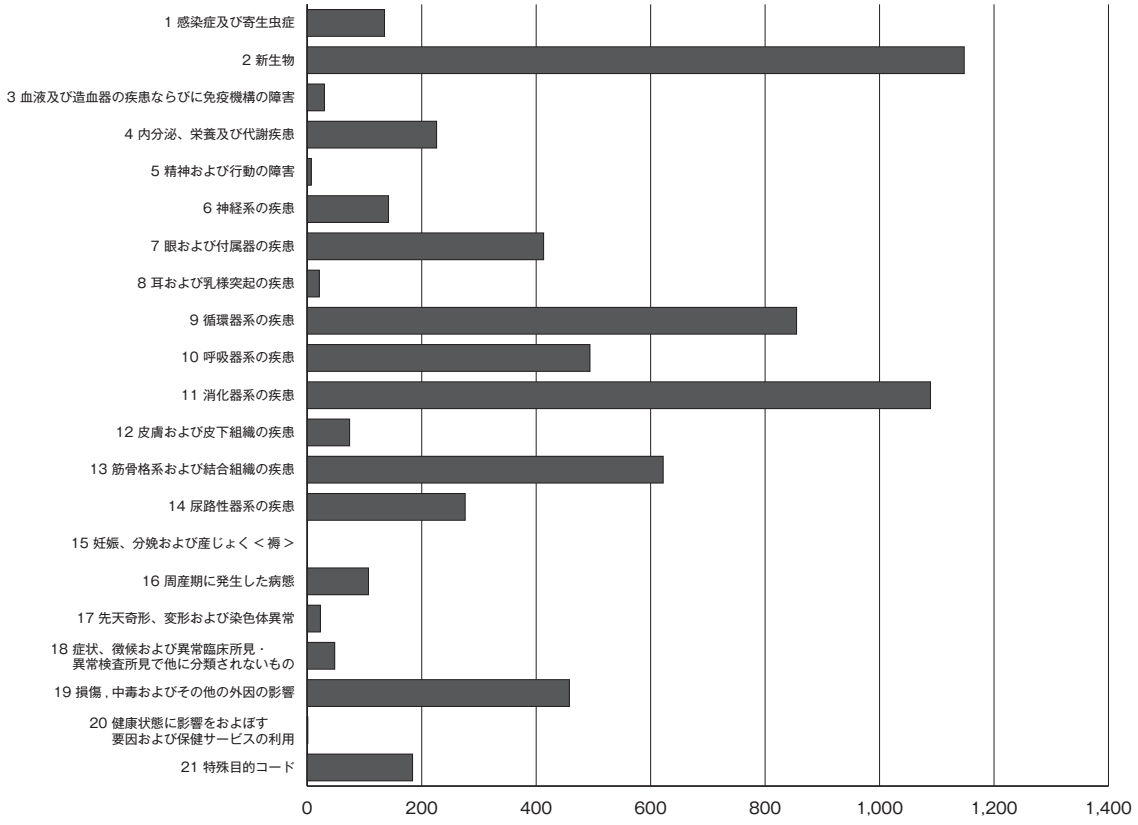
注）分娩件数で帝王切開の数、および新生児数欄で院外出生の数は（　）をもって再掲とする。

## ■退院患者診療科別転帰統計　【2022年度】

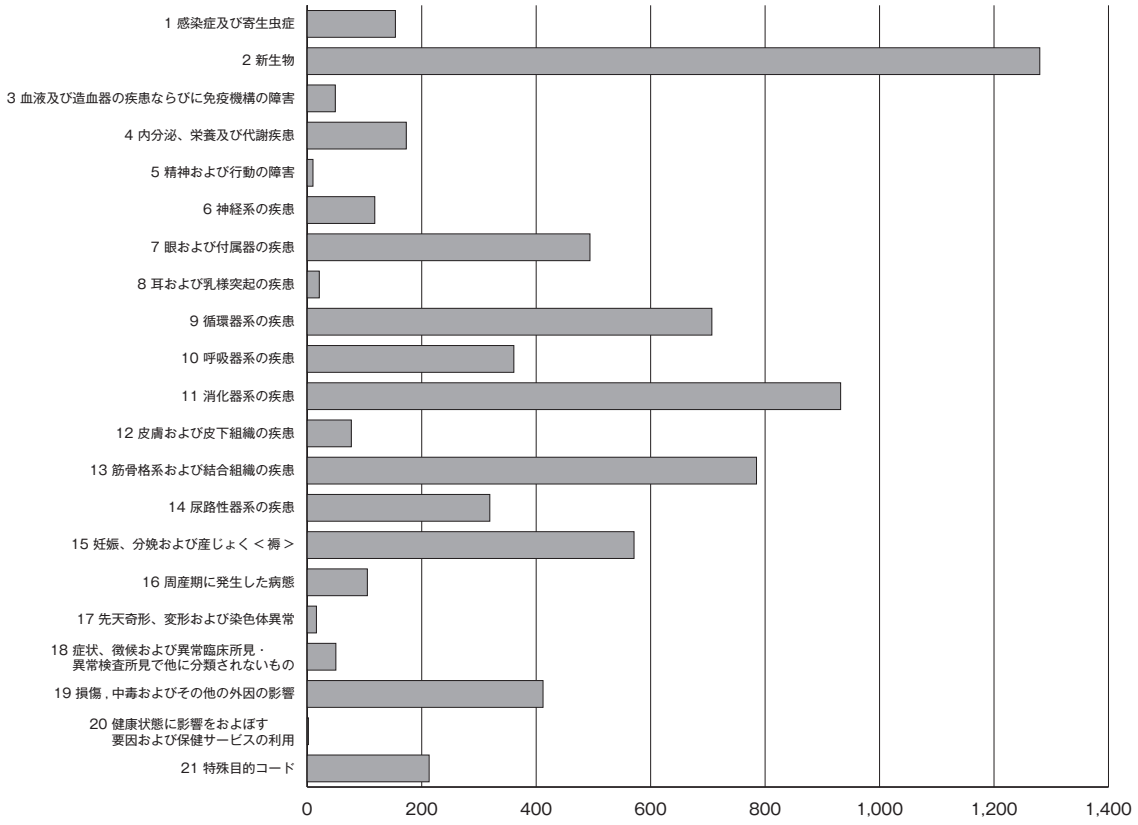
| | 整形外科 | 形成外科 | 外科 | 乳腺内分泌外科 | 心臓血管外科 | 脳神経外科 | 内科 | 消化器内科 | 循環器内科 | 皮膚科 | 泌尿器科 | 産婦人科 | 眼科 | 耳鼻いんこう科 | 小児科 | 脳神経内科 | 歯科・歯科口腔外科 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 治癒 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 5 | 6 |
| 軽快 | 1,786 | 148 | 978 | 226 | 102 | 204 | 1,162 | 1,978 | 885 | 163 | 303 | 662 | 945 | 279 | 703 | 236 | 41 | 10,801 |
| 不変 | 8 | 1 | 27 | 15 | 2 | 1 | 24 | 19 | 3 | 1 | 4 | 9 | 2 | 4 | 2 | 3 | | 125 |
| 増悪 | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 2 |
| 死亡 | 1 | 1 | 22 | 6 | 7 | 26 | 59 | 46 | 37 | 4 | 8 | 6 | | | | 13 | | 236 |
| （剖検） | | | | | (1) | | | (2) | (2) | | | | | | | | | (5) |
| 転院 | 247 | 10 | 28 | 2 | 16 | 125 | 152 | 63 | 81 | 15 | 11 | 14 | | | 11 | 89 | | 864 |
| 検了 | 5 | | 11 | 4 | 10 | 23 | 152 | 234 | 80 | 13 | 87 | 15 | 13 | 1 | 86 | 9 | | 743 |
| 自己退院 | 1 | | | | | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | | | 1 | | | | | 14 |
| 分娩 | | | | | | | | | | | | 411 | | | | | | 411 |
| 合計 | 2,048 | 160 | 1,066 | 253 | 137 | 380 | 1,554 | 2,342 | 1,091 | 197 | 414 | 1,117 | 961 | 284 | 802 | 350 | 46 | 13,202 |

注）死亡欄で剖検数は（　）をもって再掲とする。

## ■疾病（大分類）別・性別・退院患者数（男）【2022年度】




## ■疾病（大分類）別・性別・退院患者数（女）【2022年度】



## ■疾病別・年齢階層別・退院患者数（男）【2022年度】

| 2022年度　退院患者数（男） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合 計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 感染症及び寄生虫症 | | | | | | | | | | | 135 | 1,176 |
| A00-A09 | 腸管感染症 | 1 | 7 | 4 | 2 | 2 | 2 | 3 | 1 | 3 | 4 | 29 | 177 |
| A15-A19 | 結核 | | | | 1 | | | | 1 | | 2 | 4 | 30 |
| A20-A28 | 人畜共通細菌性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A30-A49 | その他の細菌性疾患 | 3 | 1 | 1 | | | 1 | 2 | 7 | 10 | 4 | 29 | 400 |
| A50-A64 | 主として性的伝播様式をとる感染症 | | | | | 1 | | | | | | 1 | 16 |
| A65-A69 | その他のスピロヘータ疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A70-A74 | クラミジアによるその他の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A75-A79 | リケッチア症 | | | | | | | | | | | | |
| A80-A89 | 中枢神経系のウイルス感染症 | | | | | | | | | | | | |
| A90-A99 | 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱 | | | | | | | | | | | | |
| B00-B09 | 皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症 | 1 | 4 | 1 | 5 | 4 | 4 | 3 | 3 | 5 | 4 | 34 | 272 |
| B15-B19 | ウイルス性肝炎 | | | 1 | 3 | 1 | 3 | 1 | 1 | 4 | 2 | 16 | 159 |
| B20-B24 | ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病 | | | | | | | | | | | | |
| B25-B34 | その他のウイルス疾患 | 8 | 9 | | 1 | | | | 1 | | | 19 | 118 |
| B35-B49 | 真菌症 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| B50-B64 | 原虫疾患 | | | | | | | | | | | | |
| B65-B83 | ぜん＜蠕＞虫症 | | | | 1 | | | | 1 | | | 2 | 2 |
| B85-B89 | シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症 | | | | | | | | | | | | |
| B90-B94 | 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | | |
| B95-B98 | 細菌，ウイルス及びその他の病原体 | | | | | | | | | | | | |
| B99 | その他の感染症 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅱ-1 | 新生物（腫瘍）悪性 | | | | | | | | | | | 1,081 | 11,652 |
| C00-C14 | 口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | 3 | 19 |
| C15 | 食道の悪性新生物 | | | | | | | 15 | 20 | 28 | 11 | 74 | 1,022 |
| C16 | 胃の悪性新生物 | | | | 1 | 3 | 6 | 16 | 25 | 65 | 31 | 147 | 1,496 |
| C17 | 小腸の悪性新生物 | | | | | | | 3 | 2 | 6 | | 11 | 131 |
| C18 | 結腸の悪性新生物 | | | | | 2 | 11 | 25 | 29 | 67 | 25 | 159 | 1,502 |
| C19-C20 | 直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 | | | | 1 | | 12 | 17 | 21 | 21 | 7 | 79 | 754 |
| C21 | 肛門及び肛門管の悪性新生物 | | | | | | | | 1 | 2 | | 3 | 50 |
| C22 | 肝及び肝内胆管の悪性新生物 | | | | | | 1 | 1 | 22 | 60 | 18 | 102 | 1,155 |
| C23-C24 | 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物 | | | | | | | | 1 | 9 | 4 | 14 | 155 |
| C25 | 膵の悪性新生物 | | | | | | 2 | 3 | 8 | 29 | 12 | 54 | 896 |
| C26 | その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C30-C39 | 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 3 | 8 | 27 | 94 | 25 | 157 | 2,076 |
| C40-C41 | 骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C43-C44 | 皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | 2 | 4 | 6 | 22 |
| C45-C49 | 中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C50 | 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C51-C58 | 女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C60-C63 | 男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 1 | 2 | 7 | 30 | 49 | 23 | 112 | 512 |
| C64-C68 | 腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 1 | 15 | 13 | 36 | 18 | 83 | 867 |
| C69-C72 | 眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 2 | | | | 2 | 101 |
| C73-C75 | 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 1 | | 2 | 1 | 2 | | 6 | 50 |
| C76-C80 | 部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 1 | 9 | 22 | 11 | 43 | 536 |
| C81-C96 | 原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 1 | 3 | 7 | 8 | 3 | 22 | 290 |
| C97 | 独立した（原発性）多部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| D00-D09 | 上皮内新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | 2 | 2 | 4 | 18 |
| Ⅱ-2 | 新生物（腫瘍）良性 | | | | | | | | | | | 67 | 357 |
| D10-D36 | 良性新生物＜腫瘍＞ | 1 | 2 | | | 4 | 8 | 6 | 12 | 13 | 3 | 49 | 257 |
| D37-D48 | 性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞ | | 1 | | 2 | 1 | 5 | 5 | | 3 | 1 | 18 | 100 |
| Ⅲ | 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | | | | | | | | | | | 30 | 457 |
| D50-D53 | 栄養性貧血 | | | | | | | 2 | 1 | 2 | | 5 | 53 |
| D55-D59 | 溶血性貧血 | | | | | | | | | | | | |
| D60-D64 | 無形成性貧血及びその他の貧血 | | | | | | | | 2 | 1 | 4 | 7 | 55 |
| D65-D69 | 凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態 | | 2 | | | 1 | | | 1 | 1 | 1 | 6 | 305 |
| D70-D77 | 血液及び造血器のその他の疾患 | | | | | | | | | 2 | | 2 | 15 |
| D80-D89 | 免疫機構の障害 | | | | 1 | | 1 | 4 | 1 | 3 | | 10 | 29 |
| Ⅳ | 内分泌、栄養及び代謝疾患 | | | | | | | | | | | 226 | 2,613 |
| E00-E07 | 甲状腺障害 | | | | | | | | | | | | |
| E10-E14 | 糖尿病 | | | | 1 | 3 | 12 | 19 | 24 | 46 | 27 | 132 | 1,694 |
| E15-E16 | その他のグルコース調節及び膵内分泌障害 | 1 | 4 | | | | | 2 | 3 | 2 | | 12 | 72 |
| E20-E35 | その他の内分泌腺障害 | | 12 | 11 | | 1 | | 3 | 4 | 3 | 1 | 35 | 212 |
| E40-E46 | 栄養失調（症） | | | | | | | | | | | | |
| E50-E64 | その他の栄養欠乏症 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 24 |

| 2022年度　退院患者数（男） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合 計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| E65-E68 | 肥満(症)及びその他の過栄養＜過剰摂食＞ | | | | 1 | | | | | | | 1 | 14 |
| E70-E90 | 代謝障害 | | 2 | 1 | | 1 | 4 | 2 | 4 | 13 | 18 | 45 | 597 |
| Ⅴ | 精神及び行動の障害 | | | | | | | | | | | 7 | 54 |
| F00-F09 | 症状性を含む器質性精神障害 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 28 |
| F10-F19 | 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 | | 1 | | | | 1 | | 2 | 1 | | 5 | 23 |
| F20-F29 | 統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害 | | | | | | | | | | | | |
| F30-F39 | 気分[感情]障害 | | | | | | | | | | | | |
| F40-F48 | 神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害 | | | | | | | | | | | | |
| F50-F59 | 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 | | 1 | | | | | | | | | 1 | 3 |
| F60-F69 | 成人の人格及び行動の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F70-F79 | 知的障害＜精神遅滞＞ | | | | | | | | | | | | |
| F80-F89 | 心理的発達の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F90-F98 | 小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F99 | 詳細不明の精神障害 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅵ | 神経系の疾患 | | | | | | | | | | | 142 | 1,364 |
| G00-G09 | 中枢神経系の炎症性疾患 | | | 2 | 2 | | | | 2 | 7 | 1 | 14 | 289 |
| G10-G14 | 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症 | | | | 2 | 2 | 1 | | 2 | 2 | | 9 | 58 |
| G20-G26 | 錐体外路障害及び異常運動 | | | | | | | | | 5 | 3 | 8 | 171 |
| G30-G32 | 神経系のその他の変性疾患 | | | | 4 | | | | | | | 4 | 83 |
| G35-G37 | 中枢神経系の脱髄疾患 | | | | | | 1 | | 1 | | | 2 | 31 |
| G40-G47 | 挿間性及び発作性障害 | | 4 | 3 | 3 | 4 | 4 | 8 | 5 | 6 | 5 | 42 | 268 |
| G50-G59 | 神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害 | | | 2 | 1 | 1 | 4 | 7 | 8 | 10 | 4 | 37 | 125 |
| G60-G64 | 多発(性)ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害 | | | 1 | 1 | | 1 | | 3 | 5 | 1 | 12 | 224 |
| G70-G73 | 神経筋接合部及び筋の疾患 | | | | | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 4 | 38 |
| G80-G83 | 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群 | | | | | 1 | | | | | | 1 | 12 |
| G90-G99 | 神経系のその他の障害 | 1 | 1 | | 1 | | | | 2 | 3 | 1 | 9 | 65 |
| Ⅶ | 眼及び付属器の疾患 | | | | | | | | | | | 413 | 1,676 |
| H00-H06 | 眼瞼，涙器及び眼窩の障害 | | | | | | 1 | 3 | 3 | 7 | 1 | 15 | 73 |
| H10-H13 | 結膜の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H15-H22 | 強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害 | | | | 1 | | | | | 1 | | 2 | 4 |
| H25-H28 | 水晶体の障害 | | | | | 2 | 7 | 22 | 42 | 115 | 66 | 254 | 539 |
| H30-H36 | 脈絡膜及び網膜の障害 | | | | | | 10 | 11 | 8 | 9 | 3 | 41 | 344 |
| H40-H42 | 緑内障 | | | | | | 7 | 15 | 14 | 21 | 9 | 66 | 423 |
| H43-H45 | 硝子体及び眼球の障害 | | | | | 1 | 3 | 6 | 7 | 10 | 6 | 33 | 266 |
| H46-H48 | 視神経及び視(覚)路の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H49-H52 | 眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 17 |
| H53-H54 | 視機能障害及び盲＜失明＞ | | | | | | | | | | | | |
| H55-H59 | 眼及び付属器のその他の障害 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 10 |
| Ⅷ | 耳及び乳様突起の疾患 | | | | | | | | | | | 21 | 113 |
| H60-H62 | 外耳疾患 | | | | | | | | | | | | |
| H65-H75 | 中耳及び乳様突起の疾患 | | 7 | | | | | | | | | 7 | 26 |
| H80-H83 | 内耳疾患 | | | | | | | 1 | 2 | 4 | 4 | 11 | 60 |
| H90-H95 | 耳のその他の障害 | | | | 1 | 1 | | | 1 | | | 3 | 27 |
| Ⅸ | 循環器系の疾患 | | | | | | | | | | | 855 | 12,264 |
| I00-I02 | 急性リウマチ熱 | | | | | | | | | | | | |
| I05-I09 | 慢性リウマチ性心疾患 | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 117 |
| I10-I15 | 高血圧性疾患 | | | | | 2 | | 1 | 1 | | 2 | 6 | 33 |
| I20-I25 | 虚血性心疾患 | | | | 1 | 2 | 7 | 33 | 47 | 55 | 41 | 186 | 1,474 |
| I26-I28 | 肺性心疾患及び肺循環疾患 | | | | | | | 2 | 1 | 3 | 1 | 7 | 41 |
| I30-I52 | その他の型の心疾患 | | | 2 | 2 | 5 | 13 | 34 | 37 | 91 | 89 | 273 | 3,975 |
| I60-I69 | 脳血管疾患 | | | | 2 | 3 | 17 | 34 | 33 | 82 | 65 | 236 | 4,830 |
| I70-I79 | 動脈，細動脈及び毛細血管の疾患 | | | | | 1 | 7 | 7 | 21 | 43 | 29 | 108 | 1,346 |
| I80-I89 | 静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの | | | | | | 4 | 8 | 11 | 10 | 3 | 36 | 441 |
| I95-I99 | 循環器系のその他及び詳細不明の障害 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 7 |
| Ⅹ | 呼吸器系の疾患 | | | | | | | | | | | 494 | 6,571 |
| J00-J06 | 急性上気道感染症 | 6 | 10 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | | 1 | 1 | 25 | 148 |
| J09-J18 | インフルエンザ及び肺炎 | 11 | 27 | 2 | 1 | | | 7 | 11 | 39 | 65 | 163 | 2,265 |
| J20-J22 | その他の急性下気道感染症 | 18 | 19 | 1 | | | | | | | | 38 | 210 |
| J30-J39 | 上気道のその他の疾患 | | 5 | 7 | 12 | 19 | 17 | 16 | 6 | 11 | 3 | 96 | 533 |
| J40-J47 | 慢性下気道疾患 | | 11 | 1 | 2 | 2 | | 2 | 2 | 8 | 5 | 33 | 342 |
| J60-J70 | 外的因子による肺疾患 | | | | | | | 3 | 2 | 25 | 37 | 67 | 1,487 |
| J80-J84 | 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患 | | | | | | | | 3 | 8 | 13 | 24 | 751 |
| J85-J86 | 下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態 | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 3 | 9 | 323 |
| J90-J94 | 胸膜のその他の疾患 | | | 2 | 4 | 2 | 4 | 4 | 3 | 4 | 7 | 30 | 359 |
| J95-J99 | 呼吸器系のその他の疾患 | | | 1 | | | | | 4 | 2 | 2 | 9 | 153 |
| Ⅺ | 消化器系の疾患 | | | | | | | | | | | 1,089 | 6,904 |
| K00-K14 | 口腔，唾液腺及び顎の疾患 | | 2 | | 3 | 2 | 3 | 5 | 3 | 6 | 4 | 28 | 115 |
| K20-K31 | 食道，胃及び十二指腸の疾患 | | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 3 | 11 | 15 | 9 | 46 | 362 |

| 2022年度　退院患者数（男） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合 計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K35-K38 | 虫垂の疾患 | | | 5 | 6 | 6 | 5 | 5 | 4 | 2 | 1 | 34 | 292 |
| K40-K46 | ヘルニア | | | | | 1 | 4 | 5 | 17 | 14 | 13 | 54 | 297 |
| K50-K52 | 非感染性腸炎及び非感染性大腸炎 | 1 | | 4 | 3 | 2 | 1 | 8 | | 2 | | 21 | 117 |
| K55 | 腸の血行障害 | | | | | | | 1 | 2 | 6 | 7 | 16 | 197 |
| K56 | 腸閉塞 | | 1 | | 2 | 1 | 2 | 3 | 3 | 9 | 11 | 32 | 322 |
| K57 | 腸の憩室性疾患 | | | | 1 | 2 | 6 | 11 | 10 | 12 | 6 | 48 | 384 |
| K58-K59 | その他の腸の機能障害 | | | 2 | | 1 | | | 1 | 2 | | 6 | 30 |
| K60-K62 | 肛門及び直腸の疾患 | | | | | 1 | | 1 | 2 | 1 | 1 | 6 | 18 |
| K63 | 結腸のその他の疾患 | | | | 1 | 4 | 25 | 89 | 106 | 185 | 96 | 506 | 1,462 |
| K64 | 痔核 | | | | | | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 7 | 20 |
| K65-K67 | 腹膜の疾患 | | | | | 1 | 3 | 3 | 1 | 2 | 6 | 16 | 311 |
| K70-K77 | 肝疾患 | | | | | 2 | 6 | 6 | 8 | 8 | 4 | 34 | 452 |
| K80-K87 | 胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害 | 2 | | | 3 | 7 | 14 | 24 | 33 | 62 | 42 | 187 | 2,020 |
| K90-K93 | 消化器系のその他の疾患 | | | 1 | | 1 | 4 | 5 | 4 | 20 | 13 | 48 | 505 |
| XII | 皮膚及び皮下組織の疾患 | | | | | | | | | | | 74 | 1,190 |
| L00-L08 | 皮膚及び皮下組織の感染症 | | 1 | | 3 | 1 | 2 | 10 | 4 | 11 | 10 | 42 | 597 |
| L10-L14 | 水疱症 | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 115 |
| L20-L30 | 皮膚炎及び湿疹 | | | 2 | 1 | 1 | | | | | | 4 | 22 |
| L40-L45 | 丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害 | | | | | | | | | | | | |
| L50-L54 | じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 8 |
| L55-L59 | 皮膚及び皮下組織の放射線（非電離及び電離）に関連する障害 | | | | | | | | | | 2 | 2 | 5 |
| L60-L75 | 皮膚付属器の障害 | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 6 | 24 |
| L80-L99 | 皮膚及び皮下組織のその他の障害 | | 1 | | | | 2 | 2 | 3 | 2 | 6 | 16 | 419 |
| XIII | 筋骨格系及び結合組織の疾患 | | | | | | | | | | | 622 | 8,943 |
| M00-M03 | 感染性関節障害 | | | | | 2 | 2 | | | | 4 | 8 | 194 |
| M05-M14 | 炎症性多発性関節障害 | | 1 | | | 1 | 1 | | 1 | 3 | 3 | 10 | 138 |
| M15-M19 | 関節症 | | | | | 5 | 5 | 20 | 42 | 31 | 13 | 116 | 2,327 |
| M20-M25 | その他の関節障害 | | 1 | 18 | 20 | 6 | 7 | 11 | 12 | 6 | 2 | 83 | 610 |
| M30-M36 | 全身性結合組織障害 | 4 | 9 | | | 9 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 27 | 278 |
| M40-M43 | 変形性脊柱障害 | | | | | | | 2 | 9 | 7 | 3 | 21 | 365 |
| M45-M49 | 脊椎障害 | | | | | 1 | 5 | 22 | 36 | 70 | 30 | 164 | 3,290 |
| M50-M54 | その他の脊柱障害 | | | 3 | 4 | 9 | 9 | 12 | 14 | 12 | 6 | 69 | 600 |
| M60-M63 | 筋障害 | | | | 1 | 1 | | | 1 | | 1 | 4 | 37 |
| M65-M68 | 滑膜及び腱の障害 | | | 7 | 2 | 3 | 7 | 9 | 10 | 6 | 1 | 45 | 159 |
| M70-M79 | その他の軟部組織障害 | | | | | 1 | 9 | 6 | 4 | 7 | | 27 | 457 |
| M80-M85 | 骨の密度及び構造の障害 | | | 4 | 2 | | 1 | | 1 | 1 | 2 | 11 | 110 |
| M86-M90 | その他の骨障害 | | 1 | | 2 | 5 | 1 | 4 | 1 | 1 | 3 | 18 | 254 |
| M91-M94 | 軟骨障害 | | | 11 | | | 2 | 1 | | | | 14 | 82 |
| M95-M99 | 筋骨格系及び結合組織のその他の障害 | | | | 1 | 1 | | 2 | | | 1 | 5 | 42 |
| XIV | 腎尿路生殖器系の疾患 | | | | | | | | | | | 276 | 3,568 |
| N00-N08 | 糸球体疾患 | | 4 | 2 | 2 | 5 | 1 | 2 | 2 | 2 | 7 | 27 | 333 |
| N10-N16 | 腎尿細管間質性疾患 | 3 | 1 | 2 | | 1 | 5 | 8 | 7 | 17 | 9 | 53 | 596 |
| N17-N19 | 腎不全 | | | | 2 | | 5 | 16 | 17 | 26 | 30 | 96 | 1,602 |
| N20-N23 | 尿路結石症 | | | | | 1 | 6 | 9 | 7 | 8 | 2 | 33 | 210 |
| N25-N29 | 腎及び尿管のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| N30-N39 | 尿路系のその他の障害 | 3 | 3 | | 1 | 2 | 1 | 2 | 3 | 13 | 14 | 42 | 568 |
| N40-N51 | 男性生殖器の疾患 | | | 4 | 1 | | 3 | | 4 | 8 | 5 | 25 | 259 |
| N60-N64 | 乳房の障害 | | | | | | | | | | | | |
| N70-N77 | 女性骨盤臓器の炎症性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| N80-N98 | 女性生殖器の非炎症性障害 | | | | | | | | | | | | |
| N99 | 腎尿路生殖器系のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| XV | 妊娠、分娩及び産じょく‹褥› | | | | | | | | | | | | |
| O00-O08 | 流産に終わった妊娠 | | | | | | | | | | | | |
| O10-O16 | 妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害 | | | | | | | | | | | | |
| O20-O29 | 主として妊娠に関連するその他の母体障害 | | | | | | | | | | | | |
| O30-O48 | 胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題 | | | | | | | | | | | | |
| O60-O75 | 分娩の合併症 | | | | | | | | | | | | |
| O80-O84 | 分娩 | | | | | | | | | | | | |
| O85-O92 | 主として産じょく＜褥＞に関連する合併症 | | | | | | | | | | | | |
| O94-O99 | その他の産科的病態，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| XVI | 周産期に発生した病態 | | | | | | | | | | | 107 | 868 |
| P00-P04 | 母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児 | 10 | | | | | | | | | | 10 | 77 |
| P05-P08 | 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害 | 24 | | | | | | | | | | 24 | 274 |
| P10-P15 | 出産外傷 | | | | | | | | | | | | |
| P20-P29 | 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 | 44 | | | | | | | | | | 44 | 376 |

| 2022年度　退院患者数（男） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合 計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P35-P39 | 周産期に特異的な感染症 | | | | | | | | | | | | |
| P50-P61 | 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 | 19 | | | | | | | | | | 19 | 79 |
| P70-P74 | 胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害 | 9 | | | | | | | | | | 9 | 57 |
| P75-P78 | 胎児及び新生児の消化器系障害 | | | | | | | | | | | | |
| P80-P83 | 胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態 | | | | | | | | | | | | |
| P90-P96 | 周産期に発生したその他の障害 | 1 | | | | | | | | | | 1 | 5 |
| XVII | 先天奇形、変形及び染色体異常 | | | | | | | | | | | 23 | 118 |
| Q00-Q07 | 神経系の先天奇形 | | 2 | | | | | | | | | 2 | 8 |
| Q10-Q18 | 眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q20-Q28 | 循環器系の先天奇形 | | 1 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | 7 | 38 |
| Q30-Q34 | 呼吸器系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q35-Q37 | 唇裂及び口蓋裂 | | | | | | | | | | | | |
| Q38-Q45 | 消化器系のその他の先天奇形 | | 1 | | | | | | | | 1 | 2 | 19 |
| Q50-Q56 | 生殖器の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q60-Q64 | 腎尿路系の先天奇形 | 1 | | | | | | | 1 | | | 2 | 13 |
| Q65-Q79 | 筋骨格系の先天奇形及び変形 | | 7 | 1 | | | | | | | | 8 | 29 |
| Q80-Q89 | その他の先天奇形 | | | | | | 1 | | | | 1 | 2 | 11 |
| Q90-Q99 | 染色体異常，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| XVIII | 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの | | | | | | | | | | | 48 | 400 |
| R00-R09 | 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候 | | | | | | 1 | 2 | 2 | 4 | 2 | 11 | 172 |
| R10-R19 | 消化器系及び腹部に関する症状及び徴候 | | 1 | 1 | | 1 | | 1 | | | 2 | 6 | 53 |
| R20-R23 | 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 3 |
| R25-R29 | 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 14 |
| R30-R39 | 腎尿路系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 14 |
| R40-R46 | 認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候 | | 1 | 1 | | | 1 | | 1 | | 1 | 5 | 39 |
| R47-R49 | 言語及び音声に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R50-R69 | 全身症状及び徴候 | 3 | 11 | | | | | 1 | 1 | 1 | 6 | 23 | 105 |
| R70-R79 | 血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R80-R82 | 尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R83-R89 | その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R90-R94 | 画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R95-R99 | 診断名不明確及び原因不明の死亡 | | | | | | | | | | | | |
| XIX | 損傷、中毒及びその他の外因の影響 | | | | | | | | | | | 458 | 6,623 |
| S00-S09 | 頭部損傷 | | 3 | 2 | 2 | 4 | 5 | 4 | 10 | 6 | 18 | 54 | 1,442 |
| S10-S19 | 頚部損傷 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 5 |
| S20-S29 | 胸部＜郭＞損傷 | | | | | 2 | | 2 | 3 | | 2 | 9 | 96 |
| S30-S39 | 腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷 | | | | | | 2 | 1 | 3 | 3 | 6 | 15 | 348 |
| S40-S49 | 肩及び上腕の損傷 | | 9 | 7 | 2 | 1 | 8 | 18 | 7 | 9 | | 61 | 659 |
| S50-S59 | 肘及び前腕の損傷 | | 4 | 11 | 3 | 3 | 7 | 5 | 6 | 3 | 2 | 44 | 175 |
| S60-S69 | 手首及び手の損傷 | | 1 | 6 | 3 | 5 | 2 | | 1 | 1 | 1 | 20 | 86 |
| S70-S79 | 股関節部及び大腿の損傷 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | | 3 | 7 | 14 | 338 |
| S80-S89 | 膝及び下腿の損傷 | | | 28 | 28 | 22 | 18 | 16 | 8 | 6 | 2 | 128 | 2,036 |
| S90-S99 | 足首及び足の損傷 | | | 4 | 1 | | 3 | 1 | 1 | 1 | | 11 | 190 |
| T00-T07 | 多部位の損傷 | | | 1 | | | | | | | | 1 | 3 |
| T08-T14 | 部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| T15-T19 | 自然開口部からの異物侵入の作用 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 6 |
| T20-T32 | 熱傷及び腐食 | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | 3 | 48 |
| T33-T35 | 凍傷 | | | | | | | | | | | | |
| T36-T50 | 薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒 | | | | | | | | | | | | |
| T51-T65 | 薬用を主としない物質の毒作用 | | | | | | | | | | | | |
| T66-T78 | 外因のその他及び詳細不明の作用 | 3 | 8 | | 1 | 1 | | | 2 | | 2 | 17 | 66 |
| T79 | 外傷の早期合併症 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 11 |
| T80-T88 | 外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの | | | | 1 | 3 | 4 | 8 | 16 | 20 | 21 | 73 | 1,013 |
| T90-T98 | 損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症 | | | 1 | 1 | | | 2 | 1 | | | 5 | 101 |
| XXI | 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健 | | | | | | | | | | | 1 | 4 |
| Z00-Z13 | 検査及び診査のための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z20-Z29 | 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| Z30-Z39 | 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z40-Z54 | 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z55-Z65 | 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| Z70-Z76 | その他の環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z80-Z99 | 家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 4 |
| XXII | 特殊目的コード | | | | | | | | | | | 184 | 2,337 |
| U00-U49 | 原因不明の新たな疾患の暫定分類 | 14 | 16 | 1 | 2 | 5 | 10 | 18 | 19 | 47 | 52 | 184 | 2,337 |
| 合　計 | | 192 | 222 | 176 | 171 | 215 | 405 | 792 | 1,041 | 1,899 | 1,240 | 6,353 | 69,252 |

## ■疾病別・年齢階層別・退院患者数（女）【2022年度】

| 2022年度　退院患者数（女） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合 計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 感染症及び寄生虫症 | | | | | | | | | | | 154 | 1,574 |
| A00-A09 | 腸管感染症 | 5 | 9 | 2 | 2 | 3 | 6 | 1 | 5 | 4 | 5 | 42 | 261 |
| A15-A19 | 結核 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 28 |
| A20-A28 | 人畜共通細菌性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A30-A49 | その他の細菌性疾患 | 5 | 1 | | | | 1 | 2 | 4 | 6 | 20 | 39 | 711 |
| A50-A64 | 主として性的伝播様式をとる感染症 | 1 | | | 1 | 3 | | 1 | | | | 6 | 37 |
| A65-A69 | その他のスピロヘータ疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A70-A74 | クラミジアによるその他の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A75-A79 | リケッチア症 | | | | | | | | | | | | |
| A80-A89 | 中枢神経系のウイルス感染症 | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 32 |
| A90-A99 | 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱 | | | | | | | | | | | | |
| B00-B09 | 皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症 | | 2 | 2 | | 2 | 2 | 3 | 5 | 7 | 10 | 33 | 245 |
| B15-B19 | ウイルス性肝炎 | | | | | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 8 | 125 |
| B20-B24 | ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病 | | | | | | | | | | | | |
| B25-B34 | その他のウイルス疾患 | 7 | 10 | 2 | 1 | | | | | | | 20 | 123 |
| B35-B49 | 真菌症 | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 | 6 |
| B50-B64 | 原虫疾患 | | | | | | | | | | | | |
| B65-B83 | ぜん＜蠕＞虫症 | | | | | 1 | | | | | | 1 | 6 |
| B85-B89 | シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症 | | | | | | | | | | | | |
| B90-B94 | 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | | |
| B95-B98 | 細菌，ウイルス及びその他の病原体 | | | | | | | | | | | | |
| B99 | その他の感染症 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅱ-1 | 新生物（腫瘍）悪性 | | | | | | | | | | | 1,093 | 9,900 |
| C00-C14 | 口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C15 | 食道の悪性新生物 | | | | | | 1 | | 3 | 4 | 6 | 14 | 229 |
| C16 | 胃の悪性新生物 | | | | 2 | 1 | 5 | 8 | 13 | 34 | 16 | 79 | 803 |
| C17 | 小腸の悪性新生物 | | | | | | 3 | 4 | 2 | 7 | | 16 | 284 |
| C18 | 結腸の悪性新生物 | | | | | | 5 | 20 | 28 | 38 | 28 | 119 | 1,143 |
| C19-C20 | 直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 | | | | | | 4 | 16 | 29 | 12 | 5 | 66 | 597 |
| C21 | 肛門及び肛門管の悪性新生物 | | | | | | | | | 2 | | 2 | 31 |
| C22 | 肝及び肝内胆管の悪性新生物 | | | | | | | 1 | 2 | 9 | 15 | 27 | 271 |
| C23-C24 | 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物 | | | | | | 3 | | 1 | 8 | 4 | 16 | 224 |
| C25 | 膵の悪性新生物 | | | | | | | 13 | 10 | 24 | 12 | 59 | 658 |
| C26 | その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C30-C39 | 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 33 | 49 | 15 | 97 | 1,074 |
| C40-C41 | 骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C43-C44 | 皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 1 | 1 | 3 | 5 | 25 |
| C45-C49 | 中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 7 | 11 | 1 | 19 | 129 |
| C50 | 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 5 | 34 | 76 | 40 | 42 | 14 | 211 | 1,801 |
| C51-C58 | 女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 20 | 38 | 70 | 45 | 39 | 4 | 216 | 1,468 |
| C60-C63 | 男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C64-C68 | 腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 2 | 4 | 4 | 7 | 8 | 25 | 269 |
| C69-C72 | 眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 1 | | | | | 1 | 12 |
| C73-C75 | 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 1 | 5 | 103 |
| C76-C80 | 部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 4 | 3 | 14 | 7 | 28 | 253 |
| C81-C96 | 原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 1 | 34 | 10 | 9 | 54 | 413 |
| C97 | 独立した（原発性）多部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| D00-D09 | 上皮内新生物＜腫瘍＞ | | | | 2 | 14 | 11 | 1 | 2 | 3 | 1 | 34 | 113 |
| Ⅱ-2 | 新生物（腫瘍）良性 | | | | | | | | | | | 187 | 1,243 |
| D10-D36 | 良性新生物＜腫瘍＞ | | 1 | 1 | 13 | 20 | 34 | 17 | 14 | 19 | 7 | 126 | 840 |
| D37-D48 | 性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞ | | 2 | | 6 | 15 | 10 | 10 | 9 | 6 | 3 | 61 | 403 |
| Ⅲ | 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | | | | | | | | | | | 49 | 292 |
| D50-D53 | 栄養性貧血 | | | | | | 1 | 2 | 2 | 4 | 7 | 16 | 88 |
| D55-D59 | 溶血性貧血 | | | | | | | | | | | | |
| D60-D64 | 無形成性貧血及びその他の貧血 | | | | | | | | 2 | 1 | 5 | 8 | 77 |
| D65-D69 | 凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態 | | 5 | | | | | | 4 | | 1 | 10 | 81 |
| D70-D77 | 血液及び造血器のその他の疾患 | | | | | | | 2 | 1 | | | 3 | 11 |
| D80-D89 | 免疫機構の障害 | | | | | | | 2 | 3 | 4 | 3 | 12 | 35 |
| Ⅳ | 内分泌、栄養及び代謝疾患 | | | | | | | | | | | 173 | 1,712 |
| E00-E07 | 甲状腺障害 | | 1 | | | 1 | 2 | 1 | 3 | 1 | 2 | 11 | 103 |
| E10-E14 | 糖尿病 | | 2 | | | | 2 | 11 | 10 | 24 | 15 | 64 | 851 |
| E15-E16 | その他のグルコース調節及び膵内分泌障害 | | 2 | | | | | | | 1 | | 3 | 14 |
| E20-E35 | その他の内分泌腺障害 | | 24 | 7 | 1 | 1 | 4 | 4 | 3 | 2 | 2 | 48 | 214 |
| E40-E46 | 栄養失調（症） | | | | | | | | | | | | |
| E50-E64 | その他の栄養欠乏症 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 9 |

| 2022年度　退院患者数（女） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合 計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| E65-E68 | 肥満(症)及びその他の過栄養＜過剰摂食＞ | | | | | | | 1 | 2 | | | 3 | 30 |
| E70-E90 | 代謝障害 | 1 | 5 | 1 | 1 | | 2 | 5 | 1 | 5 | 22 | 43 | 491 |
| Ⅴ | 精神及び行動の障害 | | | | | | | | | | | 10 | 132 |
| F00-F09 | 症状性を含む器質性精神障害 | | 1 | | 1 | | | | | | 2 | 4 | 58 |
| F10-F19 | 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 3 |
| F20-F29 | 統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害 | | | | | | | | | | | | |
| F30-F39 | 気分[感情]障害 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 29 |
| F40-F48 | 神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害 | | | | | | | | 1 | 2 | | 3 | 34 |
| F50-F59 | 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 | | | 1 | | | | | | | | 1 | 8 |
| F60-F69 | 成人の人格及び行動の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F70-F79 | 知的障害＜精神遅滞＞ | | | | | | | | | | | | |
| F80-F89 | 心理的発達の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F90-F98 | 小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F99 | 詳細不明の精神障害 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅵ | 神経系の疾患 | | | | | | | | | | | 118 | 1,499 |
| G00-G09 | 中枢神経系の炎症性疾患 | | | | 2 | 2 | 4 | 2 | | 2 | 2 | 14 | 471 |
| G10-G14 | 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症 | | | | | | | | 1 | | 1 | 2 | 27 |
| G20-G26 | 錐体外路障害及び異常運動 | | | | | | | | | 5 | 1 | 6 | 81 |
| G30-G32 | 神経系のその他の変性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| G35-G37 | 中枢神経系の脱髄疾患 | | | 1 | 2 | | 1 | 4 | 1 | | | 9 | 106 |
| G40-G47 | 挿間性及び発作性障害 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | | 5 | 4 | 1 | 10 | 27 | 251 |
| G50-G59 | 神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害 | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 11 | 9 | 7 | 3 | 35 | 118 |
| G60-G64 | 多発(性)ニューロパチ＜シ＞－及びその他の末梢神経系の障害 | | | 1 | | 1 | | | | 4 | 2 | 8 | 86 |
| G70-G73 | 神経筋接合部及び筋の疾患 | | | | | | | | | 2 | 4 | 6 | 182 |
| G80-G83 | 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群 | | | | | 1 | | | | | | 1 | 11 |
| G90-G99 | 神経系のその他の障害 | | | | | 1 | 2 | 2 | | 5 | | 10 | 166 |
| Ⅶ | 眼及び付属器の疾患 | | | | | | | | | | | 494 | 1,793 |
| H00-H06 | 眼瞼，涙器及び眼窩の障害 | 1 | | 1 | | | | 4 | 3 | 10 | 6 | 25 | 105 |
| H10-H13 | 結膜の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H15-H22 | 強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害 | | | 1 | | | | | | 1 | 1 | 3 | 32 |
| H25-H28 | 水晶体の障害 | | | | 1 | 2 | 8 | 32 | 54 | 132 | 117 | 346 | 910 |
| H30-H36 | 脈絡膜及び網膜の障害 | | | | 2 | 1 | 3 | 7 | 10 | 4 | 5 | 32 | 284 |
| H40-H42 | 緑内障 | | | 2 | 5 | 1 | 5 | 8 | 8 | 23 | 8 | 60 | 305 |
| H43-H45 | 硝子体及び眼球の障害 | | | | | | 1 | 4 | 7 | 6 | 6 | 24 | 132 |
| H46-H48 | 視神経及び視(覚)路の障害 | | | | | | | | 2 | | | 2 | 8 |
| H49-H52 | 眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 15 |
| H53-H54 | 視機能障害及び盲＜失明＞ | | | | | | | | | | | | |
| H55-H59 | 眼及び付属器のその他の障害 | | | | 1 | | | | | | | 1 | 2 |
| Ⅷ | 耳及び乳様突起の疾患 | | | | | | | | | | | 21 | 107 |
| H60-H62 | 外耳疾患 | | | | | | | | | | | | |
| H65-H75 | 中耳及び乳様突起の疾患 | | 2 | | | | | | | 1 | | 3 | 11 |
| H80-H83 | 内耳疾患 | | | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | 4 | 12 | 42 |
| H90-H95 | 耳のその他の障害 | | | 1 | 2 | 1 | | | | 2 | | 6 | 54 |
| Ⅸ | 循環器系の疾患 | | | | | | | | | | | 707 | 10,084 |
| I00-I02 | 急性リウマチ熱 | | | | | | | | | | | | |
| I05-I09 | 慢性リウマチ性心疾患 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 26 |
| I10-I15 | 高血圧性疾患 | | | | | 1 | | | | | 2 | 3 | 26 |
| I20-I25 | 虚血性心疾患 | | | | | | 3 | 8 | 12 | 24 | 19 | 66 | 683 |
| I26-I28 | 肺性心疾患及び肺循環疾患 | | | | | | 1 | 2 | 2 | 4 | 1 | 10 | 128 |
| I30-I52 | その他の型の心疾患 | | | | 2 | 1 | | 13 | 21 | 99 | 199 | 335 | 4,124 |
| I60-I69 | 脳血管疾患 | | | | 1 | 2 | 4 | 22 | 28 | 48 | 96 | 201 | 4,011 |
| I70-I79 | 動脈，細動脈及び毛細血管の疾患 | | | | | | 8 | 4 | 16 | 18 | 22 | 68 | 892 |
| I80-I89 | 静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの | | | | | 1 | 1 | 2 | 3 | 10 | 6 | 23 | 194 |
| I95-I99 | 循環器系のその他及び詳細不明の障害 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅹ | 呼吸器系の疾患 | | | | | | | | | | | 361 | 4,691 |
| J00-J06 | 急性上気道感染症 | 2 | 8 | 1 | 5 | | 1 | 2 | | | 2 | 21 | 159 |
| J09-J18 | インフルエンザ及び肺炎 | 4 | 15 | | 1 | 1 | 2 | | 11 | 15 | 68 | 117 | 1,822 |
| J20-J22 | その他の急性下気道感染症 | 18 | 19 | | | | | | | | | 37 | 220 |
| J30-J39 | 上気道のその他の疾患 | | 2 | 1 | 12 | 12 | 11 | 12 | 9 | 3 | 1 | 63 | 326 |
| J40-J47 | 慢性下気道疾患 | 2 | 16 | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 | 3 | 1 | 5 | 35 | 290 |
| J60-J70 | 外的因子による肺疾患 | | | | | | | 1 | 4 | 9 | 37 | 51 | 1,123 |
| J80-J84 | 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患 | | | | | | 2 | | 1 | 5 | 5 | 13 | 228 |
| J85-J86 | 下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態 | | | | | | 1 | | 1 | 2 | 1 | 5 | 219 |
| J90-J94 | 胸膜のその他の疾患 | | | 2 | | 1 | | | | 1 | 6 | 10 | 155 |
| J95-J99 | 呼吸器系のその他の疾患 | 1 | 1 | | | | | 2 | | 2 | 3 | 9 | 149 |
| Ⅺ | 消化器系の疾患 | | | | | | | | | | | 932 | 6,426 |
| K00-K14 | 口腔，唾液腺及び顎の疾患 | | 2 | | 2 | 1 | | 1 | 1 | 5 | 5 | 17 | 73 |
| K20-K31 | 食道，胃及び十二指腸の疾患 | | | | | 2 | 5 | 1 | 6 | 17 | 20 | 51 | 456 |

| 2022年度　退院患者数（女） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合 計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K35-K38 | 虫垂の疾患 | | 2 | 1 | 6 | 6 | 12 | 4 | 3 | 1 | 6 | 41 | 260 |
| K40-K46 | ヘルニア | 1 | | | | | 2 | | 3 | 5 | 7 | 18 | 136 |
| K50-K52 | 非感染性腸炎及び非感染性大腸炎 | | | 3 | 1 | 2 | 2 | 3 | 1 | 1 | 2 | 15 | 87 |
| K55 | 腸の血行障害 | | | | | | 1 | 3 | 3 | 13 | 11 | 31 | 250 |
| K56 | 腸閉塞 | | | | | | 2 | 11 | 5 | 7 | 26 | 51 | 680 |
| K57 | 腸の憩室性疾患 | | | | 1 | 3 | 3 | 4 | 6 | 8 | 12 | 37 | 270 |
| K58-K59 | その他の腸の機能障害 | | | | | | | 1 | 2 | | | 3 | 10 |
| K60-K62 | 肛門及び直腸の疾患 | | | | | 1 | 1 | 3 | 2 | 4 | 9 | 20 | 183 |
| K63 | 結腸のその他の疾患 | | | | 1 | 6 | 22 | 62 | 69 | 141 | 85 | 386 | 1,201 |
| K64 | 痔核 | | | | | 1 | 3 | | 2 | 4 | 2 | 12 | 76 |
| K65-K67 | 腹膜の疾患 | | | 1 | | 1 | | | | 3 | 2 | 7 | 177 |
| K70-K77 | 肝疾患 | | | | 1 | 3 | 6 | 4 | 6 | 8 | 11 | 39 | 554 |
| K80-K87 | 胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害 | | | | 3 | 10 | 18 | 24 | 18 | 39 | 49 | 161 | 1,617 |
| K90-K93 | 消化器系のその他の疾患 | | | | 1 | | | 3 | 3 | 12 | 24 | 43 | 396 |
| XII | 皮膚及び皮下組織の疾患 | | | | | | | | | | | 77 | 1,149 |
| L00-L08 | 皮膚及び皮下組織の感染症 | 1 | 3 | | | 4 | 1 | 5 | 7 | 11 | 10 | 42 | 531 |
| L10-L14 | 水疱症 | | | | | | | 2 | | 2 | 2 | 6 | 316 |
| L20-L30 | 皮膚炎及び湿疹 | | | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 2 | 1 | 7 | 52 |
| L40-L45 | 丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 3 |
| L50-L54 | じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑 | | 1 | | 2 | 2 | | 1 | | | | 6 | 72 |
| L55-L59 | 皮膚及び皮下組織の放射線（非電離及び電離）に関連する障害 | | | | | | | | | | | | |
| L60-L75 | 皮膚付属器の障害 | | | 1 | | 2 | 1 | 5 | 1 | | | 10 | 39 |
| L80-L99 | 皮膚及び皮下組織のその他の障害 | | | | 1 | | | | | | 4 | 5 | 136 |
| XIII | 筋骨格系及び結合組織の疾患 | | | | | | | | | | | 785 | 13,422 |
| M00-M03 | 感染性関節障害 | | | | 1 | | | 1 | | 1 | 3 | 6 | 194 |
| M05-M14 | 炎症性多発性関節障害 | | | | | | 4 | 4 | 5 | 9 | 8 | 30 | 510 |
| M15-M19 | 関節症 | | | 1 | 2 | 1 | 8 | 56 | 83 | 160 | 80 | 391 | 7,527 |
| M20-M25 | その他の関節障害 | | | 10 | 4 | 3 | 5 | 13 | 7 | 7 | 3 | 52 | 672 |
| M30-M36 | 全身性結合組織障害 | 1 | 6 | | | | 1 | | 2 | | 2 | 12 | 180 |
| M40-M43 | 変形性脊柱障害 | | | | | | 1 | 4 | 3 | 13 | 13 | 34 | 763 |
| M45-M49 | 脊椎障害 | | | | 1 | | 3 | 9 | 13 | 38 | 30 | 94 | 1,755 |
| M50-M54 | その他の脊柱障害 | | | 1 | 2 | 6 | 10 | 7 | 5 | 6 | 2 | 39 | 356 |
| M60-M63 | 筋障害 | | | | | 1 | | | | 1 | 2 | 4 | 50 |
| M65-M68 | 滑膜及び腱の障害 | | | 6 | 2 | 4 | 3 | 16 | 13 | 13 | | 57 | 221 |
| M70-M79 | その他の軟部組織障害 | | | | | | 3 | 6 | 6 | 11 | 2 | 28 | 425 |
| M80-M85 | 骨の密度及び構造の障害 | | | | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 3 | 7 | 118 |
| M86-M90 | その他の骨障害 | | | | | | 1 | 2 | 1 | 3 | 4 | 11 | 170 |
| M91-M94 | 軟骨障害 | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | 3 | 62 |
| M95-M99 | 筋骨格系及び結合組織のその他の障害 | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 13 | 17 | 419 |
| XIV | 腎尿路生殖器系の疾患 | | | | | | | | | | | 319 | 3,134 |
| N00-N08 | 糸球体疾患 | | | 1 | | | 3 | 2 | 3 | 1 | 4 | 14 | 292 |
| N10-N16 | 腎尿細管間質性疾患 | 2 | 3 | | 4 | 2 | 3 | 4 | 16 | 13 | 17 | 64 | 617 |
| N17-N19 | 腎不全 | | | | | 1 | | 8 | 5 | 14 | 17 | 45 | 674 |
| N20-N23 | 尿路結石症 | | | | | | | 1 | 4 | 3 | 4 | 12 | 60 |
| N25-N29 | 腎及び尿管のその他の障害 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 28 |
| N30-N39 | 尿路系のその他の障害 | 2 | 1 | | 1 | | | | 4 | 4 | 40 | 52 | 851 |
| N40-N51 | 男性生殖器の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| N60-N64 | 乳房の障害 | | | | | | | 1 | | 1 | | 2 | 9 |
| N70-N77 | 女性骨盤臓器の炎症性疾患 | | | 2 | 5 | 3 | 5 | 4 | 1 | | 3 | 23 | 160 |
| N80-N98 | 女性生殖器の非炎症性障害 | | | | 16 | 28 | 36 | 15 | 4 | 4 | 3 | 106 | 443 |
| N99 | 腎尿路生殖器系のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| XV | 妊娠、分娩及び産じょく‹褥› | | | | | | | | | | | 571 | 4,430 |
| O00-O08 | 流産に終わった妊娠 | | | 1 | 14 | 47 | 9 | | | | | 71 | 198 |
| O10-O16 | 妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害 | | | | 1 | 12 | 1 | | | | | 14 | 146 |
| O20-O29 | 主として妊娠に関連するその他の母体障害 | | | | 10 | 29 | 1 | | | | | 40 | 457 |
| O30-O48 | 胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題 | | | | 14 | 65 | 16 | | | | | 95 | 614 |
| O60-O75 | 分娩の合併症 | | | | 9 | 21 | 10 | | | | | 40 | 702 |
| O80-O84 | 分娩 | | | 1 | 68 | 206 | 29 | | | | | 304 | 2,256 |
| O85-O92 | 主として産じょく＜褥＞に関連する合併症 | | | | | 3 | 1 | | | | | 4 | 38 |
| O94-O99 | その他の産科的病態，他に分類されないもの | | | | | 3 | | | | | | 3 | 19 |
| XVI | 周産期に発生した病態 | | | | | | | | | | | 105 | 844 |
| P00-P04 | 母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児 | 23 | | | | | | | | | | 23 | 196 |
| P05-P08 | 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害 | 19 | | | | | | | | | | 19 | 190 |
| P10-P15 | 出産外傷 | | | | | | | | | | | | |
| P20-P29 | 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 | 41 | | | | | | | | | | 41 | 356 |

| 2022年度　退院患者数（女） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合 計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P35-P39 | 周産期に特異的な感染症 | | | | | | | | | | | | |
| P50-P61 | 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 | 13 | | | | | | | | | | 13 | 44 |
| P70-P74 | 胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害 | 9 | | | | | | | | | | 9 | 58 |
| P75-P78 | 胎児及び新生児の消化器系障害 | | | | | | | | | | | | |
| P80-P83 | 胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態 | | | | | | | | | | | | |
| P90-P96 | 周産期に発生したその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| XVII | 先天奇形、変形及び染色体異常 | | | | | | | | | | | 16 | 178 |
| Q00-Q07 | 神経系の先天奇形 | | | | | 2 | | | | | | 2 | 19 |
| Q10-Q18 | 眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形 | | | | 1 | | | | | | | 1 | 6 |
| Q20-Q28 | 循環器系の先天奇形 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | | | | 1 | 5 | 44 |
| Q30-Q34 | 呼吸器系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q35-Q37 | 唇裂及び口蓋裂 | 1 | | | | | | | | | | 1 | 7 |
| Q38-Q45 | 消化器系のその他の先天奇形 | | | | | 1 | | | | | | 1 | 3 |
| Q50-Q56 | 生殖器の先天奇形 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 3 |
| Q60-Q64 | 腎尿路系の先天奇形 | | | | | | | | | 2 | | 2 | 83 |
| Q65-Q79 | 筋骨格系の先天奇形及び変形 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 3 |
| Q80-Q89 | その他の先天奇形 | 1 | 1 | | | | | | | | | 2 | 10 |
| Q90-Q99 | 染色体異常，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| XVIII | 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの | | | | | | | | | | | 50 | 502 |
| R00-R09 | 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | 4 | 6 | 10 | 212 |
| R10-R19 | 消化器系及び腹部に関する症状及び徴候 | | 1 | | 1 | | 1 | 1 | | | 3 | 7 | 50 |
| R20-R23 | 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候 | 1 | | | | 1 | | | | | | 2 | 5 |
| R25-R29 | 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | 2 | 2 | 8 |
| R30-R39 | 腎尿路系に関する症状及び徴候 | 1 | | | | | | | | | | 1 | 6 |
| R40-R46 | 認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | 2 | 2 | 10 |
| R47-R49 | 言語及び音声に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R50-R69 | 全身症状及び徴候 | 3 | 9 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | 4 | 4 | 24 | 199 |
| R70-R79 | 血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 | 12 |
| R80-R82 | 尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R83-R89 | その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R90-R94 | 画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R95-R99 | 診断名不明確及び原因不明の死亡 | | | | | | | | | | | | |
| XIX | 損傷、中毒及びその他の外因の影響 | | | | | | | | | | | 412 | 5,716 |
| S00-S09 | 頭部損傷 | | | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 4 | 13 | 22 | 377 |
| S10-S19 | 頚部損傷 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 42 |
| S20-S29 | 胸部＜郭＞損傷 | | | | 1 | | | | 1 | 6 | 3 | 11 | 234 |
| S30-S39 | 腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷 | | | | 1 | | | | 3 | 9 | 15 | 28 | 453 |
| S40-S49 | 肩及び上腕の損傷 | | 5 | | | 1 | 3 | 2 | 10 | 16 | 10 | 47 | 716 |
| S50-S59 | 肘及び前腕の損傷 | | 3 | 2 | 6 | 2 | 1 | 8 | 15 | 16 | 9 | 62 | 393 |
| S60-S69 | 手首及び手の損傷 | | | 1 | | 1 | 1 | 3 | | | | 6 | 23 |
| S70-S79 | 股関節部及び大腿の損傷 | | | | | | | 1 | 4 | 12 | 40 | 57 | 1,242 |
| S80-S89 | 膝及び下腿の損傷 | | | 21 | 10 | 9 | 12 | 12 | 3 | 4 | 3 | 74 | 1,272 |
| S90-S99 | 足首及び足の損傷 | | | 3 | 2 | | 1 | | 1 | 1 | | 8 | 75 |
| T00-T07 | 多部位の損傷 | | | | | | | | | | 2 | 2 | 18 |
| T08-T14 | 部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷 | | | | 1 | | | | | | | 1 | 8 |
| T15-T19 | 自然開口部からの異物侵入の作用 | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 8 |
| T20-T32 | 熱傷及び腐食 | | | | | 1 | | | | | | 1 | 13 |
| T33-T35 | 凍傷 | | | | | | | | | | | | |
| T36-T50 | 薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 4 |
| T51-T65 | 薬用を主としない物質の毒作用 | | | | | | | | | | | | |
| T66-T78 | 外因のその他及び詳細不明の作用 | 6 | 8 | 4 | 2 | 2 | | 3 | 2 | 2 | 2 | 31 | 75 |
| T79 | 外傷の早期合併症 | | | | | | | | | | | | |
| T80-T88 | 外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの | | | | | | 2 | 4 | 6 | 21 | 24 | 57 | 763 |
| T90-T98 | 損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | | |
| XXI | 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健 | | | | | | | | | | | 2 | 18 |
| Z00-Z13 | 検査及び診査のための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z20-Z29 | 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| Z30-Z39 | 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z40-Z54 | 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者 | | | | | | | 2 | | | | 2 | 18 |
| Z55-Z65 | 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| Z70-Z76 | その他の環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z80-Z99 | 家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| XXII | 特殊目的コード | | | | | | | | | | | 213 | 2,238 |
| U00-U49 | 原因不明の新たな疾患の暫定分類 | 4 | 16 | 5 | 15 | 21 | 15 | 12 | 21 | 33 | 71 | 213 | 2,238 |
| 合　計 | | 178 | 190 | 100 | 286 | 646 | 510 | 778 | 928 | 1,577 | 1,656 | 6,849 | 71,084 |

## ■疾病別・年齢階層別・在院日数（男）【2022年度】

| 2022年度　在院日数　（男） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 感染症及び寄生虫症 | | | | | | | | | | | 1,176 |
| A00-A09 | 腸管感染症 | 8 | 25 | 20 | 8 | 9 | 6 | 19 | 9 | 49 | 24 | 177 |
| A15-A19 | 結核 | | | | 4 | | | | 2 | | 24 | 30 |
| A20-A28 | 人畜共通細菌性疾患 | | | | | | | | | | | |
| A30-A49 | その他の細菌性疾患 | 25 | 9 | 6 | | | 5 | 5 | 178 | 125 | 47 | 400 |
| A50-A64 | 主として性的伝播様式をとる感染症 | | | | | 16 | | | | | | 16 |
| A65-A69 | その他のスピロヘータ疾患 | | | | | | | | | | | |
| A70-A74 | クラミジアによるその他の疾患 | | | | | | | | | | | |
| A75-A79 | リケッチア症 | | | | | | | | | | | |
| A80-A89 | 中枢神経系のウイルス感染症 | | | | | | | | | | | |
| A90-A99 | 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱 | | | | | | | | | | | |
| B00-B09 | 皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症 | 2 | 17 | 7 | 43 | 27 | 40 | 26 | 24 | 43 | 43 | 272 |
| B15-B19 | ウイルス性肝炎 | | | 16 | 46 | 15 | 43 | 3 | 3 | 23 | 10 | 159 |
| B20-B24 | ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病 | | | | | | | | | | | |
| B25-B34 | その他のウイルス疾患 | 49 | 59 | | 8 | | | | 2 | | | 118 |
| B35-B49 | 真菌症 | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| B50-B64 | 原虫疾患 | | | | | | | | | | | |
| B65-B83 | ぜん＜蠕＞虫症 | | | | 1 | | | | 1 | | | 2 |
| B85-B89 | シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症 | | | | | | | | | | | |
| B90-B94 | 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | |
| B95-B98 | 細菌，ウイルス及びその他の病原体 | | | | | | | | | | | |
| B99 | その他の感染症 | | | | | | | | | | | |
| Ⅱ-1 | 新生物（腫瘍）悪性 | | | | | | | | | | | 11,652 |
| C00-C14 | 口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 5 | | 7 | | 7 | | 19 |
| C15 | 食道の悪性新生物 | | | | | | | 230 | 273 | 430 | 89 | 1,022 |
| C16 | 胃の悪性新生物 | | | | 10 | 9 | 45 | 135 | 265 | 625 | 407 | 1,496 |
| C17 | 小腸の悪性新生物 | | | | | | | 25 | 14 | 92 | | 131 |
| C18 | 結腸の悪性新生物 | | | | | 13 | 69 | 191 | 206 | 784 | 239 | 1,502 |
| C19-C20 | 直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 | | | | 4 | | 91 | 159 | 196 | 187 | 117 | 754 |
| C21 | 肛門及び肛門管の悪性新生物 | | | | | | | | 11 | 39 | | 50 |
| C22 | 肝及び肝内胆管の悪性新生物 | | | | | | 31 | 6 | 234 | 638 | 246 | 1,155 |
| C23-C24 | 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物 | | | | | | | | 15 | 109 | 31 | 155 |
| C25 | 膵の悪性新生物 | | | | | | 10 | 41 | 81 | 625 | 139 | 896 |
| C26 | その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C30-C39 | 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 24 | 75 | 453 | 1,169 | 355 | 2,076 |
| C40-C41 | 骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C43-C44 | 皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | 6 | 16 | 22 |
| C45-C49 | 中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C50 | 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C51-C58 | 女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C60-C63 | 男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 8 | 9 | 39 | 162 | 226 | 68 | 512 |
| C64-C68 | 腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 5 | 139 | 178 | 402 | 143 | 867 |
| C69-C72 | 眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 101 | | | | 101 |
| C73-C75 | 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 7 | | 15 | 9 | 19 | | 50 |
| C76-C80 | 部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 24 | 151 | 243 | 118 | 536 |
| C81-C96 | 原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 2 | 7 | 124 | 107 | 50 | 290 |
| C97 | 独立した（原発性）多部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| D00-D09 | 上皮内新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | 13 | 5 | 18 |
| Ⅱ-2 | 新生物（腫瘍）良性 | | | | | | | | | | | 357 |
| D10-D36 | 良性新生物＜腫瘍＞ | 2 | 6 | | | 16 | 50 | 34 | 82 | 54 | 13 | 257 |
| D37-D48 | 性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞ | | 2 | | 4 | 4 | 21 | 52 | | 12 | 5 | 100 |
| Ⅲ | 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | | | | | | | | | | | 457 |
| D50-D53 | 栄養性貧血 | | | | | | | 32 | 7 | 14 | | 53 |
| D55-D59 | 溶血性貧血 | | | | | | | | | | | |
| D60-D64 | 無形成性貧血及びその他の貧血 | | | | | | | | 17 | 3 | 35 | 55 |
| D65-D69 | 凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態 | | 11 | | | 30 | | | 16 | 233 | 15 | 305 |
| D70-D77 | 血液及び造血器のその他の疾患 | | | | | | | | | 15 | | 15 |
| D80-D89 | 免疫機構の障害 | | | | 2 | | 2 | 13 | 2 | 10 | | 29 |
| Ⅳ | 内分泌、栄養及び代謝疾患 | | | | | | | | | | | 2,613 |
| E00-E07 | 甲状腺障害 | | | | | | | | | | | |
| E10-E14 | 糖尿病 | | | | 13 | 30 | 165 | 245 | 293 | 586 | 362 | 1,694 |
| E15-E16 | その他のグルコース調節及び膵内分泌障害 | 3 | 13 | | | | | 21 | 22 | 13 | | 72 |
| E20-E35 | その他の内分泌腺障害 | | 33 | 38 | | 4 | | 39 | 53 | 33 | 12 | 212 |
| E40-E46 | 栄養失調（症） | | | | | | | | | | | |
| E50-E64 | その他の栄養欠乏症 | | | | | | | | | | 24 | 24 |

| 2022年度　在院日数　（男） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| E65-E68 | 肥満(症)及びその他の過栄養＜過剰摂食＞ | | | | 14 | | | | | | | 14 |
| E70-E90 | 代謝障害 | | 8 | 4 | | 2 | 23 | 20 | 75 | 102 | 363 | 597 |
| Ⅴ | 精神及び行動の障害 | | | | | | | | | | | 54 |
| F00-F09 | 症状性を含む器質性精神障害 | | | | | | | | | | 28 | 28 |
| F10-F19 | 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 | | 2 | | | | 9 | | 4 | 8 | | 23 |
| F20-F29 | 統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害 | | | | | | | | | | | |
| F30-F39 | 気分[感情]障害 | | | | | | | | | | | |
| F40-F48 | 神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害 | | | | | | | | | | | |
| F50-F59 | 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 | | 3 | | | | | | | | | 3 |
| F60-F69 | 成人の人格及び行動の障害 | | | | | | | | | | | |
| F70-F79 | 知的障害＜精神遅滞＞ | | | | | | | | | | | |
| F80-F89 | 心理的発達の障害 | | | | | | | | | | | |
| F90-F98 | 小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 | | | | | | | | | | | |
| F99 | 詳細不明の精神障害 | | | | | | | | | | | |
| Ⅵ | 神経系の疾患 | | | | | | | | | | | 1,364 |
| G00-G09 | 中枢神経系の炎症性疾患 | | | 12 | 27 | | | | 4 | 228 | 18 | 289 |
| G10-G14 | 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症 | | | | 20 | 4 | 12 | | 12 | 10 | | 58 |
| G20-G26 | 錐体外路障害及び異常運動 | | | | | | | | | 113 | 58 | 171 |
| G30-G32 | 神経系のその他の変性疾患 | | | | 83 | | | | | | | 83 |
| G35-G37 | 中枢神経系の脱髄疾患 | | | | | | 13 | | 18 | | | 31 |
| G40-G47 | 挿間性及び発作性障害 | | 9 | 10 | 15 | 21 | 29 | 62 | 14 | 39 | 69 | 268 |
| G50-G59 | 神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害 | | | 5 | 8 | 2 | 18 | 24 | 29 | 25 | 14 | 125 |
| G60-G64 | 多発(性)ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害 | | | 11 | 2 | | 14 | | 104 | 82 | 11 | 224 |
| G70-G73 | 神経筋接合部及び筋の疾患 | | | | | | 6 | 13 | 13 | | 6 | 38 |
| G80-G83 | 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群 | | | | | 12 | | | | | | 12 |
| G90-G99 | 神経系のその他の障害 | 2 | 2 | | 9 | | | | 23 | 26 | 3 | 65 |
| Ⅶ | 眼及び付属器の疾患 | | | | | | | | | | | 1,676 |
| H00-H06 | 眼瞼，涙器及び眼窩の障害 | | | | | | 3 | 10 | 10 | 42 | 8 | 73 |
| H10-H13 | 結膜の障害 | | | | | | | | | | | |
| H15-H22 | 強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害 | | | | 2 | | | | | 2 | | 4 |
| H25-H28 | 水晶体の障害 | | | | | 2 | 11 | 50 | 82 | 227 | 167 | 539 |
| H30-H36 | 脈絡膜及び網膜の障害 | | | | | | 124 | 85 | 66 | 55 | 14 | 344 |
| H40-H42 | 緑内障 | | | | | | 39 | 110 | 66 | 155 | 53 | 423 |
| H43-H45 | 硝子体及び眼球の障害 | | | | | 3 | 18 | 48 | 65 | 100 | 32 | 266 |
| H46-H48 | 視神経及び視(覚)路の障害 | | | | | | | | | | | |
| H49-H52 | 眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害 | | | | | | | | | 17 | | 17 |
| H53-H54 | 視機能障害及び盲＜失明＞ | | | | | | | | | | | |
| H55-H59 | 眼及び付属器のその他の障害 | | | | | | | | | 10 | | 10 |
| Ⅷ | 耳及び乳様突起の疾患 | | | | | | | | | | | 113 |
| H60-H62 | 外耳疾患 | | | | | | | | | | | |
| H65-H75 | 中耳及び乳様突起の疾患 | | 26 | | | | | | | | | 26 |
| H80-H83 | 内耳疾患 | | | | | | | 3 | 11 | 24 | 22 | 60 |
| H90-H95 | 耳のその他の障害 | | | | 8 | 11 | | | 8 | | | 27 |
| Ⅸ | 循環器系の疾患 | | | | | | | | | | | 12,264 |
| I00-I02 | 急性リウマチ熱 | | | | | | | | | | | |
| I05-I09 | 慢性リウマチ性心疾患 | | | | | | | | | 88 | 29 | 117 |
| I10-I15 | 高血圧性疾患 | | | | | 11 | | 3 | 10 | | 9 | 33 |
| I20-I25 | 虚血性心疾患 | | | | 2 | 6 | 60 | 313 | 386 | 407 | 300 | 1,474 |
| I26-I28 | 肺性心疾患及び肺循環疾患 | | | | | | | 17 | 6 | 17 | 1 | 41 |
| I30-I52 | その他の型の心疾患 | | | 6 | 13 | 44 | 96 | 372 | 517 | 1,140 | 1,787 | 3,975 |
| I60-I69 | 脳血管疾患 | | | | 12 | 34 | 272 | 629 | 789 | 1,695 | 1,399 | 4,830 |
| I70-I79 | 動脈，細動脈及び毛細血管の疾患 | | | | | 7 | 44 | 133 | 323 | 520 | 319 | 1,346 |
| I80-I89 | 静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの | | | | | | 59 | 118 | 92 | 133 | 39 | 441 |
| I95-I99 | 循環器系のその他及び詳細不明の障害 | | | | | | | | | 7 | | 7 |
| Ⅹ | 呼吸器系の疾患 | | | | | | | | | | | 6,571 |
| J00-J06 | 急性上気道感染症 | 23 | 67 | 4 | 9 | 8 | 8 | 7 | | 8 | 14 | 148 |
| J09-J18 | インフルエンザ及び肺炎 | 67 | 165 | 8 | 2 | | | 124 | 184 | 520 | 1,195 | 2,265 |
| J20-J22 | その他の急性下気道感染症 | 112 | 95 | 3 | | | | | | | | 210 |
| J30-J39 | 上気道のその他の疾患 | | 24 | 32 | 68 | 100 | 94 | 88 | 34 | 77 | 16 | 533 |
| J40-J47 | 慢性下気道疾患 | | 61 | 10 | 12 | 17 | | 13 | 35 | 133 | 61 | 342 |
| J60-J70 | 外的因子による肺疾患 | | | | | | | 82 | 68 | 483 | 854 | 1,487 |
| J80-J84 | 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患 | | | | | | | | 90 | 171 | 490 | 751 |
| J85-J86 | 下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態 | | | | | | | 22 | 93 | 89 | 119 | 323 |
| J90-J94 | 胸膜のその他の疾患 | | | 14 | 37 | 15 | 38 | 51 | 24 | 66 | 114 | 359 |
| J95-J99 | 呼吸器系のその他の疾患 | | | 5 | | | | | 27 | 21 | 100 | 153 |
| Ⅺ | 消化器系の疾患 | | | | | | | | | | | 6,904 |
| K00-K14 | 口腔，唾液腺及び顎の疾患 | | 6 | | 16 | 6 | 9 | 15 | 13 | 29 | 21 | 115 |
| K20-K31 | 食道，胃及び十二指腸の疾患 | | 3 | 4 | 6 | 6 | 21 | 29 | 67 | 152 | 74 | 362 |

| 2022年度　在院日数　（男） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K35-K38 | 虫垂の疾患 | | | 17 | 32 | 39 | 19 | 28 | 45 | 14 | 98 | 292 |
| K40-K46 | ヘルニア | | | | | 4 | 25 | 31 | 86 | 65 | 86 | 297 |
| K50-K52 | 非感染性腸炎及び非感染性大腸炎 | 2 | | 56 | 16 | 10 | 2 | 17 | | 14 | | 117 |
| K55 | 腸の血行障害 | | | | | | | 4 | 14 | 93 | 86 | 197 |
| K56 | 腸閉塞 | | 3 | | 11 | 2 | 38 | 29 | 35 | 81 | 123 | 322 |
| K57 | 腸の憩室性疾患 | | | | 10 | 28 | 39 | 112 | 92 | 71 | 32 | 384 |
| K58-K59 | その他の腸の機能障害 | | | 7 | | 2 | | | 4 | 17 | | 30 |
| K60-K62 | 肛門及び直腸の疾患 | | | | | 3 | | 4 | 5 | 3 | 3 | 18 |
| K63 | 結腸のその他の疾患 | | | | 2 | 8 | 109 | 213 | 244 | 538 | 348 | 1,462 |
| K64 | 痔核 | | | | | | 4 | 4 | 5 | 2 | 5 | 20 |
| K65-K67 | 腹膜の疾患 | | | | | 36 | 51 | 39 | 17 | 44 | 124 | 311 |
| K70-K77 | 肝疾患 | | | | | 15 | 92 | 59 | 91 | 124 | 71 | 452 |
| K80-K87 | 胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害 | 6 | | | 19 | 61 | 94 | 206 | 371 | 686 | 577 | 2,020 |
| K90-K93 | 消化器系のその他の疾患 | | | 3 | | 23 | 28 | 63 | 36 | 233 | 119 | 505 |
| XII | 皮膚及び皮下組織の疾患 | | | | | | | | | | | 1,190 |
| L00-L08 | 皮膚及び皮下組織の感染症 | | 8 | | 25 | 4 | 62 | 178 | 33 | 132 | 155 | 597 |
| L10-L14 | 水疱症 | | | | | | | | | 20 | 95 | 115 |
| L20-L30 | 皮膚炎及び湿疹 | | | 10 | 6 | 6 | | | | | | 22 |
| L40-L45 | 丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害 | | | | | | | | | | | |
| L50-L54 | じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑 | | | | | | | | | 8 | | 8 |
| L55-L59 | 皮膚及び皮下組織の放射線（非電離及び電離）に関連する障害 | | | | | | | | | | 5 | 5 |
| L60-L75 | 皮膚付属器の障害 | | | | 4 | 4 | 3 | 4 | 7 | 2 | | 24 |
| L80-L99 | 皮膚及び皮下組織のその他の障害 | | 19 | | | | 114 | 45 | 55 | 21 | 165 | 419 |
| XIII | 筋骨格系及び結合組織の疾患 | | | | | | | | | | | 8,943 |
| M00-M03 | 感染性関節障害 | | | | | 53 | 34 | | | | 107 | 194 |
| M05-M14 | 炎症性多発性関節障害 | | 7 | | | 3 | 19 | | 6 | 33 | 70 | 138 |
| M15-M19 | 関節症 | | | | | 53 | 78 | 367 | 998 | 550 | 281 | 2,327 |
| M20-M25 | その他の関節障害 | | 3 | 118 | 132 | 56 | 101 | 56 | 77 | 61 | 6 | 610 |
| M30-M36 | 全身性結合組織障害 | 26 | 79 | | | 18 | | 56 | 50 | 9 | 40 | 278 |
| M40-M43 | 変形性脊柱障害 | | | | | | | 32 | 140 | 136 | 57 | 365 |
| M45-M49 | 脊椎障害 | | | | | 15 | 78 | 462 | 609 | 1,428 | 698 | 3,290 |
| M50-M54 | その他の脊柱障害 | | | 13 | 22 | 85 | 84 | 126 | 93 | 111 | 66 | 600 |
| M60-M63 | 筋障害 | | | | 2 | 4 | | | 4 | | 27 | 37 |
| M65-M68 | 滑膜及び腱の障害 | | | 20 | 6 | 9 | 28 | 38 | 35 | 20 | 3 | 159 |
| M70-M79 | その他の軟部組織障害 | | | | | 4 | 97 | 191 | 58 | 107 | | 457 |
| M80-M85 | 骨の密度及び構造の障害 | | | 26 | 6 | | 7 | | 9 | 24 | 38 | 110 |
| M86-M90 | その他の骨障害 | | 5 | | 7 | 80 | 19 | 79 | 17 | 22 | 25 | 254 |
| M91-M94 | 軟骨障害 | | | 56 | | | 23 | 3 | | | | 82 |
| M95-M99 | 筋骨格系及び結合組織のその他の障害 | | | | 5 | 9 | | 26 | | | 2 | 42 |
| XIV | 腎尿路生殖器系の疾患 | | | | | | | | | | | 3,568 |
| N00-N08 | 糸球体疾患 | | 56 | 11 | 7 | 72 | 4 | 32 | 5 | 6 | 140 | 333 |
| N10-N16 | 腎尿細管間質性疾患 | 27 | 5 | 12 | | 11 | 82 | 90 | 40 | 187 | 142 | 596 |
| N17-N19 | 腎不全 | | | | 29 | | 26 | 319 | 170 | 401 | 657 | 1,602 |
| N20-N23 | 尿路結石症 | | | | | 9 | 33 | 74 | 41 | 42 | 11 | 210 |
| N25-N29 | 腎及び尿管のその他の障害 | | | | | | | | | | | |
| N30-N39 | 尿路系のその他の障害 | 20 | 24 | | 10 | 19 | 49 | 20 | 40 | 123 | 263 | 568 |
| N40-N51 | 男性生殖器の疾患 | | | 12 | 5 | | 37 | | 30 | 128 | 47 | 259 |
| N60-N64 | 乳房の障害 | | | | | | | | | | | |
| N70-N77 | 女性骨盤臓器の炎症性疾患 | | | | | | | | | | | |
| N80-N98 | 女性生殖器の非炎症性障害 | | | | | | | | | | | |
| N99 | 腎尿路生殖器系のその他の障害 | | | | | | | | | | | |
| XV | 妊娠、分娩及び産じょく‹褥› | | | | | | | | | | | |
| O00-O08 | 流産に終わった妊娠 | | | | | | | | | | | |
| O10-O16 | 妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害 | | | | | | | | | | | |
| O20-O29 | 主として妊娠に関連するその他の母体障害 | | | | | | | | | | | |
| O30-O48 | 胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題 | | | | | | | | | | | |
| O60-O75 | 分娩の合併症 | | | | | | | | | | | |
| O80-O84 | 分娩 | | | | | | | | | | | |
| O85-O92 | 主として産じょく＜褥＞に関連する合併症 | | | | | | | | | | | |
| O94-O99 | その他の産科的病態，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | |
| XVI | 周産期に発生した病態 | | | | | | | | | | | 868 |
| P00-P04 | 母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児 | 77 | | | | | | | | | | 77 |
| P05-P08 | 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害 | 274 | | | | | | | | | | 274 |
| P10-P15 | 出産外傷 | | | | | | | | | | | |
| P20-P29 | 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 | 376 | | | | | | | | | | 376 |

| 2022年度　在院日数　（男） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P35-P39 | 周産期に特異的な感染症 | | | | | | | | | | | |
| P50-P61 | 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 | 79 | | | | | | | | | | 79 |
| P70-P74 | 胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害 | 57 | | | | | | | | | | 57 |
| P75-P78 | 胎児及び新生児の消化器系障害 | | | | | | | | | | | |
| P80-P83 | 胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態 | | | | | | | | | | | |
| P90-P96 | 周産期に発生したその他の障害 | 5 | | | | | | | | | | 5 |
| XVII | 先天奇形、変形及び染色体異常 | | | | | | | | | | | 118 |
| Q00-Q07 | 神経系の先天奇形 | | 8 | | | | | | | | | 8 |
| Q10-Q18 | 眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形 | | | | | | | | | | | |
| Q20-Q28 | 循環器系の先天奇形 | | 6 | 6 | 2 | 9 | | 8 | 4 | 3 | | 38 |
| Q30-Q34 | 呼吸器系の先天奇形 | | | | | | | | | | | |
| Q35-Q37 | 唇裂及び口蓋裂 | | | | | | | | | | | |
| Q38-Q45 | 消化器系のその他の先天奇形 | | 3 | | | | | | | | 16 | 19 |
| Q50-Q56 | 生殖器の先天奇形 | | | | | | | | | | | |
| Q60-Q64 | 腎尿路系の先天奇形 | 9 | | | | | | | 4 | | | 13 |
| Q65-Q79 | 筋骨格系の先天奇形及び変形 | | 25 | 4 | | | | | | | | 29 |
| Q80-Q89 | その他の先天奇形 | | | | | | 5 | | | | 6 | 11 |
| Q90-Q99 | 染色体異常，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | |
| XVIII | 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの | | | | | | | | | | | 400 |
| R00-R09 | 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候 | | | | | | 2 | 14 | 112 | 34 | 10 | 172 |
| R10-R19 | 消化器系及び腹部に関する症状及び徴候 | | 2 | 6 | | 5 | | 17 | | | 23 | 53 |
| R20-R23 | 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候 | | | | | | | | 3 | | | 3 |
| R25-R29 | 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | 14 | | 14 |
| R30-R39 | 腎尿路系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | 14 | 14 |
| R40-R46 | 認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候 | | 2 | 2 | | | 2 | | 30 | | 3 | 39 |
| R47-R49 | 言語及び音声に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | |
| R50-R69 | 全身症状及び徴候 | 11 | 46 | | | | | 10 | 11 | 3 | 24 | 105 |
| R70-R79 | 血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R80-R82 | 尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R83-R89 | その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R90-R94 | 画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R95-R99 | 診断名不明確及び原因不明の死亡 | | | | | | | | | | | |
| XIX | 損傷、中毒及びその他の外因の影響 | | | | | | | | | | | 6,623 |
| S00-S09 | 頭部損傷 | | 8 | 11 | 7 | 27 | 54 | 70 | 84 | 243 | 938 | 1,442 |
| S10-S19 | 頚部損傷 | | | | | | | 5 | | | | 5 |
| S20-S29 | 胸部＜郭＞損傷 | | | | | 12 | | 9 | 41 | | 34 | 96 |
| S30-S39 | 腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷 | | | | | | 50 | 28 | 30 | 91 | 149 | 348 |
| S40-S49 | 肩及び上腕の損傷 | | 25 | 27 | 8 | 4 | 80 | 226 | 116 | 173 | | 659 |
| S50-S59 | 肘及び前腕の損傷 | | 14 | 43 | 15 | 13 | 32 | 16 | 20 | 15 | 7 | 175 |
| S60-S69 | 手首及び手の損傷 | | 3 | 17 | 10 | 11 | 4 | | 2 | 33 | 6 | 86 |
| S70-S79 | 股関節部及び大腿の損傷 | | 56 | 9 | | 19 | 24 | | | 81 | 149 | 338 |
| S80-S89 | 膝及び下腿の損傷 | | | 467 | 513 | 298 | 297 | 247 | 115 | 53 | 46 | 2,036 |
| S90-S99 | 足首及び足の損傷 | | | 17 | 3 | | 53 | 33 | 50 | 34 | | 190 |
| T00-T07 | 多部位の損傷 | | | 3 | | | | | | | | 3 |
| T08-T14 | 部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷 | | | | | | | | | | | |
| T15-T19 | 自然開口部からの異物侵入の作用 | | | | | | | | | | 6 | 6 |
| T20-T32 | 熱傷及び腐食 | | | | | 13 | | 12 | | 23 | | 48 |
| T33-T35 | 凍傷 | | | | | | | | | | | |
| T36-T50 | 薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒 | | | | | | | | | | | |
| T51-T65 | 薬用を主としない物質の毒作用 | | | | | | | | | | | |
| T66-T78 | 外因のその他及び詳細不明の作用 | 6 | 12 | | 1 | 1 | | | 23 | | 23 | 66 |
| T79 | 外傷の早期合併症 | | | | | | | | | 11 | | 11 |
| T80-T88 | 外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの | | | | 5 | 15 | 30 | 158 | 225 | 349 | 231 | 1,013 |
| T90-T98 | 損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症 | | | 3 | 15 | | | 65 | 18 | | | 101 |
| XXI | 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健 | | | | | | | | | | | 4 |
| Z00-Z13 | 検査及び診査のための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z20-Z29 | 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | |
| Z30-Z39 | 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z40-Z54 | 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z55-Z65 | 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | |
| Z70-Z76 | その他の環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z80-Z99 | 家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | 4 | | | | 4 |
| XXII | 特殊目的コード | | | | | | | | | | | 2,337 |
| U00-U49 | 原因不明の新たな疾患の暫定分類 | 61 | 70 | 3 | 20 | 39 | 81 | 240 | 444 | 655 | 724 | 2,337 |
| 合　計 | | 1,329 | 1,135 | 1,194 | 1,463 | 1,715 | 3,831 | 8,293 | 11,339 | 21,326 | 17,627 | 69,252 |

## ■疾病別・年齢階層別・在院日数（女）【2022年度】

| 2022年度　在院日数　（女） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 感染症及び寄生虫症 | | | | | | | | | | | 1,574 |
| A00-A09 | 腸管感染症 | 27 | 36 | 13 | 12 | 9 | 31 | 7 | 19 | 43 | 64 | 261 |
| A15-A19 | 結核 | | | | | | | | | | 28 | 28 |
| A20-A28 | 人畜共通細菌性疾患 | | | | | | | | | | | |
| A30-A49 | その他の細菌性疾患 | 27 | 5 | | | | 7 | 24 | 65 | 194 | 389 | 711 |
| A50-A64 | 主として性的伝播様式をとる感染症 | 7 | | | 6 | 21 | | 3 | | | | 37 |
| A65-A69 | その他のスピロヘータ疾患 | | | | | | | | | | | |
| A70-A74 | クラミジアによるその他の疾患 | | | | | | | | | | | |
| A75-A79 | リケッチア症 | | | | | | | | | | | |
| A80-A89 | 中枢神経系のウイルス感染症 | | | | | | | | | 8 | 24 | 32 |
| A90-A99 | 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱 | | | | | | | | | | | |
| B00-B09 | 皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症 | | 11 | 11 | | 15 | 12 | 27 | 39 | 54 | 76 | 245 |
| B15-B19 | ウイルス性肝炎 | | | | | 7 | 31 | 15 | 5 | 59 | 8 | 125 |
| B20-B24 | ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病 | | | | | | | | | | | |
| B25-B34 | その他のウイルス疾患 | 50 | 56 | 12 | 5 | | | | | | | 123 |
| B35-B49 | 真菌症 | | | | | | | 4 | 2 | | | 6 |
| B50-B64 | 原虫疾患 | | | | | | | | | | | |
| B65-B83 | ぜん＜蠕＞虫症 | | | | | 6 | | | | | | 6 |
| B85-B89 | シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症 | | | | | | | | | | | |
| B90-B94 | 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | |
| B95-B98 | 細菌，ウイルス及びその他の病原体 | | | | | | | | | | | |
| B99 | その他の感染症 | | | | | | | | | | | |
| Ⅱ-1 | 新生物（腫瘍）悪性 | | | | | | | | | | | 9,900 |
| C00-C14 | 口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C15 | 食道の悪性新生物 | | | | | | 7 | | 55 | 58 | 109 | 229 |
| C16 | 胃の悪性新生物 | | | | 13 | 5 | 42 | 56 | 148 | 355 | 184 | 803 |
| C17 | 小腸の悪性新生物 | | | | | | 47 | 23 | 43 | 171 | | 284 |
| C18 | 結腸の悪性新生物 | | | | | | 28 | 134 | 194 | 440 | 347 | 1,143 |
| C19-C20 | 直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 | | | | | | 23 | 123 | 247 | 90 | 114 | 597 |
| C21 | 肛門及び肛門管の悪性新生物 | | | | | | | | | 31 | | 31 |
| C22 | 肝及び肝内胆管の悪性新生物 | | | | | | | 11 | 13 | 97 | 150 | 271 |
| C23-C24 | 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物 | | | | | | 26 | | 4 | 86 | 108 | 224 |
| C25 | 膵の悪性新生物 | | | | | | | 63 | 128 | 311 | 156 | 658 |
| C26 | その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C30-C39 | 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 332 | 591 | 151 | 1,074 |
| C40-C41 | 骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C43-C44 | 皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 6 | 3 | 16 | 25 |
| C45-C49 | 中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 39 | 84 | 6 | 129 |
| C50 | 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 24 | 216 | 517 | 250 | 595 | 199 | 1,801 |
| C51-C58 | 女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 106 | 219 | 499 | 247 | 331 | 66 | 1,468 |
| C60-C63 | 男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C64-C68 | 腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 16 | 46 | 21 | 95 | 91 | 269 |
| C69-C72 | 眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 12 | | | | | 12 |
| C73-C75 | 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 7 | 12 | 56 | 28 | 103 |
| C76-C80 | 部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 46 | 15 | 111 | 81 | 253 |
| C81-C96 | 原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 19 | 199 | 118 | 77 | 413 |
| C97 | 独立した（原発性）多部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| D00-D09 | 上皮内新生物＜腫瘍＞ | | | | 6 | 42 | 33 | 3 | 6 | 20 | 3 | 113 |
| Ⅱ-2 | 新生物（腫瘍）良性 | | | | | | | | | | | 1,243 |
| D10-D36 | 良性新生物＜腫瘍＞ | | 8 | 5 | 62 | 111 | 214 | 122 | 89 | 176 | 53 | 840 |
| D37-D48 | 性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞ | | 4 | | 40 | 78 | 80 | 63 | 46 | 39 | 53 | 403 |
| Ⅲ | 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | | | | | | | | | | | 292 |
| D50-D53 | 栄養性貧血 | | | | | | 5 | 4 | 4 | 23 | 52 | 88 |
| D55-D59 | 溶血性貧血 | | | | | | | | | | | |
| D60-D64 | 無形成性貧血及びその他の貧血 | | | | | | | | 6 | 3 | 68 | 77 |
| D65-D69 | 凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態 | | 31 | | | | | | 11 | | 39 | 81 |
| D70-D77 | 血液及び造血器のその他の疾患 | | | | | | | 8 | 3 | | | 11 |
| D80-D89 | 免疫機構の障害 | | | | | | | 4 | 6 | 19 | 6 | 35 |
| Ⅳ | 内分泌、栄養及び代謝疾患 | | | | | | | | | | | 1,712 |
| E00-E07 | 甲状腺障害 | | 2 | | | 8 | 37 | 7 | 17 | 6 | 26 | 103 |
| E10-E14 | 糖尿病 | | 52 | | | | 15 | 124 | 102 | 324 | 234 | 851 |
| E15-E16 | その他のグルコース調節及び膵内分泌障害 | | 7 | | | | | | | 7 | | 14 |
| E20-E35 | その他の内分泌腺障害 | | 60 | 20 | 5 | 6 | 19 | 27 | 23 | 16 | 38 | 214 |
| E40-E46 | 栄養失調（症） | | | | | | | | | | | |
| E50-E64 | その他の栄養欠乏症 | | | | | | | | 9 | | | 9 |

| 2022年度　在院日数　（女） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| E65-E68 | 肥満(症)及びその他の過栄養＜過剰摂食＞ | | | | | | | 13 | 17 | | | 30 |
| E70-E90 | 代謝障害 | 4 | 17 | 3 | 32 | | 28 | 20 | 7 | 50 | 330 | 491 |
| Ⅴ | 精神及び行動の障害 | | | | | | | | | | | 132 |
| F00-F09 | 症状性を含む器質性精神障害 | | 3 | | 2 | | | | | | 53 | 58 |
| F10-F19 | 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 | | | | | | | 3 | | | | 3 |
| F20-F29 | 統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害 | | | | | | | | | | | |
| F30-F39 | 気分[感情]障害 | | | | | | | | | | 29 | 29 |
| F40-F48 | 神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害 | | | | | | | | 24 | 10 | | 34 |
| F50-F59 | 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 | | | 8 | | | | | | | | 8 |
| F60-F69 | 成人の人格及び行動の障害 | | | | | | | | | | | |
| F70-F79 | 知的障害＜精神遅滞＞ | | | | | | | | | | | |
| F80-F89 | 心理的発達の障害 | | | | | | | | | | | |
| F90-F98 | 小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 | | | | | | | | | | | |
| F99 | 詳細不明の精神障害 | | | | | | | | | | | |
| Ⅵ | 神経系の疾患 | | | | | | | | | | | 1,499 |
| G00-G09 | 中枢神経系の炎症性疾患 | | | | 251 | 8 | 46 | 26 | | 125 | 15 | 471 |
| G10-G14 | 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症 | | | | | | | | 11 | | 16 | 27 |
| G20-G26 | 錐体外路障害及び異常運動 | | | | | | | | | 68 | 13 | 81 |
| G30-G32 | 神経系のその他の変性疾患 | | | | | | | | | | | |
| G35-G37 | 中枢神経系の脱髄疾患 | | | 8 | 38 | | 14 | 41 | 5 | | | 106 |
| G40-G47 | 挿間性及び発作性障害 | 2 | 2 | 4 | 3 | 8 | | 31 | 25 | 7 | 169 | 251 |
| G50-G59 | 神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害 | | | 8 | 8 | 2 | 5 | 42 | 33 | 14 | 6 | 118 |
| G60-G64 | 多発(性)ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害 | | | 2 | | 6 | | | | 50 | 28 | 86 |
| G70-G73 | 神経筋接合部及び筋の疾患 | | | | | | | | | 37 | 145 | 182 |
| G80-G83 | 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群 | | | | | 11 | | | | | | 11 |
| G90-G99 | 神経系のその他の障害 | | | | | 8 | 17 | 36 | | 105 | | 166 |
| Ⅶ | 眼及び付属器の疾患 | | | | | | | | | | | 1,793 |
| H00-H06 | 眼瞼，涙器及び眼窩の障害 | 3 | | 3 | | | | 11 | 14 | 54 | 20 | 105 |
| H10-H13 | 結膜の障害 | | | | | | | | | | | |
| H15-H22 | 強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害 | | | 2 | | | | | | 28 | 2 | 32 |
| H25-H28 | 水晶体の障害 | | | | 5 | 6 | 17 | 79 | 129 | 351 | 323 | 910 |
| H30-H36 | 脈絡膜及び網膜の障害 | | | | 23 | 9 | 43 | 80 | 67 | 24 | 38 | 284 |
| H40-H42 | 緑内障 | | | 2 | 28 | 5 | 23 | 37 | 54 | 126 | 30 | 305 |
| H43-H45 | 硝子体及び眼球の障害 | | | | | | 3 | 17 | 29 | 32 | 51 | 132 |
| H46-H48 | 視神経及び視(覚)路の障害 | | | | | | | | 8 | | | 8 |
| H49-H52 | 眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害 | | | | | | | 15 | | | | 15 |
| H53-H54 | 視機能障害及び盲＜失明＞ | | | | | | | | | | | |
| H55-H59 | 眼及び付属器のその他の障害 | | | | 2 | | | | | | | 2 |
| Ⅷ | 耳及び乳様突起の疾患 | | | | | | | | | | | 107 |
| H60-H62 | 外耳疾患 | | | | | | | | | | | |
| H65-H75 | 中耳及び乳様突起の疾患 | | 7 | | | | | | | 4 | | 11 |
| H80-H83 | 内耳疾患 | | | | | 2 | 3 | 4 | 12 | 14 | 7 | 42 |
| H90-H95 | 耳のその他の障害 | | | 8 | 18 | 10 | | | | 18 | | 54 |
| Ⅸ | 循環器系の疾患 | | | | | | | | | | | 10,084 |
| I00-I02 | 急性リウマチ熱 | | | | | | | | | | | |
| I05-I09 | 慢性リウマチ性心疾患 | | | | | | | | | | 26 | 26 |
| I10-I15 | 高血圧性疾患 | | | | | 5 | | | | | 21 | 26 |
| I20-I25 | 虚血性心疾患 | | | | | | 11 | 75 | 70 | 338 | 189 | 683 |
| I26-I28 | 肺性心疾患及び肺循環疾患 | | | | | | 2 | 22 | 10 | 84 | 10 | 128 |
| I30-I52 | その他の型の心疾患 | | | | 8 | 33 | | 112 | 271 | 887 | 2,813 | 4,124 |
| I60-I69 | 脳血管疾患 | | | | 2 | 22 | 70 | 403 | 474 | 931 | 2,109 | 4,011 |
| I70-I79 | 動脈，細動脈及び毛細血管の疾患 | | | | | | 103 | 105 | 189 | 252 | 243 | 892 |
| I80-I89 | 静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの | | | | | 3 | 13 | 11 | 20 | 85 | 62 | 194 |
| I95-I99 | 循環器系のその他及び詳細不明の障害 | | | | | | | | | | | |
| Ⅹ | 呼吸器系の疾患 | | | | | | | | | | | 4,691 |
| J00-J06 | 急性上気道感染症 | 10 | 56 | 5 | 24 | | 5 | 12 | | | 47 | 159 |
| J09-J18 | インフルエンザ及び肺炎 | 37 | 91 | | 5 | 9 | 6 | | 183 | 272 | 1,219 | 1,822 |
| J20-J22 | その他の急性下気道感染症 | 113 | 107 | | | | | | | | | 220 |
| J30-J39 | 上気道のその他の疾患 | | 11 | 1 | 65 | 68 | 59 | 59 | 44 | 18 | 1 | 326 |
| J40-J47 | 慢性下気道疾患 | 12 | 98 | 10 | 3 | 15 | 24 | 5 | 33 | 9 | 81 | 290 |
| J60-J70 | 外的因子による肺疾患 | | | | | | | 13 | 78 | 138 | 894 | 1,123 |
| J80-J84 | 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患 | | | | | | 33 | | 5 | 120 | 70 | 228 |
| J85-J86 | 下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態 | | | | | | 44 | | 17 | 88 | 70 | 219 |
| J90-J94 | 胸膜のその他の疾患 | | | 19 | | 4 | | | | 14 | 118 | 155 |
| J95-J99 | 呼吸器系のその他の疾患 | 10 | 14 | | | | | 9 | | 33 | 83 | 149 |
| Ⅺ | 消化器系の疾患 | | | | | | | | | | | 6,426 |
| K00-K14 | 口腔，唾液腺及び顎の疾患 | | 6 | | 6 | 3 | | 5 | 3 | 29 | 21 | 73 |
| K20-K31 | 食道，胃及び十二指腸の疾患 | | | | | 10 | 73 | 22 | 53 | 151 | 147 | 456 |

| 2022年度　在院日数　（女） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K35-K38 | 虫垂の疾患 | | 12 | 5 | 37 | 29 | 64 | 26 | 13 | 6 | 68 | 260 |
| K40-K46 | ヘルニア | 10 | | | | | 8 | | 32 | 29 | 57 | 136 |
| K50-K52 | 非感染性腸炎及び非感染性大腸炎 | | | 16 | 3 | 21 | 11 | 18 | 10 | 3 | 5 | 87 |
| K55 | 腸の血行障害 | | | | | | 6 | 18 | 17 | 99 | 110 | 250 |
| K56 | 腸閉塞 | | | | | | 12 | 130 | 51 | 97 | 390 | 680 |
| K57 | 腸の憩室性疾患 | | | | 7 | 18 | 22 | 19 | 35 | 66 | 103 | 270 |
| K58-K59 | その他の腸の機能障害 | | | | | | | 2 | 8 | | | 10 |
| K60-K62 | 肛門及び直腸の疾患 | | | | | 2 | 2 | 8 | 20 | 18 | 133 | 183 |
| K63 | 結腸のその他の疾患 | | | | 7 | 11 | 51 | 131 | 157 | 429 | 415 | 1,201 |
| K64 | 痔核 | | | | | 7 | 9 | | 6 | 28 | 26 | 76 |
| K65-K67 | 腹膜の疾患 | | | 1 | | 9 | | | | 45 | 122 | 177 |
| K70-K77 | 肝疾患 | | | | 4 | 9 | 127 | 15 | 68 | 107 | 224 | 554 |
| K80-K87 | 胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害 | | | | 25 | 60 | 153 | 189 | 126 | 336 | 728 | 1,617 |
| K90-K93 | 消化器系のその他の疾患 | | | | 2 | | | 23 | 20 | 116 | 235 | 396 |
| XII | 皮膚及び皮下組織の疾患 | | | | | | | | | | | 1,149 |
| L00-L08 | 皮膚及び皮下組織の感染症 | 12 | 21 | | | 27 | 5 | 61 | 65 | 141 | 199 | 531 |
| L10-L14 | 水疱症 | | | | | | | 79 | | 91 | 146 | 316 |
| L20-L30 | 皮膚炎及び湿疹 | | | 3 | | 4 | 4 | | 5 | 18 | 18 | 52 |
| L40-L45 | 丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害 | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| L50-L54 | じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑 | | 3 | | 32 | 13 | | 24 | | | | 72 |
| L55-L59 | 皮膚及び皮下組織の放射線（非電離及び電離）に関連する障害 | | | | | | | | | | | |
| L60-L75 | 皮膚付属器の障害 | | | 4 | | 8 | 4 | 17 | 6 | | | 39 |
| L80-L99 | 皮膚及び皮下組織のその他の障害 | | | | 49 | | | | | | 87 | 136 |
| XIII | 筋骨格系及び結合組織の疾患 | | | | | | | | | | | 13,422 |
| M00-M03 | 感染性関節障害 | | | | 10 | | | 29 | | 48 | 107 | 194 |
| M05-M14 | 炎症性多発性関節障害 | | | | | | 48 | 57 | 150 | 131 | 124 | 510 |
| M15-M19 | 関節症 | | | 5 | 18 | 16 | 163 | 1,109 | 1,586 | 3,076 | 1,554 | 7,527 |
| M20-M25 | その他の関節障害 | | | 124 | 76 | 46 | 93 | 152 | 38 | 49 | 94 | 672 |
| M30-M36 | 全身性結合組織障害 | 8 | 46 | | | | 52 | | 60 | | 14 | 180 |
| M40-M43 | 変形性脊柱障害 | | | | | | 24 | 114 | 44 | 314 | 267 | 763 |
| M45-M49 | 脊椎障害 | | | | 14 | | 51 | 186 | 193 | 716 | 595 | 1,755 |
| M50-M54 | その他の脊柱障害 | | | 6 | 9 | 46 | 78 | 67 | 39 | 79 | 32 | 356 |
| M60-M63 | 筋障害 | | | | | 12 | | | | 3 | 35 | 50 |
| M65-M68 | 滑膜及び腱の障害 | | | 19 | 5 | 12 | 16 | 54 | 50 | 65 | | 221 |
| M70-M79 | その他の軟部組織障害 | | | | | | 27 | 78 | 102 | 187 | 31 | 425 |
| M80-M85 | 骨の密度及び構造の障害 | | | | 8 | | 4 | 13 | | 6 | 87 | 118 |
| M86-M90 | その他の骨障害 | | | | | | 5 | 34 | 14 | 52 | 65 | 170 |
| M91-M94 | 軟骨障害 | | | 30 | 29 | 3 | | | | | | 62 |
| M95-M99 | 筋骨格系及び結合組織のその他の障害 | | | | | | | 5 | 20 | 31 | 363 | 419 |
| XIV | 腎尿路生殖器系の疾患 | | | | | | | | | | | 3,134 |
| N00-N08 | 糸球体疾患 | | | 52 | | | 18 | 40 | 72 | 4 | 106 | 292 |
| N10-N16 | 腎尿細管間質性疾患 | 19 | 31 | | 26 | 33 | 30 | 22 | 129 | 113 | 214 | 617 |
| N17-N19 | 腎不全 | | | | | 4 | | 64 | 97 | 271 | 238 | 674 |
| N20-N23 | 尿路結石症 | | | | | | | 4 | 20 | 16 | 20 | 60 |
| N25-N29 | 腎及び尿管のその他の障害 | | | | | | | | 28 | | | 28 |
| N30-N39 | 尿路系のその他の障害 | 14 | 7 | | 5 | | | | 48 | 45 | 732 | 851 |
| N40-N51 | 男性生殖器の疾患 | | | | | | | | | | | |
| N60-N64 | 乳房の障害 | | | | | | | 4 | | 5 | | 9 |
| N70-N77 | 女性骨盤臓器の炎症性疾患 | | | 14 | 22 | 27 | 50 | 17 | 2 | | 28 | 160 |
| N80-N98 | 女性生殖器の非炎症性障害 | | | | 69 | 128 | 138 | 46 | 18 | 22 | 22 | 443 |
| N99 | 腎尿路生殖器系のその他の障害 | | | | | | | | | | | |
| XV | 妊娠、分娩及び産じょく‹褥› | | | | | | | | | | | 4,430 |
| O00-O08 | 流産に終わった妊娠 | | | 3 | 40 | 134 | 21 | | | | | 198 |
| O10-O16 | 妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害 | | | | 2 | 135 | 9 | | | | | 146 |
| O20-O29 | 主として妊娠に関連するその他の母体障害 | | | | 69 | 374 | 14 | | | | | 457 |
| O30-O48 | 胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題 | | | | 90 | 387 | 137 | | | | | 614 |
| O60-O75 | 分娩の合併症 | | | | 124 | 438 | 140 | | | | | 702 |
| O80-O84 | 分娩 | | | 7 | 518 | 1,507 | 224 | | | | | 2,256 |
| O85-O92 | 主として産じょく＜褥＞に関連する合併症 | | | | | 29 | 9 | | | | | 38 |
| O94-O99 | その他の産科的病態，他に分類されないもの | | | | | 19 | | | | | | 19 |
| XVI | 周産期に発生した病態 | | | | | | | | | | | 844 |
| P00-P04 | 母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児 | 196 | | | | | | | | | | 196 |
| P05-P08 | 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害 | 190 | | | | | | | | | | 190 |
| P10-P15 | 出産外傷 | | | | | | | | | | | |
| P20-P29 | 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 | 356 | | | | | | | | | | 356 |

| 2022年度　在院日数　（女） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P35-P39 | 周産期に特異的な感染症 | | | | | | | | | | | |
| P50-P61 | 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 | 44 | | | | | | | | | | 44 |
| P70-P74 | 胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害 | 58 | | | | | | | | | | 58 |
| P75-P78 | 胎児及び新生児の消化器系障害 | | | | | | | | | | | |
| P80-P83 | 胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態 | | | | | | | | | | | |
| P90-P96 | 周産期に発生したその他の障害 | | | | | | | | | | | |
| XVII | 先天奇形、変形及び染色体異常 | | | | | | | | | | | 178 |
| Q00-Q07 | 神経系の先天奇形 | | | | | 19 | | | | | | 19 |
| Q10-Q18 | 眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形 | | | | 6 | | | | | | | 6 |
| Q20-Q28 | 循環器系の先天奇形 | 1 | | 8 | 9 | | 5 | | | | 21 | 44 |
| Q30-Q34 | 呼吸器系の先天奇形 | | | | | | | | | | | |
| Q35-Q37 | 唇裂及び口蓋裂 | 7 | | | | | | | | | | 7 |
| Q38-Q45 | 消化器系のその他の先天奇形 | | | | | 3 | | | | | | 3 |
| Q50-Q56 | 生殖器の先天奇形 | | | | | | | | 3 | | | 3 |
| Q60-Q64 | 腎尿路系の先天奇形 | | | | | | | | | 83 | | 83 |
| Q65-Q79 | 筋骨格系の先天奇形及び変形 | | | | | | | 3 | | | | 3 |
| Q80-Q89 | その他の先天奇形 | 8 | 2 | | | | | | | | | 10 |
| Q90-Q99 | 染色体異常，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | |
| XVIII | 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの | | | | | | | | | | | 502 |
| R00-R09 | 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | 54 | 158 | 212 |
| R10-R19 | 消化器系及び腹部に関する症状及び徴候 | | 3 | | 5 | | 5 | 4 | | | 33 | 50 |
| R20-R23 | 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候 | 3 | | | | 2 | | | | | | 5 |
| R25-R29 | 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | 8 | 8 |
| R30-R39 | 腎尿路系に関する症状及び徴候 | 6 | | | | | | | | | | 6 |
| R40-R46 | 認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | 10 | 10 |
| R47-R49 | 言語及び音声に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | |
| R50-R69 | 全身症状及び徴候 | 25 | 67 | 2 | 1 | 3 | | | 2 | 58 | 41 | 199 |
| R70-R79 | 血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | 6 | 6 | | | | 12 |
| R80-R82 | 尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R83-R89 | その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R90-R94 | 画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R95-R99 | 診断名不明確及び原因不明の死亡 | | | | | | | | | | | |
| XIX | 損傷、中毒及びその他の外因の影響 | | | | | | | | | | | 5,716 |
| S00-S09 | 頭部損傷 | | | | | 6 | 35 | 4 | 27 | 16 | 289 | 377 |
| S10-S19 | 頚部損傷 | | | | | | | | | | 42 | 42 |
| S20-S29 | 胸部＜郭＞損傷 | | | | 14 | | | | 23 | 135 | 62 | 234 |
| S30-S39 | 腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷 | | | | 16 | | | | 51 | 126 | 260 | 453 |
| S40-S49 | 肩及び上腕の損傷 | | 12 | | | 4 | 11 | 26 | 132 | 263 | 268 | 716 |
| S50-S59 | 肘及び前腕の損傷 | | 6 | 9 | 31 | 7 | 5 | 32 | 97 | 76 | 130 | 393 |
| S60-S69 | 手首及び手の損傷 | | | 3 | | 4 | 2 | 14 | | | | 23 |
| S70-S79 | 股関節部及び大腿の損傷 | | | | | | | 13 | 89 | 264 | 876 | 1,242 |
| S80-S89 | 膝及び下腿の損傷 | | | 342 | 142 | 167 | 263 | 184 | 32 | 60 | 82 | 1,272 |
| S90-S99 | 足首及び足の損傷 | | | 17 | 8 | | 9 | | 23 | 18 | | 75 |
| T00-T07 | 多部位の損傷 | | | | | | | | | | 18 | 18 |
| T08-T14 | 部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷 | | | | 8 | | | | | | | 8 |
| T15-T19 | 自然開口部からの異物侵入の作用 | | | | | | | | | 2 | 6 | 8 |
| T20-T32 | 熱傷及び腐食 | | | | | 13 | | | | | | 13 |
| T33-T35 | 凍傷 | | | | | | | | | | | |
| T36-T50 | 薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒 | | | | | | | 4 | | | | 4 |
| T51-T65 | 薬用を主としない物質の毒作用 | | | | | | | | | | | |
| T66-T78 | 外因のその他及び詳細不明の作用 | 8 | 13 | 10 | 6 | 3 | | 14 | 7 | 6 | 8 | 75 |
| T79 | 外傷の早期合併症 | | | | | | | | | | | |
| T80-T88 | 外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの | | | | | | 14 | 43 | 85 | 291 | 330 | 763 |
| T90-T98 | 損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | |
| XXI | 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健 | | | | | | | | | | | 18 |
| Z00-Z13 | 検査及び診査のための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z20-Z29 | 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | |
| Z30-Z39 | 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z40-Z54 | 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者 | | | | | | | 18 | | | | 18 |
| Z55-Z65 | 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | |
| Z70-Z76 | その他の環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z80-Z99 | 家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | |
| XXII | 特殊目的コード | | | | | | | | | | | 2,238 |
| U00-U49 | 原因不明の新たな疾患の暫定分類 | 16 | 84 | 18 | 88 | 123 | 97 | 112 | 301 | 389 | 1,010 | 2,238 |
| 合　計 | | 1,283 | 991 | 842 | 2,306 | 4,607 | 4,043 | 6,626 | 8,511 | 17,883 | 23,992 | 71,084 |

## ■疾病別・年齢階層別・死亡退院患者数　【2022年度】

| 2022年度　（死亡） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合　計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 感染症及び寄生虫症 | | | | | | | | | | | 18 | 214 |
| A00-A09 | 腸管感染症 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 22 |
| A15-A19 | 結核 | | | | | | | | | | | | |
| A20-A28 | 人畜共通細菌性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A30-A49 | その他の細菌性疾患 | | | | | | | 2 | 3 | 3 | 9 | 17 | 192 |
| A50-A64 | 主として性的伝播様式をとる感染症 | | | | | | | | | | | | |
| A65-A69 | その他のスピロヘータ疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A70-A74 | クラミジアによるその他の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A75-A79 | リケッチア症 | | | | | | | | | | | | |
| A80-A89 | 中枢神経系のウイルス感染症 | | | | | | | | | | | | |
| A90-A99 | 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱 | | | | | | | | | | | | |
| B00-B09 | 皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症 | | | | | | | | | | | | |
| B15-B19 | ウイルス性肝炎 | | | | | | | | | | | | |
| B20-B24 | ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病 | | | | | | | | | | | | |
| B25-B34 | その他のウイルス疾患 | | | | | | | | | | | | |
| B35-B49 | 真菌症 | | | | | | | | | | | | |
| B50-B64 | 原虫疾患 | | | | | | | | | | | | |
| B65-B83 | ぜん＜蠕＞虫症 | | | | | | | | | | | | |
| B85-B89 | シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症 | | | | | | | | | | | | |
| B90-B94 | 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | | |
| B95-B98 | 細菌，ウイルス及びその他の病原体 | | | | | | | | | | | | |
| B99 | その他の感染症 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅱ-1 | 新生物（腫瘍）悪性 | | | | | | | | | | | 57 | 1,410 |
| C00-C14 | 口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C15 | 食道の悪性新生物 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 10 |
| C16 | 胃の悪性新生物 | | | | | | | | 1 | 3 | 2 | 6 | 114 |
| C17 | 小腸の悪性新生物 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 4 |
| C18 | 結腸の悪性新生物 | | | | | | | 1 | 1 | 3 | 1 | 6 | 107 |
| C19-C20 | 直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 3 | 44 |
| C21 | 肛門及び肛門管の悪性新生物 | | | | | | | | | | | | |
| C22 | 肝及び肝内胆管の悪性新生物 | | | | | | | | 1 | 2 | | 3 | 48 |
| C23-C24 | 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物 | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 63 |
| C25 | 膵の悪性新生物 | | | | | | | | | 3 | 3 | 6 | 378 |
| C26 | その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C30-C39 | 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 1 | 3 | 2 | 3 | 9 | 191 |
| C40-C41 | 骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C43-C44 | 皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C45-C49 | 中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C50 | 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 1 | 3 | 1 | 5 | 142 |
| C51-C58 | 女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 6 | 169 |
| C60-C63 | 男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 3 | 40 |
| C64-C68 | 腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 1 | | | | 1 | 3 |
| C69-C72 | 眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C73-C75 | 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | 1 | 1 | 28 |
| C76-C80 | 部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 1 | 2 | 1 | 4 | 69 |
| C81-C96 | 原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C97 | 独立した（原発性）多部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| D00-D09 | 上皮内新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| Ⅱ-2 | 新生物（腫瘍）良性 | | | | | | | | | | | 1 | 26 |
| D10-D36 | 良性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | 1 | 1 | 26 |
| D37-D48 | 性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| Ⅲ | 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | | | | | | | | | | | 1 | 39 |
| D50-D53 | 栄養性貧血 | | | | | | | | | | | | |
| D55-D59 | 溶血性貧血 | | | | | | | | | | | | |
| D60-D64 | 無形成性貧血及びその他の貧血 | | | | | | | | | | | | |
| D65-D69 | 凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 39 |
| D70-D77 | 血液及び造血器のその他の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| D80-D89 | 免疫機構の障害 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅳ | 内分泌、栄養及び代謝疾患 | | | | | | | | | | | 2 | 25 |
| E00-E07 | 甲状腺障害 | | | | | | 1 | | | | 1 | 2 | 25 |
| E10-E14 | 糖尿病 | | | | | | | | | | | | |
| E15-E16 | その他のグルコース調節及び膵内分泌障害 | | | | | | | | | | | | |
| E20-E35 | その他の内分泌腺障害 | | | | | | | | | | | | |
| E40-E46 | 栄養失調（症） | | | | | | | | | | | | |
| E50-E64 | その他の栄養欠乏症 | | | | | | | | | | | | |

| 2022年度　(死亡) | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合　計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| E65-E68 | 肥満(症)及びその他の過栄養＜過剰摂食＞ | | | | | | | | | | | | |
| E70-E90 | 代謝障害 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅴ | 精神及び行動の障害 | | | | | | | | | | | 1 | 24 |
| F00-F09 | 症状性を含む器質性精神障害 | | | | | | | | | | | | |
| F10-F19 | 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F20-F29 | 統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害 | | | | | | | | | | | | |
| F30-F39 | 気分[感情]障害 | | | | | | | | | | | | |
| F40-F48 | 神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 24 |
| F50-F59 | 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 | | | | | | | | | | | | |
| F60-F69 | 成人の人格及び行動の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F70-F79 | 知的障害＜精神遅滞＞ | | | | | | | | | | | | |
| F80-F89 | 心理的発達の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F90-F98 | 小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F99 | 詳細不明の精神障害 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅵ | 神経系の疾患 | | | | | | | | | | | 5 | 98 |
| G00-G09 | 中枢神経系の炎症性疾患 | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 31 |
| G10-G14 | 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 |
| G20-G26 | 錐体外路障害及び異常運動 | | | | | | | | | | | | |
| G30-G32 | 神経系のその他の変性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| G35-G37 | 中枢神経系の脱髄疾患 | | | | | | | | | | | | |
| G40-G47 | 挿間性及び発作性障害 | | | | | | | | | | | | |
| G50-G59 | 神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害 | | | | | | | | | | | | |
| G60-G64 | 多発(性)ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害 | | | | | | | | | | | | |
| G70-G73 | 神経筋接合部及び筋の疾患 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 66 |
| G80-G83 | 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群 | | | | | | | | | | | | |
| G90-G99 | 神経系のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅶ | 眼及び付属器の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| H00-H06 | 眼瞼，涙器及び眼窩の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H10-H13 | 結膜の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H15-H22 | 強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H25-H28 | 水晶体の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H30-H36 | 脈絡膜及び網膜の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H40-H42 | 緑内障 | | | | | | | | | | | | |
| H43-H45 | 硝子体及び眼球の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H46-H48 | 視神経及び視(覚)路の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H49-H52 | 眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H53-H54 | 視機能障害及び盲＜失明＞ | | | | | | | | | | | | |
| H55-H59 | 眼及び付属器のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅷ | 耳及び乳様突起の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| H60-H62 | 外耳疾患 | | | | | | | | | | | | |
| H65-H75 | 中耳及び乳様突起の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| H80-H83 | 内耳疾患 | | | | | | | | | | | | |
| H90-H95 | 耳のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅸ | 循環器系の疾患 | | | | | | | | | | | 59 | 1,092 |
| I00-I02 | 急性リウマチ熱 | | | | | | | | | | | | |
| I05-I09 | 慢性リウマチ性心疾患 | | | | | | | | | | | | |
| I10-I15 | 高血圧性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| I20-I25 | 虚血性心疾患 | | | | | | | 1 | 2 | | 3 | 6 | 53 |
| I26-I28 | 肺性心疾患及び肺循環疾患 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 |
| I30-I52 | その他の型の心疾患 | | | | | | | | 2 | 2 | 14 | 18 | 367 |
| I60-I69 | 脳血管疾患 | | | | | | 1 | 4 | 5 | 4 | 12 | 26 | 522 |
| I70-I79 | 動脈，細動脈及び毛細血管の疾患 | | | | | | 1 | | 1 | 2 | 4 | 8 | 149 |
| I80-I89 | 静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| I95-I99 | 循環器系のその他及び詳細不明の障害 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅹ | 呼吸器系の疾患 | | | | | | | | | | | 42 | 861 |
| J00-J06 | 急性上気道感染症 | | | | | | | | | | | | |
| J09-J18 | インフルエンザ及び肺炎 | | | | | | | | | 4 | 12 | 16 | 284 |
| J20-J22 | その他の急性下気道感染症 | | | | | | | | | | | | |
| J30-J39 | 上気道のその他の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| J40-J47 | 慢性下気道疾患 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 53 |
| J60-J70 | 外的因子による肺疾患 | | | | | | | | 1 | 3 | 9 | 13 | 287 |
| J80-J84 | 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患 | | | | | | | | | 2 | 6 | 8 | 212 |
| J85-J86 | 下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 6 |
| J90-J94 | 胸膜のその他の疾患 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| J95-J99 | 呼吸器系のその他の疾患 | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | 17 |
| Ⅺ | 消化器系の疾患 | | | | | | | | | | | 19 | 298 |
| K00-K14 | 口腔，唾液腺及び顎の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| K20-K31 | 食道，胃及び十二指腸の疾患 | | | | | | | | | | | | |

| 2022年度　（死亡） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合　計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K35-K38 | 虫垂の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| K40-K46 | ヘルニア | | | | | | | | | | | | |
| K50-K52 | 非感染性腸炎及び非感染性大腸炎 | | | | | | | | | | | | |
| K55 | 腸の血行障害 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 4 |
| K56 | 腸閉塞 | | | | | | | | | | 3 | 3 | 45 |
| K57 | 腸の憩室性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| K58-K59 | その他の腸の機能障害 | | | | | | | | | | | | |
| K60-K62 | 肛門及び直腸の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| K63 | 結腸のその他の疾患 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 |
| K64 | 痔核 | | | | | | | | | | | | |
| K65-K67 | 腹膜の疾患 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 19 |
| K70-K77 | 肝疾患 | | | | | | | | 4 | 2 | 2 | 8 | 108 |
| K80-K87 | 胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害 | | | | | | | | | | 4 | 4 | 119 |
| K90-K93 | 消化器系のその他の疾患 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 2 |
| XII | 皮膚及び皮下組織の疾患 | | | | | | | | | | | 1 | 41 |
| L00-L08 | 皮膚及び皮下組織の感染症 | | | | | | | | | | | | |
| L10-L14 | 水疱症 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 41 |
| L20-L30 | 皮膚炎及び湿疹 | | | | | | | | | | | | |
| L40-L45 | 丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害 | | | | | | | | | | | | |
| L50-L54 | じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑 | | | | | | | | | | | | |
| L55-L59 | 皮膚及び皮下組織の放射線（非電離及び電離）に関連する障害 | | | | | | | | | | | | |
| L60-L75 | 皮膚付属器の障害 | | | | | | | | | | | | |
| L80-L99 | 皮膚及び皮下組織のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| XIII | 筋骨格系及び結合組織の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| M00-M03 | 感染性関節障害 | | | | | | | | | | | | |
| M05-M14 | 炎症性多発性関節障害 | | | | | | | | | | | | |
| M15-M19 | 関節症 | | | | | | | | | | | | |
| M20-M25 | その他の関節障害 | | | | | | | | | | | | |
| M30-M36 | 全身性結合組織障害 | | | | | | | | | | | | |
| M40-M43 | 変形性脊柱障害 | | | | | | | | | | | | |
| M45-M49 | 脊椎障害 | | | | | | | | | | | | |
| M50-M54 | その他の脊柱障害 | | | | | | | | | | | | |
| M60-M63 | 筋障害 | | | | | | | | | | | | |
| M65-M68 | 滑膜及び腱の障害 | | | | | | | | | | | | |
| M70-M79 | その他の軟部組織障害 | | | | | | | | | | | | |
| M80-M85 | 骨の密度及び構造の障害 | | | | | | | | | | | | |
| M86-M90 | その他の骨障害 | | | | | | | | | | | | |
| M91-M94 | 軟骨障害 | | | | | | | | | | | | |
| M95-M99 | 筋骨格系及び結合組織のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| XIV | 腎尿路生殖器系の疾患 | | | | | | | | | | | 7 | 223 |
| N00-N08 | 糸球体疾患 | | | | | | | | | | | | |
| N10-N16 | 腎尿細管間質性疾患 | | | | | | | | | 2 | 2 | 4 | 49 |
| N17-N19 | 腎不全 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 6 |
| N20-N23 | 尿路結石症 | | | | | 1 | | | | | | 1 | 9 |
| N25-N29 | 腎及び尿管のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| N30-N39 | 尿路系のその他の障害 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 159 |
| N40-N51 | 男性生殖器の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| N60-N64 | 乳房の障害 | | | | | | | | | | | | |
| N70-N77 | 女性骨盤臓器の炎症性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| N80-N98 | 女性生殖器の非炎症性障害 | | | | | | | | | | | | |
| N99 | 腎尿路生殖器系のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| XV | 妊娠、分娩及び産じょく‹褥› | | | | | | | | | | | | |
| O00-O08 | 流産に終わった妊娠 | | | | | | | | | | | | |
| O10-O16 | 妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害 | | | | | | | | | | | | |
| O20-O29 | 主として妊娠に関連するその他の母体障害 | | | | | | | | | | | | |
| O30-O48 | 胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題 | | | | | | | | | | | | |
| O60-O75 | 分娩の合併症 | | | | | | | | | | | | |
| O80-O84 | 分娩 | | | | | | | | | | | | |
| O85-O92 | 主として産じょく＜褥＞に関連する合併症 | | | | | | | | | | | | |
| O94-O99 | その他の産科的病態，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| XVI | 周産期に発生した病態 | | | | | | | | | | | | |
| P00-P04 | 母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児 | | | | | | | | | | | | |
| P05-P08 | 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害 | | | | | | | | | | | | |
| P10-P15 | 出産外傷 | | | | | | | | | | | | |
| P20-P29 | 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 | | | | | | | | | | | | |

| 2022年度　（死亡） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合　計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P35-P39 | 周産期に特異的な感染症 | | | | | | | | | | | | |
| P50-P61 | 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 | | | | | | | | | | | | |
| P70-P74 | 胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害 | | | | | | | | | | | | |
| P75-P78 | 胎児及び新生児の消化器系障害 | | | | | | | | | | | | |
| P80-P83 | 胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態 | | | | | | | | | | | | |
| P90-P96 | 周産期に発生したその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| XVII | 先天奇形、変形及び染色体異常 | | | | | | | | | | | | |
| Q00-Q07 | 神経系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q10-Q18 | 眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q20-Q28 | 循環器系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q30-Q34 | 呼吸器系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q35-Q37 | 唇裂及び口蓋裂 | | | | | | | | | | | | |
| Q38-Q45 | 消化器系のその他の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q50-Q56 | 生殖器の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q60-Q64 | 腎尿路系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q65-Q79 | 筋骨格系の先天奇形及び変形 | | | | | | | | | | | | |
| Q80-Q89 | その他の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q90-Q99 | 染色体異常，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| XVIII | 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの | | | | | | | | | | | 2 | 23 |
| R00-R09 | 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 20 |
| R10-R19 | 消化器系及び腹部に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R20-R23 | 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R25-R29 | 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R30-R39 | 腎尿路系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R40-R46 | 認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R47-R49 | 言語及び音声に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R50-R69 | 全身症状及び徴候 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 3 |
| R70-R79 | 血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R80-R82 | 尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R83-R89 | その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R90-R94 | 画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R95-R99 | 診断名不明確及び原因不明の死亡 | | | | | | | | | | | | |
| XIX | 損傷、中毒及びその他の外因の影響 | | | | | | | | | | | 7 | 778 |
| S00-S09 | 頭部損傷 | | | | | | | | | 1 | 4 | 5 | 762 |
| S10-S19 | 頚部損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S20-S29 | 胸部＜郭＞損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S30-S39 | 腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S40-S49 | 肩及び上腕の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S50-S59 | 肘及び前腕の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S60-S69 | 手首及び手の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S70-S79 | 股関節部及び大腿の損傷 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 14 |
| S80-S89 | 膝及び下腿の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S90-S99 | 足首及び足の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| T00-T07 | 多部位の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| T08-T14 | 部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| T15-T19 | 自然開口部からの異物侵入の作用 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| T20-T32 | 熱傷及び腐食 | | | | | | | | | | | | |
| T33-T35 | 凍傷 | | | | | | | | | | | | |
| T36-T50 | 薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒 | | | | | | | | | | | | |
| T51-T65 | 薬用を主としない物質の毒作用 | | | | | | | | | | | | |
| T66-T78 | 外因のその他及び詳細不明の作用 | | | | | | | | | | | | |
| T79 | 外傷の早期合併症 | | | | | | | | | | | | |
| T80-T88 | 外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| T90-T98 | 損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | | |
| XXI | 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健 | | | | | | | | | | | | |
| Z00-Z13 | 検査及び診査のための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z20-Z29 | 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| Z30-Z39 | 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z40-Z54 | 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z55-Z65 | 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| Z70-Z76 | その他の環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z80-Z99 | 家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| XXII | 特殊目的コード | | | | | | | | | | | 14 | 188 |
| U00-U49 | 原因不明の新たな疾患の暫定分類 | | | | | | | | 1 | 4 | 9 | 14 | 188 |
| 合　計 | | | | | | 1 | 4 | 12 | 33 | 60 | 126 | 236 | 5,340 |

## ■がん登録　【2021年】

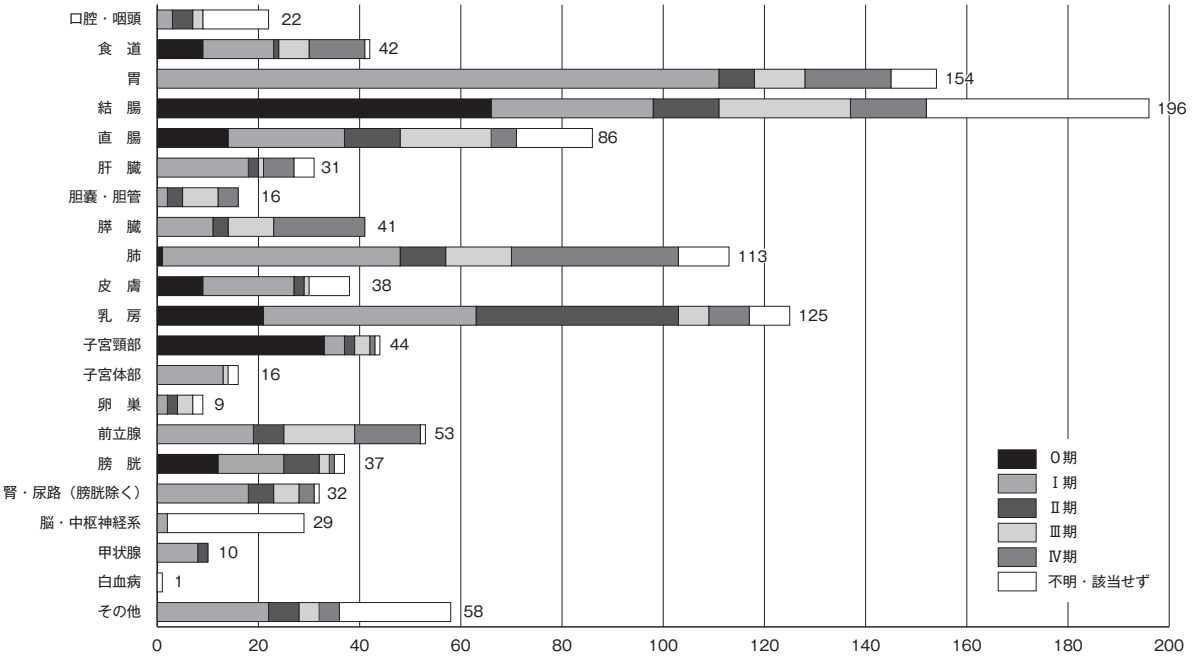
2021年１月１日～2021年12月31日診断　がん登録件数　（部位別及びステージ別）

| 部　位 | 0期 | Ⅰ期 | Ⅱ期 | Ⅲ期 | Ⅳ期 | 不明<br>該当せず | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 口腔・咽頭 | | 3 | 4 | 2 | | 13 | 22 |
| 食　道 | 9 | 14 | 1 | 6 | 11 | 1 | 42 |
| 胃 | | 111 | 7 | 10 | 17 | 9 | 154 |
| 結　腸 | 66 | 32 | 13 | 26 | 15 | 44 | 196 |
| 直　腸 | 14 | 23 | 11 | 18 | 5 | 15 | 86 |
| 肝　臓 | | 18 | 2 | 1 | 6 | 4 | 31 |
| 胆嚢・胆管 | | 2 | 3 | 7 | 4 | 0 | 16 |
| 膵　臓 | | 11 | 3 | 9 | 18 | 0 | 41 |
| 肺 | 1 | 47 | 9 | 13 | 33 | 10 | 113 |
| 皮　膚 | 9 | 18 | 2 | 1 | | 8 | 38 |
| 乳　房 | 21 | 42 | 40 | 6 | 8 | 8 | 125 |
| 子宮頸部 | 33 | 4 | 2 | 3 | 1 | 1 | 44 |
| 子宮体部 | | 13 | | 1 | | 2 | 16 |
| 卵　巣 | | 2 | 2 | 3 | | 2 | 9 |
| 前立腺 | | 19 | 6 | 14 | 13 | 1 | 53 |
| 膀　胱 | 12 | 13 | 7 | 2 | 1 | 2 | 37 |
| 腎・尿路（膀胱除く） | | 18 | 5 | 5 | 3 | 1 | 32 |
| 脳・中枢神経系 | | 2 | | | | 27 | 29 |
| 甲状腺 | | 8 | 2 | | | 0 | 10 |
| 白血病 | | | | | | 1 | 1 |
| その他 | | 22 | 6 | 4 | 4 | 22 | 58 |
| 合　計 | 165 | 422 | 125 | 131 | 139 | 171 | 1,153 |

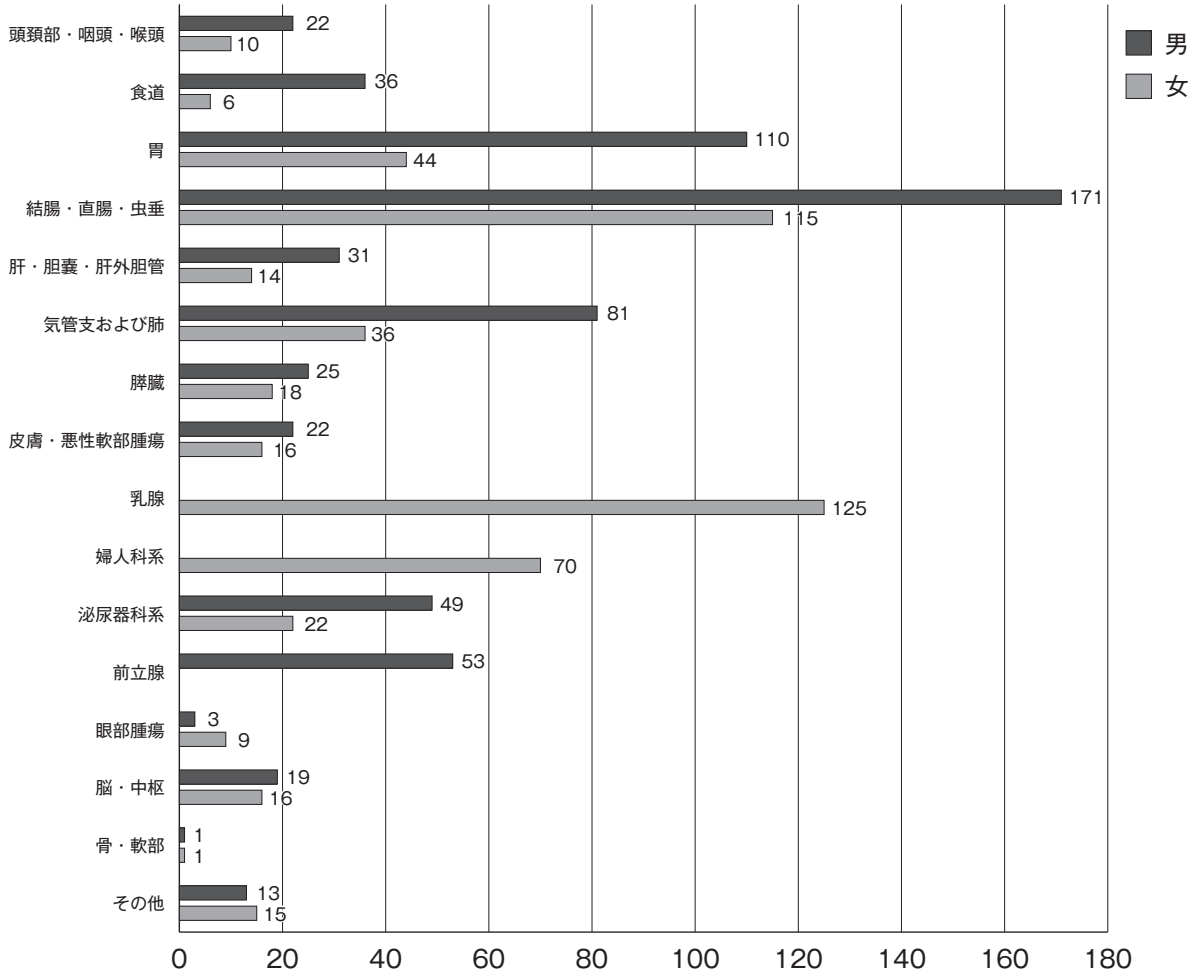
| 診断年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 提出件数 | 954 | 923 | 1,043 | 1,044 | 1,153 |

| 2021年診断 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---|---|---|---|---|---|
| 合　計 | 結腸 | 胃 | 乳房 | 肺 | 直腸 |
| 男　性 | 結腸 | 胃 | 肺 | 直腸 | 前立腺 |
| 女　性 | 乳房 | 結腸 | 胃 | 子宮頸部 | 肺 |

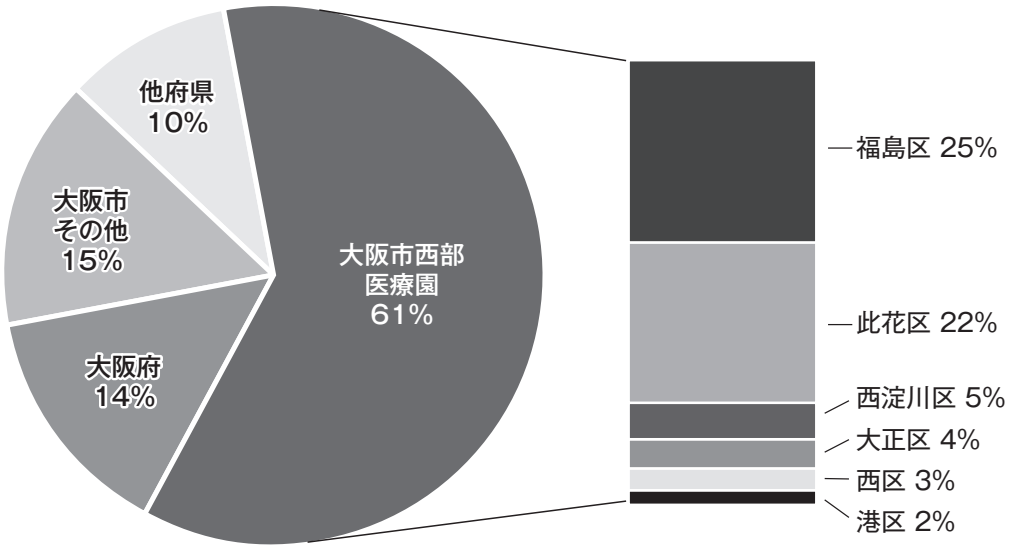
## ■がん登録　2021年診断　部位別ステージ別



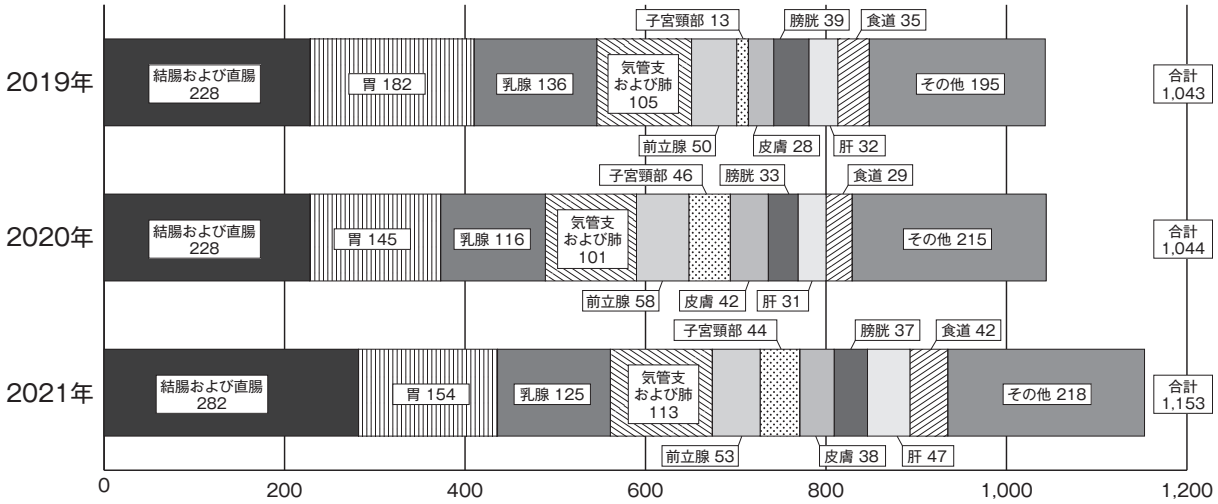
## ■がん登録　2021年診断　部位別　男女別



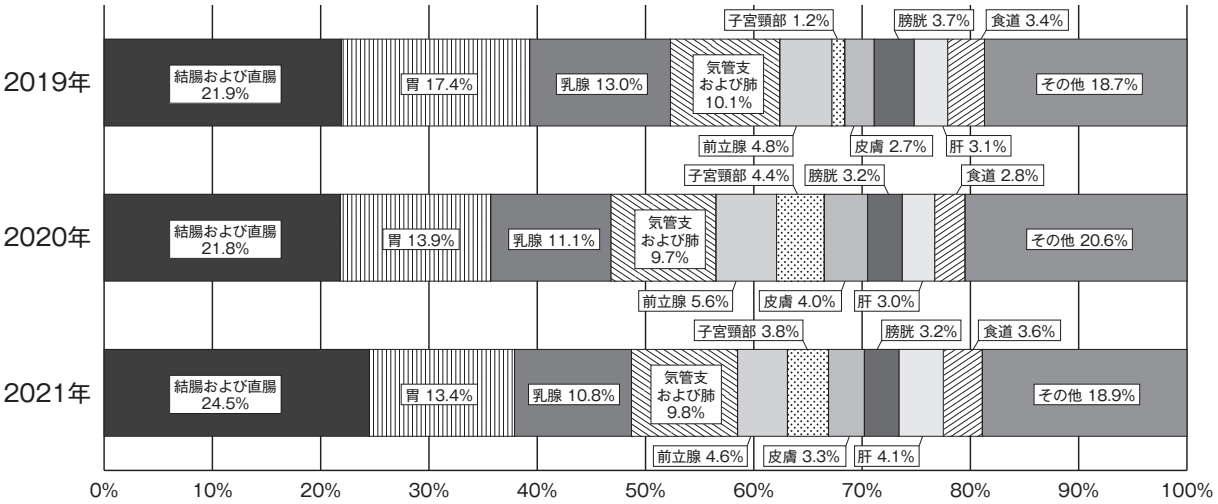

## ■がん登録患者　地域別　2021年



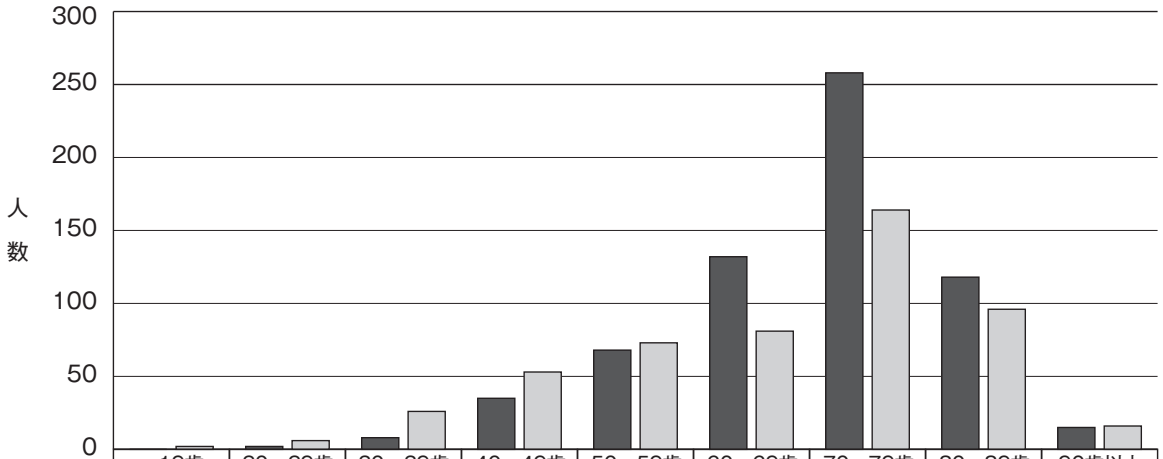
## ■2019～2021年経年変化（実数）




## ■2019～2021年経年変化（割合）




## ■2021年症例　年齢別　男女別




| | ～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～69歳 | 70～79歳 | 80～89歳 | 90歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ■ 男 | 0 | 2 | 8 | 35 | 68 | 132 | 258 | 118 | 15 |
| □ 女 | 2 | 6 | 26 | 53 | 73 | 81 | 164 | 96 | 16 |

# 部門概要

◆スタッフ欄は、令和５年３月１日現在の配置を記す。

# 整形外科

◆スタッフ（◎部長）

（副院長）島田幸造、◎（院長特任補佐・主任部長）中田活也、◎西川昌孝、◎北　圭介、◎轉法輪　光、◎坂浦博伸、西本竜史、岡本恭典、草野雅司、金山完哲、中矢亮太、山田修太郎、三好祐史、藏谷幸祐、池上大督、田中雄大、山下勝成、清本誠之

◆概　要

整形外科は最新かつ高度な医療を提供すべく、専門分野ごとにセンター化して診療に当たっている。具体的には、脊椎外科センター、人工関節センター、リウマチセンター、手の外科・外傷センター、スポーツ整形センターの５部門に分かれている。島田副院長の下、大阪大学整形外科の主要関連病院として19名の整形外科医を擁し、個々の専門領域に応じて各センターに所属し診療に従事している。豊富な手術症例をベースにした臨床研究も盛んで国内外の学会発表や論文発表も多く、日本整形外科学会専門医14名が５名の整形外科専攻医を指導する教育体制も完備している。特に専攻医の手術技術向上に積極的に取り組むべく教育システムを改善してきた。診療・教育・研究を３つの柱として医療に貢献するのが当整形外科の基本方針である。

◆実　績

2022年度の整形外科の新規来院患者数は3,278名であった。手術件数は2,093件で、2021年度よりも75件増加していた。３年以上に亘るコロナ禍中においても手術症例数を伸ばすことができたのは、近隣医療機関の先生方からの定期的なご紹介に加えて、救急症例（大腿骨近位部骨折、小児骨折、スポーツ外傷、脊椎圧迫骨折など）を積極的に受け入れ始めたことによると考えられる。また、2022年10月からは近隣医療機関の先生方がご診療をされている午後８時までは、当整形外科のスタッフが「居残り当番」として先生方からの問い合わせに対応させていただいていることも一因ではないかと思われる。

臨床研究の業績としては、３編の英語論文を含む10編の論文・著書、28回の講演を含む47回の国内発表、２回の海外発表を行った。各部門長は国内外から講演依頼を受けるその道のトップランナーであり、今後も診療だけでなく臨床研究の面でも日本をリードするような整形外科であり続けたいと考えている。

当院では初期研修医から整形外科専攻医への志望者も徐々に増えつつあり、その結果、当院で研修した若い整形外科医が大阪大学を始め多くの基幹病院で修練した後、当院の中堅スタッフとして整形外科の活力を高めるという好循環が実現しつつある。若手医師の育成による整形外科の底上げと更なる発展に一役を担える診療科を目指してゆく。

昭和27年の旧大阪厚生年金病院開設当初から当整形外科は存在しており70余年の歴史がある。その結果整形外科診療の「最後の砦」としてのブランドが構築されてきた事実がある。一方、そのブランド力が当整形外科への受診の敷居を高くしてきたのも事実である。当科では2021年から近隣医療機関への訪問を行っている。旧厚生年金病院時代からの固定観念を打破するためである。診断に難渋すること、手術適応の是非に苦慮することは診療の日常茶飯事であり、クリニックも基幹病院でも同様に抱えている課題である。近隣医療機関の先生方と協力して、迅速対応・緊密連絡・相互連携をモットーとした風通しの良い地域医療機能を構築していくことが当整形外科の目指すべき新しい姿であると考えている。

今後も紹介患者数を増加させ、ますます地域に根付いた整形外科診療を実施し、更にこれまでに築き上げた診療レベルを向上しつつ、大阪市内は勿論、大阪府下から近畿一円、さらには全国的に高度な整形外科治療を求める患者のニーズに応えていきたいと考えている。

# リウマチ科

◆スタッフ（◎部長）

◎西川昌孝、田中雄大、清本誠貴、大脇　肇（非常勤）

## ◆概　要

2022年度のリウマチセンターは整形外科の１名の常勤医師と後期研修医２名及び非常勤医師１名により構成されていた。中谷宏幸リウマチ外科担当部長の退職、大脇肇副院長の定年退職によって、西川昌孝リウマチ科診療部長、大脇肇前副院長（非常勤）の体制となった。後期研修医がリウマチ研修を受けるシステムは継続された。年度終わりにリウマチ研修を受けていたのは田中雄大、清本誠貴であった。

## ◆実　績

2022年度のカルテベースでの診療患者数は、関節リウマチ（RA）と脊椎関節炎（SpA）の合計数が630人で昨年度より330人減少した。中谷宏幸リウマチ外科担当部長の退職に伴い、リウマチ科スタッフが減員となったため、当院免疫内科への転科や他院への転院を積極的に行った。

生物学的製剤は、IFX（レミケード）/ETN（エンブレル）/ADA（ヒュミラ）/GLM（シンポニー）/CZP（シムジア）/OZR（ナノゾラ）/TCZ（アクテムラ）/ABT（オレンシア）/SAR（ケブザラ）を使用しているが、IFX、ETN、ADAはバイオシミラーへの切り替えが進んだ。一方、キナーゼ阻害薬はTOF（ゼルヤンツ）、BARI（オルミエント）、PEFI（スマイラフ）、UPA（リンヴォック）、ジセレカ（FIL）の５剤となり、生物製剤に比較しキナーゼ阻害薬の増加が目立った。

リウマチグループの主たる手術対象は変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術であるが、これについては人工関節センターの項を御覧いただきたい。リウマチグループが行っている他の手術として、足関節・足部疾患があるが、これは昨年度９例から2022年度は６例と減少した。リウマチ科スタッフの減員に伴い、現在足関節・足部疾患の手術はスポーツ整形外科、手外科グループに依頼している。

関節リウマチは合併症の多い疾患であり、また治療の主体が免疫抑制療法であるため、呼吸器をはじめ、多くの他科の先生方に迷惑をかけており、この場を借りてお礼を申し上げたい。

# 脊椎外科

◆スタッフ（◎部長）

◎坂浦博伸、池上大督、金山完哲、山田修太郎

## ◆概　要

腰椎変性疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症、腰椎分離（すべり）症、腰椎椎間板ヘルニアなど）、頚椎変性疾患（頚椎症性脊髄症、頚椎症性神経根症、頚椎後縦靱帯骨化症、頚椎椎間板ヘルニア、環軸椎亜脱臼など）、胸椎変性疾患（胸椎後縦靭帯骨化症、胸椎黄色靭帯骨化症、変形性胸椎症、胸椎椎間板ヘルニアなど）、脊柱変形（思春期特発性側弯症、成人脊柱変形（旧来名では腰椎変性（後）側弯症）など）、脊椎外傷（圧迫骨折後偽関節など）、脊椎腫瘍（原発性脊椎腫瘍、転移性脊椎腫瘍）、脊髄腫瘍（髄内腫瘍を除く）、脊椎炎症性疾患（化膿性脊椎炎、リウマチ性脊椎疾患など）、透析性脊椎疾患などほぼすべての脊椎疾患を対象にしている。

治療を担当するのは４名の脊椎外科専門医を中心としたスタッフで、日本整形外科学会専門医および脊椎脊髄病医の資格に加えて日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医や日本脊椎脊髄病学会・日本脊髄外科学会専門医の資格を有している医師もおり、さらにBKP資格医、OLIF資格医、日本整形外科学会経皮的内視鏡視下椎椎間板摘出術講習修了医もいる。手術室や病棟のスタッフも脊椎外科の専門的な治療、ケアに習熟しており、内科をはじめとする他科との連携を密にとることで、心臓病や糖尿病、透析等の合併疾患がある方でも安心して手術を受けていただける環境が整っている。

超高齢社会の到来や生活習慣の欧米化にともない、様々な疾患を合併した加齢による脊椎脊髄疾患に罹患し、ADLの低下した患者数は年々増えており、社会における脊椎外科の役割はますます大きくなっている。そのため、脊椎疾患だけでなく患者さん全体やその背景までを含め、総合的に診る姿勢を大切にしながら、Evidence Based Medicineをベースに外科的治療を中心としたテーラーメイドの全人的医療を提供している。

## ◆実　績

当院脊椎外科センターでは主に近隣の医療機関から手術を要する可能性がある状態もしくは診断に難渋する状態の症例の紹介をいただいている。問診、診察、MRI等画像検査から手術適応と判断し、かつ脊椎外科カンファレンスにて専門医の総意のもと術式を決定している。令和４年度の手術件数は470件で、令和３年度の376件と比較して大きく増加傾向である。内訳としては腰椎除圧術（部分椎弓切除術）、腰椎固定術（後方進入椎体間固定術、後方固定術、前方後方固定術）、腰椎椎間板摘出術（主にFED）、頚椎椎弓形成術（人工骨あるいは金属プレート使用）、頚椎後方固定術（椎弓根スクリューあるいは外側塊スクリュー使用）、頚椎前方固定術（ケージ使用の椎体間固定術、自家骨＋プレート使用の亜全前方固定術）、後側弯症矯正固定術（前方・後方２期的手術）などを行っている。また、近年低侵襲手術のひとつとして注目されている側方進入椎体間固定術（XLIF、OLIF）を前方後方固定術や後側弯症矯正固定術において積極的に取り入れている。さらにハイブリッド手術室内に設置されているSIEMENS社のArtis Zeegoを用いることでリアルタイムに術中CT撮影をすることができ、より正確かつ安全な手術を行うことが可能となっている。

# スポーツ医学科

◆スタッフ（◎部長）

◎島田幸造、◎北　圭介、◎轉法輪　光、西本竜史、草野雅司、三好祐史、藏谷幸祐

◆概　要

スポーツ医学科は、整形外科の中の一分野として、主にスポーツ傷害に苦しむアスリートたちをサポートすべく活動している。スポーツ傷害とはスポーツに特有の外傷とともに酷使される部位の慢性機能障害を含み、トッププレーヤーとして復帰させるためには高度に専門化された診療技術や設備が必要である。スポーツ復帰のためには、一般的に病気や怪我を治すだけでは十分ではなく、より高い治療目標が必要であり、そのためにリハビリテーション部門や看護部門と連携し、ハイレベルなチーム医療を行なっている。これらによって培われた診療技術は、スポーツ選手の復帰へのサポートだけでなく、一般の患者さんの治療にも応用され、怪我をした方の社会復帰や、活き活きした生活を送りたいという現代人の健康寿命の維持に寄与する。

当院スポーツ医学科は身体を支える下半身、中でもスポーツ傷害の頻度の高い膝関節を中心に下肢のスポーツ傷害を担当する「膝関節グループ」、人体中最も大きな可動域を有するため傷害頻度も高い肩関節を担当する「肩関節グループ」、道具として人が最も使うことから力だけでなく繊細な動きも要求される手指や肘関節を担当する「手・肘関節グループ」の３部門でスポーツ傷害の治療に対応している。いずれの分野においても関節鏡視下手術の技術を駆使した小侵襲手術を主体に、アスリートの傷害からの復帰に、ひいては一般の方の健康増進に貢献している。

◆実　績

**2022年度手術件数**

膝関節グループ：440件

（鏡視下膝十字靭帯再建、その他鏡視下靭帯再建、鏡視下半月板手術、膝周囲骨切り術（高位脛骨骨切り術）、その他の関節鏡視下手術など）

肩関節グループ：166件

（鏡視下腱板修復、鏡視下バンカート修復、人工肩関節など）

手・肘関節グループ：診療部門「手の外科・外傷」参照

（骨折・偽関節手術、神経手術、腱・靭帯手術、離断性骨軟骨炎（肋骨移植を含む）、関節鏡視下手術など）

# 手外科・外傷センター

◆スタッフ（◎部長）

（副院長）島田幸造、◎轉法輪　光、三好祐史

◆概　要

手外科・外傷センターは整形外科の中の一分野として、手や肘の障害や、労災事故など外傷による上肢機能の改善・再建を主なフィールドとして診療を行っている。

手は人間にとって非常に重要な道具（運動器）であると共に、物を触って判別するセンサー（知覚器）であり、また舞踊の世界などでは指先の繊細な動きで美を表すように、整容面でも重要な役割を担っている。この人間にとって重要な道具を目的に応じて移動させ、標的に合わせる（ターゲッティング）ために、肩や腕、肘の機能もまた重要である。我々はそういった上肢の機能障害を最大限回復させ、人間にとっての大切な道具である手を最大限生かすことを目的に、診療に当たっている。

またそういった道具であるがゆえに、仕事中など手は怪我にあう頻度が高いことは否めない。単に怪我や骨折を治すだけではなく、それを動かす筋肉や腱、神経を、手という精巧かつ繊細な運動器治療の専門家である我々が、その知識をフルに動員し、時には手術用顕微鏡を用いたマイクロサージャリーの技術も使って治療に当たっている。その技術は時に手だけではなく全身各所の外傷治療にも応用され、また通常の怪我、救急外傷、スポーツ傷害を含め、多岐にわたる運動器の外傷・傷害治療に専門的に当たっているのが、我々手外科・外傷センター部門である。

対象疾患としては、肘・手の骨折や脱臼、腱損傷、神経損傷などの外傷や様々な変性疾患（変形性関節症、肘離断性骨軟骨炎、上腕骨内・外側上顆炎、関節リウマチなど）である。小児の肘・手の骨折は専門スタッフが治療に介入し、麻酔科協力のもとで可能な限り早期の治療対応を心がけている。また、他院では治療困難な難治例や複数回手術症例なども積極的に受け入れている。特に肘関節鏡手術に関しては、当院は日本でも有数の症例数を誇る。

◆実　績

**2022年度手術件数**

手外科・外傷センター：461件

（骨折・偽関節手術、神経手術、腱・靭帯手術、離断性骨軟骨炎（肋骨移植を含む）、関節鏡視下手術）

# 人工関節センター

◆スタッフ（◎部長）

◎中田活也、◎西川昌孝、岡本恭典、中矢亮太

◆概　要

2015年４月に当人工関節センターが開設されました。手術室にはクリーンルームが４室設置され、よりスムーズに患者様を受け入れられる体制を構築しています。近隣医療機関との連携にも注力しており、変性関節疾患のみならず大腿骨頸部骨折や人工関節周囲骨折などの救急患者様も積極的に受け入れております。ご紹介いただいた患者様によりご満足していただけるために、迅速かつ安全で精度の高い治療を施せるよう対応させていただいております。

当センターでは早期社会復帰と動作制限のない人工関節置換術を目指しており、多くの新技術（MIS、３次元手術計画、手術ナビゲーション、3Dプリンター技術、症例個別的実物大骨モデル）を取り入れています。これらの新技術を駆使し、計画・作成・手術まで当センター内で実施できる自己完結型の本格的な人工関節センターです。

◆実　績（2022年度）：計528件

人工股関節置換術：281件（うち再置換術：９件）

人工膝関節置換術：178件（うち単顆置換術：９件、再置換術：１件）

大腿骨頚部骨折：　27件

大腿骨転子部骨折：　34件

人工関節周囲骨折：　８件

# 形成外科

◆スタッフ（◎部長）

◎波多祐紀、北原和子、會沢勇亮、榊　由華子

◆概　要

形成外科領域専門医資格・皮膚腫瘍外科専門医資格・再建マイクロサージャリー分野指導医資格を含む人員で高度な医療を提供する。また、診療科としては以下の認定を得ている。

・形成外科学会認定施設

・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施認定施設

・乳房再建用エキスパンダー及びインプラント実施認定施設

◆実　績

2022年（令和４年）の臨床活動の概要は下表の通りである。

集計期間　2022年１月１日～2022年12月31日

| | 入　院 | 外　来 | 計 |
|---|---|---|---|
| 全身麻酔での手技数 | 84 | | 84 |
| 腰麻・伝達麻酔での手技数 | 19 | 14 | 33 |
| 局所麻酔・その他での手技数 | 115 | 215 | 330 |
| 入院または全身麻酔の手技数計：218 | | | |
| 外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：229 | | | |
| 合計係数：332.5 | | | |

| 疾患大分類手技数 | 入　院 | | | 外　来 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 全身麻酔 | 腰麻・伝達麻酔 | 局所麻酔・その他 | 全身麻酔 | 腰麻・伝達麻酔 | 局所麻酔・その他 | |
| 外傷 | 16 | | 6 | | 6 | 36 | 64 |
| 先天異常 | | | 2 | | | 5 | 7 |
| 腫瘍 | 26 | 1 | 41 | | 3 | 158 | 229 |
| 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド | 7 | | | | | 7 | 14 |
| 難治性潰瘍 | 20 | 4 | 14 | | | | 38 |
| 炎症・変性疾患 | 13 | 14 | 16 | | 5 | 5 | 53 |
| 美容（手術） | | | | | | | |
| その他 | 2 | | 36 | | | 4 | 42 |

# 診療部門 リハビリテーション科

◆スタッフ（◎部長）

◎寺川晴彦、前田　香、丸本明彬：（理学療法士長）権藤　要、他理学療法士28名、作業療法士５名、言語聴覚士２名、義肢装具士２名、健康運動指導士１名、事務員２名

◆概　要

リハビリテーション科専任医師３名［専門医２名（内、指導医１名）］、理学療法士29［内、育児休業中２名］、作業療法士５名［内、育児時短中１名］、言語聴覚士２名、義肢装具士２名、健康運動指導士１名、クラーク２名。

セラピスト：心臓リハビリテーション指導士５名、３学会合同呼吸療法認定士12名、がんのリハビリテーション研修修了32名、サルコペニア・フレイル指導士２名、日本理学療法士協会専門理学療法士１名（神経系）/認定理学療法士17名（循環３名、運動器７名、脳卒中３名、呼吸５名）、日本作業療法士協会認定作業療法士１名。

◆実　績

■リハビリテーション科／室

① 新規オーダー件数（件）　PT、OT、ST合計

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件　数 | 369 | 374 | 448 | 385 | 463 | 364 | 353 | 364 | 409 | 468 | 352 | 405 | 4,754 |

② 疾患別件数（件）　PT、OT、ST合計

| 疾患別 | 運動器リハ | 脳血管リハ | がんリハ | 心大血管リハ | 呼吸器リハ | 廃用症候群リハ | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件　数 | 1,625 | 1,082 | 543 | 472 | 133 | 899 | 4,754 |

③ 実施単位数（単位）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PT | 9,068 | 9,137 | 10,796 | 9,969 | 9,929 | 9,401 | 8,962 | 8,717 | 9,384 | 8,542 | 8,697 | 9,743 | 112,345 |
| OT | 1,330 | 1,363 | 1,666 | 1,654 | 1,796 | 1,721 | 1,491 | 1,552 | 1,626 | 1,601 | 1,494 | 1,764 | 19,058 |
| ST | 299 | 330 | 366 | 322 | 238 | 292 | 177 | 284 | 373 | 327 | 275 | 293 | 3,576 |

④ 心リハ外来（単位）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単　位 | 232 | 247 | 302 | 215 | 199 | 316 | 301 | 305 | 293 | 250 | 233 | 262 | 3,155 |

⑤ がんリハ（単位数・対象実人数）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単　位 | 536 | 585 | 1,007 | 797 | 617 | 874 | 630 | 656 | 671 | 687 | 894 | 977 | 8,931 |
| 実人数 | 48 | 41 | 69 | 62 | 53 | 64 | 53 | 59 | 59 | 61 | 64 | 64 | 697 |

⑤ リハ処方された退院時リハビリテーション指導料（件数）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件　数 | 307 | 306 | 338 | 354 | 395 | 374 | 305 | 329 | 360 | 360 | 335 | 398 | 4,161 |

■義肢装具室

院内依頼総件数

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件　数 | 152 | 178 | 178 | 176 | 177 | 155 | 165 | 149 | 149 | 123 | 165 | 172 | 1,939 |

■健康運動指導士

運動指導等（延べ総件数）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件　数 | 49 | 44 | 76 | 56 | 42 | 44 | 73 | 52 | 44 | 42 | 51 | 69 | 642 |

# 消化器外科

◆スタッフ（◎部長）

（院長）西田俊朗、（副院長）畑中信良、◎森本修邦、◎井出義人、◎出村公一、野中亮児、村上剛平、乾　元晴、中本蓮之介、景山千幸

## ◆概　要

**＜消化器外科全般＞**

2022年の消化器外科の手術件数は578件、そのうち全身麻酔症例は528件であった。大阪府がん診療拠点病院として、食道癌６例、胃癌47例、大腸癌105例、肝癌17例、膵癌９例の手術を施行した。また放射線治療、化学療法、終末期の緩和ケアも多数担っており、消化器癌の治療に関しては、手術だけでなく、早期がんから緩和ケアまで悪性疾患のあらゆる段階での治療に対応した。また、救急外来に搬送された急性腹症にもオンコール体制で対応し、消化管穿孔22例、腸閉塞13例、急性胆嚢炎53例、急性虫垂炎66例など多くの手術を施行した。当院の特徴として内視鏡手術の占める割合が多く、2022年は503件で全身麻酔手術の95％を占めた。

## ◆実　績

**＜上部消化管＞**

食道癌、胃癌、胃、十二指腸粘膜下腫瘍（GIST）、胃十二指腸潰瘍穿孔、高度肥満症が主な治療の対象となる。担当部長；出村公一、医長；村上剛平の２名が担当している。

中心となる胃癌は、HP感染症率の減少、内視鏡治療の適応拡大により、手術適応症例が全国的に減少している。またコロナ禍において胃癌手術が減少している中、2022年度は前年度より多い47例の胃癌切除を行った。当院の特徴は、ほぼ全例を腹腔鏡手術で行っており、早期胃癌に対しては単孔式腹腔鏡手術を行い、更なる低侵襲化を行っている。近年高齢化が進み、多くの並存症を持つ患者が多いなか、免疫チェックポイント阻害剤を含めた化学療法を組み合わせた集学的治療も行い、質の高い医療を提供している。

食道癌治療は、大阪大学消化器外科と連携しながら診療を行っている。2022年度は６例の食道切除術を行った。手術適応とならない高度進行癌も多く、免疫チェックポイント阻害剤を含めた化学療法、化学放射線療法を行っている。

GISTを含む粘膜下腫瘍は西田院長就任以降増加傾向であり、昨年度は12例の粘膜下腫瘍切除術を行った。他院からのセカンドオピニオンも多く、他院では治療困難な巨大腫瘍も経験した。

昨年度から内科、管理栄養士、精神科を含めた14の職種を含めた「減量・代謝改善手術チーム」を立ち上げ、外来診療を開始した。内科的減量では十分な効果が得られない患者様に対して、２例のスリーブ状胃切除術を行った。術後順調に減量が得られ、並存疾患も改善している。外来患者も増加しており、今後手術症例が増加すると思われる。

**＜下部消化管＞**

下部消化管外科は2019年度より井出義人部長、2022年度より野中亮児医長の２名のスタッフが担当している。大腸がん（結腸がん、直腸がん）を中心に、良性腫瘍、虫垂炎、大腸憩室症（憩室炎、憩室出血、憩室穿孔）や腸閉塞（イレウス）に対する外科的治療を行っている。特に、大腸がんに対する腹腔鏡手術、

直腸がんに対する肛門温存手術、局所進行直腸がんに対する集学的治療を専門としている。また、痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍といった肛門疾患の手術も行っている。

近年、大腸がんは増加しているが、当院での手術件数も増加傾向にある。当院では患者さん一人ひとりの状態にあわせて治療方針を決定しているが、とくに、体にかかる負担を少なくし、質の高い手術が可能となる腹腔鏡手術を積極的に取り入れている。腹腔鏡手術は難易度の高い手術であるが、井出、野中とも日本内視鏡外科学会　技術認定医（大腸）であり、質の高い手術を提供できるように心がけている。また、高画質腹腔鏡システムなどさらなる先端技術を導入し、より精緻な手術が可能となっている。また、肛門に近い直腸がんにも出来る限り肛門を温存できるよう、「究極の肛門温存手術」と言われる括約筋間直腸切除術（ISR）も積極的に導入している。進行度に応じて、術前化学（放射線）療法など集学的治療を用いて、出来る限り肛門を温存できるようにしている。

切除不能進行再発大腸癌に対しても、それぞれの患者様の病態、状況に応じた全身化学療法レジメン選択を行い、QOLを保った化学療法の実践を心掛けている。井出は日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医であるため、より先進的な化学療法の実践、周囲医療機関への化学療法の啓蒙等も行い、地域の医療レベルの向上に寄与できるよう、心がけている。

お一人お一人の患者さんに合った、安全で質の高い医療を提供することを第一に、地域の皆様の力になれるよう、全力を尽くしていきたいと考えている。

2022年の下部消化管（小腸・大腸・肛門）手術：214例（うち結腸癌手術59例、直腸癌手術46例、腸閉塞手術13例、肛門手術15例）

**＜肝胆膵外科＞**

肝癌、胆道癌、膵癌、膵NET、膵嚢胞性疾患、肝嚢胞、十二指腸癌、胆石症、胆嚢炎が主たる治療の対象となる。2022年は担当部長（2023年１月～主任部長）；森本修邦、医員；光藤傑（留学のため９月退職）の２名で担当した。消化器内科、放射線診断科と週１回検討会を行い、診断、治療方針の決定を行なっている。悪性疾患に関しては癌の進行度と患者の耐術能を総合的に評価した上で、手術・化学療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療によって治療成績の向上に努めた。手術方法に関しては根治を目指した拡大手術から、安全性、根治性を検討しながら腹腔鏡下肝切除・膵切除などの低侵襲手術までさまざまな手術を行なった。急性胆嚢炎に対しては緊急手術を第一選択とした。2022年の手術件数は198例：胆嚢摘出術163例（うち急性胆嚢炎53例）、肝切除17例（HCC：８例、CCC：３例、転移：４例、良性：２例）、術式：葉切除３例、区域切除４例、亜区域切除１例、部分切除８例、焼灼術１例。膵切除18例（膵癌：９例、IPMN：１例、MCN：１例、NET：１例、胆道癌：２例、十二指腸癌：４例）、術式：膵頭十二指腸切除10例、膵全摘１例（うち門脈合併切除再建２例）、膵体尾部切除６例。原発性肝癌の減少に伴い肝切除が前年（29例）より減少したが、肝切除の腹腔鏡率は76％と右葉切除や前区域切除など高難度手術にも適応を拡大した。また膵体尾部切除においても腹腔鏡率57％と血管浸潤のない膵癌にも適応を拡大した。

**＜一般外科、その他＞**

ヘルニア手術を78例（うち腹腔鏡手術70例）、婦人科を中心に他科応援手術を多数行った。

**＜学術活動＞**

2022年度の業績は論文が英文１編、和文４編、学会発表が24件であった。

# 呼吸器外科

◆スタッフ（◎部長）

◎岩﨑輝夫、坂本鉄基

◆概　要

呼吸器センター外科部門として、呼吸器（肺・縦隔）領域の外科疾患に対して手術治療を中心に診療を行っている。毎週、呼吸器内科、放射線治療科と共に看護師も参加して呼吸器カンファレンスを開催し、多彩な呼吸器疾患に対して、診断や治療方針などを検討している。特に、肺がんに関しては術前治療や術後補助化学療法、更に再発症例に対する化学療法（分子標的治療や免疫療法を含む）や放射線治療に関しても検討しており、緩和医療・ケアも含めて集学的治療が円滑に行われるように努めている。個々の肺がん患者さんに対して診断から治療、そして再発時に至るまで外科と内科で病棟スタッフが情報共有できる体制をとっている。

進行肺がんや浸潤性縦隔腫瘍などを除いて、手術は完全胸腔鏡下手術を基本としている。すりガラス陰影主体の小型肺がんに対しては、根治性と呼吸機能温存を図った区域切除術も積極的に胸腔鏡下で実施している。

大阪大学呼吸器外科診療連携施設の一つとして多施設共同臨床研究にも積極的に参加している。

◆実　績

2022年全身麻酔下手術総数は53例で内訳は以下の通りである。

原発性悪性肺腫瘍：24例（部分切除 7例、区域切除 2例、葉切除 13例、試験開胸 2例）
気　胸：12例（原発性 7例、続発性 5例）
転移性肺腫瘍：6例（大腸 1例、膵 1例、乳腺 1例、腎 1例、肺 1例、原発不明 1例）
縦隔腫瘍：4例（胸腺腫 2例、胸腺癌 1例、先天性嚢胞 1例）
その他の全身麻酔下手術：5例
全身麻酔下生検：2例

手術死亡および在院死亡なし。

# 診療部門 乳腺・内分泌外科

◆スタッフ（◎部長）

◎塚本文音、大谷陽子、竹内千聖、釜野真由子

◆概　要

スタッフの体制は部長１名、医長１名、専攻医２名。診療内容は乳腺・甲状腺疾患の診断、手術、薬物療法。終末期医療にも対応。がん救急においても、内科、循環器科、整形外科、脳神経外科等との連携により迅速な対応が可能。Weekdayはすべての曜日で当科医師による初診と再診の外来を行っています。また、初診は予約枠を設けているが、他医療機関からの紹介がない場合も受け入れています。

確定診断が難しい微小乳癌や非触知乳癌が、当科では乳房専用の吸引式組織生検システムにより診断可能。

乳房再建用エキスパンダー/インプラント実施施設認定であり、乳癌の手術と同時に人工物あるいは自家組織による一期的乳房再建が可能。

遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）に対する取り組み：遺伝性乳がんが疑われる方には、遺伝相談外来における遺伝カウンセリングの場を設けています。HBOCと診断され、かつ既に乳がんあるいは卵巣がんと診断された方では2020年４月より、がんがまだ発症していない部位の予防的切除が保険診療となりました（リスク低減乳房切除術、リスク低減卵管卵巣摘出術）。当科でもリスク低減乳房切除術に対応しています。

将来の出産を希望されている患者さんには、当院の産婦人科の「生殖医療の専門医」を紹介するサポート体制があります。

◆実　績

| | |
|---|---|
| 乳癌手術 | 104例 |
| 乳腺良性病変に対する手術 | ９例 |
| 甲状腺癌に対する手術 | ７例 |
| 甲状腺良性病変に対する手術 | ７例 |
| その他 | ２例 |

# 診療部門 心臓血管外科

◆スタッフ（◎部長）

◎丸本明彬、◎齊藤哲也、深井照美（診療看護師）

◆概　要

JCHO大阪病院心臓血管外科では、2015年の新病院移転時に開設されたハイブリッド手術室の機能を活かし、大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術（TEVAR、EVAR）などの低侵襲手術を積極的に行って来ました。これに加えて2019年４月より大阪市西部地区では唯一の経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）の実施施設認定を取得しました。以降、ハートチームとして循環器内科との連携が継続されており、コロナ禍で外来患者数、他院からの紹介患者数が減少する中、引き続き開心術症例数が増加しています。ハートチームは救急医療にも積極的に対応し、循環器ホットラインを駆使して24時間365日体制でも協力して運営しています。

低侵襲心臓手術（MICS）を積極的に取り入れ、成人先天性心疾患への対応も開始しています。今後もそれぞれの患者様に最適な治療を行えるよう、また安定した手術成績を残せるよう引き続き努力を続けていきたいと考えております。

心・大血管疾患のみならず、近年の糖尿病・透析患者の増加に伴い、末梢血管疾患にも対応し、手術症例数が増加しています。

◆実　績

2022年（１月１日～12月31日）

手術総数　170例

心・胸部大血管疾患 96例（重複なし）

先天性心疾患：２例　冠動脈：20例　弁膜症：39例（TAVI 18例）　胸部大動脈：34例

その他：１例

腹部骨盤血管疾患及び末梢血管疾患

腹部骨盤：17例（EVAR 15例）

末梢血管疾患：55例

# 診療部門 脳神経外科

◆スタッフ（◎部長）

◎榊　孝之、◎山際啓典、呉村有紀

◆概　要

当科は昭和43年５月に開設された伝統のある診療科です。開設以来、市内はもとより、近隣市より患者さんを紹介していただき、診療に携わってきました。通常の脳神経外科診療以外に、脳疾患救急・脳卒中センター・脳ドッグを担当しています。脳卒中センターは、PSCコア（１次脳卒中センターコア）に認定され、24時間365日体制で、脳神経内科と協力して運営しています。脳卒中専任医師が、直接つながる脳卒中Hot callを常時携帯し、要請に対応しています。

手術は、従来の開頭手術だけでなく、神経内視鏡手術、定位放射線治療、血管内治療（カテーテルによる治療）など、最新の低侵襲な治療にも積極的に取り組んでいます。血管内治療では、脳動脈瘤に対するコイル塞栓術、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻に対する塞栓術、内頚動脈狭窄に対するステント留置術など多岐にわたる疾患に対応しています。超急性期脳梗塞に対しては、迅速に診断し、適応があれば、rt-PA静注療法や、機械的血栓回収療法を施行しています。

脳腫瘍においては、良性腫瘍、悪性腫瘍に対応し、手術、化学療法、放射線治療などの集学的治療を行っています。手術は、顕微鏡下に、ナビゲーションシステムや、神経モニターを用いた精度の高い治療を心がけています。髄膜腫などの多血性脳腫瘍に対しては、ハイブリッド手術（カテーテルによる栄養血管塞栓術と開頭摘出術）を行っています。悪性神経膠腫をはじめとした悪性脳腫瘍に対しては、形態的な病理診断学に加えて、遺伝子解析、分子診断を行っています。当院では、関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークに加わり、「グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索とそれに基づくテーラーメード治療法の作成に関しての臨床治験」に参加しており、充実した治療体制を構築しています。さらに新しい治療として、交流電場を用いた電場療法を導入しています。

◆実　績

手術件数（2022/１/１～2022/12/31）

**総　数：144件**

脳腫瘍 11件、脳出血 10件、脳動脈瘤（クリッピング術）５件、水頭症 12件、慢性硬膜下血腫 20件、その他34件

**血管内治療：52件**

動脈瘤（コイル塞栓術）15件、頚動脈ステント留置術 ６例、機械的血栓回収療法 27例、AVM/dAVF ２件、その他 ２件

# 診療部門 糖尿病内分泌内科

◆スタッフ（◎部長）

（統括診療部長）◎馬屋原　豊、桂　央士、外川有里（12月から産休）、中嶋玲那（通年育休）、
レジデント：上田彩加、梶本侑希、落合　進（7月～3月）、森田香菜子

◆概　要

糖尿病内分泌内科は令和３年４月に内科から独立しました（ただし、医事統計などは内科に含まれています）。それとともに診療部長と筆頭の医長が入れ替わり、人心を一新しました。地域の先生方から信頼される糖尿病専門施設としての陣容を整えるための施策を行っています。また、内分泌疾患の検査入院なども積極的に受け入れています。2022年度より消化器外科とともに糖尿病肥満外科手術を開始しました。

**ガイドラインに準拠した標準的糖尿病治療**

・大きく変化する２型糖尿病治療における欧米系ガイドラインを鑑みた治療の標準化への取り組み

**１型糖尿病をきちんと管理できる体制作り**

・カーボカウント、CSII（インスリンポンプ療法）、SAP（リアルタイムCGMを併用したポンプ療法）など１型糖尿病先進治療への積極的な取り組み

・１型糖尿病患者さんへのリアルタイムCGM導入、インスリン治療患者さんへのisCGM（リブレプロ）の積極的な導入と看護外来での指導によるコントロールの改善

**チーム医療の推進**

・多職種からなる糖尿病ケアチーム活動の活性化　・糖尿病透析予防外来の枠拡大

・外来糖尿病教室の継続、世界糖尿病デーイベント　・11階東病棟における多職種カンファレンス

**糖尿病地域連携**

・糖尿病連携手帳を用いた、糖尿病地域連携パスの導入

・地域の先生方などを対象とした講演活動

**糖尿病肥満外科手術**

・2022年度から消化器外科にて肥満外科手術開始。当科はチームの一員としてサポートしています。

**糖尿病患者データベース**

・簡易な糖尿病患者データベース作成による、全体的な患者さんの把握

**甲状腺・内分泌疾患の精査加療**

◆実　績

・外来患者数　15,276人/年　・入院患者数　408人/年

・外来糖尿病患者統計（令和４年８月末現在）

| | 人 数 | HbA1c(%) | 平均年齢 | BMI |
|---|---|---|---|---|
| 薬物療法あり | 1,617 | 7.18±1.13 | 67.5±13.4 | 25.5±4.9 |
| 注射薬有り | 691 | 7.54±1.23 | 66.6±14.1 | 25.8±5.3 |
| インスリン治療群 | 503 | 7.63±1.22 | 66.5±14.4 | 25.2±5.1 |
| 内服薬のみ | 926 | 6.89±0.95 | 68.1±12.8 | 25.3±4.6 |
| インスリン治療群の内訳 | | | | |
| CSII | 10 | 7.83±0.92 | 50.7±11.0 | 26.2±1.6 |
| Basal＋Bolus | 197 | 7.71±1.19 | 63.4±14.9 | 25.7±5.7 |
| PreMix | 32 | 7.56±1.05 | 74.7±13.1 | 25.4±5.4 |
| BOT | 184 | 7.74±1.33 | 68.3±12.8 | 25.6±4.3 |
| GLP-1製剤使用 | 382 | 7.57±1.31 | 66.7±13.6 | 27.3±5.5 |
| インスリン＋GLP-1 | 172 | 7.88±1.35 | 66.6±12.5 | 27.6±5.8 |

# 腎臓内科

◆スタッフ（◎部長）

◎鈴木　朗、青木克憲、岩橋恵理子、山口　慧、後期研修医：中川和真、川野祐暉、西垣内俊也、平井祐里

◆概　要

検尿異常、ネフローゼ症候群、あるいは急激な腎機能低下で発見される腎疾患について、腎生検にて診断し治療を行っております。小児期発症のネフローゼ症候群に対しては積極的にリツキシマブを使用し、ステロイドを減量し副作用を抑えつつ良好な治療成績をあげております。慢性腎臓病については、透析導入回避を目指して、最新の知見に基づいた薬物療法、食事療法を実践しております。末期腎不全に至った例は、療法選択外来を受けていただき各人の生活スタイルに合わせた最適な腎代替療法を提案させていただきます。維持血液透析、維持腹膜透析例も管理しており、総合病院であるメリットを生かし合併症を早期に発見することにより透析患者さんの生命予後改善を目指しております。血液透析患者の内シャント狭窄に対するPTAや、ブラッドアクセス作成困難例に対するパーマネントカテーテル留置も行っております。

◆実　績

**1）外来診療**

2022年に診療した外来患者数は11,271例でした。

（2021 年9,412例、2020年 8,834例、2019年 8,458例、2018年 8,316例）

**2）入院診療**

新型コロナウイルス感染症の影響から若干回復が見られ、2022年の入院症例数は380例でした（2021年 364例、2020年 383例、2019年 395例、2018年 385例）。腎生検数21例と減少しました（2021年 33例、2020年 22例、2019年 32例、2018年 40例）。透析導入数には51例と改善が見られました（2021年 47例、2020年 37例、2019年 39例、2018年 39例）。腎生検診断の内訳は下記の通りでした。

| | | | |
|---|---|---|---|
| IgA腎症 | 4 | ループス腎炎 | 1 |
| 糖尿病性腎症 | 2 | グッドパスチャー症候群 | 1 |
| 腎硬化症 | 6 | 膜性増殖性糸球体腎炎 | 1 |
| 膜性腎症 | 4 | その他 | 2 |
| | | 計 | 21 |

**3）血液浄化センター**

当院は血液透析導入を主たる機能とする急性期病院ですが、維持血液透析患者13名、腹膜透析患者９名も管理されています。2021年の各療法実施件数は以下の通りです。

| | | |
|---|---|---|
| HD | 3,209 | △557 |
| online HDF | 1,689 | ▲529 |
| PE（血漿交換） | 23 | △12 |
| DFPP | 6 | △3 |
| LDLアフェレーシス | 7 | △7 |
| GCAP（顆粒球吸着） | 0 | ▲20 |
| ICUにおける血液浄化 | 64 | ▲86 |

**4）経皮的内シャント拡張術**

2019年に導入され、当初は入院患者に発症した内シャント狭窄を対象に治療介入を行っておりましたが、2021年からは院外からの紹介も受ける体制を整えております。2022年は26例実施しました。

（2021年 29例、2020年 18例、2019年 ２例）

# 呼吸器内科

◆スタッフ（◎部長）

◎鴨井　博、◎田中陽子、阪上和樹、津田誉至

◆概　要

呼吸器内科は気管支と肺にまつわる非常に多岐にわたる病気を担当させていただく診療科です。気管支喘息に代表されるアレルギー疾患、タバコが多くに関連するCOPD（慢性閉塞性肺疾患）などの気道疾患、数ある悪性腫瘍の代表である肺癌、細菌性肺炎、肺結核（外来治療のみ）、昨今ではCOVID-19に代表されるウイルス性肺炎などの感染症、リウマチ・膠原病肺に代表される免疫異常や特発性の間質性肺疾患と極めて広い領域を対象にしています。各呼吸器領域の指導医、専門医が在籍しており、かつ当院は呼吸器内科以外の診療科が非常に充実していますので、その特性を活かし、他科とも密接な連携のもとに迅速な診断と最新治療を提供するよう努めています。

対応可能疾患：

肺癌、気管支喘息、COPD、肺炎・胸膜炎、肺結核（塗抹陰性の場合）、非結核性肺抗酸菌症、自然気胸、胸水などの胸膜疾患、特発性、膠原病関連などの間質性肺疾患、在宅酸素導入など。

実施可能な検査：

気管支鏡（超音波気管支鏡EBUSを含む）、CTガイド下生検、エコーガイド下生検、局所麻酔下胸腔鏡、肺機能検査、呼気NO測定検査、PSG検査。

◆実　績

主な入院：2022年度合計：467例

肺腫瘍：229例

肺炎（呼吸器内科担当分）：62例（膿胸：５例）

間質性肺炎：29例（薬剤性肺障害、過敏性肺炎、リウマチ肺など含む）

気　胸：11例

気管支喘息：２例

COPD：９例

重症Covid19肺炎：26例

主な検査

気管支鏡検査：103件

「局所麻酔下胸腔鏡」：　９件

「超音波内視鏡検査」：　17件

「在宅酸素療法指導管理料」：105件

# 感染症内科

◆スタッフ（◎部長）

◎長田　学

◆概　要

感染症はどの臓器にも発生する疾患なので、臓器に関係なく、横断的に各診療科と連携を取りながら診療している。臨床では各診療科からコンサルテーションを受けて担当医と共に感染症患者の診療に当たっており、血液培養陽性患者のチェック、特定抗菌薬（広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬）の管理も行っている。

また院内感染予防対策委員会の副委員長、ICT（感染対策チーム）の委員長として、ICTメンバーの看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務職員と共に、院内の耐性菌の発生・伝播の抑制、医療関連感染症（院内感染）の抑制、血液曝露対策、入職者の予防接種、院内スタッフに対する感染症に関する教育講演や広報活動を引き続き精力的に行っている。

さらに、2022年度より感染対策向上加算１が設定され、これまで以上に地域の医療機関との連携による教育講演活動や感染対策の助言を求められる機会も増えて来ている。

◆実　績

2022年度も新型コロナウイルス感染症の度重なる流行で病院全体の入院・外来患者数が減少した影響もあり、いずれの項目もコロナウイルス流行前より件数は減少している。

**１．院内コンサルテーション**

各診療科の医師から感染症の診断、抗菌薬の選択、培養結果の解釈、治療期間、隔離の是非や隔離解除の判断等について相談を受け、必要に応じ直接患者を診察し、担当医のニーズに沿う形で診療の助言を行う。

2022年度は延べ402件のコンサルテーションを受けて対応した。

**２．血液培養陽性例への介入**

血液培養が陽性になる患者は重篤な感染症を生じている事が多い。血液培養が陽性になったら全例細菌検査室より電話で連絡を受け、カルテの内容、検査、画像等から問題があると判断した時は主治医または担当医に連絡し、治療方針について協議し、必要があればその後も定期的にフォローした。

2022年度は670件の陽性例があり、その１/３程度について介入を行った。

**３．特定抗菌薬許可制**

2002年（平成14年）３月より導入された制度で、広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬のような特殊な耐性菌や真菌に有効な抗菌薬を使用する時は事前に許可が必要である。担当医からの情報で適応の有無を判断し、許可する。その後の臨床経過、培養結果を参考にして、狭域抗菌薬への変更（De-escalation）が可能であれば、担当医と協議する。

2022年度は841件の使用許可の申請があった。

# 診療部門 消化器内科

◆スタッフ（◎部長）

◎（副院長）金子　晃、◎巽　信之、◎山本克己、日山智史、石見亜矢、氣賀澤斉史、徳田有記、澤村真理子、三浦勇人、田口春香、永濱彰悟、東原久美、伊藤悠記、浅田聡美、荒木　翔

◆概　要

- 消化器内科領域の指導医・専門医として診療活動と診療指導を行い、外来・病棟・内視鏡センター・超音波検査・手術・処置、周術期管理を含めた診療や医療行為の安全かつ円滑な運営を図るように努めている。
- 肝疾患領域では、ウイルス性慢性肝疾患に対する抗ウイルス治療に加えて、脂肪肝や自己免疫性肝疾患などの非ウイルス性肝疾患の診断と治療にも取り組んでいる。肝細胞癌に対してはラジオ波治療やマイクロウェーブ治療、肝動脈化学塞栓療法に加えて免疫チェックポイント阻害薬を用いた化学療法も導入し、予後の改善をめざした集学的治療に取り組んでいる。
- 胆膵疾患領域においては、近隣に専門医が少なく、急性膵炎や胆管炎に加えて膵癌や胆道癌の患者数も増加しており、積極的に診断、治療に取り組んでいる。
- 消化管疾患においては、食道癌、胃癌、大腸癌に対する内視鏡治療（ESD）に積極的に取り組んでおり、紹介患者の増加に伴い症例数も増加している。また、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患も増加しており、治験も含めた新規薬剤の導入を進め病状の改善に取り組んでいる。
- 癌診療領域においても、肝胆膵系と消化管系の癌に対して、早期診断と治療に取り組み、内視鏡治療や超音波器機を用いた低侵襲癌治療を推進している。また、進行癌に対しても抗癌剤治療により予後の改善をめざしている。さらに、緩和医療も含めた終末期医療についても取り組んでいる。消化管・肝・胆膵のカンファレンスを定期開催し、消化器内科・外科・放射線診断科・病理科等が協力し適切な治療計画の立案と実行、加えて治療後の評価を行っている。
- 病診・病病連携を深めるため、院内外で講演活動を行い、新規患者の紹介数の増加に取り組んでいる。
- 地域連携を推進するために、本院主催での消化器疾患の研究会を行っている。加えて、地域医師会や医療機関と協力し、地域連携を目的とした研究会を開催し、当院からの情報発信に取り組んでいる。
- 患者教育・疾患啓発のために、地域医師会や医療機関と連携して市民公開講座を定期的に行っている。
- 若手の医師の教育に力を注ぎ、消化器内科医として必要な知識と技術の習得が行えるよう指導を行っている。また、看護師を含めたコメディカルと協働して円滑なチーム医療が行えるよう指導を行っている。臨床研究にも積極的に取り組んでいる。
- 消化器内科として、診療の質の向上に努め、病院運営に貢献できるように努めている。適切な教育・指導により人材の確保と養成を行う。さらに、大阪大学との協力関係を維持し、人材の育成や臨床研究の推進に努めていく。

◆実　績

- 消化器内科領域の指導医・専門医としての、診療活動と指導を行い、消化器内科医師及び各スタッフの協力により、近隣から救急搬送を含む依頼を断ることなく対応し、昨年度は新入院患者総数約2,250名を担当している。また、内視鏡センターにおいて多くの内視鏡検査と手術を行っている。
- 内科系各診療科と協力し、内科系の医療の質の向上に努めている。
- 各職種と連携して円滑で安全な診療に努め、医療・看護教育活動も定期的に開催している。
- 診療実績の向上を図りつつ、働き方改革に即した勤務体制・環境の適正化に努めている。

# 診療部門 循環器内科

◆スタッフ（◎部長）

◎小笠原延行、◎三好美和、佐伯　一、有田　陽、倉岡絢野、藏本見帆、福井智大、山本将平、七條加奈、末谷悠人、廣瀬江祐、小畑理沙子

◆概　要

冠動脈疾患・末梢動脈疾患・心不全・弁膜症・心筋疾患・不整脈・成人先天性心疾患・静脈血栓塞栓症・睡眠時無呼吸症候群など、各種循環器疾患の診断・治療を行っている。心臓カテーテル検査・心臓超音波検査・心臓核医学検査・冠動脈CT・心臓MRIなど循環器系の専門検査が可能であり、幅広い領域での臨床・研究を行っている。心不全に関しての患者教育・指導に力を入れており、心不全教室による患者教育、病診連携による治療管理体制を進め、心臓リハビリテーションとして、入院から外来への患者指導、運動療法を行っている。

虚血性心疾患の治療に関しては、急性心筋梗塞（急性冠症候群）に対して、24時間体制で、冠動脈再灌流治療を行っている。慢性冠動脈疾患に関しては、運動負荷試験、心筋シンチ、FFRなどを用いて、虚血の評価を行い、血行再建の適応を厳密に行ったうえで、症例ごとに最適な治療を行っている。ロータブレータによる石灰化病変へのインターベンションや慢性閉塞性病変への血行再建も可能である。ステント留置のみならず、薬剤溶出性バルーンを用い、ステントレスのインターベンションも試みるようにしている。不整に関しては心房細動や心室頻拍など、各種不整脈に対するカテーテルアブレーションを積極的に行っており、予後に対する成績評価・有効性を検討している。また、発作性心房細動に対するクライオバルーンは通常に施行可能であり、ホットバルーンやレーザーバルーンなど新しい技術も導入し幅広いアブレーションが可能となった。徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療をはじめ、致死性不整脈に対する植込み型除細動器治療や心不全に対する心臓再同期療法も適応を検討しながら行っている。植込み型除細動器に関しては、感染のリスクが少ない皮下植込み型除細動器を用いるケースも増えている。また、通常のペースメーカー植込みが困難な場合には、リードレスペースメーカーをカテーテル的に挿入している。

生理的なペーシングを目指して中隔ペーシング、ヒス束ペーシングも行っている。

透析患者や糖尿病患者も多く、重症下肢動脈虚血の症例に対して、皮膚科・形成外科・心臓血管外科・糖尿病内科・腎臓内科で協力して、フットケアチームとして治療にあたっている。

静脈血栓塞栓症は、外科手術や悪性疾患と密接に関係しているため、迅速な診断・治療を心掛け、カテーテル的血栓溶解療法も行っている。抗凝固療法の困難な症例には、肺塞栓予防のため、下大静脈フィルター留置も可能である。

睡眠時無呼吸外来を週１回行っており、ポリソノグラフィーによる検査入院にて、治療の適応を決めている。

心臓血管外科との連携も密接にとっており、冠動脈バイパスや弁膜症の手術も迅速に対応してもらっている。ハイブリッド手術室の導入により、大動脈疾患・末梢動脈疾患の治療が大幅に改善された。急性大動脈解離に関しては循環器内科にて初期対応・診断を行い、迅速に心臓血管外科にて手術・ステント治療の対応が可能となった。

特に2019年度より循環器内科、心臓血管外科、放射線技師、臨床工学士、看護師によるハートチームを形成して経皮的カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）を開始して確実に症例数を増やしている。

救急医療には積極的に対応しており、ホットラインも駆使し、24時間体制で、救急隊や地域医療施設からの救急患者を受け入れている。

◆実　績

年間の治療件数

冠動脈インターベンション：179件（急性心筋梗塞 36件）
末梢動脈疾患インターベンション：57件
カテーテルアブレーション：169件
新規ペースメーカー植込み：54件（そのうちICD １件）
経胸壁心臓超音波検査：3,864件
経食道心臓超音波検査：80件
心臓核医学検査：525件
冠動脈CT：515件
心臓MRI：15件
TAVI：19件

## 診療部門　皮膚科

◆スタッフ（◎部長）

◎竹原友貴、池田　彩、島田菜津子、桑田由璃子、江田友吾

◆概　要

地域医療支援病院として近隣の施設からご紹介いただいた皮膚疾患全般を中心に診療しています。

乾癬においては日本皮膚科学会の生物学的製剤承認施設です。またナローバンドUVBなどの治療も行っています。

難治性の慢性蕁麻疹やアトピー性皮膚炎に対する新規治療薬による治療も行っています。

糖尿病性足潰瘍をはじめとする難治性皮膚潰瘍では、原因・病態に即した治療を行い、必要時にはフットケアチームとしてチーム医療を行っています。

皮膚腫瘍ではダーモスコピー、表在エコー、皮膚生検による診断や摘出術を行っています。陥入爪・巻き爪では爪を極力温存する方針で治療しています（一部自費診療）。

そのほか、液体窒素凍結療法、局所免疫療法（SADBE）、パッチテスト（パッチテストパネルS、金属アレルゲン）に対応しています。

◆施設認定

日本皮膚科学会認定専門医研修施設

乾癬生物学的製剤使用承認施設

静脈圧迫処置

◆実　績

（令和４年４月～令和５年３月31日）

【診療実績】

外来患者数：10,599人

入院患者数：　202人

【業　績】

論文・著書　和文：２編

学会・研究会発表：４演題

# 泌尿器科

◆スタッフ（◎部長）

◎藤本宜正、山口唯一郎、伊藤拓也

◆概　要

2022年は常勤医３名、非常勤医（外来のみ）２名の構成で、１月～12月の診療実績は外来延患者数9,901人、新患者数（初診）303人、外来１日平均患者数40.9人、入院延患者数3,500人、新入院患者数414人でした。

泌尿器科外来での透視下の処置・手術件数は、2022年は尿管ステント留置術155件、尿管ステント抜去術47件、経皮的腎瘻造設術４件、前立腺生検81件でした。

手術室での手術件数は下記のとおりで、全件数は前年から21件減少しました。レーザーを用いた経尿道的尿管砕石術は46件で前年から４件増加しました。腹腔鏡手術は17件で前年から10件減少しました。

◆実　績

泌尿器科年間手術件数（2022年１月１日～12月31日）

年間手術件数（ESWL以外）　211件

| 開放手術　30件 | | 腹腔鏡手術　17件 | |
|---|---|---|---|
| 副甲状腺摘除 | 2件 | 副腎摘除 | 2件 |
| 後腹膜腫瘍摘除 | 1件 | 腎（尿管）摘除 | 11件 |
| 腎摘除 | 2件 | ドナー腎採取 | 2件 |
| 腎移植 | 2件 | 腎部分切除 | 2件 |
| 膀胱摘除術 | 3件 | 内視鏡手術　164件 | |
| 回腸導管造設 | 3件 | 経尿道的尿管砕石 | 46件 |
| 膀胱修復術 | 1件 | 経尿道的膀胱腫瘍切除 | 71件 |
| 尿道手術 | 2件 | 経尿道的前立腺切除 | 13件 |
| 陰嚢内容手術 | 8件 | 経尿道的膀胱砕石 | 6件 |
| 陰茎手術 | 4件 | 経尿道的止血 | 2件 |
| その他 | 2件 | 直視下内尿道切開 | 3件 |
| | | 経尿道的膀胱異物摘出 | 1件 |
| | | その他 | 22件 |

年間ESWL件数　21件（19人・44回）

# 診療部門 産婦人科

◆スタッフ（◎部長）

◎筒井建紀、◎大八木知史、清原裕美子、繁田直哉、中尾恵津子、田中稔恵、赤田　将、森　禎人、光田　紬、花澤綾香

◆概　要

10名のスタッフで、外来診療、病棟診療、分娩、手術を実施しています。

◆実　績

令和４年度は、分娩数 410件（うち帝王切開術 88件、吸引分娩 26件、鉗子分娩 ４件）、婦人科手術数 248件（うち悪性腫瘍手術 26件）を取り扱いました。

産科診療では、なるべく医療介入の少ない自然なお産を基本的な姿勢としています。症例により、必要に応じて分娩誘発や吸引・鉗子分娩、帝王切開術などを適宜行っています。妊娠34週以降の分娩症例を取り扱いますので、妊娠34週未満の早産症例については、近隣の適切な分娩施設をご紹介します。また、14例の無痛・和痛分娩を実施いたしました。

婦人科診療では、良性腫瘍、悪性腫瘍、骨盤性器脱、性器形態異常などに対し、開腹手術・内視鏡下手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術）・腟式手術などの手術療法を行っています。また、月経異常・更年期障害など卵巣の機能に関わる女性特有の疾患に対して、ホルモン治療・漢方薬治療などの薬物療法など、それぞれ の患者さんに適した治療法をご提案します。また排卵誘発剤を用いた不妊治療や子宮卵管造影検査（HSG）なども実施しています。

現在、多くの医療情報はインターネットなどでも得ることができます。しかし、エビデンスに基づく医療として紹介されている情報であっても、それぞれの患者さんにとっては必ずしも最適な治療とは限りません。同じ疾患でも、患者さんの年齢や状況よって最適な治療法は異なります。また、専門の医師の間ですら治療方針などが異なることは、よく起こることです。これが医療の難しいところです。

私たちは患者さんと向き合い、十分にコミュニケーションをとりながら、必要な治療は何なのか、どれが適切な治療なのかを常に考え、最適な治療法を提供できるよう、また新しい病態を含めたあらゆる産婦人科疾患に対応できるよう、日々努力と研鑽を惜しまず診療に取り組んでいます。是非、ご相談にお越しください。

なお、当院は、

・日本産科婦人科学会　専門医制度専攻医指導施設
・日本婦人科腫瘍学会　専門医制度指定修練施設
・日本周産期・新生児医学会　周産期専門医（母体・胎児）暫定認定施設（補完認定施設）
・日本生殖医学会　生殖医療専門医制度認定研修施設
・日本産科婦人科内視鏡学会　認定研修施設
・日本女性医学学会　専門医制度認定研修施設

など、多くの産婦人科関連学会の研修施設に認定されています。

## 診療部門 眼科

◆スタッフ（◎部長）

◎大黒伸行、◎眞下　永、南　高正、春田真実、梅本弓夏、梅村亨平、濱野結貴：視能訓練士７名

◆概　要

常勤医師７名（専門医５名）、非常勤医師４名（全て専門医）で診療を行っており、眼科診療の各分野において専門とする医師を配置しております。特に、眼炎症、緑内障、網膜硝子体を得意分野としております。斜視弱視の専門外来は火曜日午後のみとなり、また手術には対応できなくなっております。白内障手術では日帰り手術・入院手術いずれにも患者様のご要望にお応えできるようになっております。

◆実　績

令和４年４月から令和５年３月において、白内障手術751件、網膜硝子体手術163件、緑内障手術117件を行っております。ベーチェット病に対するレミケード治療を受けている方は49名、難治性ぶどう膜炎に対するヒュミラ治療90名、眼内悪性リンパ腫の治療・経過観察を受けている方は56名と難治性ぶどう膜炎に対する治療を積極的に行っております。

# 診療部門 耳鼻いんこう科

◆スタッフ（◎部長）

◎前田陽平、南野太志、松尾康平、永田明弘

◆概　要

耳鼻いんこう科は耳・鼻・のど・頸部（くび）など幅広い領域をカバーしています。

特に2022年４月に前田が部長で赴任後は前田の専門分野である鼻副鼻腔疾患、特に経鼻内視鏡手術に力を入れています。また、入院期間も短縮し、短期滞在手術が可能となりました。

慢性副鼻腔炎や鼻腔腫瘍、副鼻腔腫瘍、アレルギー性鼻炎、鼻中隔湾曲症などで手術加療を考慮されている方の紹介が非常に増えています。

もちろん基幹病院の耳鼻咽喉科として耳・のど・頸部など下記のような疾患にも幅広く対応して参ります。頭頸部扁平上皮癌については癌専門施設に紹介する場合がありますが、お気軽にご相談ください。

日本耳鼻咽喉科学会認定研修施設
日本アレルギー学会認定研修施設
日本鼻科学会鼻科手術研修認定施設

◆診療内容

| | |
|---|---|
| 慢性副鼻腔炎（好酸球性副鼻腔炎を含む）、鼻副鼻腔腫瘍 | 内視鏡下鼻副鼻腔手術など |
| 鼻中隔湾曲症（前方湾曲を含む） | 鼻中隔矯正術など |
| アレルギー性鼻炎・肥厚性鼻炎 | 粘膜下下鼻甲介骨切除術・後鼻神経切断術など |
| 頭蓋底腫瘍 | 頭蓋底手術 |
| 慢性涙嚢炎 | 涙嚢鼻腔吻合術 |
| 嗅覚障害 | 原因に応じた投薬・手術など |
| 慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎 | 鼓膜形成術・鼓室形成術 |
| 甲状腺腫瘍・唾液腺腫瘍 | 甲状腺腫瘍摘出術・唾液腺腫瘍摘出術 |
| 声帯腫瘤 | 顕微鏡下喉頭微細手術など |
| 慢性扁桃炎・アデノイド増殖症 | 口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術 |
| 頸部膿瘍 | 切開排膿術など |
| 顔面神経麻痺・突発性難聴 | ステロイドを中心とした治療 |

◆実　績

手術件数（2022年度）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 内視鏡下鼻副鼻腔手術 | 168 | 頸部良性腫瘍・腫瘤手術 | 21 |
| 下鼻甲介手術 | 153 | 頭頸部悪性腫瘍手術（頸部郭清術含） | 3 |
| 鼻中隔矯正術 | 120 | 気管切開術 | 10 |
| 後鼻神経切断術 | 48 | 鼓膜形成術・鼓膜チューブ留置術 | 24 |
| 変形外鼻手術 | 5 | その他 | 84 |
| 口蓋扁桃摘出術 | 67 | 合　計 | 703 |

# 診療部門　小児科

◆スタッフ（◎部長）

◎山田寛之、◎石浦嘉人、◎柏木博子、長松有衣子、岸本加奈子、原田大輔、五味久仁子（９月～）、近藤可愛（通年育休）、阪本夏子、上山　薫（７月から産休・育休）、野口杏子

◆概　要

令和４年度は小児科医11名（日本小児科学会専門医・指導医５名、専門医６名）が小児科に在籍した。また、小児循環器、アレルギー、内分泌専門外来に応援医師５名と一般外来に応援医師１名の派遣を受けた。

当院小児科は新生児から成人後の移行期まで幅広く対応可能な総合小児科であり、大阪市西部地域小児医療の基幹病院として、小児一般診療、専門外来、小児救急医療、周産期医療を提供している。国の「小児医療体制構築に係る指針」に基づき、2022年７月に大阪府より小児地域医療センターとして指定を受けた。

外来は、午前中は一般外来中心、午後からは予防接種、乳児健診とともに、予約制専門外来を行っている。内分泌・骨代謝・骨系統疾患、小児神経、小児消化器、小児循環器、アレルギー、遺伝相談の専門外来を開設している。専門外来では特に、成長ホルモン補充療法、性腺抑制療法、骨系統疾患に対する酵素補充療法やビスホスホネート治療、抗体治療など、川崎病患者長期フォローアップや学校心臓検診の要精査者の精密検査などに力を入れている。また大阪市中央急病診療所の後送病院業務も担っている。

産婦人科と連携し、合併症妊婦やハイリスク妊婦に出生前から関わり、新生児医療へスムーズに移行できるよう取り組んでいる。臨床遺伝専門医および出生前コンサルト小児科医４名を中心に、ニーズの高まる出生前遺伝学的検査にも関わっている。大阪市産後ケア事業を利用する母子に対して、小児科医としてサポートしている。また要養育支援者、被虐待児の診断、治療を行い、地域保健センターや子ども相談センターと連携して、子どもおよびその家族の支援を行っている。

病棟は、小児科病床22床、NICU６床に加えて、プレイルーム２室を備え、保育士が配置されている。急性疾患・新生児疾患の他、内分泌負荷試験、鎮静下MRI、脳波、食物経口負荷試験、鎮静下小児消化器内視鏡などの検査入院や先天性疾患、慢性疾患の入院診療にも対応している。

研究面では内分泌・代謝疾患や骨系統疾患に対する臨床研究・治験にも積極的に取り組んでいる。教育面では大阪大学医学部の実習施設として学生を受け入れ、医学教育にも貢献している。

◆実　績

論文・著書　英文１編、和文２編

学会発表　16回

（人）

| | |
|---|---|
| 新規小児入院患者数 | 802 |
| NICU入院患者数 | 215 |
| 外来患者数 | 8,004 |
| 救急外来患者数 | 509 |

# 神経精神科

◆スタッフ（◎部長）

◎山森英長、松下紗織、榎並里奈、精神保健福祉士１名、非常勤心理療法士５名

◆概　要

当科外来では地域の皆様に貢献できるよう、精神疾患全般の診療を行っております。

認知症の診断・治療の導入・周辺症状への対応、ストレス関連障害、不安障害、気分障害、統合失調症の治療、診断の難しい精神疾患の診断、また、思春期・青年期（高校生以上）の精神疾患の診断・治療等、多岐にわたり対応が可能です。

外来以外では「総合病院の神経精神科」として、他科との連携を重視し、身体疾患により当院他科へ入院中の患者さんに生じた、せん妄、不眠、抑うつ、不安等への診療（リエゾン精神医学）が重要な役割と考え、診療にあたっております。さらに、チーム医療にも積極的に関わっており、緩和ケアチームのメンバーとして精神科医の視点から、がん患者さんの症状緩和や精神症状への対応を行ったり、また、認知症ケアチームのメンバーとして、認知症の方が身体疾患のため入院された際の、周辺症状への対応、ADLや認知機能の低下が生じないような対応をチームメンバー、病棟看護師とともに行っております。

また教育面では、初期研修医の研修・指導を行っているとともに、日本精神神経学会、日本総合病院精神医学会の専門医研修施設の認定を受けており、精神科専門医、一般病院連携（リエゾン）精神医学専門医の育成にも力を注いでおります。

◆実　績

令和４年度診療実績（令和４年４月～令和５年３月）

| | | 合　計 | 月平均 |
|---|---|---|---|
| 外　　来 | 初　診 | 262 | 21.8 |
| | 再　診 | 7,470 | 623 |
| リエゾン | 初　診 | 446 | 37.1 |
| | 再　診 | 1,176 | 98 |

延べ診察数：9,354
１日当たりの平均診察数：38.2

# 診療部門　脳神経内科

◆スタッフ（◎部長）

◎上田周一、◎寺川晴彦、山下和哉、松本涼聖

◆概　要

当科は平成８年の開設以来、脳卒中を中心とした神経内科疾患の診療に従事し、本年もSCUでの脳卒中を中心とした診療に加えて、てんかん・髄膜炎・ギランバレー症候群などの神経救急疾患も積極的に受け入れている。一方で、地域医療機能推進の一環として、神経難病の患者さんも増加傾向にあり、遺伝子診断・治療や免疫修飾療法・ボトックス注射などの特殊治療にも対応している。

◆実　績

脳神経外科と連携してのSCU９床の稼働率は例年通り90％以上で推移していた。

本年度は、部長２名・医長２名、内科専攻医１名の計５名での病棟運営を開始したが、12月末で明浦公彦医長が退職、2023年１月からは４名となった。院外からの当直専従医（久保田智哉・由上登志郎・西池氏暉）の補助もあり、一般病床を含めて、年間約330名の新入院患者を受け入れた。

脳卒中については、t-PAや脳神経外科　山際部長との協力による血管内治療などの超急性期治療実施件数が、年間20例を維持し、学会が求める施設目標を達成した。当科の診療科別KPIとしてのSCU緊急入院数は175名で目標の112％を達成、脳神経外科と連携してのSCU９床の稼働率は例年通り90％以上で推移していた。脳卒中ネットワークを介しての回復期リハビリテーション病院への転院や療養支援も順調であった。

その他一般神経疾患についても、神経救急疾患に対するICU管理のほか、免疫性神経疾患に対するステロイドパルスや血漿交換を中心とした免疫修飾療法に従事。大阪大学からの応援医師（米延友希）のもと、筋生検も施行。神経難病に対する特定疾患申請・在宅支援や脳卒中後遺症患者さんをも含めた身体障害認定継続の他、拘縮四肢に対するボトックス治療なども継続している。小児科　柏木部長の協力での遺伝子診断の他、遺伝子治療としての脊髄性筋萎縮症に対するヌシネルセンの髄液内投与治療、多発性硬化症に対する皮下注射製剤を用いた免疫修飾療法も継続している。

脳卒中以外の主要神経筋疾患は延べ入院数で、ALS（筋萎縮性側索硬化症）：５例、脊髄性筋萎縮症（SMA）：２例、パーキンソン病：11例、多系統萎縮症：１例、脊髄小脳変性症：４例、多発性硬化症：６例、重症筋無力症：４例、ギランバレー症候群：６例、髄膜炎を含めた神経感染症：16例、てんかん：13例などであった。日本神経学会認定教育施設として、学生実習や初期研修医の受け入れも積極的に行い、初期研修医１年目１名、２年目３名の初期研修医、および日生病院からの内科専攻医２名が当科で研修した。

脳梗塞に関する公開講座を脳外科　山際部長とともに本年も2022年12月に実施、2023年３月５日には、主任部長の上田が、第125回日本神経学会近畿地方会での生涯教育講演会にて「若年者の脳梗塞の動向と病態」と題した講演を行った。

# 診療部門 放射線診断・IVR科

◆スタッフ（◎部長）

◎臼杵則朗、◎北山聡明、大倉隆介、崔　朝理、小林彰太郎

◆概　要

当科は現代の医療に不可欠なCT、MRI、RIの画像診断の大部分を行うとともに、画像支援の下カテーテル操作を駆使する画像下治療（IVR）を行っています。４名の放射線診断指導医、専門医と１名の放射線専門医が在籍し、内２名はIVR専門医を、１名は核医学専門医資格も有しています。

撮影にあたってはオーダー医の目的に適うような撮影法となるように指示を出し、診断レポートは迅速に報告して治療方針を的確に立案できるように協力しています。また、近隣医療機関からの検査依頼も当日検査も含め積極的に受け入れるようにして病診連携にも力をいれています。

IVRは断らないことをモットーとしており、肝細胞がんの塞栓術、ポート留置術といった手技はもとより、止血術、ドレナージといった救急症例にも積極的に対応し、各科の要望に応えるようにしています。今後は、緩和医療等も適応範囲を広げていきたいと思っています。

教育面では、日本医学放射線学会より放射線専門医修練施設、日本IVR学会よりIVR専門医修練施設、日本核医学会より専門医教育機関の認定も受けています。

画像、IVRで何か疑問なことがあればお気軽にお尋ねください。

◆実　績

2022年度モダリティー別レポート件数およびIVR件数

（　）内は他施設より依頼

| | |
|---|---|
| CT | 21,610（668） |
| MRI | 10,026（388） |
| RI | 537（13） |
| IVR | 149（34） |
| 止血術 | 19 |
| ドレナージ | 27 |

# 診療部門 放射線治療科

◆スタッフ（◎部長）

◎西多俊幸、前角智子

◆概　要

放射線治療科は悪性腫瘍を対象にした放射線治療を専門に行います。放射線治療は体外照射と体内照射に大別され、当科で行うのはリニアックを用いた体外照射のみです。放射線治療は目的によって根治的にも緩和的にも適応できますので、ほとんどの癌がなんらかの放射線治療の対象となりえます。また、放射線治療は集学的治療のひとつとして化学療法や手術と併用されますので、当科では他の臨床各科との連携のもとに各種の悪性腫瘍に対する放射線治療を行っています。

体外照射に用いる治療装置として、汎用リニアックであるElekta社製Infinityが設置されており、強度変調照射や体幹部定位照射などの高精度放射線治療にも対応しています。

放射線治療を適切に行うには各分野の専門スタッフの協力が不可欠であり、放射線治療専門医をはじめとして放射線治療専門技師や医学物理士、さらに専従看護師や事務職員などが診療にあたっています。特に高精度放射線治療を安全に施行するには高度な物理学的知識が必要とされるので、医学物理の専門家による支援が不可欠です。また基本的に癌患者が対象であるため、メンタル面でのサポートも含めて看護師の役割が重要であるのも当科の特徴といえます。

放射線治療は根治目的にも緩和目的にも用いることができます。高精度照射に代表される根治照射が注目されますが、癌患者の多くは術後補助療法や緩和医療としての放射線治療を必要としています。当科ではこれら通常照射の重要性をふまえた上で、限られたスタッフで可能な限りの高精度照射も提供できるように努めています。

高精度照射としては体内の多くの部への強度変調照射を保険診療の範囲内で実施しています。体幹部定位照射は肺と肝臓を主な対象に施行しており、適応症例では脊椎転移への定位照射も行っています。

◆実　績

高精度放射線治療として強度変調放射線治療と体幹部定位照射を行っています。

2022年（１月～12月）

| | | |
|---|---|---|
| 延べ照射件数 | 3,254件 | |
| 治療計画数 | 212件 | （１門・対向２門：32、非対向・３門：45、４門以上：94、強度変調照射：25、体幹部定位照射：８） |
| 総照射部位数 | 157部位 | （乳房：53、骨：27、肺：23、前立腺：８、脳：７　など） |
| 全治療患者数 | 141名 | （原発巣別 乳腺：63、肺：34、胃-小腸-結腸-直腸：11、肝胆膵：９　など） |

# 麻酔科

◆スタッフ（◎部長）

◎中谷桂治、◎佐藤善一、◎山間義弘、佐藤八江、西田宙夢、中新恭平、今村圭佑、大熊尚美、黒澤すみれ

◆概　要

現在スタッフは９名（麻酔科部長２名、集中治療部部長１名、医長１名、医員５名）で、それ以外に非常勤医師に応援に来てもらっています。大阪大学歯学部と大阪歯科大学の歯科麻酔科から医科麻酔の研修として１年間の研修を受け入れています。初期臨床研修医は全員１年目に麻酔科での研修が必須とされており、２か月間麻酔の基本を中心に研修をしています。

手術室は12室ありますが、麻酔科の管理枠としては最大８列としています。時には手術室以外のアンギオ室で麻酔管理を行うこともあります。

集中治療室は、日勤帯は佐藤善一部長を中心に専従医として各科医師と協力しながら患者管理を行い、当直業務は麻酔科と心臓血管外科が行っています。

本院の麻酔科の基礎を築かれた久保田行男先生、その教えを忠実に守られた豊田芳郎先生らの時代は何よりも患者さんの「安全」を最優先に考えておられました。麻酔科管理症例のほぼ全例に病棟での胃管挿入、経鼻挿管時の意識下挿管、小児の意識下での静脈路確保、麻酔導入前のＡライン挿入など、時として患者さんの苦痛を伴う処置であったことも否定はできませんが、安全重視という理念はこれからも受け継ぎ、手術室での医療事故がないように努めていきたいと思います。

ただ時代の流れとともに管理方法も少しずつ変遷し、気管挿管の器具においては、以前はマッキントッシュ型喉頭鏡だけでしたが、今ではマックグラスというビデオ喉頭鏡を用いることで、挿管困難症例でも容易に挿管できるようになりました。また中心静脈カテーテル挿入に関しては、エコーを用いることで安全かつ容易に手技を行うことができるようになりました。

新病院となってからは手術室部門システムを導入し、麻酔記録が電子化されてバイタルの記録が自動化されました。これにより患者さんの急変時にも正確な記録が残ると同時に、記録業務が省けることで、迅速な対応に専念できるようになりました。

今後、ますます手術件数の増加が予想されますが、どのような場合でも基本である患者さんの安全を忘れることなく、術中管理は言うに及ばず術後の回復も考慮した麻酔を心掛けていきます。

◆実　績

2022年度の手術症例数は5,248例で、そのうち麻酔科管理症例は3,474例（全身麻酔2,962例、脊髄くも膜下麻酔506例）でした。

# 診療部門 歯科・歯科口腔外科

◆スタッフ（◎部長）

◎藤本佳之、木下久美子、歯科衛生士３名

◆概　要

部長および医員は大阪大学歯学部第一口腔外科の出身であり、同科の関連病院として動いています。治療対象疾患は口腔外科疾患全般です。ただし、悪性腫瘍については関連病院であるJCHO大阪みなと中央病院口腔外科に紹介しています。地域医療機関からの口腔外科疾患の受け入れを主体としており、一般歯科診療については原則行わず、他科入院患者の入院中の応急的な歯科治療のみ行っています。診療は外来での口腔外科処置を主に行っており、入院全麻症例の手術は奇数週の木曜日に行っています。周術期口腔機能管理については、全科に対象を拡大して対応しています。

◆実　績

2022年は新規患者数は1,908名でコロナ以前の新患数を上回る患者数となり、新規入院患者数も45件と回復がみられます。外来手術件数963件のうち、単純抜歯424件をのぞけば最も多い手術は埋伏抜歯で306件となっています。周術期口腔機能管理の件数についてはほぼ横ばい状態ですが、今後、病院全体の手術件数増加に伴い増加していくものと予想しています。

# 病理診断科

◆スタッフ（◎部長）

◎吉田康之、中井千晶、緒方正史

◆概　要

病院における病理科、「びょうり」部門とは患者さんの病巣組織の一部を採取し顕微鏡で観察、癌かあるいは他の疾患かを診断する部門であります。

胃カメラや大腸内視鏡検査で消化管粘膜面を観察しながら異常部分の粘膜組織片を採取し（生検）、そのパラフィン切片にＨ－Ｅ染色を施した組織標本を作製し、これを顕微鏡下に観察して胃癌や大腸癌があるのか、又は、潰瘍や炎症やポリープだけなのか？ を判定し診断する。病理科とはこのような診断業務を司る部門であり、病院にとって重要な役割を担っております。

そして、喀痰、尿、胸腹水、子宮頸管や内膜からの擦過材料、乳腺・甲状腺・リンパ節などの穿刺材料をスライドグラスに塗布してパパニコロー染色を行い、やはり光学顕微鏡にて癌細胞の有無を見分ける細胞診も病理科の主たる業務の一つであります（細胞診）。

さらに、手術で摘出された臓器あるいはその一部を肉眼的に充分に観察してそれから病理組織標本を作製し、癌であるならば、取り残しなく完全に摘出されているかどうか、周辺リンパ節転移の有無についても詳しく検索します（手術材料検索）。

手術中でも癌が完全に切除しきれているかどうか、切除断端組織を－30℃で迅速に凍結して染色し、その凍結切片を顕微鏡下に即座に診断し、その結果を手術中の執刀医に連絡し癌がまだ取り残されているならば追加切除するように指摘します。術中迅速凍結切片診断は時にその手術の成否にかかわる決定的な鍵を握る事が多く、我国でも大手術を行う場合には病理部門の整備充実が必須の条件と言われてきています。

極めて難解な疾患で種々の治療の甲斐もなく又は予期せぬ経過で死亡した場合には、患者さん本人の遺志や遺族の了解の下で病理解剖を行い臨床病理検討会において疾患の本態の解明や診断の的確さや治療効果が討議されます。

◆実　績

**令和４年度（2022.4.1～2023.3.31）**

生検・手術材料：約6,152件（内術中迅速診断：約177件）

細胞診：約6,772件

# 診療部門　救急・プライマリケア診療部

◎小笠原延行、◎五十嵐　渉、永田慎平
臨床研修医（２年）：一宮汐里、川島諒也、小杉悠貴、阪井達哉、白井晴菜、遠山昌宏、橋本勇輝、森　一朗、山川拓真
臨床研修医（１年）：松本啓佑、中西隆哉、本城文哉、浅野良寛、足立奏美、池尻遼哉、岩本義丈、恵美陽治、金田航季、佐藤大竜、立山明日香、三浦祐市、寺島久敦、大植瑠美子、加島嵩之、酒井紅美子、山本健裕、上野紗規子

## ◆概　要

救急・プライマリケア診療部は、救急患者の受け入れと初期診療を行い、また救急診療を通じて初期臨床研修医の教育・研修を行うことを目的とした部署である。

救急部としては、年間約8,811人の患者の受け入れを行っており（うち救急搬送が4,526人）、その28％強にあたる約3,176人が入院となっている。当院の診療限界を超える病態の依頼を除き、できる限りの積極的な受け入れを行っている。特に近隣の開業医からの緊急紹介患者については、担当科が不明な場合には直接救急が対応することで、より円滑な受け入れが可能になった。

初期研修については、１年目研修医は、１ヶ月の救急ローテート期間を通して指導医とともに平日日勤帯の救急搬送患者の初期対応にあたる。この間に、問診や身体所見の取り方、カルテの書き方、common diseaseの疾患概念、診断に至るまでの思考プロセスなどの医師として必要な知識や技術はもちろん、患者への接し方や言葉遣い、仕事への責任感、モラルなどの人間性に関わるようなことも学んでいく。６月からは２年目研修医の夜間休日の救急当直に23時まで一緒に入り、ウォークインも含めた比較的軽症の患者の対応についても経験する。

２年目研修医は、夜間休日の救急当直に入り、ある程度自分の判断で救急患者の初期対応を行っていく。当院には、研修医を直接補佐する救急Ａ当直を始め、内科、循環器科、外科、脳卒中、小児科、産婦人科、ICUなどの各科医師も当直に入っており、幅広いコンサルトが可能な環境が整っている。また、当直翌朝には救急で診療した症例について、救急、整形外科、循環器科、内科の部長と検討会を行うことで、経験した症例に関してフィードバックすることができる。平成31年度からは２年目研修医も１ヶ月の救急ローテートが必須となり、２年間に計２ヶ月の研修期間で十分な知識や技術の習得を目指す。

研修医向けの勉強会については採用当初に各科指導医によるクルズス、その後、院内では週１回の症例検討会とMGHケースカンファレンス発表会、月１回の内科症例発表会、放射線技師や薬剤師との合同勉強会を行い、また年２回程度院外から有名講師を招聘し研修医向けに講義を開催している。さらに月１回音羽病院でのGIMカンファレンス、２ヶ月に１回の西の方GIMカンファレンスに参加するなど、勉強することに対する意識を高く保てるような環境作りを心がけている。しかしながらコロナ禍においてはこれらの勉強会の開催ができない事態になっていたが状況は改善しつつある。

働き方改革の影響もあり慢性的なマンパワーの不足が懸念される状況ではあるが、各科の医師の協力も得てその影響を最小限に抑えるよう努力している。今後も各科の医師と連携し、救急患者の受け入れを行っていくとともに、研修医教育にも力を入れていきたいと考えている。

2022年度も救急部が新型コロナウイルス蔓延の影響を受けた一年でもあり特に発熱患者に対する対応が陰圧室の問題もあり受け入れを断らざるを得ない状況に追い込まれ、近隣の救急隊、地域住民にご迷惑をおかけしたこともありました。一刻も早い感染の収束とともに通常の救急診療が可能になることが望まれます。

## ◆実　績

2022年度

１年目研修医 13名　２年目研修医 14名

| | |
|---|---|
| 救急外来受診患者数 | 8,811名 |
| 救急搬送受け入れ患者数 | 4,526名 |
| 救急外来からの入院患者数 | 3,176名 |

# 血液浄化センター

◆センター長

鈴木　朗

◆概　要

末期腎不全に至った症例について、血液透析、腹膜透析などの腎代替療法を導入し、また、維持血液透析患者の入院中の管理を行っています。腎代替療法導入に際しては、同センター看護師が担当する療養選択外来を受診していただき、各療法の特徴につき十分理解していただいた上で、患者さん自身に選択していただいております。自己免疫疾患や肝不全に対する血漿交換療法、炎症性腸疾患に対する白血球除去療法、家族性高コレステロール、巣状糸球体硬化症、ASOに対するLDLアフェレーシス療法、難治性腹水に対する腹水濾過濃縮療法なども積極的に行っております。ICUにおける血液浄化療法についても、オンコール体制を敷き24時間体制で対応しております。維持血液透析、維持腹膜透析例も管理しており、総合病院であるメリットを生かし合併症を早期に発見することにより透析患者さんの生命予後改善を目指しております。

◆実　績

維持血液透析を51例導入しました。

維持血液透析患者14名、腹膜透析患者９名も管理されています。

2022年の各療法実施件数は以下の通りです。

| | | |
|---|---|---|
| HD | 3,209 | △557 |
| online HDF | 1,689 | ▲529 |
| PE（血漿交換） | 23 | △12 |
| DFPP | 6 | △3 |
| LDLアフェレーシス | 7 | △7 |
| GCAP（顆粒球吸着） | 0 | ▲20 |
| ICUにおける血液浄化 | 64 | ▲86 |

◆ひとこと

当センターは夜間、休日も各種血液浄化療法が施行可能であり、大阪市西部地域における中心的な血液浄化センターです。患者教育も積極的に行っており保存期慢性腎臓病患者を対象に、栄養部、薬剤部、看護部にご協力いただき、毎月「腎臓病教室」を開催しております。（現在、新型コロナウイルス感染のため休止しております）

# 内視鏡センター

◆センター長

山本克己

◆概　要

上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡、胆膵内視鏡、超音波内視鏡（EUS）、カプセル内視鏡検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査、気管支鏡、胸腔鏡、超音波気管支鏡などの検査手技だけでなく、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、総胆管結石破砕術・乳頭切開術、消化管止血術、食道静脈瘤結紮術・硬化療法、胃瘻増設術、消化管狭窄バルーン拡張術・ステント留置術、EUS下ドレナージ術などの内視鏡治療など、内視鏡を用いた検査・治療の幅広い領域を扱っています。新病院に移った後はリカバリルームを増設しており、近年の社会的ニーズに応えるべく、安楽な内視鏡検査を行うため、消化器内視鏡検査では、鎮静剤を積極的に導入しています。呼吸器領域においては、局所麻酔下胸腔鏡、超音波気管支鏡といった最新の検査も行っています。治療については、特に、高度な技術を要する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）件数が多いのが特徴で、早期胃癌だけでなく、早期の大腸癌、食道、十二指腸、咽頭癌など幅広い領域の表在癌の治療にあたっており、困難症例を含め、大阪府下だけでなく、他府県からもご紹介いただいています。検査・治療に際しては、合同カンファレンスを定期的に開催し、消化器内科、外科、病理科が密接にコミュニケーションを取りながら診療を行っています。最近は、外科、消化器内科が協力して、腹腔鏡内視鏡合同手術（LECS）も施行しており、咽頭癌に対するESDは消化器内科と耳鼻科が協力して行っており、先進的な医療も積極的に施行しています。

また、吐下血などの消化管出血や胆管炎などの救急疾患にもオンコール体制を敷いて対応しており、地域医療に貢献しています。

◆実　績

2022年度は、内視鏡総件数が9,061件、上部消化管内視鏡検査が6,038件、下部消化管内視鏡検査が2,654件、ESD件数が235件、EMR件数が904件、ERCP件数が191件、気管支鏡件数が154件となっています。

鎮静剤使用割合が増加しており、2022年度は78.2％と、2013年の14.2％に比較し、年々増加しています。

# 脳卒中センター

◆センター長

上田周一（SCU 責任医師）、榊　孝之

◆概　要

【2022年度人員】

脳神経内科４名、脳神経外科３名、プライマリーケア診療部２～３名、看護師17名、専任PT１名、病棟薬剤師１名、医療福祉相談室７名。

脳神経内科・脳神経外科が協力し、24時間対応した脳卒中治療を行っている。

脳神経血管内治療学会専門医２名（山際部長、呉村医師）と実施医１名（明浦公彦医師）が在籍し、超急性期血栓溶解療法、超急性期血管内治療（血行再建術、コイル塞栓術）と緊急手術にも対応している。

リハビリテーション科と連携して、早期からのリハビリテーション開始・早期離床を行っている。医療福祉相談室と連携し、回復期リハビリテーション病院への転院を積極的に行い、自宅復帰・社会復帰を目指している。

大阪脳卒中医療連携ネットワーク（OSN）に計画管理病院として発足当初より参加している。本年度は脳卒中地域連携パスVersion7より8.1への改定作業を当院で担当。またOSN主催の患者さん・家族向け啓発イベントである脳卒中サロンにもMSW１名が参加した。

2022年４月１日付けで、日本脳卒中学会認定一次脳卒中センターコア施設に認定された。それに伴い、2022年12月１日より、脳卒中療養相談窓口を外来患者相談窓口内に設置した。脳卒中療養相談士の資格を持つ医師３名、看護師５名（脳卒中認定看護師１名）、MSW１名が常駐し、対応を開始した

◆実　績

| | | |
|---|---|---|
| SCU平均在院患者 | | 8.1名 |
| SCU入室患者数 | | 404名 |
| 内訳 | 脳梗塞 | 274名 |
| | 脳出血 | 67名 |
| | くも膜下出血 | 14名 |
| | 一過性脳虚血発作 | 10名 |
| | その他 | 39名 |
| 脳梗塞超急性期血栓溶解療法 | | 14名 |
| 脳梗塞超急性期血管内治療 | | 26名 |
| 両者併用 | | 11名 |
| 脳出血開頭血腫除去術 | | 10名 |
| 脳動脈瘤緊急クリッピング術 | | ５名 |
| 脳動脈瘤緊急コイル塞栓術 | | 16名 |
| 脳梗塞開頭減圧術 | | １名 |
| 脳動静脈奇形塞栓術 | | ３名 |
| 脳室ドレナージ術 | | ４名 |

# 外来治療センター

◆センター長

塚本文音

◆概　要

外来治療センターでは、通院での抗悪性腫瘍剤や関節リウマチなどに対する生物学的製剤等の投与を行っている。また、曜日と時間帯を限定して自己血貯血に対応している。

電動ベッド７台、リクライニングチェア13台が稼働。看護師４名以上が常駐し、薬剤投与中の観察のみならず、帰宅後の有害事象の予防、軽減のための援助を行っている。

◆実　績

令和４年度は、外科、乳腺・内分泌外科、消化器内科、内科、眼科、泌尿器科、産婦人科、脳神経内科、脳神経外科、整形外科が当センターを利用。

令和４年度の化学療法実施延べ件数は3,607件（月平均300件）、貯血実施延べ件数は88件（月平均7.3件）。

# 母子医療センター

◆センター長

筒井建紀

◆概　要

大阪市西部基本保健医療圏の周産期医療を担う拠点病院として、産科、小児科（認可新生児集中治療室：NICU）で連携して母子医療センターを設置しています。

産科は一次救急を扱っており、大阪府における産婦人科診療相互援助システム（OGCS）に加盟し、母体の様々な病態により急変した際の搬送の受け入れを実施し、地域の産科診療に貢献しています。また、妊婦さんの安全性と利便性の観点から、日頃より病診連携でお世話になっております産婦人科ご開業の先生に妊婦健診をお願いし、分娩は当院で取り扱う「産科オープンシステム」を取り入れています。産科以外に合併症をお持ちの妊婦さんに対しては、総合病院の利点を活かして内科・外科・精神科など院内の他診療科と連携して適切に対応しています。さらに、令和４年７月より妊婦さんの無痛分娩・和痛分娩のご希望に添えるように対応しております（無痛分娩・和痛分娩の数は、制限しております）。

産科外来では、医師による通常外来の他に、助産師外来も併設しており、妊娠経過が安定している妊婦さんにご利用いただいています。助産師外来は、妊娠中の様々なご相談にきめ細やかに対応し、好評を得ております。

入院中の食事メニューは、妊婦さんのご意見をフィードバックしながら、量・質ともに満足していただけるものにグレードアップしており、入院時のアメニティーもますます充実しています。また、令和４年度に一部の病室の改装を行い、さらに快適な入院生活をご提供できるようになりました。

小児科は、院内出生を中心にNICU６床を確保し、新生児診療を24時間体制で行っています。大阪府新生児診療相互援助システム（NMCS）にも参加しており、大阪の周産期地域医療システムの一翼を担っています。産科と緊密に連絡をとり、看護師・助産師のスタッフとともに、一人ひとりの赤ちゃんに対する最適の治療、退院後のフォローアップ、さらにはご家族全体のトータルな支援を心がけています。

◆実　績

令和４年度の分娩数410件（うち帝王切開術88件、吸引分娩26件、鉗子分娩４件）で、このうち地域の医院と連携したオープンシステムによる分娩数は89件でした。また、NICUの入院延患者数は667人、新入院患者数は185人でした。

# 集中治療部

◆部　長

佐藤善一

◆概　要

当院のICUは平成９年に循環器科創設と同時に発足した。呼吸器外科担当部長大野喜代志先生、中村康子婦長のもとで開設されたICUは平成20年（2008年）４月からは10床に増床され、平成27年新病院開院とともに12床に増床された。2020年度より、佐藤を含む２名の集中治療専門医体制でICUの日勤を担当し、39名のICU看護師（うち集中ケア認定看護師１名）と共に治療を行っている。

毎朝、主治医、麻酔科ICU担当医、看護師とでウォーキングカンファレンスを行い、治療方針の確認を行っている。また、リハビリテーション部、ICT（院内感染コントロールチーム）、NST（栄養サポートチーム）などと緊密な連携を保ち、治療を行っている。高度医療機器は臨床工学技士の管理により安全に使用できている。

◆実　績（2022年度）

| | |
|---|---|
| 入室患者数 | 1,070例（男 596例、女 474例） |
| 平均年齢 | 70歳 |
| 平均在室日数 | 3.4日 |

＜診療科内訳＞

| | |
|---|---|
| 心臓血管外科 | 101例 |
| 外科（胸部含む） | 259例 |
| 脳神経外科 | 68例 |
| 整形外科 | 123例 |
| 泌尿器科 | 26例 |
| 産婦人科 | 33例 |
| 形成外科 | ７例 |
| 耳鼻科 | ８例 |
| 皮膚科 | ２例 |

| | |
|---|---|
| 循環器内科 | 352例 |
| （一般）内科 | 26例 |
| 消化器内科 | 26例 |
| 神経内科 | 10例 |
| 呼吸器内科 | 21例 |
| 糖内分泌内科 | ８例 |

＜その他＞

| | |
|---|---|
| 心肺蘇生後 | 30例 |
| covid19肺炎 | 16例 |
| 陰圧室使用 | 23例 |

# 手術室

◆スタッフ（◎部長）

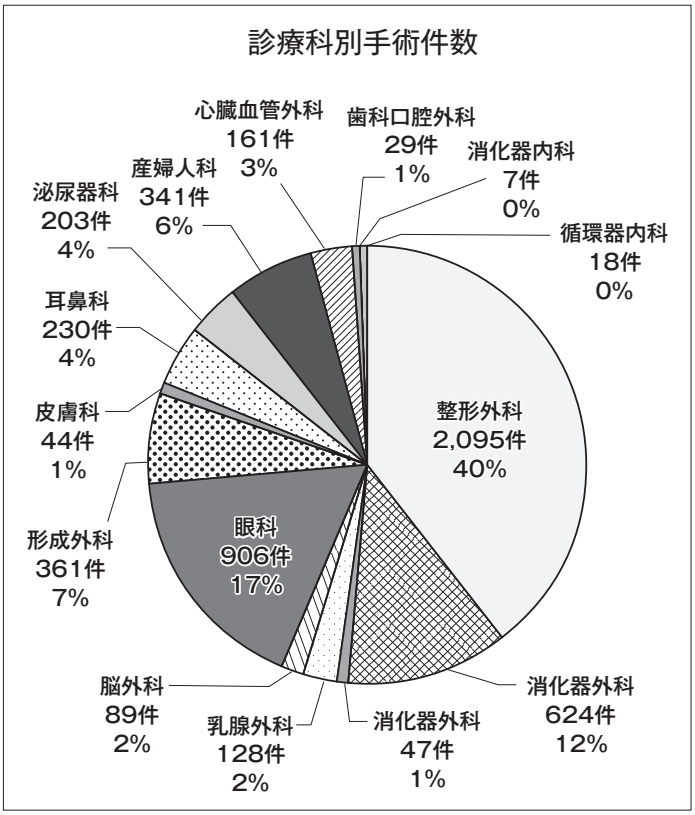
◎中谷桂治、麻酔科医師11名、（看護師長）藤原千佳、看護師36名

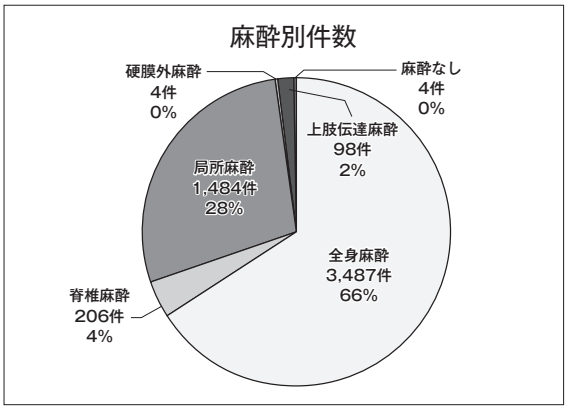
◆概　要

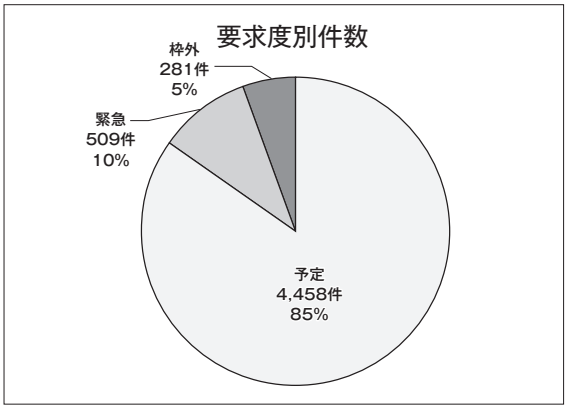
手術室は12室あり、うち４室がバイオクリーンルーム、１室はハイブリッド手術室である。入院・外来患者すべての手術を手術室で行っている。

◆実　績

2022年度総手術件数は5,248件で、整形外科が全体の40％を占め、次いで眼科17％、消化器外科12％であった。麻酔は全身麻酔が年々増加し全体の66％であった。予定手術以外の枠外・緊急手術は総手術件数の15％を占め増加傾向にある。（データは各科実績）



# 薬剤部

◆スタッフ（◎部長）

◎辻川正彦、他薬剤師29名、薬剤助手５名

◆概　要

2023年３月現在、薬剤師30名（定数32名）薬剤部長：辻川正彦

副薬剤部長：長谷川真美、主任：田中早紀・井上敬之・木村　仁・角　陽子

一般薬剤師24名（男６名・女18名、内育児休業３名）

薬剤助手５名、事務１名、SMO４名

**施設基準等**

病棟薬剤業務実施加算１ …… 11病棟

病棟薬剤業務実施加算２ …… SCU・ICU

薬剤管理指導料、外来化学療法加算１、無菌製剤処理料、がん患者指導管理料（ハ）

チーム医療：ICT・AST・NST・緩和ケア・褥瘡ケア・認知症ケア・せん妄ケア

学生実務実習受入施設

| | | |
|---|---|---|
| 日本病院薬剤師会 | 感染制御専門薬剤師 | １名 |
| | 病院薬学認定薬剤師 | 14名 |
| | 認定指導薬剤師 | ２名 |
| 日本薬剤師研修センター | 認定実務実習指導薬剤師 | ５名 |
| 日本医療薬学会 | がん専門薬剤師１名 | １名 |
| 日本小児臨床薬理学会/日本薬剤師研修センター | 小児薬物療法認定薬剤師 | １名 |
| 日本緩和医療薬学会 | 緩和薬物療法認定薬剤師 | １名 |
| 日本臨床腫瘍薬学会 | 外来がん治療認定薬剤師 | １名 |
| 日本医療情報学会 | 医療情報技師 | １名 |
| 日本高血圧学会　日本循環器病予防学会 | 高血圧・循環器病予防療養指導士 | １名 |
| 日本ACLS協会 | BLS Provider | １名 |
| 日本・アンチドーピング機構 | 公認スポーツファーマシスト | １名 |
| 日本臨床栄養代謝学会 | 栄養サポートチーム専門療法士 | ２名 |
| 日本循環器学会 | 心不全療養指導士 | １名 |
| 日本心臓リハビリテーション学会 | 心臓リハビリテーション指導士 | １名 |

◆実　績

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 外来一般処方箋(枚) | 3,107 | 薬剤管理指導　患者数(人) | 13,210 | TDM算定件数 | 1,609 |
| 外来注射処方箋(枚) | 32,589 | 指導回数 | 16,908 | 採用薬品数 | 1,229 |
| 院外処方箋(枚) | 99,949 | 算定件数 | 15,457 | 新規レジメン登録(件) | 33 |
| （発行率　%） | 97.0 | 麻薬管理指導加算(件) | 238 | 後発薬品置換率(%) | 92.88 |
| 入院一般処方箋(枚) | 150,573 | 退院時薬剤情報(件) | 1,854 | 年間治験実施本数 | 22 |
| 入院注射処方箋(枚) | 146,815 | 持参薬調査件数 | 9,076 | 新規治験契約件数 | 5 |
| 入院麻薬一般処方箋(枚) | 780 | 持参薬調査剤数 | 63,296 | 薬剤情報提供料(件) | 2,927 |
| 入院麻薬注射処方箋(枚) | 7,026 | | | 疑義照会件数　（調剤室）<br>（注射室） | 5,224<br>25 |
| 院内製剤件数<br>（一般）<br>（無菌製剤） | <br>59<br>54 | 無菌製剤処理算定件数<br>（抗がん剤・TPN） | 3,856 | 病棟薬剤業務実施加算(件)<br>（一般病棟11）<br>（SCU・ICU） | <br>29,947<br>670 |
| 注射混合調製分取総件数 | 3,160 | 処置薬剤払出件数 | 8,322 | 医薬品安全研修(回) | 3 |

# 放射線室

◆スタッフ

（技師長）髙谷道和、他放射線技師30名

◆概　要

現在、診療放射線技師31名、事務スタッフ7.5名で放射線室を運営しています。放射線室は地下１階に核医学検査と放射線治療、１階に救急専用の撮影室、２階に一般撮影、CT、MRI、MMG、X-TV、骨密度測定装置等の診断部門、５階に血管撮影室、Hibrid手術室を配置しています。

我々放射線室スタッフは常に放射線診断、治療の各分野で知識と技術の向上を図り専門性を高めています。また高度な放射線機器を操作し、画像や被ばく線量の管理を適切におこない、中央部門として質の高い診療機能を維持し、特に被ばくに関しては「医療被ばく低減施設」の認定も取得しており、日々患者様の医療被曝を少しでも低減できるよう努めています。また地域連携にも力を入れCT・MRI検査の受け入れも積極的におこなっています。

装置一覧

| 装置 | 台数 | スペック等 | 装置 | 台数 | スペック等 |
|---|---|---|---|---|---|
| CT | ２台 | 64列　80列 | MRI | ２台 | 1.5T、3.0T |
| 血管撮影装置 | ２台 | Single、Biplane | 核医学検査装置 | １台 | SPECT-CT |
| 放射線治療装置 | １台 | 定位照射、IMRT | X線TV装置 | ３台 | FPD |
| Hybrid-Angio | １台 | ハイブリッド手術室 | 一般撮影装置 | ５台 | FPD、長尺立位撮影台 |
| その他 | 乳房撮影装置、マンモトーム装置、骨密度測定装置、ポータブル装置、外科用イメージ | | | | |
| 情報システム | 放射線部門システム、放射線画像管理システム、放射線読影レポートシステム | | | | |

2022年度に整備した放射線機器

① 循環器用血管撮影装置：キャノン　Alphenix INFX-8000V

② 一般撮影装置：島津製作所　RADspeed PRO

③ FPD：コニカミノルタ　AeroDR

◆実　績

| | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|
| 一般撮影 | 119,528 | 126,248 | 127,852 |
| 乳房撮影 | 2,453 | 2,441 | 2,588 |
| 骨密度測定 | 1,731 | 1,859 | 1,708 |
| 病棟撮影 | 15,864 | 15,717 | 14,316 |
| X線TV | 1,662 | 1,685 | 1,533 |
| CT | 21,695 | 21,520 | 22,566 |
| MRI | 9,948 | 10,022 | 10,031 |
| 血管撮影・心カテ | 867 | 1,003 | 1,052 |
| RI | 1,223 | 1,196 | 1,147 |
| 放射線治療 | 3,030 | 3,441 | 2,842 |
| 地域連携依頼<br>CT・MRI・DEXA | 625 | 922 | 1,093 |

（件数）

# 中央検査室

◆スタッフ（◎部長）

◎岡田昌子：（技師長）竹村真俊、他臨床検査技師41名、事務員２名

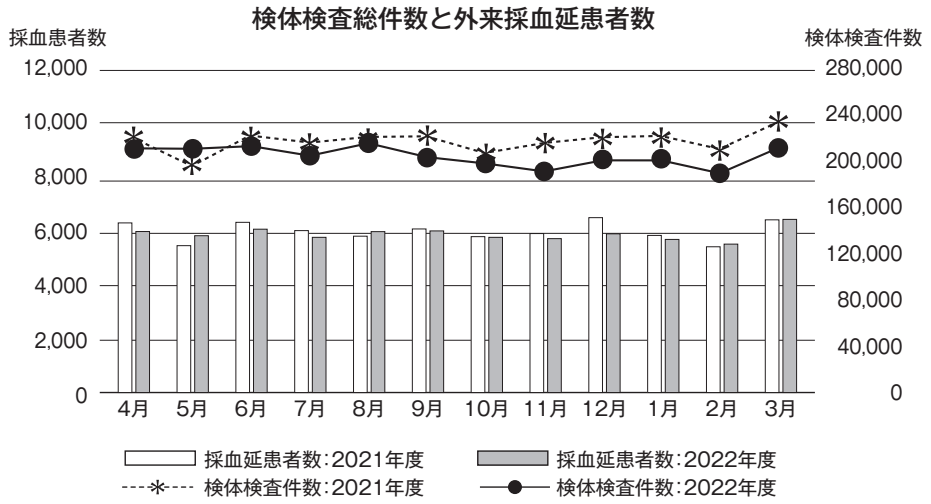
◆概　要

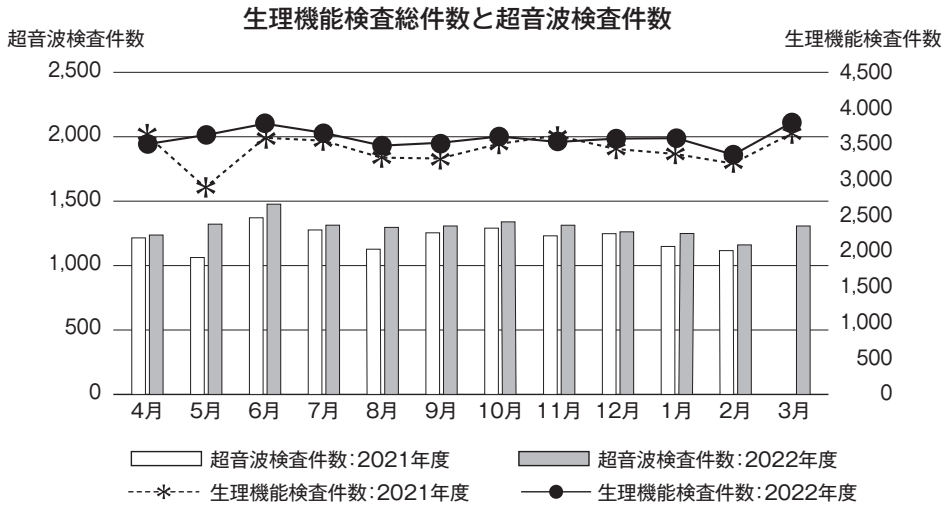
中央検査室は医師である臨床検査科部長１名、臨床検査技師42名（非常勤５名含む）、事務員２名のスタッフで構成されており、外来患者採血、血液、生化学、免疫化学、輸血管理、微生物、病理の各種検体検査および生理機能検査を行っております。

救急医療への貢献として24時間対応の緊急検査体制と、重症感染症の早期診断、医療関連感染の迅速キャッチを目的とした365日微生物検査日勤体制が確立しています。さらに輸血部門においては、認定輸血検査技師を複数名配置させ、輸血療法にかかわるすべての業務の一元管理が定着しています。一方、生理機能検査においては、超音波検査の拡充を目標に掲げ、超音波検査士育成をはじめとする質的向上を図っており、現在、消化器や循環器をはじめとする複数の超音波検査士が主に検査を担当しております。

◆実　績

2022年度の月別検体検査総件数と外来採血延患者数、ならびに生理機能検査総件数と超音波検査件数について、前年度と比較し下図に示しました。



# 栄養管理室

◆スタッフ

管理栄養士６名

◆概　要

2023年３月現在、病院管理栄養士６名

患者給食部門は全面委託であり、35名前後の委託スタッフと協力し、患者給食の運用を行っています。

患者給食は委託であるため、管理栄養士は、栄養指導、栄養管理をメインに行っており、栄養管理並びに指導業務に力を注いでいます。

また、患者給食の向上を目指し、委託給食会社と連携を図り、患者給食の向上に努めています。

栄養指導への取り組みも強化し、患者指導や栄養管理の継続を実施しています。

教育面では、糖尿病ケアチーム/糖尿病教室、ハートチーム（循環器)、腎臓病教室の集団指導にも参加しています。

今年度より、新たに新設された【早期栄養管理】【周術期栄養管理】への取り組みも行い、栄養管理の強化を行っています。

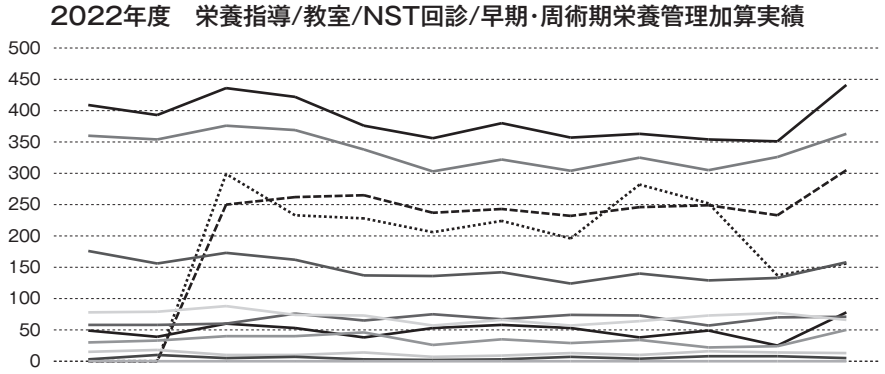
チーム医療では、昨年より発足された摂食嚥下チーム、減量・代謝改善チームへの参画、NST（栄養サポートチーム)、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームにも参加し活動領域を広げています。

**認定資格習得**

・糖尿病療養指導士：３名
・NST 専門療法士：１名
・がん病態栄養専門管理栄養士：１名
・病態栄養認定管理栄養士：１名

◆実　績

2020年度より指導への取り組みを強化し、栄養指導件数は安定した実績を維持している。




| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入院初回 | 176 | 156 | 173 | 162 | 137 | 136 | 142 | 124 | 140 | 129 | 133 | 158 |
| 入院２回目以降 | 78 | 79 | 88 | 74 | 73 | 57 | 66 | 57 | 64 | 73 | 77 | 66 |
| 外来初回 | 30 | 33 | 40 | 40 | 46 | 26 | 35 | 29 | 34 | 22 | 24 | 50 |
| 外来２回目以降 | 58 | 58 | 60 | 76 | 65 | 75 | 67 | 74 | 73 | 57 | 70 | 71 |
| 糖尿病集団指導 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 心不全教室 | 3 | 10 | 5 | 7 | 3 | 2 | 3 | 7 | 4 | 8 | 8 | 5 |
| 透析予防外来 | 15 | 18 | 10 | 10 | 14 | 7 | 9 | 13 | 10 | 16 | 14 | 13 |
| 合計 | 360 | 354 | 376 | 369 | 338 | 303 | 322 | 304 | 325 | 305 | 326 | 363 |
| NST | 49 | 39 | 60 | 53 | 38 | 53 | 58 | 53 | 38 | 49 | 25 | 78 |
| 総数 | 409 | 393 | 436 | 422 | 376 | 356 | 380 | 357 | 363 | 354 | 351 | 441 |
| 早期栄養管理加算 | 0 | 0 | 299 | 233 | 228 | 206 | 224 | 196 | 282 | 252 | 137 | 156 |
| 周術期栄養管理加算 | 0 | 0 | 250 | 262 | 265 | 237 | 243 | 232 | 246 | 249 | 233 | 305 |

# 臨床工学室

## ◆スタッフ

（技士長）勝賀瀬　朗、他臨床工学技士７名

## ◆概　要

当院の臨床工学室は、８名の臨床工学技士で組織されています（2023年３月１日現在）。医療機器管理、血液浄化、心臓カテーテル検査・治療、心臓電気生理学的検査・アブレーション、人工心肺、手術室、集中治療室、呼吸療法、心臓植込み型電気的デバイス関連、睡眠時無呼吸症候群検査、24時間自由行動下血圧測定など、各部門において関連業務に携わっています。その他、各種委員会活動や、医療機器の取り扱いに関する研修を行っています。

2021年11月より、休日、夜間の当直体制を導入しました。緊急カテ、緊急手術、医療機器のトラブル等に迅速に対応できるようになり、2022年１月からは「特定集中治療室管理料１」を算定できるようになりました。病院の運営に資するとともに、各科の先生方や看護部をはじめ各部署と協働して安心で安全な医療の提供に努めます。

## ◆実　績

2022年度

| 業　務 | 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ICU　HD/HDF/ECUM | 件 | 11 | 1 | 1 | 13 | 7 | 6 | 5 | 8 | 4 | 6 | 2 | 5 | 69 |
| 特殊血液浄化 | 件 | 0 | 0 | 1 | 1 | 5 | 5 | 8 | 4 | 7 | 0 | 4 | 0 | 35 |
| （PE） | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 5 | 7 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| （DFPP） | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| （エンドトキシン吸着） | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| （LDL） | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| （DFT） | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| （LCAP） | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 4 |
| （GCAP） | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| （CART） | 件 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| IABP | 件 | 2 | 3 | 2 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 | 4 | 3 | 1 | 1 | 21 |
| PCPS | 件 | 2 | 3 | 2 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 14 |
| 人工心肺 | 件 | 7 | 4 | 4 | 1 | 2 | 6 | 3 | 4 | 6 | 7 | 3 | 1 | 48 |
| 術中自己血回収術（整形外科） | 件 | 46 | 46 | 46 | 47 | 47 | 44 | 49 | 46 | 31 | 37 | 44 | 38 | 521 |
| アンギオ室業務 | 件 | 97 | 90 | 85 | 72 | 51 | 69 | 80 | 88 | 85 | 66 | 75 | 90 | 948 |
| （CAG） | 件 | 33 | 35 | 22 | 24 | 28 | 25 | 20 | 31 | 28 | 24 | 27 | 25 | 322 |
| （PCI） | 件 | 21 | 16 | 11 | 11 | 19 | 13 | 9 | 16 | 22 | 8 | 6 | 13 | 165 |
| （AoG） | 件 | 10 | 4 | 9 | 6 | 2 | 3 | 3 | 5 | 4 | 7 | 3 | 8 | 64 |
| （PPI） | 件 | 9 | 5 | 7 | 5 | 2 | 2 | 4 | 4 | 4 | 6 | 3 | 6 | 57 |
| （EPS） | 件 | 12 | 15 | 18 | 13 | 0 | 13 | 22 | 16 | 19 | 11 | 18 | 20 | 177 |
| （ABL） | 件 | 12 | 15 | 18 | 13 | 0 | 13 | 22 | 16 | 8 | 10 | 18 | 18 | 163 |
| CIEDs業務 | 件 | 77 | 49 | 50 | 48 | 33 | 69 | 64 | 59 | 58 | 50 | 55 | 55 | 667 |
| 植込み | 件 | 8 | 5 | 6 | 6 | 3 | 12 | 8 | 5 | 11 | 7 | 7 | 10 | 88 |
| （IPG/CRT-P） | 件 | 7 | 5 | 3 | 5 | 2 | 11 | 7 | 3 | 10 | 5 | 6 | 5 | 69 |
| （ICD/CRT-D） | 件 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 | 9 |
| （ILR） | 件 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 2 | 10 |
| 外来患者 | 件 | 60 | 36 | 37 | 36 | 19 | 38 | 47 | 36 | 26 | 30 | 32 | 28 | 425 |
| 緊急等対応 | 件 | 2 | 4 | 1 | 4 | 2 | 8 | 3 | 5 | 6 | 4 | 7 | 3 | 49 |
| MRI撮像 | 件 | 3 | 2 | 3 | 0 | 3 | 3 | 3 | 5 | 4 | 1 | 4 | 4 | 35 |
| OP設定変更 | 件 | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | 3 | 2 | 5 | 4 | 1 | 1 | 4 | 29 |
| 病棟チェック | 件 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 5 | 1 | 3 | 7 | 7 | 4 | 6 | 41 |
| SAS検査（フルPSG） | 件 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 9 |
| 心拍出量測定（エスクロン） | 件 | 6 | 6 | 3 | 7 | 3 | 6 | 5 | 11 | 6 | 2 | 6 | 0 | 61 |
| ABPM | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 医療機器　点検総数 | 件 | 789 | 767 | 745 | 944 | 1,181 | 718 | 787 | 715 | 849 | 852 | 713 | 848 | 9,908 |
| （定期点検） | 件 | 28 | 27 | 51 | 152 | 392 | 29 | 29 | 33 | 41 | 25 | 37 | 66 | 910 |
| （始業点検、回路接続確認等） | 件 | 761 | 740 | 694 | 792 | 789 | 689 | 758 | 682 | 808 | 827 | 676 | 782 | 8,998 |
| 医療機器　修理対応総数 | 件 | 21 | 39 | 19 | 39 | 34 | 29 | 38 | 33 | 48 | 43 | 32 | 64 | 439 |
| （院内修理/対応） | 件 | 9 | 29 | 14 | 25 | 14 | 21 | 30 | 25 | 33 | 27 | 18 | 15 | 260 |
| （メーカー修理依頼） | 件 | 12 | 10 | 5 | 14 | 20 | 8 | 8 | 8 | 15 | 16 | 14 | 49 | 179 |

# 中央材料室

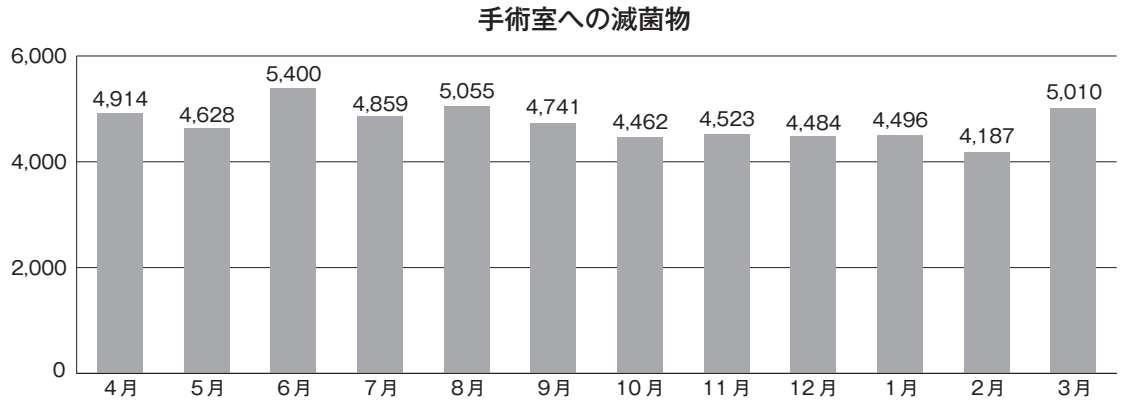
◆スタッフ

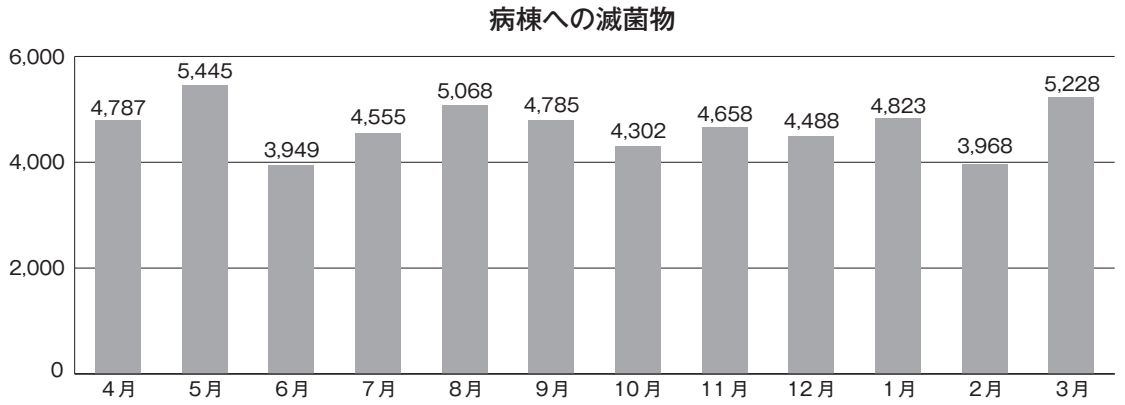
（看護師長）藤原千佳

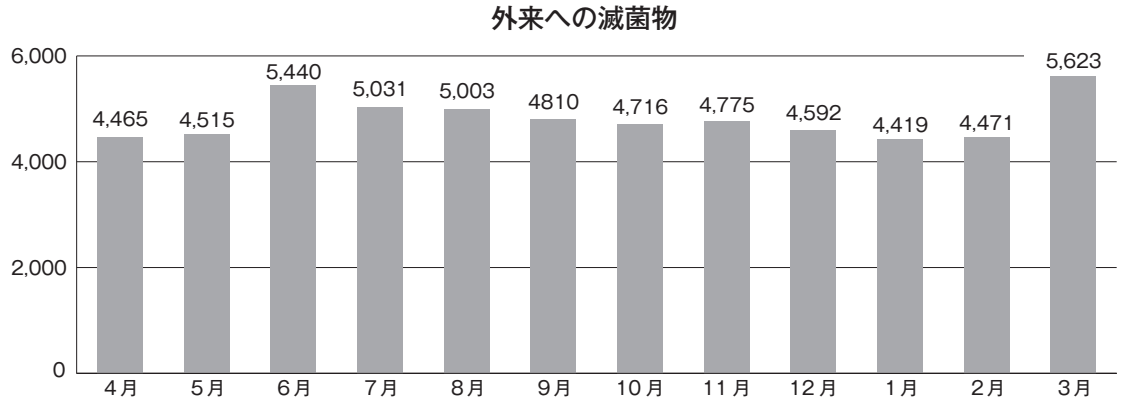
◆概　要

中央材料室は洗浄室と組立室、既滅菌室から成り立っており、医療器械の洗浄から滅菌に至る業務を一括して行っている。

◆実　績



# 地域医療連携室・医療福祉相談室

## ◆スタッフ

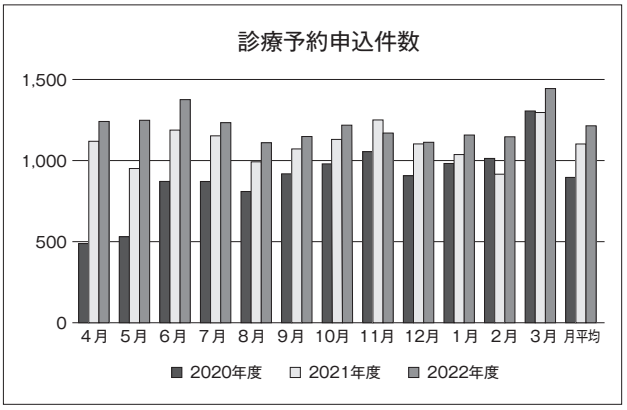
（部長）畑中信良、（室長）三村麻紀子、他看護師11名、MSW５名、事務６名

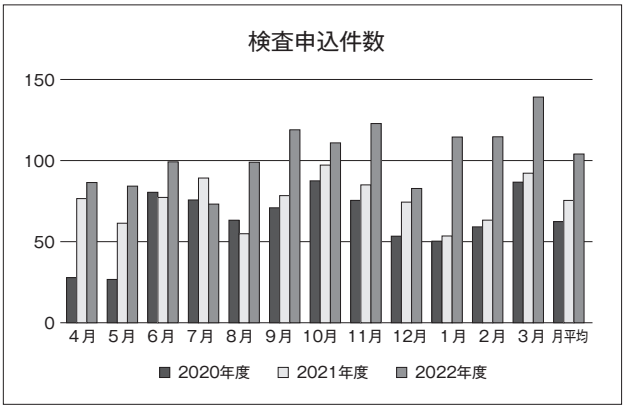
### ◆地域医療連携室

地域医療支援病院に必要な前方支援を担当する地域連携室の主な業務は、救急紹介患者の診療支援、紹介患者の予約診療支援、開放型病床・産科オープンシステムの支援、特殊検査の予約管理、地域連携パスの管理、広報活動などをおこなっている。

その他、大阪府がん診療拠点病院として、がん診療地域連携パスを採用、また脳卒中、大腿骨頚部骨折の地域連携パスも採用している。普及、利用拡大に向け努力し、地域医療機関の先生方と情報共有をおこない、協力して患者さんの治療にあたっている。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 診療予約受付件数 | 1,237 | 1,245 | 1,370 | 1,231 | 1,106 | 1,150 | 1,217 | 1,166 | 1,110 | 1,152 | 1,140 | 1,441 | 14,565 | 13,166 |
| 救急/入院相談受付件数 | 173 | 165 | 154 | 194 | 233 | 129 | 152 | 156 | 217 | 227 | 189 | 208 | 2,197 | 1,882 |
| 検査申込受付件数 | 87 | 85 | 100 | 74 | 100 | 120 | 112 | 124 | 84 | 115 | 115 | 140 | 1,256 | 912 |



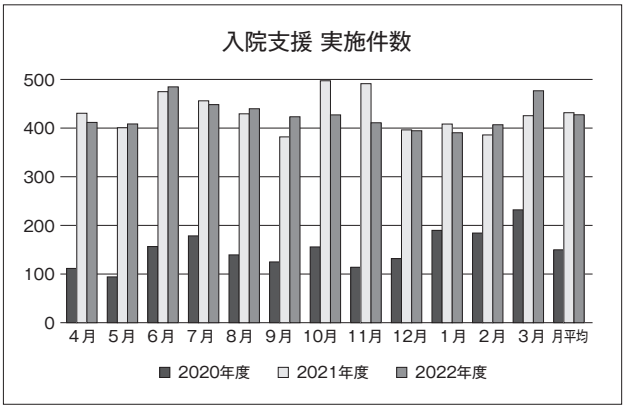



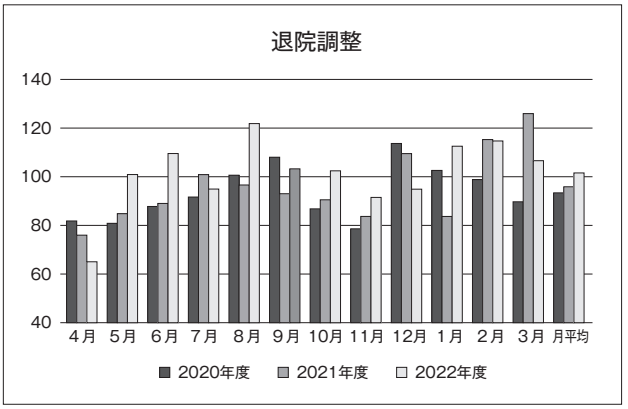

### ◆医療福祉相談室

医療福祉相談室は、看護師とMSWが、それぞれの専門知識を活かし、患者さん・ご家族が、住み慣れた地域で自分らしく生活し続けられるよう、院内多職種や地域関係職種と協働して入退院を支援、また医療福祉相談などに対応している。

入院が予定された患者さんに対し、入院生活の説明や治療経過の説明等を行い、患者さん・ご家族が、安心して入院医療を受けられるように入院時支援を実施、対象者拡大に向け努めている。退院支援では、入院後早期から病棟スタッフ等と協力しながらスムーズな退院を目指している。入退院支援加算算定件数、退院調整件数も年々増加し、回復期病院や在宅医療・介護職種との連携強化を図っている。医療福祉相談では、入院中・外来通院中の患者さんやご家族の、在宅療養に関する不安、社会福祉制度の申請やサービスに関する情報提供等を行っている。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入院時支援件数 | 413 | 409 | 486 | 450 | 441 | 424 | 430 | 412 | 396 | 391 | 408 | 479 | 5,139 | 5,189 |
| 退院調整件数 | 58 | 95 | 122 | 103 | 123 | 101 | 102 | 89 | 92 | 114 | 115 | 106 | 1,220 | 1,224 |
| 医療福祉相談件数 | 146 | 136 | 114 | 94 | 118 | 121 | 103 | 122 | 120 | 192 | 98 | 121 | 1,485 | 1,904 |
| 入院時支援加算算定件数 | 436 | 396 | 475 | 461 | 430 | 454 | 437 | 463 | 486 | 348 | 448 | 495 | 5,559 | 4,587 |
| 入退院支援加算算定件数 | 910 | 862 | 942 | 1,011 | 930 | 874 | 913 | 882 | 1,000 | 822 | 890 | 1,011 | 11,647 | 9,534 |



# がん相談支援センター

◆スタッフ

センター長：塚本文音、（看護師長）土岐昌世　他看護師１名、MSW１名

◆概　要

当院は大阪府がん診療拠点病院に指定されており、２名の認定がん専門相談員の資格を持つスタッフが配置されている。がん相談支援センターでは、がん患者、家族、地域住民に対して、がんに関する信頼性のおける情報をわかりやすく提供し、適切かつ効果的に活用できるための支援を目的とし活動している。

タイムリーかつ気軽に相談できるように予約なしでも面談や電話相談のできる体制としている。相談内容に応じて、医師、認定・専門看護師、MSW、栄養士、薬剤師など院内多職種だけでなく、院外とも連携している。また、当院の患者・家族を対象に、がんのことを気兼ねなく語り合う交流の場である「患者サロン」や外来オープンスペースを活用した情報提供の場である「オープンキャンパス」を積極的に開催している。

◆実　績

**（１）がん相談（2022年４月～2023年３月）：計1,109件（月平均92.4件）**

厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」作成の相談記入シートに合わせて相談内容や対応内容を入力している。

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 相談件数 | 98 | 95 | 110 | 94 | 60 | 101 | 77 | 108 | 96 | 65 | 84 | 121 | 1,109 |

相談内容と対応内容の上位件数は以下の通りであった（複数回答）。

| 相談内容 | 件数 | 対応内容 | 件数 |
|---|---|---|---|
| がんの治療 | 834 | 情報提供 | 977 |
| 生きがい・価値観 | 612 | 傾聴・語りの促進 | 866 |
| 不安・精神的苦痛 | 557 | 助言・提案 | 570 |
| 医療者との関係・コミュニケーション | 429 | 自施設・他部門への連携 | 435 |
| 患者ー家族間の関係・コミュニケーション | 253 | 他施設への連携 | 29 |

**（２）オープンキャンパス・がんサロン**

院内多職種や院外専門家と連携し、年間予定に従い開催している。

| 開催月 | オープンキャンパス | がんサロン |
|---|---|---|
| ６月 | がんについて知ろう！ ポスターと動画上映で… | 体を楽に動かせる体験をしてみませんか |
| ７月 | がん治療に伴う妊よう性・生殖機能温存について | 病気と治療と付き合う上での気持ちの持ち方 |
| ９月 | 正しく知ろう！ 乳がんと子宮頸がん | |
| 10月 | がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間 | 体を楽に動かせる体験をしてみませんか |
| 11月 | 早期発見が大事！ 胃がん・大腸がんについて | |
| 12月 | | アピアランスケアについて |
| １月 | がん治療とお口のケア　緩和ケアについて | AYA　CAFÉ |
| ３月 | がんと栄養～がん治療時の栄養と食事について～ | |

# 医療安全管理部　医療安全管理室

◆スタッフ

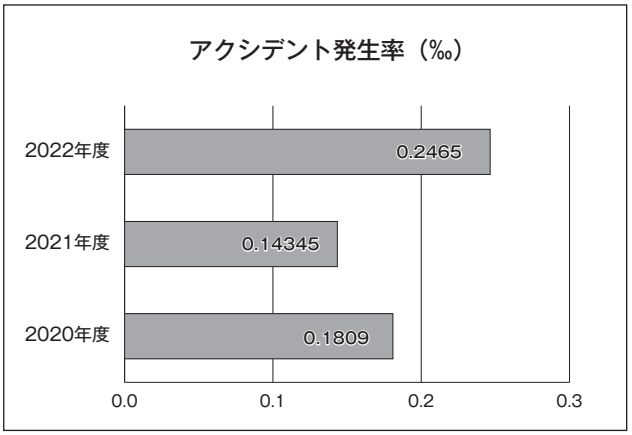
（部長）島田幸造（室長）堀　美和子、他看護師２名、薬剤師１名、臨床工学技士１名、放射線科部長１名、放射線技師１名、事務員２名　計10名

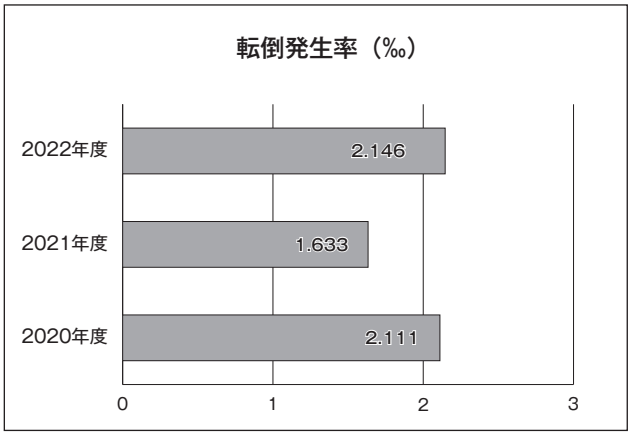
◆概　要

患者・家族が安心して安全な医療を受けられる体制を構築し、かつ職員が安心して安全な医療が提供できる環境を整えることを目標として活動を行っている。医療の安全と信頼、患者への医療サービスの質の向上、医療事故防止を目指して、医療安全管理室メンバーが中心となり活動を行っています。

当院の医療事故の要因の70％がノンテクニカルスキルによって発生しているため、2019年度より、看護部及びメディカルスタッフ向けにノンテクニカルスキル研修やTeamSTEPPS研修を導入。チームとしてより良いパフォーマンスを高めていけるように取り組んでいます。また、医療者側と患者側との信頼関係構築のため、看護師・メディカルスタッフ・事務職員対象にコンフリクトマネジメント研修も導入しています。

◆実　績




※診療部へ医療安全情報として回覧板を配布

※他施設で起こった事故や院内で発生した事象で看護部全体に緊急でお知らせを行う緊急警告の配布

※RCA分析：看護部主体で2007年度より導入開始（10～15事例/年　実施）

※院内リスクパトロール（１回/月、多職種合同でテーマを決めて）

※医療安全教育：２回/年の講演会と各職種に対して多様に研修を開催

# 医療情報管理部　医療情報管理室

◆スタッフ

（部長）島田幸造、辻川正彦、栗本真吾、岡田聡史

◆概　要

医療情報管理室は1989年６月、医療情報課として病院のIT化を担うため設置されました。当初は医事会計システム中心でしたが、時代とともにオーダーリング、電子カルテシステムと拡張して参りました。現在では全ての部署に電子カルテが浸透し、また部門ごとに専用システムを導入、ITインフラ整備は一通り完了いたしました。院内のシステム・インフラの維持には、更新・メンテナンスなど業務は多岐に及び、端末も1,000台を超える大規模なものへと成長いたしました。また、個人情報保護の観点からセキュリティの強化に奔走、現在は新型コロナ感染症対策にWEB会議・オンライン診療等の充実のためネットワークの拡張も行ってきました。JCHO本部の方針変更や新型コロナの影響もあり、滞っておりましたシステム・インフラの更新についても、2024年の実現を目指して準備を進めております。

◆実　績

| | |
|---|---|
| 1988（昭和63）/12 | 医事会計システム導入 |
| 1994（平成６）/３ | 医事会計システム更新 |
| 2004（平成16）/３ | オーダーリングシステム（NEC Ordering system）導入 |
| 2008（平成20）/５ | 電子カルテシステム（NEC MegaOakHR2.5）導入 |
| 2015（平成27）/５ | 新病院への移転に合わせ、電子カルテシステム（NEC MegaOakHR R9.0.1）更新 |
| 2024（令和６）/３ | 電子カルテシステム等の更新予定 |

# 医療情報部　診療情報管理室（病歴室）

## ◆スタッフ

診療情報管理士５名、医事課

## ◆概　要

診療情報管理室は、診療情報部門とカルテ部門との２部門で構成されています。

**【診療情報管理】**

①入退院患者においての統計業務（病歴統計）
- 月次統計（退院患者統計：退院サマリ完成率・クリティカルパス使用率・死亡退院リスト・剖検率・部位別がん登録患者数・分娩新生児情報集計等）
- 年次統計（国際疾病分類別・手術件数・合併症件数・麻酔件数・分娩件数・退院患者数等）
- 患者情報抽出（手術別・病名別等）
- がん統計分析
- DPC入院期間分析・クリティカルパス分析

②DPC精度管理
- DPC出来高差分チェック・副傷病名確認

③DPC請求の病名確認
- 入院、退院患者のDPC病名「ICDコード」の確認
- DPC基礎調査　付加コード・OP初再回・がん登録のチェック

④入院患者情報入力および質的点検
- 診療情報管理システム（メディバンク）への入院患者情報入力
  （電子カルテ・退院サマリの点検、病名コードICD-10・手術及び処置ICD-9-CM・患者情報等の登録）

⑤がん登録
院内がん登録・予後調査参加・QI研究参加・神経内分泌腫瘍専門施設情報公開プログラム参加等

⑥退院時サマリ管理

⑦カルテ開示

⑧電子カルテ監査・手術記録確認

⑨電子カルテへの文書・新規スキャンの管理

⑩診療情報管理

**【カルテ管理】**

①書類のスキャン取込

②カルテ庫へID別の患者ファイル書類保管

③患者ファイル管理（書類回収・ファイル新規作成・貸出・返却・未返却の督促）

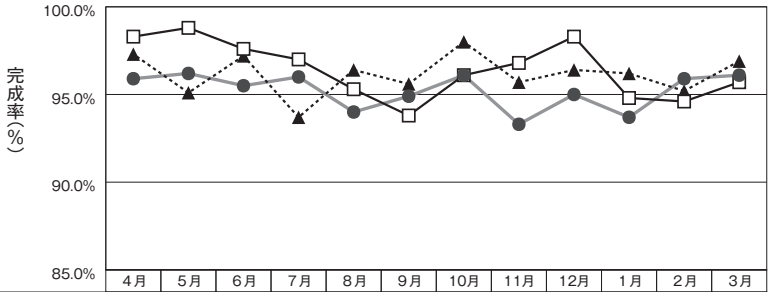
④紙カルテ管理（依頼のカルテ準備・返却・整理・未返却の督促）

⑤保存期間超えの紙カルテ・患者ファイル管理（永久保存管理・廃棄）

## ◆実　績

**【サマリ記載率の推移】**

退院時サマリ推移　2022年度




| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2020年度 | 98.3% | 98.8% | 97.6% | 97.0% | 95.3% | 93.8% | 96.1% | 96.8% | 98.3% | 94.8% | 94.6% | 95.7% |
| 2021年度 | 97.3% | 95.1% | 97.2% | 93.7% | 96.4% | 95.6% | 98.0% | 95.7% | 96.4% | 96.2% | 95.2% | 96.9% |
| 2022年度 | 95.9% | 96.2% | 95.5% | 96.0% | 94.0% | 94.9% | 96.1% | 93.3% | 95.0% | 93.7% | 95.9% | 96.1% |

サマリ記載率（科別）
（2022/04/01～2023/03/31　退院分）

| 診療科 | 総数 | 退院後14日以内 | |
|---|---|---|---|
| | | 作成数 | 作成率(%) |
| 整形外科 | 2,048 | 1,937 | 94.6% |
| 外　科 | 1,066 | 1,030 | 96.6% |
| 脳神経外科 | 380 | 375 | 98.7% |
| 内　科 | 1,554 | 1,479 | 95.2% |
| 皮膚科 | 197 | 196 | 99.5% |
| 泌尿器科 | 414 | 414 | 100.0% |
| 産婦人科 | 1,117 | 937 | 83.9% |
| 眼　科 | 961 | 953 | 99.2% |
| 耳鼻咽喉科 | 284 | 284 | 100.0% |
| 小児科 | 802 | 802 | 100.0% |
| 歯科・歯科口腔外科 | 46 | 46 | 100.0% |
| 形成外科 | 160 | 155 | 96.9% |
| 脳神経内科 | 350 | 350 | 100.0% |
| 循環器科 | 1,091 | 1,050 | 96.2% |
| 消化器内科 | 2,342 | 2,178 | 93.0% |
| 乳腺内分泌外科 | 253 | 250 | 98.8% |
| 心臓血管外科 | 137 | 135 | 98.5% |
| 総　数 | 13,202 | 12,571 | 95.2% |

# 健康管理センター

◆スタッフ

（センター長）金子　晃、（看護師長）福永花子、看護師（保健師）１名、臨床検査技師１名、スタッフ２名

◆概　要

当健康管理センターは1959年（旧大阪厚生年金病院時代）に創設され、病院併設の人間ドックとしてこれまで多くの皆様にご利用いただいてきました。

二日ドック、一日ドックの基本コースには、人間ドック学会で推奨されている健診項目に準じた検査項目が含まれます。二日ドックには糖負荷試験に加え、甲状腺超音波検査、ロコモ度テスト（体力測定）が基本項目に含まれています。二日ドックは宿泊なしで受診することもできます。いずれの基本コースでも、経口胃カメラ・経鼻胃カメラ・胃透視は差額なしで選択可能です。

独自のコースとして、シルバードック、脳ドック（単独）、2021年度より大腸CT（単独）をおこなっています。

オプション項目には、脳ドック、肺がんドック、骨ドック、大腸CT、大腸カメラ、喀痰細胞診、腫瘍マーカー（CEA・CA19-9）、ピロリ抗体、女性がん検診として婦人科検診、乳腺超音波、マンモグラフィー（２方向撮影）があり、2022年度より内臓脂肪CT、胃カメラ鎮静を追加し、充実した検査内容となっています。

2020年３月に、「人間ドック健診施設機能評価」の認定を取得しました。

～病院併設の健康管理センターならではの丁寧な対応～

１．検査結果は当院各診療科の医師による専門的な判定
２．人間ドックで要精査判定があった場合は、当センターから当該科へ院内紹介
３．至急受診が必要な場合は、健診受診当日に外来へ案内

質の高い検査と判定を提供し、生活習慣病を含む各種疾患の早期発見・早期治療によって、地域の方々の健康維持と健康寿命の延長のお手伝いをさせていただきたいと考えています。

〇センター内：保健師による問診・保健指導、医師による診察・面談、健康運動指導士による体力測定・運動指導
〇主な検査：各診療部門で実施

● 当センターでは白を基調とした、清潔でゆったりとした休憩室や個室ロッカーを備え、受診者の快適性・利便性を高める努力をしています。

◆実　績

2022年度（2022年４月１日～2023年３月31日）利用者

| 【基本ドック】 | | 【オプション項目】 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 一日ドック | 860名 | 脳ドック | 90名 | 骨ドック | 53名 |
| 二日ドック | 44名 | 肺がんドック | 145名 | 女性検診セット | 193名 |
| シルバー半日ドック | ８名 | 大腸CT | 69名 | 婦人科健診 | 83名 |
| 脳ドック（単独） | 16名 | 大腸カメラ | 51名 | 乳腺超音波 | 57名 |
| 大腸CT（単独） | 14名 | 腫瘍マーカー | 415名 | マンモグラフィー | 66名 |
| | | ピロリ抗体検査 | 94名 | 喀痰細胞診 | 91名 |
| | | 内臓脂肪CT | 38名 | 胃カメラ鎮静 | 68名 |

# 大阪病院附属看護専門学校

◆スタッフ

（学校長）西田俊朗、（副学校長）馬屋原　豊、谷岡美佐枝、（教務主任）三浦千里、専任教員７名、事務員２名

◆概　要

平成31年に大阪病院と附属看護専門学校が共通の「Autonomy：自律」をコンセプトとし、看護師として必要な専門的知識と技術を習得し、同時に豊かな人間性を養い、社会の保健医療福祉の向上に寄与しうる自律した人物を育成することを目的としています。

令和４年度は第５次カリキュラム改正が行われ、本校では看護のキャリアを形成していくために問題意識を持ち、自己を見つめ、実現したい思いを行動に移し、専門職として自己研鑽ができるようにと考え、「キャリアデザイン」「自己表現法」という科目を新たに設定しました。さらに、１年次の前期に「地域で暮らす人の理解」を科目立てし、健康や暮らしを支援するために、生活の基盤である地域で暮らす人を早期に理解できるようにしました。今後、対象や療養の場の多様化にも対応できるように、コミュニケーション力、臨床判断能力等に必要な基礎的能力が習得できるように「多職種連携」等を含めたカリキュラムを２・３年次に構築しています。

また、感染予防対策をしながら、３年ぶりに地域の方々にも学校祭に来ていただき、大盛況で終えることができました。今後も地域とのつながりを持つ取り組みをすすめていきたいと考えています。

このように、基礎教育を充実させることで、質の高い看護実践者を育成し、大阪病院のみでなくJCHO組織における看護師を育成していきます。

◆実　績

**１．令和４年度学生数（令和４年４月現在）**

| | １年 | ２年 | ３年 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 学生数 | 41人 | 41人 | 39人 | 121人 |

**２．令和４年度卒業者の状況（令和５年３月卒業）**

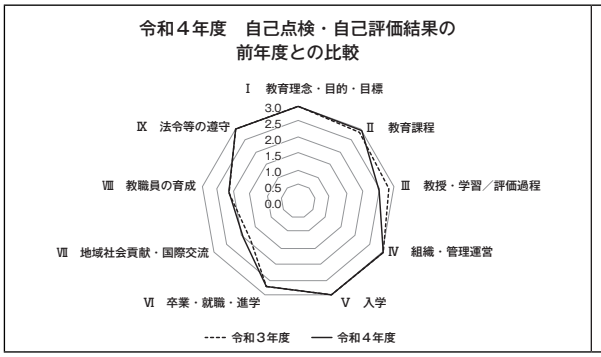
| 卒業者数 | 就職者数 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 大阪病院 | JCHO関連病院 | その他病院 | 合　計 |
| 33人 | 23人 | ６人 | ４人 | 33人 |

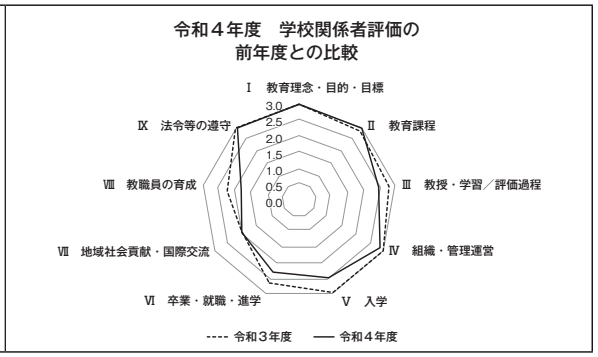
**３．112回看護師国家試験の合格率：100%（全国合格率：90.8%）**

**４．令和５年度入試状況**

| 学年定員数 | 方　法 | | 受験者数 | 実施日 |
|---|---|---|---|---|
| 40人 | 推薦入試 | 公募推薦 | 48人 | 令和４年10月29日 |
| | | 社会人特別選考 | 17人 | 令和４年10月29日 |
| | 一般入試 | | 48人 | 令和５年１月11日（１次）・12日（２次） |
| | 計 | | 113人 | |

**５．令和４年度自己点検・自己評価および学校関係者評価（学校関係者評価　令和５年３月７日実施）**



## チーム医療 感染対策チーム（ICT）

◆メンバー構成

医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務員

◆概　要

＜重点目標＞

1．感染対策向上加算１取得の体制構築
2．平時からの標準予防策・経路別予防策の徹底
3．ターゲットサーベイランスの実施（SSI）

◆実　績

1．地域の感染対策の底上げが期待され、保健所・医師会と連携し、薬剤耐性菌情報、抗菌薬使用状況、感染対策実施状況として手指衛生の実施について連携施設と共有し、加算２及び加算３の施設に助言を行う体制ができた。2022年度、COVID-19第８波は過去一番の流行となり、自院も含め連携施設はクラスターを経験した。振り返りを丁寧に行い、再発防止対策を共有することができた。
2．COVID-19クラスター発生があったが、院内での共有と課題からマニュアルを見直した。以後クラスター発生なく経過している。薬剤耐性菌はCPEの持ち込み、MDRP保菌患者の繰り返しの入院に加え、入院期間が長くなる傾向があったが、院内での拡大は認めず、一日一患者あたりの手指衛生回数は10回以上キープでき、薬剤耐性菌のアウトブレイクはなかった。
3．膝手術のSSIサーベイランスを2022年７月より開始。感染率は7.6%。JANISデータよりも高い値であることがわかった。具体的に介入するために、関連部署から情報収集、他施設の感染対策の情報収集を行い、改善策を検討・導入を実施。2023年度もサーベイランスを継続していく。

## チーム医療 褥瘡対策チーム

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、事務員

◆概　要

【目　　的】褥瘡発生を予防し病院の提供する医療の質向上を目指す。

【活動内容】

- 褥瘡対策委員会　月１回（第２月曜日）開催
- 褥瘡回診・カンファレンス（毎週）
- 褥瘡に関する診療計画書の作成・褥瘡予防治療計画書の作成、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定
- 除圧用具の適正使用、管理
- 褥瘡に関するコスト算定状況の把握
- 褥瘡対策講演会
  院内向けYouTube配信　日時：2022年12月１日～2023年１月31日延べ視聴者数：430名
  院外向けYouTube配信　日時：2023年１月９日～2023年２月28日延べ視聴者数：142名
- 看護師対象ラダー別研修実施
- オープンキャンパス開催（患者対象）
- 褥瘡を保有した状態で退院し地域で療養を続ける方や、褥瘡発生リスクの高い方については、在宅でも褥瘡が発生しないように地域の医師や看護師、施設などと連携しています。

◆実　績

- 褥瘡発生率（褥瘡発生数／延べ入院患者数×1000）＝0.4
- 褥瘡対策に関する診療計画書の作成 3,586件、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定数 2,220件

## チーム医療 栄養サポートチーム（NST：Nutrition support team）

◆メンバー構成

医師・歯科医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・言語聴覚士

◆概　要

「栄養」とは、全ての治療行為の土台になる重要なものです。NSTは主治医と連携して、患者さんの治療を栄養面から支えます。あらゆる診療科の患者さんに対し、栄養の評価と不足時の栄養管理を行い、手術・薬物治療など各専門科の治療が安全・円滑に進むように支援します。静脈栄養の適切なメニュー作成やカテーテルの選択、経腸栄養のための胃瘻・腸瘻、食道瘻などの経路の提案や造設など、あらゆる方法で適正な栄養管理を継続的に提案・支援していきます。各主治医や他院・在宅診療医の先生方からの依頼で、カテーテル・ポートや胃瘻・腸瘻の造設なども施行し退院後の継続的な栄養状態の維持にも取り組んでいます。

◆実　績

日本静脈経腸栄養学会　NST稼働施設認定
栄養療法推進協議会　　NST稼働施設認定

2022年度　NST回診　593症例

## チーム医療 ブレストチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士

◆概　要

乳がんの治療には、手術・放射線治療・薬物療法（化学療法薬・ホルモン療法薬・分子標的薬）があり、これらの治療を単独あるいは複数を組み合わせて行う。がんのサブタイプや病期・年齢・全身状態・併存疾患の有無などに加え、患者さんの希望を考慮し治療法を決定する。また、治療期間は術後の経過観察を含めると10年間以上と長期に及ぶため、この間、治療を納得して円滑に行うためには、治療に伴う副作用対策や心理・社会的な問題に対するサポート体制が重要となる。患者さんがより良い環境で標準治療を受けて頂けるよう医療従事者が協力・連携したチーム医療を行っている。

乳がんは、早期発見できれば治癒が可能な疾患である。乳がん検診をはじめ、各治療期～終末期まで、多職種医療チーム・患者会やメイクセラピーを提供しているがんサバイバーの方々とも協同しながら、乳がん患者さんとご家族が、その方らしい生活ができるようサポートしている。

◆実　績

- **ピンクリボンキャンペーン in JCHO大阪病院**（2022年10月１日～31日の１か月間）
  J.M.Sプログラムとして、10月16日（日）に乳がん検診を実施。受診者16名。
  １ヶ月間は、コロナ禍に対応しながらキャンペーン活動を行った。
- **乳がん検診**：2022年度受診者284名
- **患者会**：10月29日（土）に開催
- **がん体験者のおしゃべりサロン**：コロナ禍のため中止

## チーム医療 緩和ケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、公認心理士など

◆概　要

≪活動内容≫

- 緩和ケアチームラウンド
  - ・適宜、専任看護師を中心に緩和ケアチームメンバーがベッドサイドへ訪問し、症状評価や薬剤提案、ケアの実施・提案、依頼者とカンファレンスを行い、必要時は、他職種連携を行う。
- 緩和ケアチームカンファレンス・チーム回診
  - ・週１回緩和ケアチームメンバー全員にて症例検討、回診を実施している。

◆実　績

新規依頼件数合計は151件と前年度と同様であった。消化器内科、泌尿器科、外科の順で依頼数が多かった。介入時のPS が良い件数や治療中の患者の件数が増えたことは早期から緩和ケア介入ができていたと考えられる。公認心理士がメンバーとなり、スタッフとともに心理ケアを話し合う機会もできた。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2020年度 | 10 | 7 | 14 | 3 | 15 | 18 | 16 | 13 | 15 | 20 | 12 | 17 | 160 |
| 2021年度 | 13 | 12 | 12 | 16 | 10 | 11 | 14 | 13 | 11 | 13 | 12 | 14 | 151 |
| 2022年度 | 7 | 14 | 11 | 18 | 9 | 13 | 11 | 12 | 15 | 12 | 14 | 15 | 151 |

## チーム医療 呼吸ケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士

◆概　要

呼吸ケアチームは、2010年６月より活動を開始しました。一般病棟において48時間以上継続して人工呼吸器を装着し、装着日から１カ月以内の患者さんを対象に、人工呼吸器離脱に向け適切な人工呼吸器の設定や口腔状態の管理などを総合的に行うことを目的に活動しております。

活動内容は、

①抜管に向けた適切な鎮静や呼吸器の設定についての検討
②人工呼吸器の安全管理
③口腔内の衛生管理
④廃用予防のケア
⑤呼吸リハビリテーション
⑥人工呼吸器関連肺炎予防のケアなどの実施や指導・相談です。

当院では、人工呼吸器離脱を目指した管理は集中治療室で行うことが多いため、呼吸ケアチームの役割は呼吸器からの離脱を目指すというより、安全・安楽な人工呼吸管理を行うことを目的とした活動が多いのが現状です。一般病棟では、経験の少ない人工呼吸器装着患者さんに対して、多方面からの介入を行うことで、安全で質の高い医療・看護の提供ができるように活動を続けていきます。

# フットケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、義肢装具士

◆概　要

糖尿病足潰瘍、重症虚血肢の治療・看護の方針をチームで検討、足病変の早期発見および重症化の予防。

◆実　績

**1．フットケア外来**

- 糖尿病合併症管理料算定件数：575件（2022年１月～12月）

**2．血液浄化センターフットケア回診**

1）必要時実施

**3．フットケアチームミーティング**

定例会（月１回開催）

困難症例について適宜検討会を実施

レオカーナ療法など、新規治療導入時の勉強会

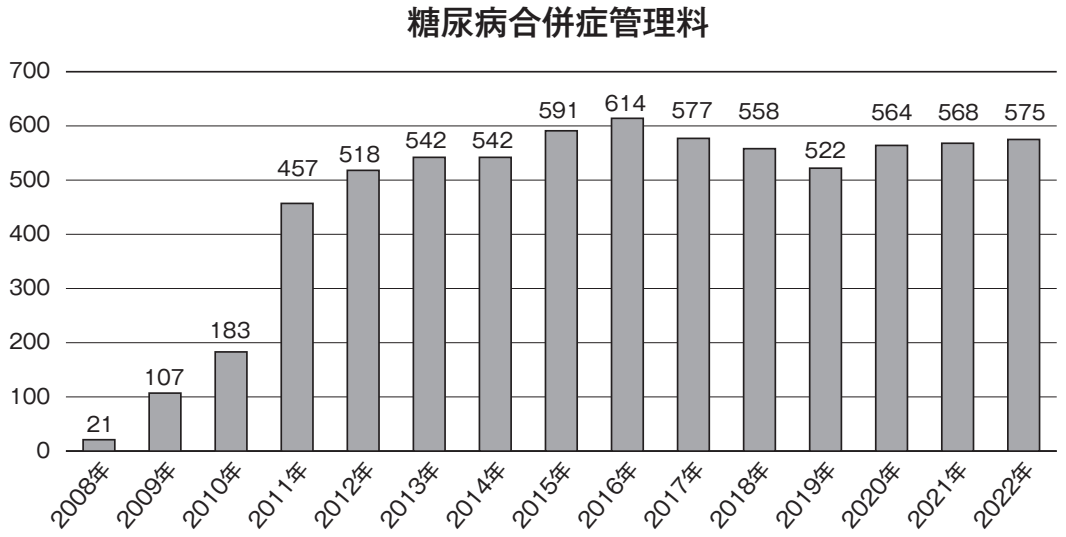
地域講演会に向けての準備・調整

**4．フットケア・スキンケア検討会開催：地域対象**

- 2022年度は12月４日に第６回フットケア・スキンケア講演会実施。
  爪切り・圧迫療法などの体験コーナーを併せて実施。

【次年度に向けて】

- 後方支援病院とのネットワークづくり、連携の強化・推進
- 院内チーム活動の連携の強化
- 地域医療のフットケアに対する、知識や情報の提供と連携
- 院内の足へのスキンケアレベルの強化



# 虐待対策チーム

◆メンバー構成

医師、看護師、MSW、事務員

◆概　要

児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待が急増している現状の中、当院でも虐待対応の体制を整え行政への通報や支援の依頼を行い対応している。患者の権利を守り、患者と家族の健全な家族関係構築を目指して、2012年に虐待対策委員会を発足し、年３回定例会を開催している。委員会メンバーは医師、看護師、MSW、総務企画課と多職種にわたっている。虐待症例発生時の対応を明確化するために、対応マニュアルや対応フローチャートを作成し、病院職員全体で虐待対応に取り組んでいる。

迅速かつ適切な治療や支援を行うために小委員会としてCA（児童虐待）対策チーム、DV（家庭内暴力）対策チーム、EA（高齢者虐待）対策チームを設置しており、各チームは医師、看護師、MSWで構成されている。虐待症例発生時は当該部署と各チームで情報共有を行うとともに必要時はカンファレンスを開催して対応を検討し、積極的に行政など相談窓口との連携も行っている。

◆実　績

● 2022年度新規虐待対応件数

CA：３件（確定１件、疑い２件）

DV：２件（確定１件、疑い１件）

EA：３件（確定１件、要フォロー２件）

● 2022年度新入職員オリエンテーション

「当院における虐待対応について」

臨床研修医：18名

新規採用者：86名

## チーム医療 認知症ケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、PSW、作業療法士、薬剤師、事務員

◆概　要

超高齢化社会となり、高齢者、特に認知症高齢者の入院がますます多くなることが予想されます。認知症高齢者が入院するとせん妄の発症や環境の変化に適応できず行動・心理症状（BPSD）が出現し、退院の遅延・自宅での生活が困難となる、認知機能やADLがさらに低下するなどの問題が生じやすいのが現状です。そのため、認知症患者のケアの質の向上を図ることで認知症高齢者が安心して身体治療を受け、早期に住み慣れた場所に戻ることを目標に活動を行っています。かかりつけ医の先生方にも信頼してご紹介いただけるような病院となることを目指し、多職種でのチーム活動を行っています。

◆実　績

認知症ケアチーム回診新規患者数・回診件数・算定件数

| | R２年度 | R３年度 | R４年度 |
|---|---|---|---|
| 新規回診患者数 | 342 | 471 | 765 |
| 認知症ケア加算Ⅰ算定回数 | 4,230 | 6,753 | 9,966 |

依頼内容

| | | | |
|---|---|---|---|
| せん妄予防 | 578 | ADL改善 | 118 |
| せん妄やBPSDケア | 341 | 意思決定支援 | 38 |
| 食事支援 | 47 | 家族支援 | 20 |
| コミュニケーション支援 | 124 | その他 | 16 |

※複数依頼含

## チーム医療 腫瘍カンファレンス

◆メンバー構成

医師、看護師、リハビリテーション技師、SW、薬剤師をはじめとする多職種

◆概　要

腫瘍カンファレンスでは、当院のがん患者さんについて複数診療科の医師と看護師、薬剤部、リハビリなど各部門から多職種の参加を得て検討しています。検討内容としては原発・転移巣の評価、治療方針、経済面や家族関係など社会的背景、説明内容、リハビリなど支持療法の適応など多岐にわたります。2015年12月より当初は骨転移にしぼって骨転移カンファレンスとして少数のメンバーでスタートしました。

2016年７月からは腫瘍カンファレンスとなり、対象を全がん患者とし、全職員に自由に参加してもらうようになりました。

現在のがん対策推進基本計画においては、がんと診断されたときからの緩和ケア、がん登録、がん患者の就労などの推進に重点が置かれています。これらの事業は院内の全職種および地域の医師、医療者との協働があってはじめて十分なものとなります。したがってこのようなカンファレンスはがんのチーム医療の推進には必須のもので、多くの医療施設で、ツモールボードなどの名称で広く行われています。当院では月１回、第３水曜日の夕方、各種委員会・カンファレンスの多く行われている時間での開催となっており、多くの方に負担をかけながらの開催ですが、今後さらに多くのスタッフの参加を得て、より活発なものとなることが望まれます。このカンファレンスは2021年からはがんを扱う診療科（外科、乳腺外科、消化器内科、泌尿器科、産婦人科、呼吸器内科）の持ち回りによって、運営されるようになりました。がんに係るすべての職員のさらに積極的な参加を期待しております。

# 看護部

◆スタッフ

看護部長；谷岡美佐枝、副看護部長；岩田富美・中野美佳・中村明美　他部署配置表の通り

◆看護部の理念

地域住民の健康で幸福な生活を支える看護

◆2022年度　看護部重点目標及び評価

**目標１．急性期病院、地域医療支援病院としての効果的な病床運営を行う**

▶経常収支は、救急受けれのシステム改善により患者数が増加したこと、手術件数の増加・令和４年度診療報酬改定で新設された急性期充実体制加算を算定・DPC期間を意識した適正な入院期間を設定（病棟師長を中心に医師やMSWと相談し効果的なベッドコントロール運用を実施）・COVID-19患者の積極的な受入により入院診療単価が増加したこと、及びそれに伴う大阪府からのCOVID-19空床補償の補助金等収入により、黒字となった。

しかし、コロナ禍による受診控えの影響が強く、コロナ禍前の新入院患者数には回復していないこと等から、医業収支は赤字であった。

**目標２．看護の質向上に関する取り組みを継続する**

▶Safety-Ⅱの考え方に基づくエラーを回避・調整できる対応力

⇒ヒヤリハットレベル（０,１）の報告は、2,283件と目標値1,500件/年を達成できた。

薬剤関連インシデント報告数は、2022年度は1,370件と約26％増加。薬剤に関するインシデント障害レベル２以上が約27％増加。薬剤の種類によって、患者への障害が高くなるため、薬剤の種類に応じての対策が必要。

▶看護の質評価・患者満足度調査結果に基づく取り組み

⇒医療の質可視化プロジェクト（MQAC、QI）へ参画。

看護部は身体抑制率の評価；約10％程度であった。より削減に向けて取り組む。

臨床倫理委員会の組織化、倫理コンサルテーションの設置

看護ケアの質評価・改善システムマニュアルへの参加：患者接近への課題が見出された。

構造評価の実施⇒迅速に対策を講じ、実行に移す仕組み作り。

看護過程評価計画⇒看護過程評価ツールの検討・修正を行う。患者を統合的に捉えた看護実践が課題。

患者満足度調査結果評価⇒食事改善・外来待ち時間・接遇が課題。患者の声から、わかりやすい病院。

高度な医療提供、わたしを助けてくれる、わたしのことを知ってくれている病院・看護を目指す。

**目標３．学び育て合う教育体制を再認識し自律した看護を実践できる人材育成**

▶急性期医療を担える看護実践者の育成

⇒新人看護職員：ラダーレベルⅠ⇒Ⅱへ昇格できない新人職員数の増加。

研修を見直し、ローテーション研修からジョブローテーションへ企画変更。

若手看護師の育成、指導者層に難題…看護のやりがいを強める教育の考案。

2023年度日本看護協会から新しいクリニカルラダーに沿った当院の教育計画の再構築。

▶看護管理者・スペシャリスト育成

⇒認定看護管理者１名認定。副看護師長登用試験合格者５名中４名合格。特定行為研修受講者５名新規受講

次年度認定看護師エントリー２名以上⇒WOC１名　ICN１名
クリティカルケアCN教育課程修了１名

▶臨床現場の支援体制；看護の質保証に貢献するスペシャリストの活動
⇒実践報告会の開催、保健福祉活動の推進、スペわくゼミ、現場でのOJTなど、実践に伴った教育展開
ICLS、緩和ケア研修（ピース、ELNEC-J研修）医療チームの始動：RRS、摂食嚥下チーム

**目標４．職員一人ひとりが健康で働きやすい職場づくりを行う**

▶心理的安全性が確保された職場環境の構築
⇒研修会の開催
種々のアンケート調査の結果、職種間の協働・コミュニケーションをもつ環境の設定が必要
パワーハラスメントの問題
メンタル不調者、転職者の増加に対する支援不足
新理念を基盤とした組織文化を醸成する取り組みが必要

▶看護師の確保にむけた取り組み
⇒合同説明会：参加者合計369名、WEB紹介
就職説明会：参加者合計120名
外部大学実習受け入れ９校、合計124日、110人、延べ763日の受け入れの調整を行った。

▶タスクシフト・シェア、効率的な業務改善への取り組み；看護補助者の活用
⇒看護補助者のセグメント組織化・クリニカルラダー導入に伴い欠員が減数。また、ナイトシフトの看護補助者を採用できた。

**目標５．地域支援病院として保健医療福祉活動を拡充する**

▶地域住民の健康に関する啓発・教育活動

▶地域医療・介護従事者の質向上に向けた研修活動

| 開催日付 | 教育・研修名 | 参加人数 | | 主催病棟<br>主催チーム |
|---|---|---|---|---|
| | | 地域住民 | 職員 | |
| 2022.6.1～7 | オープンキャンパス<br>「がんについて知ろう　がん相談支援センターって知ってますか？」 | 296 | | がん相談支援センター |
| 2022.6.13 | がんサロン「体を楽に動かせる体験をしてみませんか」 | 4 | | がん相談支援センター |
| 2022.7.1～7 | オープンキャンパス<br>「治療に伴う妊よう性・生殖機能温存について」 | 302 | | がん相談支援センター |
| 2022.7.11 | がんサロン「病気と治療と付き合う上での気持ちの持ち方」 | 6 | | がん相談支援センター |
| 2022.9.1～7 | オープンキャンパス「乳がん・子宮がんについて」 | 103 | | がん相談支援センター |
| 2022.9.8～9 | 救急の日「もしもの時の救急車の利用法」 | | | 救急室 |
| 2022.10.27 | がんサロン「体を楽に動かせる体験をしていませんか第２弾」 | 2 | | がん相談支援センター |
| 2022.10.16 | 新しくなった当院のマンモグラフィ装置について | 12 | 7 | ブレストチーム |
| 2022.10.16 | BRCA1/2遺伝子検査について | 12 | 7 | ブレストチーム |
| 2022.10.3～31 | がん検診50%達成に向けた集中キャンペーン | | | がん相談支援センター |
| 2022.11.1～8 | オープンキャンパス「胃がん・大腸がんについて」 | 356 | | がん相談支援センター |
| 2022.11.1～8 | オープンキャンパス「胃がん・大腸がんについて」 | 356 | | がん相談支援センター |
| 2022.12.6 | がんサロン～アピアランスケア～ | 9 | 0 | がん相談支援センター |
| 2022.12.5～7. | 床ずれ予防とフットケア（オープンキャンパス） | 50 | 0 | 褥瘡対策委員会、<br>フットケアチーム |

| 開催日付 | 教育・研修名 | 参加人数 | | 主催病棟<br>主催チーム |
|---|---|---|---|---|
| | | 地域住民 | 職員 | |
| 2022.12.4 | フットケア・スキンケア検討会 | 41 | 2 | フットケアチーム |
| 2023.1.16～20 | オープンキャンパス<br>「がん治療とお口のケア」「緩和ケアについて」 | 253 | 0 | がん相談支援センター |
| 2023.1.19 | がんサロン「AYA　CAFÉ」 | 4 | 0 | がん相談支援センター |
| 2023.1.9～2.28 | 2022年度褥瘡対策講演会 | 102 | 0 | 褥瘡対策委員会 |

＊助産師によってマタニティクラス 50回・無痛分娩教室 11回開催

＊糖尿病教室 11回、腎臓病教室 ７回開催

◆各部署の責任者

| 看護部長 | 谷　岡　美佐枝 | | |
|---|---|---|---|
| 副看護部長 | 岩　田　富　美　　中　野　美　佳　　中　村　明　美 | | |
| 所　属 | 看護師長 | 所　属 | 看護師長 |
| 教育担当 | 田　中　真由美 | 10階西病棟 | 狩　野　智　恵 |
| がん疾患担当 | 土　岐　昌　世 | 11階東病棟 | 前　田　結　香 |
| 看護外来担当 | 清　水　加世子 | 11階西病棟 | 谷　口　智　子 |
| がん看護担当 | 志　方　優　子 | 12階東病棟 | 杉　　佳　子 |
| 病床管理担当 | 遠　藤　聖　美 | 12階西病棟 | 北　　由　美 |
| ICU | 東　城　夏　恵 | 13階東病棟 | 玉　置　ひろみ |
| ８階東病棟 | 高　橋　　唯 | 13階西病棟 | 玉　置　ひろみ（兼任） |
| NICU | 高　橋　　唯（兼任） | 外来（一般診療） | 鈴　木　志　帆 |
| ８階西病棟 | 峯　真　由　美 | 外来（治療検査） | 福　永　花　子 |
| ８階南病棟 | 今　井　康　乃 | 手術室 | 藤　原　千　佳 |
| ９階東病棟 | 長　辻　玲　子 | 血液浄化センター | 酒　井　圭　子 |
| SCU | 長　辻　玲　子（兼任） | 医療安全管理室 | 堀　　美和子 |
| ９階西病棟 | 森　本　結　美 | 医療福祉相談室 | 三　村　麻紀子 |
| 10階東病棟 | 藤　澤　千　穂 | | |

◆看護部の委員会の活動状況

| 各種会議・委員会名 | 委 員 長 | 各種会議・委員会名 | 委 員 長 |
|---|---|---|---|
| 看護師長会 | 谷　岡　美佐枝 | 記録委員会 | 谷　口　智　子 |
| 副看護師長会 | 谷　岡　美佐枝 | 看護サービス委員会 | 狩　野　智　恵 |
| 教育運営会議 | 中　村　明　美 | 安全管理委員会 | 北　　由　美 |
| 看護ケア推進会議 | 中　村　明　美 | 看護部倫理委員会 | 東　城　夏　恵 |
| 看護の質評価委員会 | 中　村　明　美 | がん看護運営委員会 | 志　方　優　子 |
| 教育委員会<br>（新人・継続・学生） | 田　中　真由美 | 看護部審査会<br>（研究審査・ラダー審査） | 中　野　美　佳<br>中　村　明　美 |

**1．看護師長会**

看護部の最高決定機関として位置付けている。

高度急性期、急性期に対する幅広い体制整備に向けて、看護部の目標に沿って質の高い看護実践が展開できる職場・教育について検討を重ねた（内容は看護部の評価を参照）。

**2．副看護師長会**

前期はDPCⅡ期退院を目標とする中、在院日数が短縮されても患者の望む退院支援を提供するため学習会や事例報告会等を実施した。後期は、より実践的に家族支援、記録、スタッフ指導、多職種・地域連携についてグループに分かれて取り組んだ。これらの取り組みでDPCⅡ期退院の目標に貢献できた。

**3．教育運営会議**

2022年度の目標として、①教育理念に基づいた教育計画の企画を行う、②看護部教育計画に基づき、教育計画の実施・評価を行う、という２点を掲げて活動した。目標①に関しては、前年度の評価をもとに、教育理念に基づいて検討しながら教育計画が企画できた。目標②については、今年度は昨年度再構築した教育計画を基に、ラダー別教育やSTEP研修を企画し実行できた。COVID-19感染拡大に伴い一部延期となった研修もあったがほぼ計画通りに実施できた。

**4．看護ケア推進会議**

2022年度は、①専門分野における課題を抽出し、院内教育活動に参画する、②地域保健福祉活動に積極的に参画する、③スペシャリスト及びJCHO大阪病院の看護師の看護ケアについて広報する、④看護の質向上に向けて、ジェネラリスト看護師の看護力をアセスメントし、OJTを行う、という４点を掲げた。認定看護師・専門看護師が、『教育・育成』『広報』『地域貢献』の３チームに分かれ、目標達成に向け活動した。

**5．看護の質評価委員会**

2022年度の目標は、①看護の質評価方法を探求し、一連の構造・過程・結果評価について構築する、②看護の質評価の公表に向けた取り組みを行う、の２点を掲げた。委員会では、『看護における接近』についてディスカッション、「医療の質の可視化プロジェクト」への参加、日本看護質評価機構「看護ケアの質評価・改善システム」に５病棟（８南・９西・９東・10西・12西）が参加、などの活動を行った。また、過程評価については、現在の看護記録に合ったものに改訂し、看護師長による看護過程評価を実施した。

**6．教育委員会（継続教育）**

昨年度、再構築を行ったラダー別教育計画の実施・評価を行った。また、OFF-JTがOJTに効果的に連動できるよう、実施後は委員を通して受講者の反応や学びの活用状況を積極的に吸い上げ、次年度に繋がるニーズや課題を明確にした。昨年度から教育の基盤として経験学習理論を活用していくことを課題としており、教育に関わる研修内で経験学習理論の講義や他者へのリフレクションを多く取り入れた。

**7．教育委員会（新人教育）**

昨年度、見直しを行ったローテーション研修やその他すべての新人看護師教育計画について計画的に実施した。特にコロナ禍の背景を考慮し、看護技術研修を多く取り入れ、OJTでのサポートを行った。また、メンタルヘルス研修の導入や研修生同士の交流の機会を大切にしながら精神面のサポートを強化するとともに、委員会においては情報共有しながら指導方法の検討を行った。次年度よりジョブローテーションを取り入れるため、効果を評価していく。

**8．教育委員会（学生教育）**

当院クリティカルラダーレベル０である看護学生の育成に向け、効果的な実習指導の展開及び指導者の育成を目的に活動を行った。附属看護専門学校の教員より新カリキュラムの内容や看護学生の現状を伝えることにより、看護学生の育成に対する課題について共通認識を図った。また、効果的な実習を展開するために、委員が役割モデルとなり部署における実習指導者の育成に取り組んだ。

**9．看護記録委員会**

昨年度に引き続き定型文・テンプレートの内容見直しと効果的な活用による記録時間の短縮や、外来・地域との連携に繋がる看護要約について関連部署の意見を取り入れ更新した。また、看護過程評価ツールの見直しを行い改定した内容で、看護過程監査を行ったが課題抽出や対策立案には至っていない。教育活動として、ラダーⅠ・Ⅱを対象とした研修を行い看護過程に対する理解を深めた。

**10. 看護サービス委員会**

顧客満足度調査の結果から看護サービスの改善に取り組むため、前期・後期に調査結果を委員で共有した。調査からは「施設の案内表示」「接遇」などが改善すべき点として挙がったが具体的な改善には至っておらず、今後の課題である。接遇改善に関して、接遇マニュアルの改訂を実施した。隔月毎に接遇標語を作成し、全病棟で周知するよう活動した。そのほか、看護師の「責任体制の明示」の手順を作成し、師長会での承認を得た。

**11. 安全管理委員会**

ヒヤリハット報告内容をSafety-Ⅱの考えに基づいて振り返る活動を実施した。リンクナースには、ヒヤリハット報告の必要性とSafety-Ⅱの考え方が浸透し、エラーを回避・調整する対応力の向上につながることが理解されてきている。薬剤部との協働では、各部署からの意見をもとに検討を重ね、業務改善や周知徹底につなげる活動ができた。

**12. がん看護運営委員会**

大阪府がん診療拠点病院の役割、当院のがん医療・看護の体制を概観した。その役割を果たすべく院内のがん医療・看護に関するマニュアルや手順などを再確認しひとつのファイルにまとめた。リンクナースが各部署で周知したことにより、年度の最後には各部署のスタッフもそのファイルを活用できるようになった。また、リンクナースが現場で悩んでいることを適宜話し合うことで他部署同士の連携を積極的にしようとしていた。

**13. 看護部審査会（研究審査・ラダー審査）**

研究審査は（回覧審査も含め）11回開催し、看護研究や看護実践報告について倫理的視点での審査を実施した。内部審査は13件、外部審査は70件であった。ラダー審査は３回開催し、書類審査およびラダーⅣへの昇段審査では面接審査も実施した。転勤者や中途採用看護師の増加により、年度途中での審査が増加している。ナラティブレポートについては記述が不十分で再審査となる例がみられており、次年度からはフォーマットを変更し、看護師の思考プロセスを支援できるものを考えていく。

◆ワーキンググループの活動状況

| 各種会議・委員会名 | 委 員 長 | 各種会議・委員会名 | 委 員 長 |
|---|---|---|---|
| 感染予防実行委員会 | 小　井　里　香 | 栄養管理実行委員会 | 吉　田　文　子 |
| 褥瘡対策実行委員会 | 清　水　加世子 | 緩和ケア実行委員会 | 志　方　優　子 |
| 入退院支援実行委員会 | 三　村　麻紀子 | 認知症ケア実行委員会 | 冨　永　純　子 |

**1．感染予防実行委員会**

平時からCOVID-19予防対策、標準予防策・経路別予防策が実施できることを目標に取り組んだ。８月にはCOVID-19の流行が過去最高となり、クラスター発生を経験した。クラスター発生については振り返った内容を会議内で共有し、現場での感染対策に関する疑問や困っていることについて話し合い、マニュアル修正を行った。以後クラスターの発生はない。併行して各部署で手指衛生に引き続き取り組み、COVID-19流行の有無にかかわらず緩やかではあるものの院内全体の手指衛生回数は上昇した。

**2．褥瘡対策実行委員会**

委員会でポジショニングのチェックリストを作成し、各部署でOJTに取り組んだことでポジショニングが原因の褥瘡発生を減少させることができた。また、医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）、スキンテア予防についての意識が高まり、患者の個別性にあわせて予防ケアを実践できるようになってきている。患者のADLにあわせた除圧用具の選択ができるようにフローチャートを定着させること、弾性ストッキングやおむつによる創傷の予防対策が課題である。

**3．入退院支援実行委員会**

今年度は入院７日以内に患者・家族・多職種でゴールを共有すること、入院後早期のケアマネジャーとの共同指導実施の２点を重点課題としたが、周知自体が困難であったため、取り組みは引き続き課題である。

**4．栄養管理実行委員会**

低栄養状態にある患者に対して栄養評価を行い、栄養改善、QOLの向上を目指し、看護ケアの質向上を図ることを目的に活動しました。各部署NSTにつなげることもできておりNST加算も増加、また、摂食機能療法についても理解を深め加算件数も増加させることができた。

**5．緩和ケア実行委員会**

緩和ケアの普及のために各部署のリンクナースへ症状アセスメント、倫理的な問題、コミュニケーション技法などについてミニレクチャーを実施。また、実践力を養うために、臨床でよく遭遇する場面を設定し、ロールプレイを実施することで、患者・家族へ実践できたという声が聞かれた。

**6．認知症ケア実行委員会**

認知症ケア実行委員会では、認知症や認知機能低下のある患者様が、自身の能力を最大限に発揮しながら、安全で適切な治療が受けられるよう認知症看護実践能力の向上を目指すことを目的に活動を行った。2022年度は、６事例を通して認知症の看護実践を検討した。また、せん妄への早期対応を目標に入院時のアセスメント実施率は90％以上で推移した。

**◆大阪病院における看護評価（構造評価）**

**1．評価期間**　2022年11月11日（月）～12月23日（金）

**2．評価対象**　13病棟、ICU、SCU、NICU、手術室、血液浄化センター、外来（一般・治療）

**3．評 価 者**　看護部長、副看護部長、看護の質評価委員（部署評価を受けない委員）

**4．評価方法**　JCHO本部より配信された、構造評価ツール追加修正版を使用して実施
各部署の看護師長・副看護師長による自己評価後、評価者による現場視察と面接により評価した。症例を用いてプロセスを評価し、アウトカムは部署のアウトカムとした。

**5．結果と考察**

以下の項目については、次年度は各部署だけで対応するだけではなく、看護の質評価委員会で問題点を

整理し、各委員会で検討を依頼するなどし、質の改善に取り組んでいく。次年度の部署目標や計画を立てる際に、結果が活用されていないこともあるため、期首の看護部長面接の際には、構造評価結果についての取り組みについても報告を行うことが今後の課題である。

| |
|---|
| 【基本事項】<br>B-4-1　診療記録の管理・責任体制が明確である<br>・診療録は許可なくコピーされないよう管理されている |
| 【安全に関する事項】<br>S-1-3　誤薬対策としての安全管理が行われている<br>S-1-4　転倒・転落防止としても安全管理が行われている<br>S-2-4　改善策実施後の評価を行っている<br>S-8-5　S-8-6　身体抑制に関すること |
| 【看護ケアに関する事項】<br>N-3-2　担当看護師名が明示されている<br>N-1-1　看護師長、副看護師長は全患者を訪問し、容態やケアの実施状況を把握している<br>N-6-4　病室は清潔で整理整頓されている |
| 【教育に関する事項】<br>E-2-1　看護倫理に関する学習を行っている<br>E-4　看護研究 |

◆教育全般

1）クリニカルラダー別割合（看護師長除く）

| ラダー | 2022年度 |
|---|---|
| Ⅰ | 8.7% |
| Ⅱ | 36.7% |
| Ⅲ | 34.1% |
| Ⅳ | 15.8% |
| Ⅴ | 0.2% |

**＜資格取得者・長期研修修了者数＞**

2023年３月末現在

| | | | |
|---|---|---|---|
| 専門看護師 | 1 | 認定看護管理者 | 2 |
| 認定看護師 | 13 | サードレベル修了者 | 2 |
| 診療看護師 | 1 | セカンドレベル修了者 | 20 |
| 特定行為研修修了者 | 10 | ファーストレベル修了者 | 42 |

**＜院内研修＞**

新採用者研修プログラム

今年度、４月の新人は37名であった。新人看護職員研修として25項の研修を計画実施した。コロナ禍で臨地実習ができていない新採用者に対し、新採用時研修では事例に基づいた研修とし、看護技術研修の時間も増加した。新人看護師にとっては、安心して配置部署に臨める機会となった。

今年度の離職率は8.1％であった。途中休職する新人看護師もおり、コロナ禍であることも踏まえ職場適応やメンタルサポートへの継続的な関わりが必要である。

| 研　修　名 | | 研　修　名 |
|---|---|---|
| 新採用時研修 | | 看護倫理Ⅰ |
| ３ヶ月研修 | | 看護過程Ⅰ |
| ６ヶ月研修 | | 看護記録 |
| ９ヶ月研修 | | 救急看護Ⅰ |
| １年目研修 | | 重症度、医療・看護必要度研修 |
| ローテーション研修 | | 周手術期Ⅰ |
| 入職前レクチャー | 呼吸状態の観察 | 入退院支援Ⅰ |
| | 心臓の解剖と心電図 | 高齢者・認知症看護Ⅰ |
| | 循環動態の観察 | 感染Ⅰ |
| | 脳神経症状の観察 | スキンケアⅠ |
| | 輸液管理 | 摂食嚥下障害看護Ⅰ |
| TeamSTEPPSⅠ | | がん看護Ⅰ |
| 災害看護Ⅰ | | メンタルヘルスⅠ |
| 新人看護師一人あたりの研修合計時間　242.5時間　34名が受講を修了した | | |

■クリニカルラダー別教育計画

| 研　修　名 | 受講者数 | 研　修　名 | 受講者数 |
|---|---|---|---|
| 看護倫理Step1 | 24 | 新人看護職員実地指導者研修Part1 | 13 |
| 看護倫理Step2 | 2 | 新人看護職員実地指導者研修Part2 | 12 |
| 看護倫理Step3 | 2 | 教育担当者研修Part1 | 6 |
| 看護過程Ⅱ | 45 | 教育担当者研修Part2 | 5 |
| リーダーシップⅡ Step1 | 48 | 実習指導者研修Part1 | 17 |
| リーダーシップⅡ Step2 | 24 | 実習指導者研修Part2 | 17 |
| リーダーシップⅢ | 11 | プリセプターシップ研修 | 51 |
| フィジカルアセスメントⅡ | 30 | プリセプターフォローアップ研修 | 30 |
| 臨床推論 | 13 | 感染管理Ⅱ | 20 |
| 救急看護Ⅱ | 23 | 感染管理Ⅲ | 7 |
| 入退院支援Ⅱ | 28 | スキンケアⅡ | 30 |
| 入退院支援Ⅲ | 7 | スキンケアⅢ | 8 |
| 看護研究Ⅰ（２年目） | 50 | がん看護Ⅱ | 15 |
| 看護研究Ⅱ | 49 | がん看護Ⅲ | 5 |
| 看護研究Step1 | 3 | 高齢者・認知症看護Step1 | 27 |
| 看護研究Step2 | 3 | 高齢者・認知症看護Step2 | 2 |
| 看護研究Step3 | 2 | 摂食嚥下障害看護Ⅱ | 24 |
| | | 摂食嚥下障害看護Ⅲ | 6 |

## 看護部門 ICU（集中治療室）

（看護師長）東城夏恵、看護師29名　12床

◆重点目標と実績

ICUは全室個室12床を有しており、循環器疾患や心臓血管外科・外科・脳神経外科などの大手術後、合併症を有する患者の術後、病棟での急変などの患者に対して高度で安全な医療・看護の提供を行っている。

**重点目標**；急性期病院、地域医療支援病院としての効果的な病床運営を行う
迅速な入院を可能とする病床管理体制の強化

**実　　績**：病床利用率58％（2021年度55％）。今年度は全日10床稼働ができるように勤務体制を整備した。また、クリティカルパス使用疾患の拡大（循環器・整形外科・泌尿器科・婦人科）やOP室・治療外来部門との協働により予定入室の大幅な増加を図ることができ、昨年度より利用率を上昇させることができた。

## 看護部門 母子医療センター（８階東病棟・NICU）

（看護師長）高橋　唯、助産師26名、看護師８名　産婦人科：18床　小児科：６床

◆重点目標と実績

８階東病棟とNICUは“母子医療センター”として産科医、小児科医、助産師、看護師が常に連携・協働し、安全な周産期管理を目標に、正常分娩だけでなくハイリスク分娩や新生児管理を行っている。

2022年度は新たに母子医療センターリニューアルプロジェクトとして病室の改装やアメニティ・プレゼント・パジャマの変更、無痛分娩や遺伝相談外来に取り組み、分娩件数は平均35件／月、414件／年であった。また、地域支援病院として、子育て世代包括支援事業である産後ケア事業にも参画し、のべ43名（188日）の利用があった。今後は分娩数確保だけでなく、産後ケア・助産師外来・新生児訪問など子育て世代包括支援を充実させることが課題である。

## 看護部門 ８階西病棟

（看護師長）峯　真由美、助産師１名、看護師13名、保育士１名　小児科：22床

◆概　要

８階西病棟は小児病棟であり、小児管理料２を取得し、15歳未満の小児患者を24時間受け入れている。小児科特有の呼吸器感染症などの急性感染症の患者が半数以上占めており、内分泌・骨代謝疾患の他、整形外科疾患、耳鼻科疾患など、様々な疾患の患者が入院された。大阪市では１歳未満の児と母を受け入れている産後ケア事業を行っている施設が少なく、小児病棟でも2022年度より１ヶ月以上１歳未満までの産後ケアの受け入れを開始した。

◆実　績

2022年度はRSV感染症などの呼吸器感染症の流行に伴い、2021年度と比較すると入院患者総数は減少したが、緊急入院患者数は増加した。

2022年度９月より小児病棟においても産後ケアの受け入れを開始した。大阪市内では１歳未満の産後ケアの受け入れを行っている施設が少なく、病院近隣の利用者だけではなく、東住吉区や東淀川区など遠方からの利用者もおられた。2022年９月より2023年３月まで総計32組の産後ケアを受け入れた。小児病棟では１ヶ月以降の受け入れではあるが、母子医療センターとの連携を図りながら０ヶ月から11ヶ月の児と母を受け入れた。

## 看護部門 ８階南病棟

（看護師長）今井康乃、看護師16名　産婦人科・乳腺内分泌外科・消化器内科・整形外科・眼科：42床

◆重点目標と実績

当病棟は産婦人科、乳腺内分泌外科を中心とした女性病棟である。2022年度１日平均入院患者数は25.3人、稼働率は60.2％。緊急入院が多く、月平均新入院患者117名であった。

診療科別入院患者割合は、産婦人科43％、乳腺外科17％、消化器内科14％、整形外科11％、その他診療科15％であった。年代別では15歳以上～98歳までと幅広く、発達段階の割合は青年期・成人期15％、壮年期46％、老年期39％であった。

あらゆる年代の女性患者が安心して入院できるような療養環境にするために、五感に働きかけることをテーマに、患者さんの癒やしに繋がる環境作りに取り組んでいる。

## 看護部門 ９階東病棟

（看護師長）長辻玲子、看護師22名　脳神経外科・脳神経内科・消化器内科：39床

◆重点目標と実績

９階東病棟は、脳神経外科、脳神経内科の混合病棟である。入院患者の半数以上は脳卒中の患者でSCUでの急性期治療を受けた後の転入となっている。今年度の重点目標の１つ目は、予定入院患者、救急患者、転入患者をスムーズに受け入れ、効果的な病床運営を行うこととし、病床稼働率84％の維持を目標値とした。入院患者は、昨年度とほぼ同様の数を受け入れ、緊急入院も若干増加したが、平均在院日数の減少に伴い、病床稼働率は昨年より低下、75％であった。２つ目の目標は、SCUと連携し、在宅療養支援フローの作成・他職種とともに活用を行い、DPCⅡ期末までの退院、転院を目指すこととした。フローを作成、活用しながら実践、Ⅱ期越えの退院・転院は、前年度50％から、40％にまで低下することができた。

## 看護部門 SCU（脳卒中ケアユニット）

（看護師長）長辻玲子、看護師15名　脳神経外科・脳神経内科：９病床

◆重点目標と実績

脳卒中ケアユニットでは全室個室９床での運営で急性期の脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）患者を対象としている。脳卒中発症早期から医師、看護師、多職種と協働し、脳卒中急性期患者の回復促進を図っている。今年度は、病床稼働率95％を達成できるよう目標を設定したが、90％にとどまった。また、DPCⅡ期末に退院、転院できるよう９東と協働しフローの作成、運用をおこなった。計画的に進まないケースもみられたが、退院、転院を見据えたケアを他職種と協働し実践した。

## 看護部門 ９階西病棟

（看護師長）森本結美、看護師27名　循環器内科・心臓血管外科：45床

◆重点目標と実績

９階西病棟は、慢性疾患を抱える高齢者の入院が多い病棟である。その為、住み慣れた地域へ早期退院ができるように、入院の早期から患者様、家族様の退院目標を確認し、多職種、医療・介護従事者と情報共有や連携強化を行い早期退院ができるように支援を実践している。その為、昨年度の平均在院日数は10.8日と短縮ができた。

慢性疾患患者をサポートする為、ハートチームを立ち上げ、医師、看護師、理学療法士、栄養部、薬剤部と共に患者様、家族様をサポートしている。昨年度の心不全入院患者の再発率は６か月では13％、１年では16％となり再発率が減少できた。心不全に関する知識向上に向けて心不全教室のDVD作成や、COVID-19のために実施出来なかった地域住民の健康に関する市民講座や地域医療・介護従事者と共に質向上に向けた検討会を行う事が課題である。

## 看護部門 10階東病棟

（看護師長）藤澤千穂、看護師21名　消化器内科：45病床

◆重点目標と実績

**新入院患者増加に向けて、スムーズな入院受け入れ体制と病床管理を行い、病床稼働率84％以上を達成する**

病床稼働率は83.3％と目標値には至らなかったが、新入院患者数は1,696名、緊急入院507名とそれぞれ100名ほど昨年度より上回る患者を受け入れた。緊急入院が多い部署のため、スタッフ間で業務調整を行い協力体制を強化し、救急や外来での待ち時間を出来る限り短縮できるようスムーズな受け入れに努めた。

当部署では内視鏡検査や治療を受ける患者が多くを占め、平均在院日数も7.0日ほどであるが、消化器癌の診断期から終末期と幅広い病期に関わるため、質の高い看護を提供できるよう今後も知識の習得・向上を目指す。

## 看護部門 10階西病棟

（看護師長）狩野智恵、看護師27名　消化器外科：45病床

◆重点目標と実績

**1．急性期病院、地域医療支援病院として効果的な病床運営を行う。**

1）DPC Ⅱ期での退院と稼働率の維持

2）緊急入院の迅速な受け入れ

DPC期間を意識した退院支援を強化し、入院期間DPC Ⅲ期以上の患者割合26.7%（病院方針30%以下）と目標値クリア。入院患者も前年度比82名増加･病床回転率上昇したが、入院期間の短縮が影響し病床稼働率78.2%と低下。病床稼働率は目標値達成に満たなかったが、緊急入院・入院患者数・病床回転数は上昇、病床の効果的な運営に取組んだ。

手術件数744件（昨年730件）

**2．患者の尊厳を大切にする看護を提供する**

デスカンファレンスを２事例実施。看護を語る機会を持つことでスタッフがカンファレンスしやすい雰囲気ができつつある。倫理検討はJonnsen４分割法を使用し、病棟で開催。倫理コンサルテーション１事例。また、病棟の問題点や課題をリコメンドされる「看護のケアの質評価・改善システム」に参加し、第三者評価を受審。今後、受審結果を看護の質向上に活かす。

**3．消化器外科のエビデンスに基づいた看護実践力のある看護師の育成**

医師とともに病棟勉強会を実施。実際の症例を通して学習することで臨床に活かせる学習となるように計画、実施した。また、看護部委員会リンクナースを中心に院外研修の機会を設け、関西ストーマケア委員会リンクナースを中心に院外研修への参加の機会を設け、外科・がん看護実践の向上を目指した。

特定行為研修履修中１名、看護管理者研修修了１名、ストーマ認定士資取得１名、EOLC研修会参加１名

## 看護部門 11階東病棟

（看護師長）前田結香、看護師23名　糖尿病内分泌内科・呼吸器センター：45床

◆重点目標と実績

**1．予定入院患者、救急患者をスムーズに受け入れ効果的病床運営を行う**

- 病床稼働率、入院患者数の増加に向けて病床運営・緊急入院の受け入れを行い、１日平均入院患者数36名、病床稼働率80%と、対前年比としては増加したが、目標数値は達成できなかった。
- DPC Ⅱ期以内での退院支援の強化にむけては、各診療科との多職種カンファレンスを行い、患者が安心して退院できるように取り組んだ。また、クリニカルパスも見直し、その結果、Ⅱ期を超える割合が減少し、平均在院日数11.6日（前年度12.7日）と短縮にもつながった。

**2．呼吸器疾患・がん看護、糖尿病看護の専門性を高め、看護実践力を発揮できる人材を育成する**

今年度より、呼吸器内科と呼吸器外科が呼吸器センターとして稼働し、シームレスかつタイムリーな治療を提供できるようになった。それも踏まえ、更なる各専門分野の実践力向上・スタッフの育成に努めた。呼吸器関連の特定行為研修受講１名、院内のICLS研修受講者２名、院内および部署内の教育計画・研修を活用し教育に取り組んだ。

## 看護部門 11階西病棟

（看護師長）谷口智子、看護師24名　泌尿器科・腎臓内科・整形外科:45病床

◆重点目標と実績

**1．急性期病院、地域医療支援病院としての効果的な病床運営を行う**

**（目標：病床稼働率83%以上、DPC Ⅱ期以内の退院65%以上）**

1）予定及び緊急入院の患者を積極的に受け入れるとともに、DPC Ⅱ期以内での退院をめざし、他職種連携による入退院支援の強化をはかった。

病床稼働率は77.7%（昨年79.5%）と目標値には達しなかったが、病床は平均在院日数10.1日（昨年12.0日）に短縮、回転率40.6/年（昨年33.2）、直入患者の割合33.3%（昨年27.0%）とともに上昇し、病床の有効活用はできたと考える。DPCにおいては、病棟全体でのⅡ期以内の退院は68.9%と達成できたが、内科は53.4%と低いためさらに傾向を踏まえ退院困難に繋がりやすい事例への早期連携・介入が課題である。

**2．安全・安心につながる看護の質向上に向けた取り組みを継続する。**

５月より病棟編成のため新たに腎臓内科が編入となった。そのため看護提供方式の再考や診療科医師や血液浄化センターと協力しながら安全かつ専門性の発揮に繋がる看護の基盤づくりに努めた。

## 看護部門 12階東病棟

（看護師長）杉　佳子、看護師20名　整形外科：45床

◆重点目標と実績

**1．急性期病院、地域医療支援病院としての効果的な病床運営を行う**

1日平均入院患者36.3名、病床稼働率80.7%、直入患者割合16.7%であった。病床稼働率の目標85.5%は達成できなかったが、医師その他の職種と協働してDPC Ⅱ期内での退院を目指し退院支援に取り組むことができた。その結果、整形外科予定入院患者、直入患者はスムーズに受け入れることができた。

次年度もDPC Ⅱ期内退院を65%で維持しながら、患者・家族の目指す退院後の生活実現と安心して自宅へ退院できるよう引き続き支援していく。

## 看護部門 12階西病棟

（看護師長）北　由美、看護師23名　整形外科：45床

◆重点目標と実績

**1．急性期病院、地域医療支援病院としての効果的な病床運営を行う**

1日平均入院患者数36.3名、病床稼働率80.6%、直入院患者割合15.1%であった。病床稼働率は前年度より低下したが、DPC Ⅱ期以内での退院調整に取り組んだ結果であり、DPC Ⅲ期を超える退院は大幅に減少した。整形外科3病棟で直入院や手術前後の対応が行えるようベッドコントロールを行った。重症度、医療・看護必要度の平均は、50.6%であった。

円滑な退院支援に向けて入院支援の情報活用を行い、自部署ではチェックリストを作成し患者の思いや今後の方向性の共有を行いながら退院調整を実施し、平均在院日数は16.9日であった。

## 看護部門 13階病棟

（看護師長）玉置ひろみ、看護師31名　眼科・耳鼻いんこう科・皮膚科・形成外科・内科：40病床
COVID-19対応病床：20病床

◆重点目標と実績

**1．COVID-19陽性患者の受け入れ体制を整え、地域医療に貢献する**

2020年より大阪府の要請を受けCOVID-19罹患患者受け入れを実施。感染状況に応じて病棟編成を組み替え柔軟に対応した。フォローアップセンターや外来・病棟と連携し、受け入れ病床を確保し477名/年の患者を受け入れた。

依然、感染拡大は続いており、継続して地域医療貢献に取り組む。

**2．患者を尊重した意思決定支援に取り組む**

患者の意思や尊厳を守るための意思決定支援に取り組むために多職種カンファレンスの開催を積極的に行うよう働きかけ、12件/年実施出来た。この取り組みは今後も継続していく。

## 看護部門 一般診療外来

（看護師長）鈴木志帆、看護師29.2名

◆重点目標と実績

選ばれる急性期病院になるために、患者サービスの向上に向けた体制整備を行い、外来看護師に必要な看護実践能力を発揮できる人材を育成することを目標としている。

一般診療外来は、18診療科で運営しており、2022年度外来患者総数は258,088名1日平均外来患者数は1,064名、地域からの紹介率は74.3%であった。早期から退院後に向けた支援を行うために、入院支援室や他職種と連携している。また、外来看護師に必要な地域包括ケア促進に向けた外来教育計画と各チーム会の活動計画の立案・実施・評価を行った。外来での意思決定場面も増え、外来看護師の診察同席件数は大きく増加しており、ケアカンファレンスや看護の振り返りを行い、倫理的視点を養い意思決定支援に活かしている。

## 看護部門 外来（治療検査）

（看護師長）福永花子、看護師21名

◆重点目標と実績

外来（治療検査部門）は、内視鏡センター、放射線科、外来治療センターの３つのユニットを一つの部署としている。今年度は急性期病院、地域医療支援病院として、迅速・円滑に治療検査を実施することを目標に体制を整えた。内視鏡年間総数は9,061件、うちESD 222件・EMR 904件であった。アンギオ年間総数は997件、うちアブレーション治療は143件であった。冠動脈CT検査におけるタスクシフトを実施し、年間件数は501件であった。外来化学療法の年間実施件数は3,596件であった。また、がん薬物療法看護認定看護師Intervention Nursing Expertの資格を各１名取得するなど専門的知識と技術を有する看護師の育成に努めた。

## 看護部門 救急室

（看護師長）松山佳子、看護師16名

◆重点目標と実績

**１．急性期病院、地域医療支援病院として、円滑な救急患者の受け入れ体制の整備を行う**

地域の救急患者を早急に受け入れるため、救急体制の大幅な変更と強化、救急隊との情報交換を密に実施した。また、医師及び多職種との協働・連携の強化を行った。さらにCOVID-19疑似症患者を含む重症患者にも安全で安心な看護が提供できるよう感染対策の徹底、院内トリアージ技術を含めた知識・技術の向上や倫理的配慮・家族へのケアなどの教育も継続し強化を図った。結果、救急搬送台数は大幅に増加し、4,500台を超えることができた。

| | |
|---|---|
| 救急患者総数（発熱外来含む） | 8,811件 |
| 救急搬送台数 | 4,526台 |
| 救急搬送応需率 | 65.8% |

## 事務部門 総務企画課

◆スタッフ

（課長）小西英康、他事務職員９名、非常勤職員7.3名、派遣職員２名

◆概　要

総務企画課は、総務係・給与係・職員係・厚生係・経営企画係・業績評価係の６つの係の他、安全管理対策担当・図書室・医局秘書・秘書室で構成されています。

総務係は関係官公庁への許認可申請・届出、連絡調整、会議、諸行事に係る事務、行政対応、情報開示、施設管理、患者搬送、自動車運転、投書クレーム対応、電話交換、図書及び医局の管理など各部署の業務が円滑に遂行できるよう広範囲の業務、給与係は人事・給与関係事務や賞罰に関する業務を、職員係は臨床研修医関係事務、職員の倫理、労務管理及び研修に関する業務を、厚生係は職員の健康管理及び福利厚生に関する業務を、経営企画係の所掌は令和４年度に新設された将来構想戦略室が担当し、業績評価係は病院や職員の業績評価に関する業務をそれぞれ所掌しているほか、幹部職員のスケジュール等を管理する秘書室、医局を管理する医局秘書、図書室の管理、そして職員の安全管理対策担当を所掌する警察官OB2名を配置しています。

これらの業務の遂行にあたり、スタッフは正規職員10名、非常勤職員6.5名、再雇用職員0.8名及び派遣職員２名の計19.3名で構成されています。

◆実　績（主な課目標）

**●増収ならびに費用節減対策**

・COVID－19（厚生労働省・大阪府・大阪市）にかかる病床確保料等の補助金申請、コロナ病床の運用拡大及び発熱外来等について行政庁との調整・交渉等。コロナ病床稼働率は昨年度より増加しているが、効果的な病床運営が達成できた為、受給額は前年度比101.4%。

・発熱外来の運営の平日日中の患者トリアージ。

・光熱水料等費用削減。業務分掌整理による派遣職員の削減。

**●人員管理**

・病院運営に必要な人員確保、適正配置。

・法令等諸規程に基づく業務委託及び人材派遣関係の調整等。

・働き方改革を見据えた勤務時間の適正管理。

・弁護士・社労士による勤務時間管理の研修会。

・出退勤管理業務の実施、時間外勤務の適正管理、年次休暇の取得促進。

・医師の働き方改革への対応に向けて次の取組を実施。

（1）職員定数増員協議
職員定数について、タスクシフトを視野に医師事務作業補助員及び薬剤師の増員並びに救急救命士の新規増員。

（2）宿日直許可申請
外科系・内科・循環器内科・NICUについて、所轄の西野田労働基準監督署長より断続的な宿直及び日直勤務許可を得た。令和５年度は産婦人科・小児科・SCUの他、ICUについても許可申請を予定。

（3）働き方改革を推進する委員会が発足、タスクシフト・業務改善・業務の見直し（特に不要な業務）について、職員からの意見を募集し、関係部門に検討を依頼し、できるものから改善に着手。

**●課内業務管理**

・課内業務の効率化、省力化の推進による負担軽減。

・将来を見据えた人材育成。業績評価制度の適正な運用。

◆その他

・職員健診（過重労働の軽減、健康診断受診率の向上及びJCHO神戸中央病院への健診委託）。

・篤志解剖体慰霊祭の開催（コロナ禍により令和２年度及び３年度は自粛）。

・個人情報及びコンプライアンスの適切運用。

・会計検査院その他各種監査及び病院機能評価受審等への適切な対応。

・JMECC（内科専門プログラムに附帯する必修講習）及びICLS（初期臨床研修プログラムに附帯する必修講習）について、自院定期開催。

# 将来構想戦略室

◆スタッフ

（室長）院長、（室次長）事務部長、（室次長代理）総務企画課長、（室長補佐）栗本真吾

◆概　要

将来構想戦略室は、病院のビジョン・コンセプトや、地域医療構想を踏まえた自院の機能・他院との連携のあり方など中長期の自院の将来構想を策定、それらの構成要素となる、新型コロナウイルスの影響や疾病構造の変化を踏まえた診療体制、行政機関や地域内の医療・介護事業者から今後求められる役割、地域の医療従事者の需給見込みも踏まえた自院の人員配置や今後の人材確保策などの検討・分析を行うこと等を所掌した。

◆実　績（主な室目標）

● **定性評価**

・近隣医療機関への訪問活動を強化（医療機関別、住所別等データ、実績等を作成し、地域連携室は当該データを基準に訪問活動）

・理念、ビジョン共創プロジェクトメンバーとして、新理念、新ビジョンを策定。

・診療科別入院患者数を毎日更新するシステムを構築し、緊急入院受け入れの参考資料等に活用。

・各診療科担当医へDPCデータを元にヒアリングを定期的に開催。診療科毎の問題点等を提起し、DPC制度等に関する基本知識を担当医に周知。
（必要に応じてベンチマークシステム（LIBRA、ヒラソル）を活用）

・今年度直前に診療科毎に設定した重要評価指標（KPI）について、毎月開催の定例会議で報告。

・大阪医事研究会へ積極的に参加し、会員病院との情報交換を密に行うなどで、当院として参考できる事項等があれば積極的に活用。（診療科別入院患者数等）

● **定量評価**

・職員業績評価に連動する診療科目標（重要評価指標（KPI））のフォーマット及び項目を設定、各診療部長はフォーマットに沿って数値目標と部門目標を設定し、院長ヒアリングを実施した。

・リアルタイムで全入院患者のDPC期間（現在どの入院期間に該当しているか）を目視できるようなシステムを構築。DPC Ⅱ期以内退院調整に活用。

・診療報酬改定に伴う当院の変更点（急性期充実体制加算等）について、病床管理運営委員会等で報告（DPC Ⅱ期以内での退院を目指す理由等について説明）。
※DPC入院期間Ⅱ期以内退院率69.0%（対前年度6.8%上昇）

・急性期充実体制加算の算定と算定維持に向けた取組み（緊急手術件数及び全身麻酔件数の増加に向けて、所属長会議等で意識啓蒙を図る）。

◆今後の取組み

・2023年度各診療科の病床数及び重要評価指標（KPI）を策定。

・新理念・新ビジョンの構築に関連して、新理念・新ビジョンと職員の接着に向けての取組み及び当院の将来像（ビジョン）を目指すための中長期的な戦略を元にした目標数値（重要評価指標：KPI）を策定する。

・外来機能について、次回診療報酬改定の動向等を踏まえた上で、縮小すべき内容（例：診療密度の薄い患者は逆紹介を行う）について検討する。→　紹介

・診療報酬において、上位基準の取得、新たな算定可能項目等を常に模索すること（厚生労働省HP等に掲載されている議事録等を注視）。

・コロナ収束後から地域医療構想を見据えた病院運営（病床数削減等）について検討する。

・収益だけでなく費用の点からも改善可能な項目等について検討する。

・DPC分析ソフトを用いた他院とのベンチマークを行い、当院の現状（パス内容、入院期間等）について検討し、課題解決を行う（クリティカルパス委員会）。

## 事務部門 経理課

◆スタッフ

（課長）森井秀行、他事務員６名、非常勤事務員1.6名

◆概　要

経理課は、経理係と契約係の２部門で構成されています。

経理係は、日々の売上げから病院全体の決算業務、経営分析、各種統計資料の作成、予算策定などお金に係わる様々な事務処理を担当しています。また、独立行政法人としての透明性と説明責任を確保しつつ、JCHO大阪病院の財政状況及び運営状況を決算書に表現するという繊細な業務を行っています。

契約係は、病院運営上、無くてはならない医療機器や診療材料、各種消耗品等の調達並びに修繕などに関し、常に各部門の様々な要望に迅速に対応し、さらなるコスト削減を目指して、次のような取り組みを行っています。

①SPDシステムによる院内材料のスリム化を実現したデータベース管理により、診療材料委員会における逓減化対策及び定期的な価格交渉を推進しています。

②医療機器等の購入に関しては、職員一人ひとりのコスト意識を高め、費用対効果の実践に努めています。

③業務委託について、原則、一般競争入札を実施することにより、契約価格の減少を目指して交渉にあたっています。

経理課は、病院スタッフとのコミュニケーションを大切にしつつ、適正な会計処理を遵守することに努めています。

年度計画を達成するため、投資の基準に従い、迅速に、適正なタイミングを図り、病院機能が十分に発揮できるよう日々研鑽して業務遂行しています。

【決算概要】　（単位：千円）

| 科　目 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和２年度 | 令和３年度 | 令和４年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 診療業務収益 | 16,776,612 | 16,503,901 | 17,279,342 | 18,302,877 | 19,365,387 |
| 入院診療収益 | 11,129,557 | 10,849,261 | 10,730,911 | 10,875,417 | 11,960,805 |
| （平均点数） | (6,539.2) | (6,732.2) | (7,192.3) | (7,431.0) | (8,672.1) |
| （平均患者数） | (466.3) | (440.3) | (408.8) | (401.0) | (377.9) |
| 外来診療収益 | 4,799,007 | 4,879,299 | 4,635,389 | 4,866,717 | 4,958,272 |
| （平均点数） | (1,678.6) | (1,784.0) | (1,845.2) | (1,869.7) | (1,921.7) |
| （平均患者数） | (1,171.7) | (1,130.2) | (1,033.8) | (1,075.3) | (1,061.8) |
| 【経 常 収 益】 | 16,960,749 | 16,654,714 | 17,441,448 | 18,440,981 | 19,537,368 |
| 診療業務費 | 16,776,989 | 16,583,814 | 16,743,526 | 17,159,105 | 18,294,697 |
| 給与費 | 7,878,510 | 7,682,935 | 8,010,719 | 8,276,795 | 8,615,136 |
| 材料費 | 5,234,125 | 5,336,427 | 5,136,734 | 5,426,748 | 5,769,556 |
| 設備関係費 | 1,775,328 | 1,676,217 | 1,581,821 | 1,464,614 | 1,680,892 |
| （減価償却費） | 1,325,015 | 1,201,146 | 1,009,349 | 883,089 | 978,453 |
| 経　費 | 757,390 | 743,260 | 722,771 | 733,006 | 818,797 |
| 【経 常 費 用】 | 16,941,590 | 16,735,485 | 16,910,590 | 17,326,369 | 18,508,885 |
| 【経 常 収 益】 | 19,159 | △80,771 | 530,858 | 1,114,611 | 1,028,483 |

# 医事課

◆スタッフ

（課長）橘　弘城、他事務員12名（医師事務含む）、非常勤事務員13.5名（医師事務含む）

◆概　要

医事課は、病院の窓口として医療事務全般に関わる業務を担当しています。

**【外来部門】（委託）**

- 初診受付
- 再診受付（自動再診受付機）
- 保険確認
- 外来計算
- 支払窓口（自動精算機）
- 救急受付
- 外来レセプト（外来レセプトの作成・点検、査定対応）

**【入院部門】（委託）**

- 入院計算（入院診療費の計算、請求書の発行、入院レセプトの作成・点検、査定対応）DPC制度に基づき入院患者の医療事務全般を担っています。（DPC請求・平成18年４月～）
- 入院センター（入院申込手続き、入院当日受付）
- 公費医療（労災・生保等のレセプト請求、諸法手続き、自賠責）

**【その他】**

- 未収金処理（未収金の督促・管理）（未収金回収プロジェクト委員会の開催・平成17年９月～）
- 統計、システム対応（レセプト電算処理、諸統計作成、システムメンテナンス）
- 検診（人間ドック、乳がん・女性がん検診の受付・請求）
- 文書（介護保険主治医意見書・生命保険診断書等作成の医師依頼及び調整）
- 各診療科外来にて医師の事務作業補助業務を行う医師事務作業補助者（ＭＡ）

◆実　績

医事課では、安心安全な医療提供の一翼を担うため、待ち時間の短縮や患者サービスの向上などを目的として、毎月１回勉強会を開催しています。その中で、保険請求や接遇について、さらなるレベルアップを目指して努力しています。

診療報酬算定漏れの減少や算定アップに向けた取り組みを行っています。経営マネジメントの役割を担い、さらにチーム医療の一員として、事務的業務において医療サービスを側面的にサポートしていきたいと思います。

また、医師の働き方改革に伴い、医師事務作業補助体制加算（20対１）を現在取得済であるが、令和５年度には15対１を取得し、タスクシフト推進及び体制強化を図ります。

## 【2022年（令和４年度）委員会一覧】

| | 委員会名 | 委員長 | 主幹課 |
|---|---|---|---|
| 1 | 広報・図書委員会 | 北山聡明 | 総務企画課 |
| 2 | 臨床研修管理委員会 | 島田幸造 | 総務企画課 |
| 3 | 医学倫理委員会 | 金子晃 | 総務企画課 |
| 4 | 院内感染予防対策委員会 | 院長 | 総務企画課 |
| 5 | 医療安全管理（兼事故調査）委員会 | 島田幸造 | 医事課/総務企画課 |
| 6 | 医療安全管理対策委員会 | 院長 | 総務企画課 |
| 7 | 労働安全衛生委員会 | 院長 | 総務企画課 |
| 8 | ワークライフバランス委員会 | 院長 | 総務企画課 |
| 9 | 防災対策委員会 | 谷岡 美佐枝㈹ | 総務企画課 |
| 10 | 医療ガス安全管理委員会 | 中谷桂治 | 総務企画課 |
| 11 | 放射線障害予防委員会 | 西多俊幸 | 総務企画課 |
| 12 | 診療情報管理委員会 | 金子晃 | 診療情報管理室 |
| 13 | 医療情報運営管理委員会　兼）情報セキュリティ委員会 | 島田幸造 | 医療情報室 |
| 14 | 診療情報提供委員会 | 中田活也 | 医事課 |
| 15 | ①保険等調整検討委員会　兼）②DPCコーディング委員会 | 筒井建紀 | 医事課 |
| 16 | クリティカルパス推進委員会 | 島田幸造 | 看護部 |
| 17 | 医療の質の評価委員会 | 馬屋原豊 | 医事課 |
| 18 | 脳死判定委員会 | 榊孝之 | 総務企画課 |
| 19 | 施設整備委員会 | 畑中信良 | 経理課 |
| 20 | 診療材料委員会 | 小笠原延行 | 経理課 |
| 21 | 薬事委員会 | 鴨井博 | 薬剤部 |
| 22 | 治験審査委員会 | 金子晃 | 薬剤部 |
| 23 | 委託研究審査委員会 | 塚本文音 | 総務企画課 |
| 24 | 輸血療法委員会 | 中田活也 | 中央検査室 |
| 25 | 栄養管理委員会 | 馬屋原豊 | 栄養管理室 |
| 26 | プライマリケア・救急医療運営委員会 | 小笠原延行 | 総務企画課 |
| 27 | 中央検査室運営委員会 | 岡田昌子 | 中央検査室 |
| 28 | 病理科運営委員会 | 吉田康之 | 病理科 |
| 29 | 放射線室運営委員会 | 西多俊幸 | 放射線室 |
| 30 | 手術室運営委員会 | 中谷桂治 | 麻酔科 |
| 31 | 集中治療部運営委員会 | 佐藤善一 | 集中治療室 |
| 32 | リハビリテーション運営委員会 | 寺川晴彦 | 総務企画課 |
| 33 | 人間ドック運営管理委員会 | 金子晃 | 医事課 |
| 34 | 内視鏡センター運営委員会 | 山本克己 | 経理課 |
| 35 | 母子医療センター運営委員会 | 筒井建紀 | 総務企画課 |
| 36 | 病床管理運営委員会 | 谷岡美佐枝 | 医事課 |
| 37 | 褥瘡対策委員会 | 竹原友貴 | 看護部 |
| 38 | ボランティア活動運営委員会 | 谷岡美佐枝 | 総務企画課 |
| 39 | 業務改善・業務連絡委員会 | 鈴木朗 | 看護部 |
| 40 | 虐待対策委員会 | 島田幸造 | 医療福祉相談室 |
| 41 | 院内暴力・セクシャルハラスメント対策委員会 | 島田幸造 | 総務企画課 |
| 42 | 契約審査委員会 | 畑中信良 | 経理課 |
| 43 | がん診療運営委員会 | 塚本文音 | 医事課 |
| 44 | 認知症ケアチーム運営委員会 | 山森英長 | 医事課 |
| 45 | 特定行為研修委員会 | 畑中信良 | 看護部 |
| 46 | 棚卸実施委員会 | 森井秀幸㈹ | 経理課 |
| 47 | 外来運営委員会 | 畑中信良 | 医事課 |
| 48 | 利益相反（COI）委員会 | 金子晃 | 総務企画課 |
| 49 | 透析機器安全管理委員会 | 鈴木朗 | 総務企画課 |
| 50 | 臨床倫理委員会 | 金子晃 | 総務企画課 |
| 51 | 働き方改革推進のための委員会 | 馬屋原豊 | 総務企画課 |

# 業　績

## 整形外科

### 【原著・総説・著書】

1. 轉法輪光
   重度拘縮肘に対する関節鏡視下手術
   整形・災害外科．2022；65(4)：413-420
2. 轉法輪光
   肘関節進入法
   日本手外科学会雑誌．2022；39(2)：7-12
3. 草野雅司
   内側半月板後角フラップ断裂に対する半月板最小部分切除術の治療成績
   JOSKAS．2022；147：78-79
4. 田中雄大
   成人に発生した膝蓋骨上極裂離骨折の１例
   中部日本整形外科災害外科学会雑誌．2022；65(3)：393-394
5. 山下勝成
   人工股関節全置換術に臼蓋スクリューが骨盤内に迷入した一例
   姫路赤十字病院誌．2022；46：12-15
6. 島田幸造
   肘関節脱臼
   私の治療2021-2022．2022；1067-1068
7. 島田幸造
   閉経性肘関節症(野球以外の)
   講座スポーツ整形外科２　上肢の外傷・障害．2022；198-205
8. Temporin K
   Arthroscopic Partial Excision of the Radial Head for Advanced Rheumatoid Elbow
   Orthopedics．2022；45(4)：209-214
9. Temporin K
   Chronic volar dislocation of the metacarpophalangeal joint of the thumb treated with open reduction: A case report and literature review
   J Orthop Sci．in press
10. Sakaura H
    Early fusion status after posterior lumbar interbody fusion with cortical bone trajectory screw fixation or traditional trajectory screw fixation: a comparison between the titanium-coated polyetheretherketone cage and the same shape polyetheretherketone cage
    Clin Spine Surg．2022；35(1)：E47-52

### 【学会発表】

11. 轉法輪光
    離断性骨軟骨炎後の変形性肘関節症の変形評価
    第34回日本肘関節学会．2022/02，名古屋
12. 轉法輪光
    スポーツ後の変形性肘関節症における変形評価
    第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS)．2022/06，札幌
13. 西川昌孝
    人工膝関節置換術を要した関節リウマチ膝におけるピロリン酸カルシウム結晶についての検討
    第66回日本リウマチ学会．2022/04，横浜
14. 中谷宏幸
    内反外反型変形性膝関節症患者に対して血中MMP-3の意義
    第66回日本リウマチ学会．2022/04，横浜

15. 西川昌孝
TKA後感染に対する人工関節抜去後に偽痛風発作を生じた一例
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）．2022/06，札幌

16. 李　知香
内側膝蓋大腿靱帯付着部裂離骨折固定術後、不安定性が残存し靱帯再建術を要した１例
第35回関西関節鏡・膝関節研究会．2022/03，大阪

17. 草野雅司
末期膝蓋大腿関節症に対する脛骨粗面前内方移行術の小経験
～膝蓋骨外側関節面軟骨下骨の骨密度変化に着目して～
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）．2022/06，札幌

18. 田中雄大
陳旧性前十字靱帯損傷膝靭帯再建術後の自然断裂症例に対し拡大顆間形成術を併用した再再建術を施行した１例
第139回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会．2022/10，大阪

19. 草野雅司
末期膝蓋大腿関節症に対する脛骨粗面前内方移行術の小経験
～膝蓋大腿関節外側軟骨下骨の骨密度変化に着目して～
第49回日本臨床バイオメカニクス学会．2022/11，弘前

20. 秋森太朗
反復性膝蓋骨脱臼に対しMPFL 再建術を施行した後に不安定性が残った一症例
第22回大阪スポーツ障害・外傷を語る会．2022/12，大阪

21. 坂浦博伸
頚椎症性脊髄症に対する椎弓形成術後の頚椎後弯化・矢状面バランス不良化と全脊椎・骨盤矢状面パラメーター変化量の特徴 ―第１報―
第51回日本脊椎脊髄病学会．2022/04，横浜

22. 山田修太郎
頚髄症に対する中下位頚椎後方除圧固定術後の頚椎矢状面アライメントの変化と患者満足度に関する検討
第51回日本脊椎脊髄病学会．2022/04，横浜

23. 山下勝成
腰椎骨肉腫に対し重粒子線治療と外科治療を組み合わせて加療した一例
第139回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会．2022/10，大阪

24. 藏谷幸祐
大腿骨骨幹部骨折後二次性変形性膝関節症に対し大腿骨矯正骨切り術と高位脛骨骨切り術を併用した１例
第２回日本Knee Osteotomy and Joint Preservation研究会．2022/10，東京

25. 西本竜史
術式別にみた鏡視下Bankart修復術後関節窩骨形態の刑事的変化
第49回日本肩関節学会．2022/10，横浜

26. 中矢亮太
DDHにおける脱臼度と３次元的Global Offsetの関連性
第52回日本人工関節学会．2022/02，京都

27. 中矢亮太
THAにおける大腿骨の後方移動はROMにどのように影響するか
第49回日本股関節学会．2022/10，山形

28. 岡本恭典
カーブドショートステムの固定様式と骨反応の関連
第52回日本人工関節学会．2022/02，京都

29. 岡本恭典
カーブドショートステムの理想的な固定様式
第49回日本股関節学会．2022/10，山形

30. Nishikawa M
The efficacy of new total knee arthroplasty rehabilitation protocol for good range of motion after follow-up of 2 years
International Society for Technology in Arthroplasty．2022/09，Maui

【学会講演】

31. 島田幸造
小児肘関節傷害と後遺症の治療 ―矯正するか、リモデリングに期待するか―
日本肘関節学会．2022/02，名古屋

32. 島田幸造
血友病性関節症の病態 ―病期に応じたマネジメント―
血友病患者の関節を考える会．2022/05，大阪

33. 島田幸造
手・前腕・肘の痛みと整形外科的アプローチ
大阪府臨床麻酔科医会総会・秋季学術講演会．2022/09，大阪

34. 島田幸造
発育期と運動 ―整形外科系―
健康スポーツ医学講習会．2022/10，大阪

35. 島田幸造
難治例にどう対応するのか？ ―難治例から考える検診の意義―
神楽坂スポーツ医学セミナー．2022/12，京都

36. 轉法輪光
血友病患者の関節症ケア ―画像評価と手術の実際―
血友病患者の関節を考える会．2022/05，大阪

37. 北　圭介
MPFL再建術の術後成績に関与する解剖学的因子
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）．2022/06，札幌

38. 北　圭介
これだけは知っておきたい膝関節疾患の診断と最新の治療
JCHO大阪病院公開医学講座．2022/10，大阪

39. 草野雅司
膝関節温存治療 ～膝周囲骨切り術を中心に～
JCHO大阪病院公開医学講座．2022/10，大阪

40. 坂浦博伸
椎弓形成術後の頚椎矢状面アライメント・バランスの変化 CSM vs OPLL
―脊髄症状と軸性疼痛の観点から―
大阪脊椎外科フォーラム．2022/01，大阪

41. 坂浦博伸
腎障害・動脈硬化の視点からみた脊椎変性疾患の手術成績と鎮痛剤の適正使用
予防の観点から考える高齢者のトータルケア．2022/01，大阪

42. 坂浦博伸
脊椎外科とペインクリニックの診療連携 ―その利点と問題点―
多職種向けインターベンショナル痛み治療セミナーシンポジウム．2022/02，大阪

43. 坂浦博伸
生活習慣病が脊椎変性疾患の手術成績に及ぼす影響と鎮痛剤の適正使用
脊椎変性疾患のトータルケア．2022/03，大阪

44. 坂浦博伸
生活習慣病の視点から見た脊椎変性疾患の手術成績と鎮痛剤の適正使用
高齢者の痛みトータルケア．2022/08，大阪

45. 坂浦博伸
くる病・骨軟化症と整形外科的疾患
日常診療に潜む希少疾患　くる病・骨軟化症WEBセミナー．2022/11，大阪

46. 金山完哲
最新の椎間板ヘルニア内視鏡手術 ～8mmの創で治せます～
JCHO大阪病院公開医学講座．2022/06，大阪

47. 山田修太郎
頚髄症に対する後方除圧固定術後の頚椎矢状面アライメント・バランスの変化と手術成績
―当院における疼痛治療も含めて―
大阪脊椎外科フォーラム．2022/01，大阪

48. 中田活也
フルHAステム総論
HIT研究会．2022/02，京都

49. 中田活也
Curved Short Stem総論
Minima Webinar．2022/03，東京

50. 中田活也
ショートステム
OECスタンダードコースHip．2022/07，東京

51. 中田活也
Curved Short Stemとは
CSS研究会．2022/07，熊本

52. 中田活也
ALSA Path構築に向けて
Microport Hipセミナー．2022/07，弘前

53. 中田活也
Well-fixed Cup抜去
OECアドバンスコースHip．2022/10，東京

54. 中田活也
人工股関節周囲骨折
OECアドバンスコースHip．2022/10，東京

55. 中田活也
本邦におけるMIS-THA20年の変遷と今後の展望 ～AL-Supine Path～
熊本股関節研究会特別講演会．2022/11，熊本

56. 中田活也
ALSA手技13年の進化と未来
ALSAアドバンスセミナー．2022/11，東京

57. 中田活也
Curved Short Stemの適応と術前計画
CSS研究会．2022/11，札幌

58. 岡本恭典
大腿骨慢性骨髄炎が増悪し化膿性膝関節炎を併発した１例
南大阪整形外科談話会．2022/11，大阪

59. Shimada K
Management of Osteochondritis Dissecans (OCD) in the Elbow Joint
APOA Congress in Manila．2022/11，Manila

## リウマチ科

【学会発表】

1. 清本誠貴，中矢亮太，岡本恭典，中田活也，西川昌孝
   人工膝関節置換術後早期に大腿四頭筋腱断裂を生じた一例
   第52回日本人工関節学会．2022/02/10-03/31，横浜
2. Nishikawa M，Nakata K
   The efficacy of new total knee arthroplasty rehabilitation protocol for good range of motion after follow-up of 2 years
   33rd International Society for Technology in Arthroplasty（ISTA）．2022/09/02，Maui, Hawaii, USA
3. 西川昌孝
   TKA後感染に対する人工関節抜去後に偽痛風発作を生じた一例
   第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS 2021）．2022/06/17，札幌
4. 西川昌孝，中谷宏幸，大脇　肇
   人工膝関節置換術を要した関節リウマチ膝におけるピロリン酸カルシウム結晶についての検討
   第66回日本リウマチ学会総会．2022/04/27，横浜
5. 中谷宏幸，西川昌孝，大脇　肇
   内反外反型変形性膝関節症患者に対して血中MMP-3の意義
   第66回日本リウマチ学会総会．2022/04/25-27，横浜

## 脊椎外科

【学会発表】

1. 山田修太郎，杉浦　剛，池上大督，坂浦博伸
   頸髄症に対する中下位頸椎後方除圧固定術後の頸椎矢状面アライメントの変化と患者満足度に関する検討
   第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会．2022/04/21-23，横浜
2. 藤森孝人，坂浦博伸，池上大督，杉浦　剛，蟹江祐哉，武中章太，海渡貴司，岡田誠司
   腰椎手術の治療成績を評価するうえで適切な尺度は何かJOABPEQ、ODI、チューリッヒ跛行スケール、Short Form-8、Euro QOL5D-5Lのスコア反応性の比較
   第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会．2022/04/21-23，横浜
3. 坂浦博伸，池上大督，藤森孝人，杉浦　剛，山田修太郎
   頸椎症性脊髄症に対する椎弓形成術後の頸椎後彎化・矢状面バランス不良化と全脊椎・骨盤矢状面パラメーター変化量の特徴（第１報）
   第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会．2022/04/21-23，横浜
4. 笠島綾子（地域医療機能推進機構大阪病院乳腺内分泌外科），笠原千聖，南　有紀，大谷陽子，塚本文音，坂浦博伸
   乳癌多発骨転移に起因する両下肢不全麻痺に対して早期集学的治療が奏功した一例
   第30回日本乳癌学会学術総会．2022/06/30-07/02，横浜

## スポーツ医学科

【原著・総説・著書】

1. 草野雅司
   内側半月板後角フラップ断裂に対する半月板最小部分切除術の治療成績
   JOSKAS誌．2022；147：78-79

【学会発表】

2. 草野雅司
   末期膝蓋大腿関節症に対する脛骨粗面前内方移行術の小経験
   ～膝蓋骨外側関節面軟骨下骨の骨密度変化に着目して～
   第15回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会．2022/06/16，札幌

3. 田中雄大
陳旧性前十字靱帯損傷膝靭帯再建術後の自然断裂症例に対し拡大顆間形成術を併用した再再建術を施行した１例
第139回中部日本整形外科災害外科学会．2022/10/28，大阪

4. 草野雅司
末期膝蓋大腿関節症に対する脛骨粗面前内方移行術の小経験
～膝蓋大腿関節外側軟骨下骨の骨密度変化に着目して～
第49回日本臨床バイオメカニクス学会．2022/11/04，弘前

5. 秋森太朗
反復性膝蓋骨脱臼に対しMPFL 再建術を施行した後に不安定性が残った一症例
第22回大阪スポーツ障害・外傷を語る会．2022/12/17，大阪

6. 北　圭介
半月板円周線維再建術を併用した半月板修復術の試み
第35回関西関節鏡・膝研究会．2023/03/18，京都

7. 田中雄大
陳旧性前十字靭帯不全膝に対し拡大顆間形成術を併用した靭帯再建術を施行した症例の検討
第35回関西関節鏡・膝研究会．2023/03/18，京都

8. 秋森太朗
反復性膝蓋骨脱臼に対してMPFL再建を施行した後に不安定性が残った一症例
第35回関西関節鏡・膝研究会．2023/03/18，京都

9. 西本竜史
術式別にみた鏡視下Bankart修復術後関節窩骨形態の経時的変化
第49回日本肩関節学会．2022/10/07，横浜

**【学会講演】**

10. 北　圭介
MPFL再建術の術後成績に関与する解剖学的因子
第15回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会．2022/06/16，札幌

11. 北　圭介
これだけは知っておきたい膝関節疾患の診断と最新の治療
JCHO大阪病院公開医学講座．2022/10/13，大阪

12. 草野雅司
膝関節温存治療 ～膝周囲骨切り術を中心に～
JCHO大阪病院公開医学講座．2022/10/27，大阪

13. 西本竜史
肩関節のスポーツ障害・外傷
大阪臨床整形外科医会　スポーツ研修会．2023/01/21，大阪

14. 北　圭介
膝スポーツ傷害　臨床の最前線 ―基本から最新の知見まで―
大阪臨床整形外科医会　スポーツ研修会．2023/01/21，大阪

## 手外科・外傷センター

**【原著・総説・著書】**

1. 島田幸造
肘関節脱臼
私の治療2021-2022．2022；1067-1068

2. 島田幸造
閉経性肘関節症（野球以外の）
講座スポーツ整形外科２　上肢の外傷・障害．2022；198-205

3. 轉法輪光
重度拘縮肘に対する関節鏡視下手術
整形・災害外科．2022；65：413-420

4. 轉法輪光
肘関節進入法
日本手外科学会雑誌．2022；39：7-12

5. Temporin K
Arthroscopic Partial Excision of the Radial Head for Advanced Rheumatoid Elbow
Orthopedics．2022；45：209-214

【学会発表】

6. 轉法輪光
スポーツ後の変形性肘関節症における変形評価
JOSKAS-JOSSM2022．2022/06/17，札幌

7. 轉法輪光
離断性骨軟骨炎に対する肋骨肋軟骨移植術後の橈骨頭肥大の検討
第35回日本肘関節学会．2023/02/03，山形

8. 三好祐史
尺骨鉤状突起骨折に対する関節鏡補助下手術
第35回日本肘関節学会．2023/02/03，山形

【学会講演】

9. 島田幸造
血友病性関節症の病態 ―病期に応じたマネジメント―
血友病患者の関節を考える会．2022/05/26，大阪

10. 島田幸造
手・前腕・肘の痛みと整形外科的アプローチ
第41回大阪府臨床麻酔科医会総会・秋季学術講演会．2022/09/17，大阪

11. 島田幸造
発育期と運動 ―整形外科系―
健康スポーツ医学講習会．2022/10/16，大阪

12. Shimada K
Management of Osteochondritis Dissecans (OCD) in the Elbow Joint
APOA Congress in Manila．2022/11/24，Manila

13. 島田幸造
難治例にどう対応するのか？ ―難治例から考える検診の意義―
第18回神楽坂スポーツ医学セミナー．2022/12/10，京都

14. 島田幸造
変形性肘関節症に対するコンピューター支援下関節鏡手術
第35回日本肘関節学会学術集会．2023/02/04，山形

15. 島田幸造
小児期に起こる整形外科的問題 ―成長期スポーツ外傷・障害について―
大阪臨床整形外科医会　特別研修会．2023/03/25，大阪

16. 轉法輪光
血友病患者の関節症ケア ―画像評価と手術の実際―
血友病患者の関節を考える会．2022/05/26，大阪

17. 轉法輪光
手・肘領域のスポーツ障害
大阪臨床整形外科医会スポーツ研修会．2023/01/21，大阪

## リハビリテーション科

【学会発表】

1. 山本愛也，寺川晴彦
   視覚刺激を使用した課題が動作能力改善に効果を認めた一例
   第59回日本リハビリテーション医学会学術集会．2022/06/23-25，神奈川
2. 坂上　譲，前田　香，寺川晴彦
   COVID-19流行下における外来心臓リハビリテーションの効果と身体活動量の関連
   第59回日本リハビリテーション医学会学術集会．2022/06/23-25，神奈川
3. 内田直祐，永渕輝佳，権藤　要，前田　香，寺川晴彦
   反復性肩関節脱臼後に三角筋麻痺を呈した一症例
   第59回日本リハビリテーション医学会学術集会．2022/06/23-25，神奈川
4. 吉田はる香，赤木淳也，権藤　要，寺川晴彦
   変形性肘関節症における患者立脚型評価の術後成績
   第56回日本作業療法学会．2022/09/16-18，京都
5. 由良優実夫，権藤　要，寺川晴彦
   不適応行動が著明な認知症患者に対する応用行動分析学的介入 ～チーム医療に基づくリハビリテーション～
   第７回JCHO地域医療総合医学会．2022/10/21-22，熊本
6. 永渕輝佳，権藤　要，寺川晴彦
   リハビリテーション部門での取り組み ～生産性向上と働き方改革について～
   第７回JCHO地域医療総合医学会．2022/10/21-22，熊本
7. 内田直祐，永渕輝佳，権藤　要，前田　香，寺川晴彦
   樹枝状脂肪腫に対する理学療法の経験
   第７回JCHO地域医療総合医学会．2022/10/21-22，熊本
8. 坂上　譲，前田　香，寺川晴彦
   当院腹部外科手術後の合併症と身体機能及び栄養状態の検討
   第７回JCHO地域医療総合医学会．2022/10/21-22，熊本
9. 丸井理可，権藤　要，永渕輝佳，由良優実夫，坂上　譲，内田直祐，前田　香，寺川晴彦
   急性脳炎により重度の意識障害を呈した一症例 ～体性感覚入力に着目して～
   第６回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会．2022/11/04-06，岡山
10. 木村宏隆，永渕輝佳，前田　香，寺川晴彦
    心筋梗塞と膠原病に合併する間質性肺炎急性増悪を合併し、長期人工呼吸器管理となった１症例
    第６回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会．2022/11/04-06，岡山
11. 山中　優，吉田はる香，権藤　要，寺川晴彦
    食事動作の改善にカナダ作業遂行測定を用いた優先順位の決定が有用であった一例
    第６回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会．2022/11/04-06，岡山
12. 萬浪晴也，内田直祐，松本恵理子，権藤　要，寺川晴彦
    Perthes病由来の若年性股関節症に対する人工股関節全置換術後の一経験
    大阪府理学療法士会中支部新人症例検討会．2023/01/29，オンライン
13. 雨田　真，丸井理可，権藤　要，前田　香，寺川晴彦
    体幹機能に着目した運動失調を呈する可逆性後頭葉白質脳症患者へのアプローチ
    大阪府理学療法士会中支部新人症例検討会．2023/01/29，オンライン
14. 日原唯斗，山路利花子，木村宏隆，権藤　要，寺川晴彦
    両下肢近位筋に著明な筋力低下を呈した、抗SRP抗体陽性免疫介在性壊死性ミオパチーの１症例
    大阪府理学療法士会中支部新人症例検討会．2023/01/29，オンライン
15. 南　頼康
    消化器外科術後重篤な肺合併症を併発し集中治療室管理となった症例の理学療法経験
    第62回近畿理学療法学術大会．2023/02/05，和歌山

16. 坂上　譲，前田　香，寺川晴彦
腹部外科手術患者の術後合併症発生の予測因子の検討
第62回近畿理学療法学術大会．2023/02/05，和歌山

17. 田中健毅，北山幸子，小出秀美，興田夏美，寺川晴彦
当院２日ドック受検者における過去１年間の転倒発生とロコモ25評価結果との関連性の検討
第63回日本人間ドック学会学術大会．2022/09/02-03，幕張

## 消化器外科

### 【論文発表】（英文）

1. Ishida T，Takahashi T，Nishida T，Ohnishi H，Tsuboyama T，Sato S，Nakahara Y，Miyazaki Y，Takeno A，Kurokawa Y，Saito T，Yamashita K，Tanaka K，Yamamoto K，Makino T，Yamasaki M，Motoori M，Kimura Y，Nakajima K，Eguchi H，Doki Y
New response evaluation criteria using early morphological change in imatinib treatment for patients with gastrointestinal stromal tumor
Gastric Cancer．2022 Jan；25(1)：218-225

2. Ushimaru Y，Takahashi T，Nakajima K，Teranishi R，Nishida T，Hirota S，Motoori M，Omori T，Kawabata R，Nishikawa K，Saito T，Yamashita K，Tanaka K，Makino T，Yamamoto K，Kurokawa Y，Eguchi H，Doki Y
Real-world data on the efficacy and safety of adjuvant chemotherapy in Japanese patients with a high-risk of gastrointestinal stromal tumor recurrence
Int J Clin Oncol．2022 May；27(5)：921-929

3. Nishida T，Sato S，Ozaka M，Nakahara Y，Komatsu Y，Kondo M，Cho H，Hirota S，Kagimura T，Kurokawa Y，Kitagawa Y; STAR ReGISTry Investigators
Long-term Adjuvant Therapy for High-risk Gastrointestinal Stromal Tumors in the Real World
Gastric Cancer．2022 Sep；25(5)：956-965

4. Teranishi R，Takahashi T，Nishida T，Hirota S，Kurokawa Y，Saito T，Yamamoto K，Yamashita K，Tanaka K，Makino T，Motoori M，Omori T，Nakajima K，Eguchi H，Doki Y
Efficacy and safety of regorafenib in Japanese patients with advanced gastrointestinal stromal tumors
Int J Clin Oncol．2022 Jul；27(7)：1164-1172

5. Kurokawa Y，Honma Y，Sawaki A，Naito Y，Iwagami S，Komatsu Y，Takahashi T，Nishida T，Doi T
Pimitespib in patients with advanced gastrointestinal stromal tumor (CHAPTER-GIST-301): a randomized, double-blind, placebo-controlled phase Ⅲ trial
Ann Oncol．2022 Sep；33(9)：959-967

6. Ichinose Y，Yang YH，Tsai HJ，Huang RY，Higashi T，Nishida T，Chen LT
Imatinib use for gastrointestinal stromal tumors among older patients in Japan and Taiwan
Sci Rep．2022 Dec；12(1)：22492．doi: 10.1038/s41598-022-27092-z

7. Ide Y，Osawa H，Nonaka R，Hatanaka N，Nishida T
Laparoscopic total mesorectal excision for a rectal neuroendocrine tumour with the multiarticular electric scalpel ArtiSential®-a video vignette
Colorectal Disease．2022 Oct；online ahead of print

### 【論文発表】（和文）

8. 廣田誠一，立石宇貴秀，中本裕士，山元英崇，櫻井信司，菊池寛利，神田達夫，黒川幸典，長　晴彦，西田俊朗，澤木　明，尾坂将人，小松嘉人，内藤陽一，本間義崇，高橋史朗，橋本浩伸，有働みどり，荒木美奈子，西館澄人
GIST　診療ガイドライン
GIST　診療ガイドライン．金原出版　編集日本癌治療学会，協力稀少腫瘍研究会．2022；1-124

9. 三宅基隆，井出義人，西田俊朗
こんなときどうする？ 他科とのコミュニケーションガイド（第３章）　消化器内科・消化器外科　消化管間質腫瘍（GIST）
産科と婦人科．2022；89（増刊号）：168-172

10. 井出義人，野中亮児，吉本紗季子，中本蓮之助，乾　元晴，光藤　傑，村上剛平，出村公一，森本修邦，畑中信良，西田俊朗
直腸癌同時性肝転移に対しLiver-first approachにて根治切除が得られた１例
癌と化学療法．2022/12；49(13)：1497-1499

11. 出村公一，村上剛平，吉本紗季子，中本蓮之助，乾　元春，藤光　傑，野中亮児，井出義人，森本脩邦，畑中信良，西田俊朗
スキルス胃癌と鑑別を要した胃アニサキス症の１例
癌と化学療法．2022/12；49(13)：1482-1484

12. 村上剛平，出村公一，吉本紗季子，中本蓮之助，乾　元晴，光藤　傑，野中亮児，井出義人，森本修邦，岩﨑輝夫，畑中信良，西田俊朗
成人における巨大腸間膜リンパ管腫の１切除例
癌と化学療法．2022/12；49(13)：1477-1478

13. 大澤日出樹，井出義人，中本蓮之助，村上剛平，出村公一，森本修邦，岩﨑輝夫，畑中信良，西田俊朗
完全内蔵逆位合併肛門管癌に経会陰アプローチ併用腹腔鏡下直腸切断術を施行した１例
癌と化学療法．2022/12；49(13)：1634-1636

## 【学会発表】（英文）

14. Morimoto O，Nakamoto R，Seto H，Ohashi T，Osawa H，Murakami K，Demura K，Ide Y，Hatanaka N，Nishida T
Management of grade Ⅲ acute cholecystitis in our hospital
The 34th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery．2022/06/10-11，Ehime

## 【学会発表】（日本語）

15. 森本修邦，中本蓮之介，瀬戸寛人，大橋朋史，大澤日出樹，村上剛平，出村公一，井出義人，畑中信良，西田俊朗
当院における膵切除後出血症例の検討
第77回日本消化器外科学会総会．2022/07/20-22，横浜

16. 森本修邦，吉本紗季子，中本蓮之介，乾　元晴，村上剛平，出村公一，井出義人，畑中信良，西田俊朗
当院における腹腔鏡下胆嚢摘出術の指導の仕方
第84回日本臨床外科学会総会．2022/11/24-26，福岡

17. 井出義人，野中亮児，吉本紗季子，中本蓮之助，乾　元晴，村上剛平，出村公一，森本修邦，畑中信良，西田俊朗
多関節電気メス（ArtiSential）を用いた腹腔鏡下低位前方切除術
第77回日本消化器外科学会総会．2022/07/20-22，横浜

18. 井出義人，野中亮児，吉本紗季子，中本蓮之助，乾　元晴，村上剛平，出村公一，森本修邦，畑中信良，西田俊朗
直腸癌同時性肝転移に対し、liver-first approachにて根治切除が得られた１切除例
第44回日本癌局所療法研究会．2022/07/01，大阪

19. 井出義人，野中亮児，吉本紗季子，中本蓮之助，乾　元晴，村上剛平，出村公一，森本修邦，畑中信良，西田俊朗
腹腔鏡下直腸癌手術　骨盤深部操作における多関節電気メス（ArtiSential）の有用性
第20回日本消化器外科学会大会．2022/10/27-30，福岡

20. 井出義人，野中亮児，吉本紗季子，中本蓮之助，乾　元晴，村上剛平，出村公一，森本修邦，畑中信良，西田俊朗
BRAF変異陽性かつMSI-H大腸癌に対するPembrolizumab療法
第77回日本大腸肛門病学会学術集会．2022/10/14-15，千葉

21. 井出義人，野中亮児，吉本紗季子，中本蓮之助，乾　元晴，村上剛平，出村公一，森本修邦，畑中信良，西田俊朗
直腸GISTに対する肛門温存手術の工夫
第84回日本臨床外科学会総会．2022/11/24-26，福岡

22. 出村公一，村上剛平，中本蓮之助，瀬戸寛人，大橋朋史，大澤日出樹，井出義人，森本脩邦，畑中信良，西田俊朗
多自由度鉗子「Artisential」を用いた単孔式腹腔鏡下胃切除術
第９回Reduced Port Surgery Forum in okinawa．2022/04/05，沖縄

23. Demura K，Yamasaki M，Nakamoto R，Seto H，Ohasi T，Osawa H，Murakami K，Ide Y，Morimoto O，Hatanaka N，Nishida T
Thoracoscopic double-flap technique(TEDDY method) for Siewert type Ⅱ cancer
第94回日本胃癌学会総会．2022/03/02-04，横浜

24. 出村 公一，村上剛平，吉本紗季子，中本蓮之助，乾　元春，藤光　傑，野中亮児，井出義人，森本脩邦，畑中信良，西田俊朗
スキルス胃癌にて紹介となった胃アニサキス症の１例
第44回の癌局所療法研究会．2022/07/01，千里

25. 出村公一，村上剛平，中本蓮之助，吉本紗季子，野中亮児，井出義人，森本脩邦，畑中信良，西田俊朗
多自由度鉗子「ArtiSential」を用いた単孔式腹腔鏡下胃切除術
第35回内視鏡外科学会．2022/08/10，名古屋

26. 村上剛平，出村公一，大橋朋史，大澤日出樹，井出義人，森本修邦，畑中信良，西田俊朗
当院における進行再発胃癌に対するニボルマブ療法の有効性と安全性の検討
第94回日本胃癌学会総会．2022/03/02-04，横浜

27. 村上剛平，出村公一，中本蓮之助，瀬戸寛人，大橋朋史，大澤日出樹，井出義人，森本修邦，岩崎輝夫，畑中信良，西田俊朗
成人における巨大腸間膜リンパ管腫の１切除例
第44回日本癌局所療法研究会．2022/07/01，大阪

28. 村上剛平，出村公一，中本蓮之助，瀬戸寛人，大橋朋史，大澤日出樹，井出義人，森本修邦，畑中信良，西田俊朗
当院における胃GIST切除症例の検討
第77回日本消化器外科学会総会．2022/07/20-22，横浜

29. 村上剛平，出村公一，大橋朋史，大澤日出樹，井出義人，森本修邦，畑中信良，西田俊朗
当院における進行再発食道癌に対するニボルマブ療法の有効性と安全性の検討
第76回日本食道学会学術集会．2022/09/24-26，東京

30. 村上剛平，出村公一，中本蓮之助，光藤　傑，野中亮児，井出義人，森本修邦，畑中信良，西田俊朗
当院における単孔式腹腔鏡下胃切除術の検討
第35回日本内視鏡外科学会．2022/12/08-10，名古屋

31. 村上剛平，出村公一，吉本紗季子，中本蓮之助，乾　元晴，野中亮児，井出義人，森本修邦，畑中信良，西田俊朗
前方アプローチが有用であった鼠径ヘルニア症例
第16回関西ヘルニア研究会．2022/12/17，大阪

32. 中本蓮之助，森本脩邦，瀬戸寛人，大橋朋史，大澤日出樹，村上剛平，出村公一，井出義人，岩崎輝夫，畑中信良，西田俊朗
画像診断で肝細胞癌と鑑別が困難であった肝膿瘍の１例
第641回大阪外科集談会．2022/03/19，大阪

33. 中本蓮之助，井出義人，乾　元晴，光藤　傑，村上剛平，野中亮児，出村公一，森本脩邦，岩崎輝夫，畑中信良，西田俊朗
直腸癌手術における一時的回腸ストーマと腎機能障害
第63回関西STOMA研究会．2022/06/04，兵庫

34. 中本蓮之助，出村公一，乾　元晴，光藤　傑，村上剛平，野中亮児，森本脩邦，畑中信良，西田俊朗
鏡視下胃内手術にて切除し得た食道胃接合部粘膜下腫瘍の１例
第44回日本癌局所療法研究会．2022/06/30，大阪

35. 中本蓮之助，井出義人，吉本紗季子，乾　元晴，光藤　傑，村上剛平，野中亮児，出村公一，森本脩邦，岩崎輝夫，畑中信良，西田俊朗
後期研修医のTAPP手技の習得に関する検討
第35回近畿内視鏡外科研究会．2022/09/17，兵庫

36. 中本蓮之助，井出義人，吉本紗季子，乾　元晴，村上剛平，野中亮児，出村公一，森本脩邦，畑中信良，西田俊朗
ALTA施行後直腸狭窄を来し外科的切除を要した１例
第84回日本臨床外科学会総会．2022/11/25，福岡

37. 山川拓真，中本蓮之助，乾　元晴，光藤　傑，村上剛平，野中亮児，出村公一，井出義人，森本脩邦，畑中信良，西田俊朗
術前に肝細胞癌と診断された肝偽リンパ腫の一切除例
第643回大阪外科集談会．2022/07/16，大阪

【学会司会・座長】

38. 井出義人
一般演題14　大腸・集学的治療
第44回日本癌局所療法研究会．2022/07/01，大阪

39. 出村公一
食道・胃接合部癌
第94回日本胃癌学会総会．2022/02/04，横浜

## 乳腺・内分泌外科

【学会発表】

1. 塚本文音
対側腋窩リンパ節再発を来たしHER2陽転化を認めたトリプルネガティブ乳癌の１例
第30回日本乳癌学会学術総会．2022/06/30，パシフィコ横浜ノース

2. 大谷陽子
ER陽性率1－10%乳癌の予後検討
第30回日本乳癌学会学術総会．2022/06/30，パシフィコ横浜ノース

3. 笠原千聖
腋窩リンパ節・胸骨傍リンパ節再発に対し、外科的切除が有効であったと考えられた一例
第30回日本乳癌学会学術総会．2022/06/30，パシフィコ横浜ノース

4. 南　有紀
乳癌術後38年で左上肢腕神経叢神経幹内転移が疑われた１例
第30回日本乳癌学会学術総会．2022/06/30，パシフィコ横浜ノース

5. 笠島綾子
乳癌多発骨転移に起因する両下肢不全麻痺に対して早期集学的治療が奏功した一例
第30回日本乳癌学会学術総会．2022/06/30，パシフィコ横浜ノース

## 心臓血管外科

【原著・総説・著書】

1. Marumoto A，Yoneda K，Tanaka K，Kitabayashi K
Hybrid Repair with Reversed Sequence Supraaortic Debranching in Ruptured Arch Aneurysm
Int J Angiol．2022；31：56-60

2. 米田和弘，丸本明彬 他
破裂性腹部大動脈瘤に対するdamage control surgeryの必要性が示唆された１例
日本救急医学会雑誌．2023；34：17-23

【学会発表】

3. 橋本勇輝
透析カテーテル挿入時の鎖骨下動脈誤穿刺に対し血管内治療を行なった一例
第122回日本外科学会定期学術集会．2022/04/15，熊本

4. 丸本明彬
大動脈弁弁膜症に対する外科治療の現況
第53回日本心臓血管外科学会総会．2023/03/23，旭川

5. 深井照美
開心術後の疼痛軽減に経皮吸収型持続性疼痛治療剤の有効性の検討
第53回日本心臓血管外科学会総会．2023/03/25，旭川

## 脳神経外科

【原著・総説・著書】

1. Ishiuchi T，Takagaki M，Nakamura H，Morris S，Sakaki T，Kishima H
   Tacrolimus-associated posterior reversible encephalopathy syndrome after kidney transplantation
   Int J Case Rep Images．2022；13：101297Z01

【学会発表】

2. 山際啓典
   頭痛のみで発症した非出血性椎骨動脈解離の増悪因子についての検討
   第38回日本脳神経血管内治療学会総会．2022/11/10-12，大阪

## 糖尿病内分泌内科

【学会発表】

1. 桂　央士，門澤莉菜，上田彩加，梶本侑希，外川有里，三田　梓，馬屋原豊
   ２型糖尿病入院患者の治療の変遷
   第65回日本糖尿病学会学術総会．2022/05/22，神戸
2. 森　栄作，姜　信午，村田佳織，岡野理江子，大西正芳，吉内和富，安田哲行，久米田靖郎，庄司繁市，谷口敏雄，川岸隆彦，谷本吉造，徳田好勇，北川良裕，小杉圭右，馬屋原豊，橋本久仁彦，武呂誠司
   大阪市南部地区における病診連携の試み（第23報）　糖尿病の眼合併症に関するアンケート調査より
   第65回日本糖尿病学会学術総会．2022/05/22，神戸
3. 片上直人，三田智也，吉井秀徳，白岩俊彦，安田哲行，岡田洋右，黒住　旭，馬屋原豊，金藤秀明，遅野井健，山本恒彦，栗林伸一，前田和久，横山宏樹，小杉圭右，林　　功，住谷　哲，津川真美子，良本佳代子，加藤　研，中村　正，川嶋　聡，佐藤泰憲，綿田裕孝，下村伊一郎
   トホグリフロジンによる糖尿病大血管症の進展抑制効果の検討　UTOPIA Extension study
   第65回日本糖尿病学会学術総会．2022/05/22，神戸

【学会講演】

4. 馬屋原豊
   ２型糖尿病の治療戦略　GLP-1受容体作動薬の位置づけ
   糖尿病臨床セミナー/大阪市内開業医．2022/06/25，大阪
5. 馬屋原豊
   糖尿病と高血圧治療を考える
   糖尿病と高血圧治療/大阪市内開業医．2022/07/02，大阪
6. 馬屋原豊
   ２型糖尿病の治療戦略 ～SGLT2阻害薬の位置づけ～
   第３回大阪市西部湾岸　糖尿病セミナー．2022/08/25，大阪
7. 馬屋原豊
   ２型糖尿病の治療戦略 ～これからのインスリン治療～
   インスリンカンファレンス In OSAKA．2022/09/02，大阪
8. 馬屋原豊
   欧米系ガイドラインの変化を見据えた２型糖尿病の治療戦略およびデータベースから見た糖尿病腎症・糖尿病腎臓病（DKD）の現状
   宝塚市医師会学術講演会．2022/10/15，吹田
9. 馬屋原豊
   CGM
   CDE大阪更新講習会．2022/10/16，大阪
10. 馬屋原豊
   糖尿病の治療戦略と糖尿病地域連携
   True Simplicity Seminar In OSAKA．2022/10/26，大阪

11. 馬屋原豊
世界糖尿病デーイベント
2021年世界糖尿病デーイベント．2022/11/14，大阪

12. 馬屋原豊
糖尿病患者データベースからみた糖尿病腎症と腎性貧血
腎性貧血Webセミナー．2022/11/16，大阪

13. 馬屋原豊
２型糖尿病の治療戦略と内科から見た肥満外科手術
JCHO大阪病院公開医学講座．2023/01/12，大阪

14. 馬屋原豊
２型糖尿病の治療戦略　GLP-1受容体作動薬の位置づけ
糖尿病・循環器カンファレンス．2023/01/27，大阪

15. 馬屋原豊
糖尿病診療のパラダイムシフト
港区医師会学術講演会．2023/02/10，大阪

16. 馬屋原豊
２型糖尿病の治療戦略　GLP-1受容体作動薬の位置づけ
GLP-1 Update Web Seminar．2023/01/12，大阪

## 腎臓内科

### 【原著・総説・著書】

1. Yamaguchi S，Hamano T，Oka T，Doi Y，Kajimoto S，Sakaguchi Y，Suzuki A，Isaka Y
Low-grade proteinuria and atherosclerotic cardiovascular disease: A transition study of patients with diabetic kidney disease
PLoS One．2022 Feb 25；17(2)：e0264568

2. Yamaguchi S，Hamano T，Oka T，Doi Y，Kajimoto S，Shimada K，Matsumoto A，Sakaguchi Y，Matsui I，Suzuki A，Isaka Y
Mean corpuscular hemoglobin concentration: an anemia parameter predicting cardiovascular disease in incident dialysis patients
J Nephrol．2022 Mar；35(2)：535-544

### 【学会発表】

3. 青木克憲，玉井那実，川野祐暉，宮川博光，山口　慧，岩橋恵理子，鈴木　朗
疼痛緩和困難な陰茎カルシフィラキシスに対し陰茎切断術が奏功した１例
日本透析医学会学術総会．2022/07/03，横浜

4. 西垣内俊也，平井祐里，中川和真，川野祐暉，森岡史行，山口　慧，岩橋恵理子，青木克憲，鈴木　朗
TNF阻害薬による膜性増殖性糸球体腎炎が疑われた関節リウマチの１例
日本腎臓学会西部学術大会．2022/11/19，熊本

5. 川野祐暉，平井祐里，中川和真，西垣内俊也，加藤紗香，山口　慧，岩橋恵理子，青木克憲，鈴木　朗
テトラクロロエチレン暴露により発症したと考えられる尿細管間質性腎炎の１例
日本腎臓学会西部学術大会．2022/11/19，熊本

6. 山口　慧，玉井那美，川野祐暉，西垣内俊也，宮川博光，岩橋恵理子，青木克憲，鈴木　朗
ニードルガイドの使用は腎生検の確実性と関連する
日本腎臓学会学術総会．2022/06/12，神戸

## 感染症内科

【原著・総説・著書】

1. 長田　学
   感染症史：日本・世界
   シン・感染症999の謎．652-679

【学会講演】

2. 長田　学
   外来診療で問題になる薬剤耐性菌とその対策
   福島区・此花区医師会員．2023/02/09，福島区民センター
3. 長田　学
   COVID-19　治療の疑問点
   大阪市西ブロックICT．2023/03-１ヶ月間，大阪

## 消化器内科

【原著・総説・著書】

1. 金子　晃
   ミコフェノール酸モフェチルの併用が有効であった自己免疫性肝炎の１例
   肝臓．2022；63(9)：424-431
2. 日山智史
   Elderly onset age is associated with low efficacy of first anti-tumor necrosis factor treatment in patients with inflammatory bowel diseases
   Sci Res．2022；12(1)：5324

【学会発表】

1. 金子　晃
   ミコフェノール酸モフェチルの併用が有効であった自己免疫性肝炎の１例
   第235回日本内科学会近畿地方会．2022/03/12，Web開催
2. 徳田有紀
   肝細胞癌との鑑別困難だった肝膿瘍の一例
   第58回日本肝癌研究会．2022/05/12
3. 巽　信之
   ablation治療におけるパラメディカルの役割と問題点
   第１回日本ablation研究会．2023/02/04

## 循環器内科

【原著・総説・著書】

1. Miwa Miyoshi
   Subcutaneous-implantable cardioverter defibrillator lead dislodgement in a juvenile catecholamine-induced polymorphic ventricular tachycardia patient
   Oxford Medical Case Reports．2022 Dec；2022(12)：omac130
2. Fukui Tomoki
   Leadless pacemaker implantation in a patient with a double-chambered right ventricle
   BMJ Case Reports．2022 Jul 15；15(7)：e251496
3. Y. Suetani
   Septic Shock Due to Urinary Tract Infection in an Immunosuppressed Patient Prescribed Dapagliflozin
   Cureus．2022 Oct 21；14(10)

4. 藏本見帆
Coronary Flow Assessment in an Adult with Anomalous Left Coronary Arising from the Pulmonary Artery
Cardiovascular Imaging Case Reports. 2023；7：49-53

5. 福井智大
Oral anticoagulation therapy for pacemaker lead-induced superior vena cava syndrome
European Heart Journal - Case Reports. 2022 November；Volume 6, Issue 11

6. 福井智大
Leadless pacemaker implantation in a patient with a double-chambered right ventricle
BMJ Case Reports. 2022 July；Volume 15, Issue 7

7. 福井智大
Radial Arteriovenous Fistula After Coronary Catheterizations
The Texas Heart Institute Journal. 2023 March；Volume 50, No 2

8. Arita Y, Fukui T, Ogasawara N
Slow-flow phenomenon after drug-coated balloon angioplasty for lower-extremity arteries is associated with lack of prescribing of calcium channel blockers.
Indian Heart J. 2023 Jan 10；S0019-4832(23)：00005-00006

**【学会発表】**

9. Miwa Miyoshi
A study of the association between anatomical features of the left atrial canopy and the completion rate of the roof line Single center study
第87回日本循環器学会学術集会. 2023/03/11, マリンメッセ福岡

10. 三好美和
Micra留置時の解剖学的位置と安全性についての検討
第15回植込みデバイス関連冬季大会日本不整脈心電学会. 2023/02/26, 仙台国際センター

11. 末谷悠人
Transtubular potassium concentration gradient predicts poor prognosis in the patients with acute decompensated heart failure
第87回日本循環器学会学術集会. 2023/03/12, マリンメッセ福岡

12. Y. Suetani
Urine Osmolality Predicts Worsening Renal Function and Poor Prognosis in Acute Decompensated Heart Failure
ESC Congress 2022. 2022/08/29, Barcelona

13. 末谷悠人
ダパグリフロジン開始後に急性腎盂腎炎に伴う敗血症性ショックを発症した一例
第133回日本循環器学会近畿地方会. 2022/06/18, 大阪

14. 福井智大
Lowリスク時代に求められるAS治療とは
循環器疾患を考える. 2022/10/13, WEB開催

15. 廣瀬江祐
ピルジカイニド中毒の一例
第133回日本循環器学会近畿地方会. 2022/06/18, 大阪

16. 有田　陽
Slow-Flow Phenomenon after Drug-Coated Balloon Angioplasty for Lower Extremity Arteries is Associated with the Prescription of Calcium Channel Blockers
第30回日本心血管インターベンション治療学会. 2022/07/21-23, 横浜

17. 廣瀬江祐
focalとリエントリー性の判別が困難であったATの一例
第36回大阪臨床不整脈カンファレンス. 2022/12/17, ホテルグランヴィア大阪

18. 廣瀬江祐
focalとリエントリー性の判別が困難であったATの一例
福島循環器診療を考える会．2023/03/16，大阪国際会議場

19. 廣瀬江祐
LMT解離を起こしCABGとなった一例
Integrated Imaging Center Live．2023/03/18，大阪天満橋テルモ支社

20. 七條加奈
当院でのTAVIについて
心血管合同カンファレンス．2023/02/03，大阪

21. Miwa Miyoshi
A study of the association between anatomical features of the left atrial canopy and the completion rate of the roof line Single center study
第87回日本循環器学会学術集会．2023/03/11，マリンメッセ福岡

22. 三好美和
Micra留置時の解剖学的位置と安全性についての検討
第15回植込みデバイス関連冬季大会日本不整脈心電学会．2023/02/26，仙台国際センター

23. 山本将平
COVID-19ワクチン接種後に心筋炎を発症した13歳男児の症例
第133回日本循環器学会近畿地方会．2022/06/18，WEB開催

**【学会講演】**

24. 三好美和
心房細動の　過去　未来　現在
医師．2022/11/10，大阪市此花区　此花医師会館

25. 小笠原延行
経カテーテル大動脈弁留置術現況
医師．2023/02/02，大阪

26. 小笠原延行
コレステロールと動脈硬化のお話
地域住民．2023/01/30，大阪市福島区

27. 小笠原延行
当院での経皮的大動脈弁狭窄症治療の現況
医師．2023/01/27，大阪

## 皮膚科

**【原著・総説・著書】**

1. 江田友香
脳動静脈奇形塞栓術後に若年で皮膚親水性ポリマー塞栓症を発症した１例
皮膚の科学．2022；21(4)：283-287

2. 桑田由璃子
経口抗凝固薬エドキサバンからダビガトランへの変更が有効であったリベド血管症の２例
皮膚の科学．2023；22(1)：42-48

**【学会発表】**

3. Takehara Yuki
A Case of Mycobacterium Haemophilum Infection Treated Successfully by Combination Therapy
日本皮膚科学会総会．2022/06/04

4. 桑田由璃子
エドキサバンからダビガトランへの変更が有効であったリベド血管症の２例
日本皮膚科学会大阪地方会．2022/05/21

## 泌尿器科

【原著・総説・著書】

1. 今村亮一，小角幸人，花房　徹，西岡　伯，東　治人，上川禎則，内田潤次，高田晋吾，高尾徹也，木下秀文，高原史郎，岡田卓也，植村天受，藤本宜正，熊田憲彦，阪口勝彦，客野宮治，野々村祝夫
   大阪府下で行われた腎移植に関する実態調査
   大阪透析研究会会誌．2022；39：183-196

【学会発表】

2. 伊藤拓也，山口唯一郎，藤本宜正
   左腎原発の平滑筋肉腫の一例
   第72回日本泌尿器科学会中部総会．2022/10/08，和歌山

## 産婦人科

【講　演】

1. 大八木知史
   OO-net活動報告
   大阪がん治療と妊よう性温存セミナー．2022/10/24，WEB配信
2. 大八木知史，有馬久未
   OO-net活動報告
   第６回大阪がん・生殖医療ネットワーク講演会．2022/11/26，WEB配信

【学会発表】

3. 光田　紬，大八木知史，花澤綾香，赤田　将，森　禎人，谷口茉利子，田中稔恵，中尾恵津子，繁田直哉，清原裕美子，筒井建紀
   全胎盤遺残待機療法中に大量出血を来すも子宮動脈塞栓術で止血し、最終的に自然脱落を得た一例
   第50回オープンクリニカルカンファレンス．2022/06/11，大阪
4. 松村有起，筒井建紀，赤田　将，森　禎人，谷口茉利子，田中稔恵，繁田直哉，清原裕美子，大八木知史
   子宮体癌再発に対するAP療法中に低Na血症をきたした２例
   第74回日本産科婦人科学会．2022/08/05-07，福岡
5. 赤田　将，谷口茉利子，松村有起，森　禎人，田中稔恵，繁田直哉，清原裕美子，大八木知史，筒井建紀
   臍帯動脈瘤による臍帯血流途絶によって子宮内胎児死亡に至ったと考えられる１例
   第74回日本産科婦人科学会．2022/08/05-07，福岡
6. 森　禎人，繁田直哉，赤田　将，松村有起，谷口茉利子，田中稔恵，清原裕美子，大八木知史，筒井建紀
   当院での妊娠初期妊娠糖尿病のスクリーニングの有用性についての検討
   第74回日本産科婦人科学会．2022/08/05-07，福岡
7. 赤田　将，谷口茉利子，田中稔恵，森　禎人，松村有起，繁田直哉，清原裕美子，大八木知史，筒井建紀
   腹膜癌を疑い手術を施行したが異なる診断を得た２症例の検討
   第64回日本婦人科腫瘍学会．2022/07/14-16，久留米
8. 森　禎人，繁田直哉，大八木知史，赤田　将，松村有起，谷口茉利子，田中稔恵，清原裕美子，筒井建紀
   卵巣癌疑いに対して手術加療を行いGISTと診断し得た２例
   第64回日本婦人科腫瘍学会．2022/07/14-16，久留米
9. 繁田直哉，花澤綾香，光田　紬，森　禎人，赤田　将，田中稔恵，谷口茉利子，中尾恵津子，清原裕美子，大八木知史，筒井建紀
   子宮頸管熟化不全例に対するジノプロストン腟用剤の使用経験
   第147回近畿産科婦人科学会．2022/10/30，京都
10. 筒井建紀，光田　紬，花澤綾香，赤田　将，森　禎人，谷口茉利子，田中稔恵，中尾恵津子，繁田直哉，清原裕美子，大八木知史
   鉗子分娩により経腟分娩に至った顔位分娩の２症例
   第147回近畿産科婦人科学会．2022/10/30，京都

11. 谷口茉利子，繁田直哉，大八木知史，筒井建紀
囊胞性子宮腺筋症に対し，腹腔鏡補助下摘出術を実施した１症例
第67回日本生殖医学会．2022/11/03-，横浜

12. 原(大八木)知史，谷口茉利子，繁田直哉，筒井建紀
腹水濾過濃縮再静注法(CART)により改善できた重症OHSSの２症例
第67回日本生殖医学会．2022/11/03-，横浜

13. 筒井建紀，森　禎人，赤田　将，光田　紬，花澤綾香，谷口茉利子，田中稔恵，中尾恵津子，繁田直哉，清原裕美子，大八木知史
囊胞性子宮腺筋症に対し、腹腔鏡補助下摘出術を実施した１症例
第45回日本産婦人科手術学会．2022/11/11-12，金沢

【邦論文】

14. 須賀清夏，筒井建紀，田中稔恵，中尾恵津子，繁田直哉，清原裕美子，大八木知史
当院で子宮動脈塞栓術を実施した11症例の月経再開についての検討
産婦の進歩．2022；74(3)：447-453

## 眼科

【原著・総説・著書】

1. 眞下　永
特集：前部ぶどう膜炎アップデート：３　ヘルペス性前部ぶどう膜炎
眼科．2023；vol.65：427-434

2. 眞下　永
問診の取り方
眼科プラクティス８　ぶどう膜炎の心得．2023；vol8：14-17

【学会発表】

3. 眞下　永
抗菌薬内服が著効した網膜動脈炎及び硝子体混濁を伴うぶどう膜炎の３症例
フォーサム2022．2022/07/08-10，リーガロイヤルホテル広島

【学会講演】

4. 眞下　永
ぶどう膜炎の診断と治療
伊丹市医師会学術講演会．2022/06/02，伊丹シティホテル

## 耳鼻いんこう科

【原著・総説・著書】

1. 前田陽平
男性にとってのHPVワクチン
チャイルドヘルス．2022；25(12)：891-894

2. 前田陽平
コロナ時代の新たな耳鼻咽喉科臨床
JOHNS．2023；39(1)：56-58

3. 前田陽平
鼻科手術の最適化 ～適応とアプローチ～　好酸球性副鼻腔炎の治療方針　手術を中心に
頭頸部外科．2023；32(3)：203-206

【学会発表】

4. 前田陽平
耳鼻咽喉科頭頸部外科学会公式Twitterアカウントの運用およびTwitterを用いたアンケート調査
第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会．2022/05/28，神戸

5. 前田陽平
慢性副鼻腔炎の手術によるQOLの改善
第61回日本鼻科学会．2022/09/14，金沢

【学会講演】

6. 前田陽平
解説！ ESSでナビゲーションはこう使おう　慢性副鼻腔炎のESSでナビゲーションをどう使うか
第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会．2022/05/26，神戸

## 小児科

【原著・総説・著書】

1. 山田寛之
小児機能性消化管疾患の各論　RomeⅣ診断基準　新生児・乳児の悪心・嘔吐
小児科診療．2022；85(9)：1175-1180

2. 原田大輔
「親子の絆づくりプログラム」の効果の科学的検証
NPO法人こころの子育てインターネット関西(KKI)会報．211(9)：4-5

3. 岸本加奈子
Ketogenic diet for focal epilepsy with SPTAN1 encephalopathy
Epileptic Disord．2022 Aug 1；24(4)：726-728

【学会発表】

4. 山田寛之
支え合いの職場 ～私の経験～
近畿小児科学会．2023/03/12，大阪国際会議場

5. 柏木博子
X連鎖性低リン血症性くる病・骨軟化症(XLH)の成人患者におけるブロスマブの治療効果
第40回日本骨代謝学会学術総会．2022/07/22-23，岐阜

6. 柏木博子
当院での遺伝相談外来における遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)診療の現状と課題
第７回JCHO地域医療総合医学会．2022/01，熊本

7. 柏木博子
X連鎖性低リン血症性くる病に対する抗FGF23抗体(ブロスマブ)治療効果の検討
日本人類遺伝学会第65回大会．2022/12，横浜

8. 柏木博子
小児科で行う遺伝学的検査 ～保険適応も含めて
福島区小児科関連病診連携の会．2023/03/08，JCHO大阪病院

9. 原田大輔
骨形成不全症の脳動脈瘤合併についての検討
第98回日本内分泌学会学術集会．2022/06，大分

10. 原田大輔
頭蓋骨早期癒合症に対して骨延長術を行った周産期重症型低ホスファターゼ症の１例
第41回日本骨代謝学会学術総会．2022/07，岐阜

11. 原田大輔
Face2GeneとSyndrome Finderによる骨系統疾患の診断精度の検討
日本人類遺伝学会第65回大会．2022/12，横浜

12. 原田大輔
簡易検査で早期発見しえた１型糖尿病の幼児例 ～続報
福島区小児科関連病診連携の会．2023/03/08，JCHO大阪病院

13. 岸本加奈子
けいれん重積で発症したイソニアジド中毒の１例
外来小児科学会．2022/08/27，福岡

14. 五味久仁子
小児にもありますおなかの病気
福島区小児科関連病診連携の会．2023/03/08，JCHO大阪病院

15. 阪本夏子
いまさら聞けない食物アレルギーについて
福島区小児科関連病診連携の会．2023/03/08，JCHO大阪病院

16. 阪本夏子
オンライン版の親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた！”が参加者に与える効果の検証
第69回日本小児保健協会学術集会．2022/06，三重

17. 上山　薫
HbA1cが正常下限で推移したことを契機にBCL11A新規遺伝子変異を同定した低身長女児の一例
第125回日本小児科学会学術集会．2022/04，福島

18. 上山　薫
HbA1c低値を契機に、BCL11A新規遺伝子変異を同定した８歳女児例
第98回日本内分泌学会学術集会．2022/06，大分

19. 上山　薫
学童期に甲状腺腫大が出現したTPO遺伝子異常症が疑われる男児例
日本小児内分泌学会．2022/11/01，横浜

## 神経精神科

### 【原著・総説・著書】

1. Demizu Y，Matsumoto J，Yasuda Y，Ito S，Miura K，Yamamori H，Fujimoto M，Hasegawa N，Ishimaru K，Hashimoto R
Relationship between autistic traits and social functioning in healthy individuals
Neuropsychopharmacol Rep．2022 Jun；42(2)：226-229

2. Sumiyoshi C，Ohi K，Fujino H，Yamamori H，Fujimoto M，Yasuda Y，Uno Y，Takahashi J，Morita K，Katsuki A，Yamamoto M，Okahisa Y，Sata A，Katsumoto E，Koeda M，Hirano Y，Nakataki M，Matsumoto J，Miura K，Hashimoto N，Makinodan M，Takahashi T，Nemoto K，Kishimoto T，Suzuki M，Sumiyoshi T，Hashimoto R
Transdiagnostic comparisons of intellectual abilities and work outcome in patients with mental disorders: multicentre study
BJPsych Open．2022 Jun 3；8(4)：e98

3. Kushima I，Nakatochi M，Aleksic B，Okada T，Kimura H，Kato H，Morikawa M，Inada T，Ishizuka K，Torii Y，Nakamura Y，Tanaka S，Imaeda M，Takahashi N，Yamamoto M，Iwamoto K，Nawa Y，Ogawa N，Iritani S，Hayashi Y，Lo T，Otgonbayar G，Furuta S，Iwata N，Ikeda M，Saito T，Ninomiya K，Okochi T，Hashimoto R，Yamamori H，Yasuda Y，Fujimoto M，Miura K，Itokawa M，Arai M，Miyashita M，Toriumi K，Ohi K，Shioiri T，Kitaichi K，Someya T，Watanabe Y，Egawa J，Takahashi T，Suzuki M，Sasaki T，Tochigi M，Nishimura F，Yamasue H，Kuwabara H，Wakuda T，Kato TA，Kanba S，Horikawa H，Usami M，Kodaira M，Watanabe K，Yoshikawa T，Toyota T，Yokoyama S，Munesue T，Kimura R，Funabiki Y，Kosaka H，Jung M，Kasai K，Ikegame T，Jinde S，Numata S，

Kinoshita M，Kato T，Kakiuchi C，Yamakawa K，Suzuki T，Hashimoto N，Ishikawa S，Yamagata B，Nio S，Murai T，Son S，Kunii Y，Yabe H，Inagaki M，Goto YI，Okumura Y，Ito T，Arioka Y，Mori D，Ozaki N
Cross-Disorder Analysis of Genic and Regulatory Copy Number Variations in Bipolar Disorder, Schizophrenia, and Autism Spectrum Disorder
Biol Psychiatry．2022 Sep 1；92(5)：362-374

## 脳神経内科

### 【学会発表】

1. 松本涼聖，明浦公彦，山下和哉，寺川晴彦，上田周一，米延友希，別宮豪一，村山繁雄，望月秀樹
免疫チェックポイント阻害薬使用中に発症した抗SRP抗体陽性免疫介在性壊死性筋症の一例
第123回日本神経学会近畿地方会．2022/12/17，神戸国際会議場
2. 上田周一，明浦公彦，山下和哉，寺川晴彦
Arterial Spin-Labeling MR画像による血栓性M1閉塞に伴う分水嶺領域脳梗塞の病態解析
第63回日本神経学会学術大会．2022/05/20，東京国際フォーラム

### 【学会講演】

3. 上田周一
若年者の脳梗塞の動向と病態
第31回日本神経学会近畿地区生涯教育後援会（日本神経学会会員対象）．2023/03/05，千里ライフサイエンスセンター（豊中）

## 放射線診断、IVR科

### 【原著・総説・著書】

1. Ryusuke Ookua et al.
Visual assessment of pancreatic fat deposition: useful grading system and the relation to BMI and diabetes
Japanese Journal of Radiology．2023；41：172-179
2. 小林彰太郎 他
卵巣血管腫の１例
臨床放射線．2022；67：13

## 救急部

### 【原著・総説・著書】

1. Nagata S，Ohbe H，Jo T，Matsui H，Fushimi K，Yasunaga H
Glucocorticoids and Rates of Biphasic Reactions in Patients with Adrenaline-Treated Anaphylaxis: A Propensity Score Matching Analysis
Int Arch Allergy Immunol．2022；183(9)：939-945
2. 永田慎平
餅はどうして危ないの？
救急医学．2023/03；47(3)：277-278

## 薬剤部

### 【学会発表】

1. 前川　涼
整形外科病棟における薬剤師による処方支援業務の取り組み
JCHO学会．2022/10/22，熊本

2. 冨永真代
JCHO大阪病院における連携充実加算の算定と取り組みについて
近畿薬剤師合同学術大会 2023．2023/02/04，WEB

## 放射線室

【学会発表】

1. 戸田光映
少量造影剤による低管電圧CTでの造影効果の検証と今後の可能性
第38回日本診療放射線技師学術大会．2022/09/17，神戸コンベンションセンター
2. 戸田光映
低管電圧CT撮影での造影剤減量に伴うコスト面の評価
第７回JCHO地域医療総合医学会．2022/10/21，熊本城ホール
3. 髙田梨佳那
低管電圧撮影、およびDeep Learning Reconstruction(DLR)を利用した至適造影剤量の検討
第38回日本診療放射線技師学術大会．2022/09/17，神戸コンベンションセンター
4. 髙田梨佳那
低管電圧撮影時における造影製剤別の造影効果について
第７回JCHO地域医療総合医学会．2022/10/21，熊本城ホール
5. 中田裕貴
放射線被ばく説明におけるサポート体制について
第７回地域医療総合医学会．2022/10/22，熊本城ホール
6. 山口裕祐
$^{201}$Tl心筋血流SPECTの拡張期像における診断精度の検討
第78回日本放射線技術学会総会学術大会．2022/04/17，パシフィコ横浜
7. 山口裕祐
$^{201}$Tl心筋SPECTにおけるFBP法正常データベースのOSEM法への適用
第73回Osaka Nuclear Technologist Conference．2022/08/23，ミーティングプレイス福島・梅田
8. 山口裕祐
$^{201}$Tl心筋SPECTにおけるFBP法正常データベースのOSEM法への適用
第42回日本核医学技術学会総会学術大会．2022/09/09，国立京都国際会館
9. Yusuke Yamaguchi
Diagnostic accuracy of $^{201}$Tl myocardial perfusion SPECT in end-diastolic images
The 13th Congress of the World Federation of Nuclear Medicine and Biology.
2022/09/11，国立京都国際会館
10. 山口裕祐
$^{201}$Tl心筋血流SPECTの拡張期像における診断精度の検討
第17回金沢核医学技術検討会．2022/10/01，金沢大学医薬保健学域保健学類3104号
11. 山口裕祐
$^{99m}$Tc心筋血流SPECTの拡張期像における診断精度の検討
第18回金沢核医学技術検討会．2023/03/18，金沢大学医薬保健学域保健学類3104号

## 中央検査室

【学会発表】

1. 山下裕一
JCHO大阪病院でのSARS-CoV2の変異株調査
第７回JCHO地域医療総合医学会．2022/10/22，熊本

## 臨床工学室

【学会発表】

1. 天野義久
   AEDテント作成の試み ―第２報―
   第33回日本臨床スポーツ医学会．2022/11/12，札幌

## 看護部

【原著・総説・著書】

1. 堀美和子
   特集01　インシデントレポートとのつきあい方『医療安全管理者だからできた業務改善』
   日総研出版病院安全教育．2022(８・９月号)；10(1)：37-41
2. 鈴木志帆，寺岡真美
   外来における継続看護充実に向けた取組み
   ―「看護師タイムスケジュール表」と「モジュール型継続受持ち方式」の導入による業務改善への効果―
   日総研出版外来看護．2023春号；Vol.28：24-30
3. 中村明美
   「クリティカルケア領域におけるチームアプローチの実践例④」
   日総研出版隔月刊　重症集中ケア．2022；Vol.21：31-36

【学会発表】

4. 加門早苗
   当内視鏡センター看護師の教育支援体制と多職種連携
   第77階近畿内視鏡研究会．2022/06/03，梅田スカイビル
5. 寺岡真美
   外来継続看護実践への取組み「看護師タイムスケジュール表」と「モジュール型継続受け持ち方式」の導入
   日本マネジメント学会　第14回大阪支部学術集会．2022/09/10，大阪国際交流センター
6. 佐原理絵
   超緊急帝王切開術を想定したシミュレーションの実施 ―多部門・多職種で取り組んだ成果―
   第７回地域医療総合医学会．2022/10/22，熊本城ホール
7. 植田りな
   COVID-19専門病棟で勤務した看護師の想い ―患者の受け入れ開始時と経験を重ねた２年後―
   第７回JCHO地域総合医学会．2022/10/22，熊本城ホール
8. 景山恵利
   ICUにおける抑制低減への取り組み抑制開始・解除のフローを導入して
   第８回地域医療総合医学会．2022/10/22，熊本城ホール
9. 藤澤千穂
   固定チームナーシングにおける新人教育 ―チームで取り組むOJT―
   第23回固定チームナーシング近畿地方会．2022/11/03，関西医科大学
10. 志方優子
    Ａ病院におけるがん看護専門看護師による院内スペシャリスト留学の実際
    ―導入初年度の受講者のレポートより―
    第37回日本がん看護学会学術集会．2023/02/25-26，パシフィコ横浜

# 病 院 年 報　第７巻

2023年10月発行

■発行■

独立行政法人
地域医療機能推進機構　大阪病院
〒553-0003 大阪市福島区福島４丁目２-78
TEL：06-6441-5451（代表）
http://osaka.jcho.go.jp

■印刷■

共進社印刷株式会社
〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央２丁目９-５
TEL：06-6941-8881